

# 奥多摩町まちづくり住民アンケート調査

## 調査報告書

(平成 23 年度)

平成 24 年 3 月

東京都 奥多摩町



## 〔目次〕

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 回収状況.....	1
4. グラフ中の標記について.....	1
II. 調査結果.....	2
【回答者の属性】.....	2
問1 性別.....	2
問2 年齢.....	2
問3 家族構成.....	2
問4 既婚・未婚の状況.....	3
問5 居住地区.....	3
【奥多摩町での住み良さについて】.....	4
問6 現在の住み良さ.....	4
問7 居住意向.....	6
【奥多摩町の行政運営について】.....	8
問8 行政運営の満足度.....	8
問9 分野別行政運営の満足度.....	10
【奥多摩町のまちづくり施策について】.....	23
問10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価.....	23
問11 最重要と考える奥多摩創造プロジェクト.....	36
問12 分野別施策の実施状況の満足度.....	38
問13 住民意向のまちづくりへの反映.....	67
問14 まちづくりへの取組み.....	69
問15 産業振興の重点.....	71
問16 新規転入・若者定住促進策.....	78
問17 教育の重点.....	85
問18 行財政改革の重点.....	92
問19 防災対策の重点.....	99
問20 行政への住民参加状況.....	105
問21 住民と行政との役割分担.....	107
問22 参加したい活動.....	123
問23 希望する情報提供.....	130
問24 住民参加促進手法.....	137

【奥多摩町での生活について】 .....	144
問 25 生活の中で大切にしたいこと .....	144
問 26 豊かさとは .....	149
問 27 生活上の関心事 .....	156
問 28 生活の満足度 .....	163
【奥多摩町への意見・要望について】 .....	165
問 29 町に対する意見・要望 .....	165

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、奥多摩町のまちづくりや施策、町政運営等に対する評価・意向を把握するために実施しました。

### 2. 調査の方法

- ◆調査地域 : 奥多摩町全域
- ◆調査対象 : 奥多摩町に居住する 16 歳以上の住民 1,500 名  
※住民基本台帳より無作為抽出
- ◆調査方法 : 郵送による配布・回収
- ◆調査時期 : 平成 24 年 2 月 27 日～3 月 12 日

### 3. 回収状況

- ◇配布数 : 1,500 票
- ◇有効回収数 : 521 票
- ◇有効回収率 : 34.7%

### 4. グラフ中の標記について

◇グラフの基数は、特に標記のない限り総数（N=521）です。基数が総数と異なるときには、その都度グラフ上に表記します。

◇各設問において、次の略称を使用しています。

- SA (Single Answer) : シングルアンサー（一つだけ選択回答）
- xLA (Limited Answer) : リミテッドアンサー（x 以内選択回答）
- MA (Multi Answer) : マルチアンサー（複数選択回答）

◇加重平均は以下によります。

「満足」に 2 ポイント、「やや満足」に 1 ポイント、「やや不満」に -1 ポイント、「不満」に -2 ポイントを与え、無回答を除く合計で割ったものです。

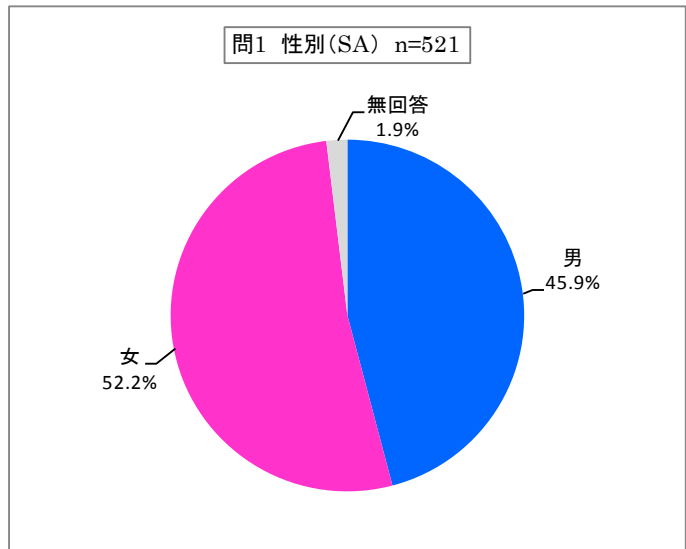
全員が「満足」の場合は 2 ポイントとなり、「満足」と「不満」がそれぞれ 50% の場合は 0 ポイントとなります。

## II. 調査結果

### 【回答者の属性】

#### 問 1 性別

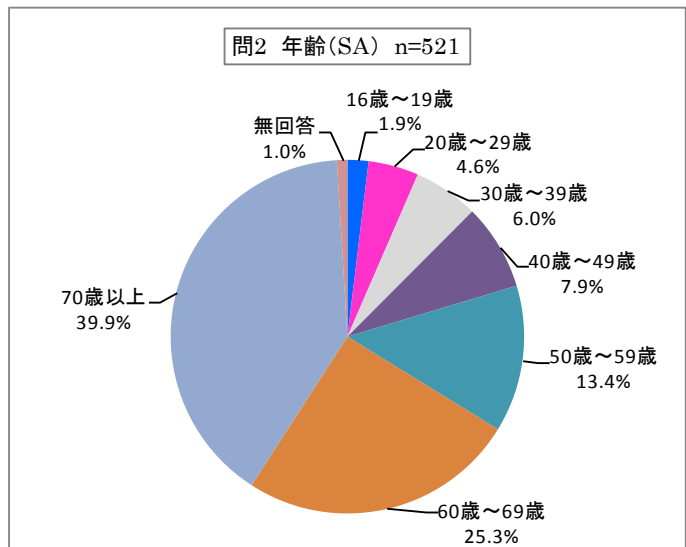
回答者の性別は、「男」性が 45.9% (239 人)、「女」性が 52.2% (272 人) となっており、やや「女」性の割合が高くなっています。



#### 問 2 年齢

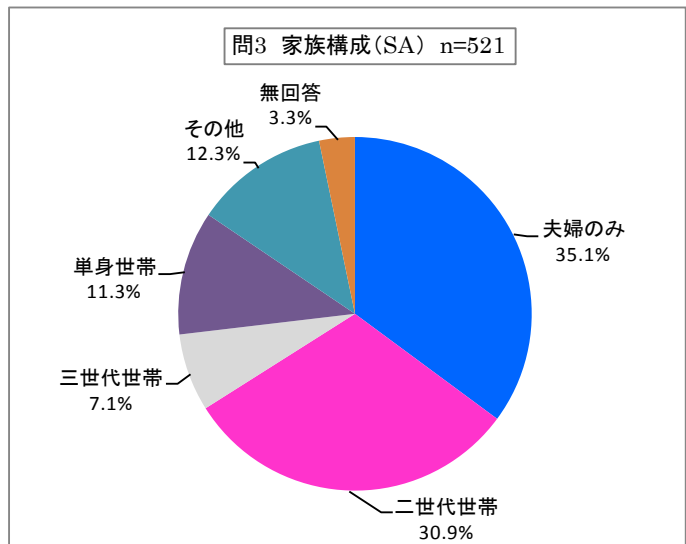
回答者の年齢は、「70 歳以上」が最も高く 39.9% (208 人) となっており、次いで「60 歳～69 歳」が 25.3% (132 人)、「50 歳～59 歳」が 13.4% (70 人)、「40 歳～49 歳」が 7.9% (41 人) と続いています。

60 代以上の回答者が 65.2% を占め、高齢層の回答比率が高くなっています。



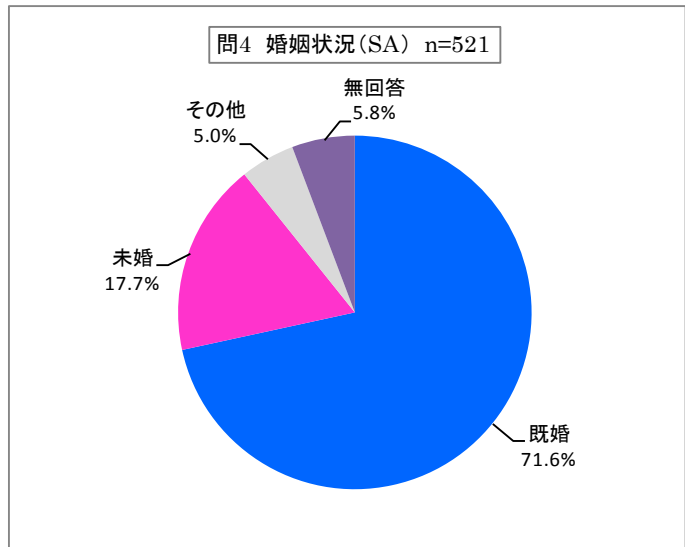
#### 問 3 家族構成

回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が最も高く 30.9% (161 人) となっており、次いで「夫婦のみ」が 35.1% (183 人)、「単身世帯」が 11.3% (59 人)、「三世世代世帯」が 7.1% (37 人) と続いています。



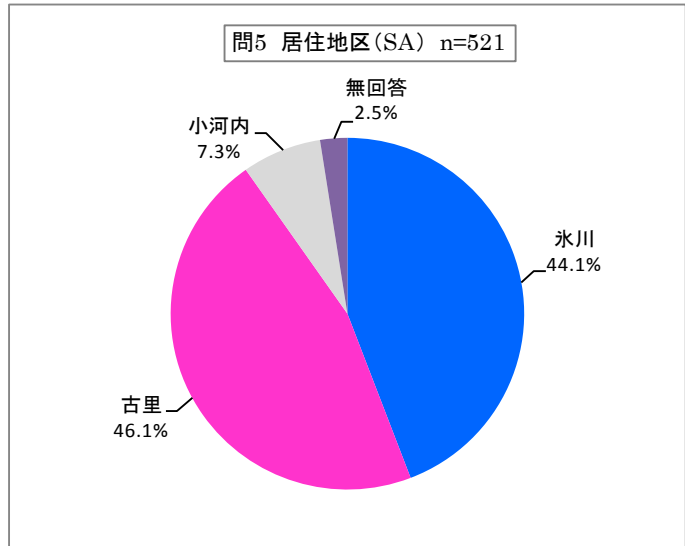
**問 4 既婚・未婚の状況**

回答者の婚姻状況は、「既婚」が 71.6% (373 人) と多く、「未婚」は 17.7% (92 人) にとどまっています。



**問 5 居住地区**

回答者の居住地区は、「古里」地区が 46.1% (240 人)、「氷川」地区が 44.1% (230 人) と 2 つの地区が高い割合を占め、「小河内」地区は 7.3% (38 人) となっています。



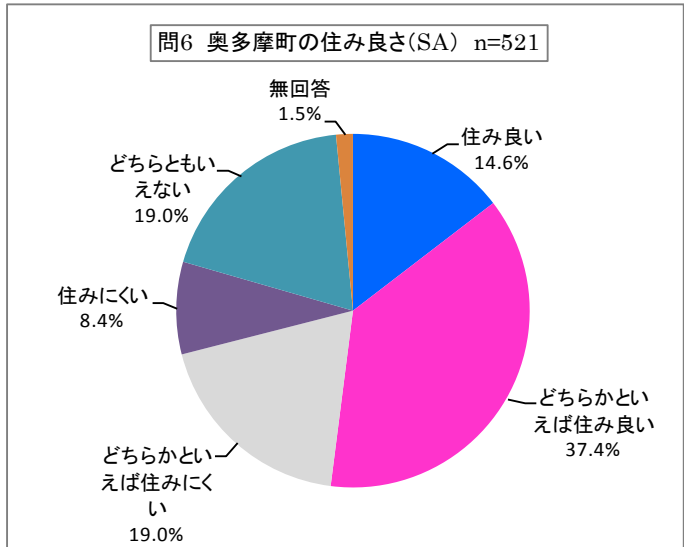
【奥多摩町での住み良さについて】

問 6 現在の住み良さ

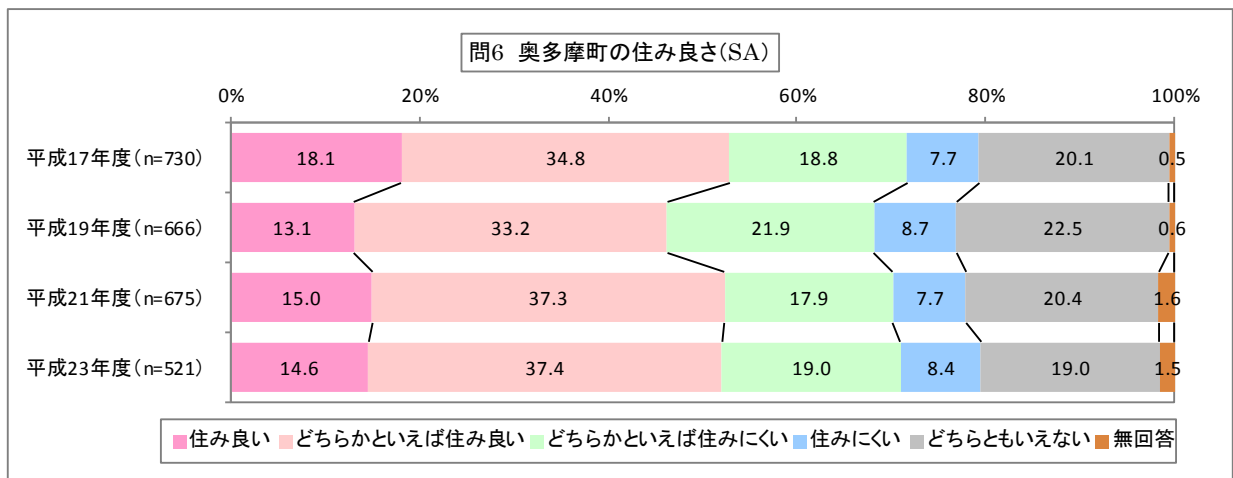
奥多摩町の住み良さについては、“住み良い”（「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた回答）が 52.0%、一方、“住みにくい”（「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた回答）が 27.4%となっており、“住み良い”が大きく上回っています。

なお、年齢別にみると、20 代までは“住みにくい”が上回るのに対し、30 代以降は“住み良い”が上回り、年齢が高まるにつれて“住み良い”が増える傾向にあります。特に「70 歳以上」は“住み良い”が 57.7%と 6 割近くとなっています。

また、居住地区別では、「氷川」地区が 50.0%、「古里」地区が 55.8%、「小河内」地区が 42.1%となっており、「小河内」地区での住み良さの評価が他の地区より低い結果となっています。



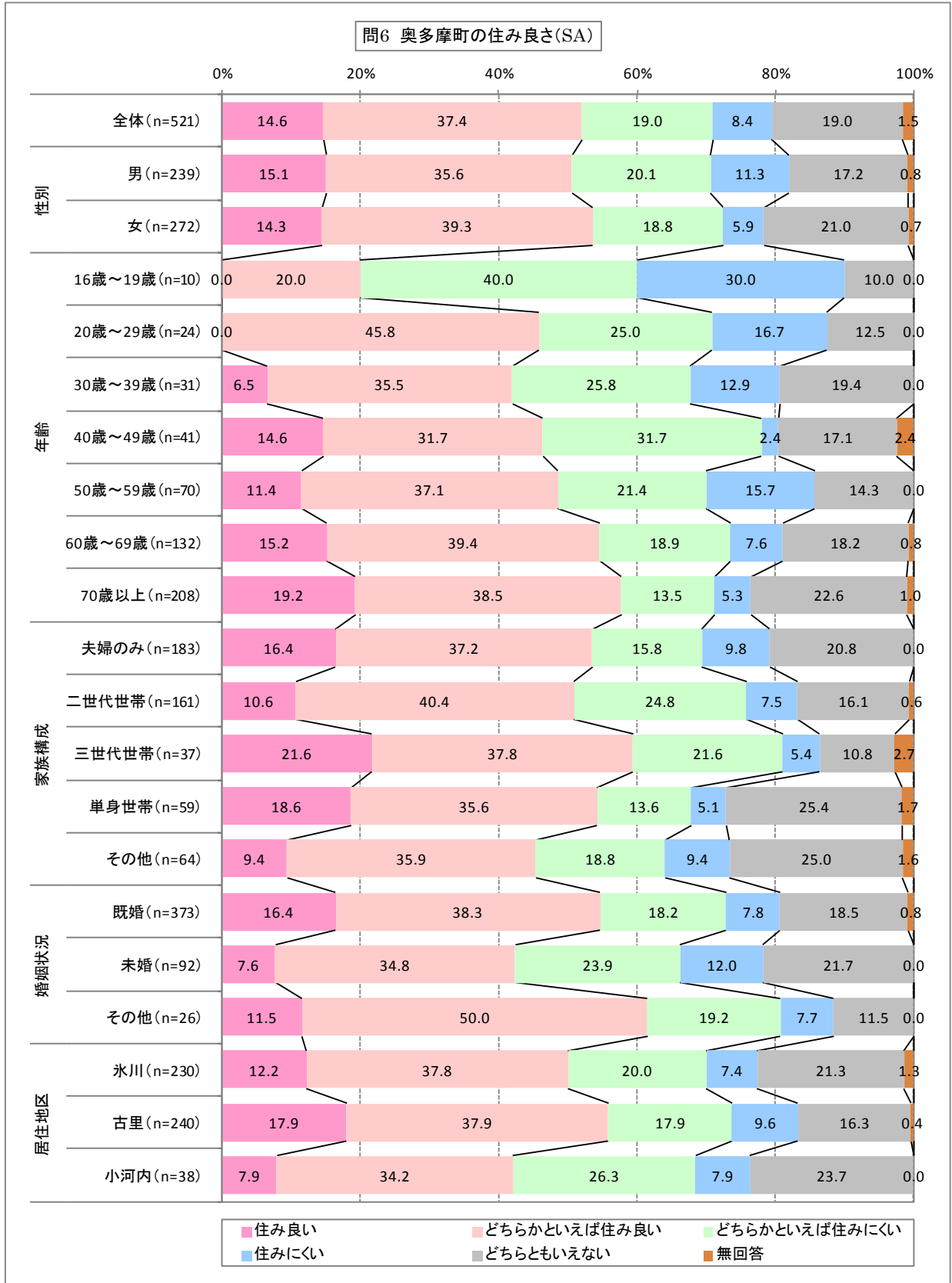
〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 4 回実施した調査結果を比較すると、“住み良い”（「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた回答）は、平成 17 年度が 52.9%、平成 19 年度が 46.3%、平成 21 年度が 52.3%、平成 23 年度が 52.0%となっており、平成 19 年度が多少少ないものの、その他の年度ではほぼ同じ回答割合となっています。



〔属性別 結果一覧〕



問 7 居住意向

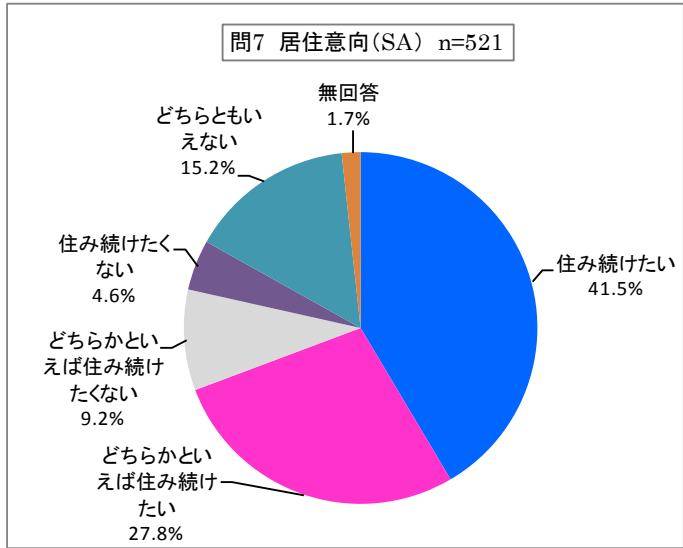
奥多摩町での居住意向は、回答者の 41.5%が「住み続けたい」と回答しており、また、「どちらかといえば住み続けたい」も 27.8%となっており、この2つを合わせた居住意向（“住み続けたい”）は 69.3%となっています。

一方、“移転したい”（「どちらかといえば住み続けたくない」と「住み続けたくない」を合わせた回答）は 1 割強（13.8%）となっています。

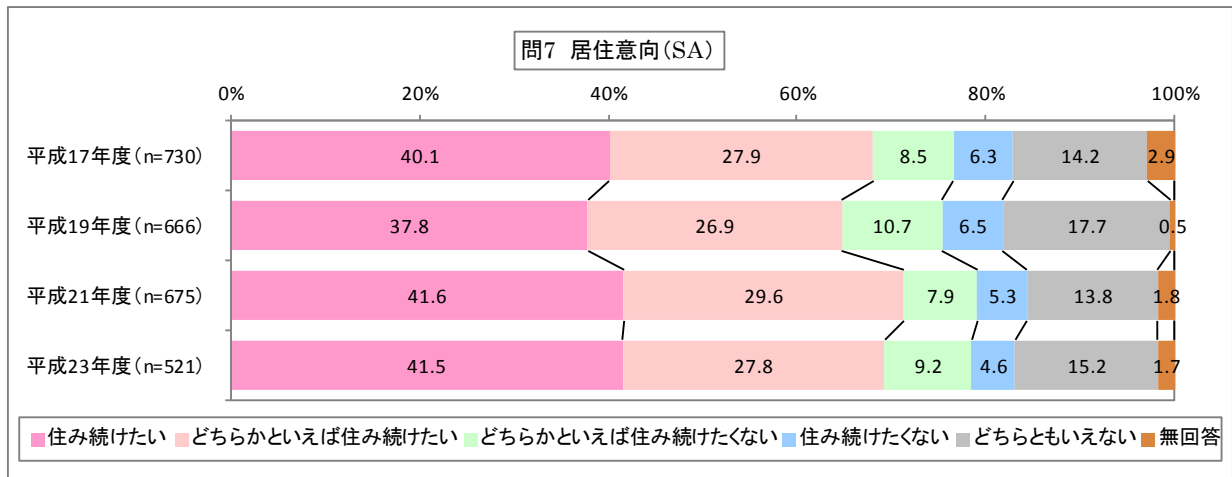
なお、年齢別にみると、10代は“住み続けたい”が 40.0%、“移転したい”が 30.0%となっていますが、20代以降、年齢が高まるにつれて“住み続けたい”が上回り定住意向が高まる傾向が明らかとなっています。特に「70歳以上」は“住み続けたい”が 78.4%に達し、前問の「住み良さ」に対する回答割合以上の割合となっています。

また、「既婚」では“住み続けたい”が 72.7%を占めるのに対し、「未婚」では“住み続けたい”は 54.3%と相対的に低くなっています。

居住地区別に“住み続けたい”の回答割合をみると、「氷川」地区が 67.9%、「古里」地区が 70.8%、「小河内」地区が 68.4%とほぼ同じ割合となっています。

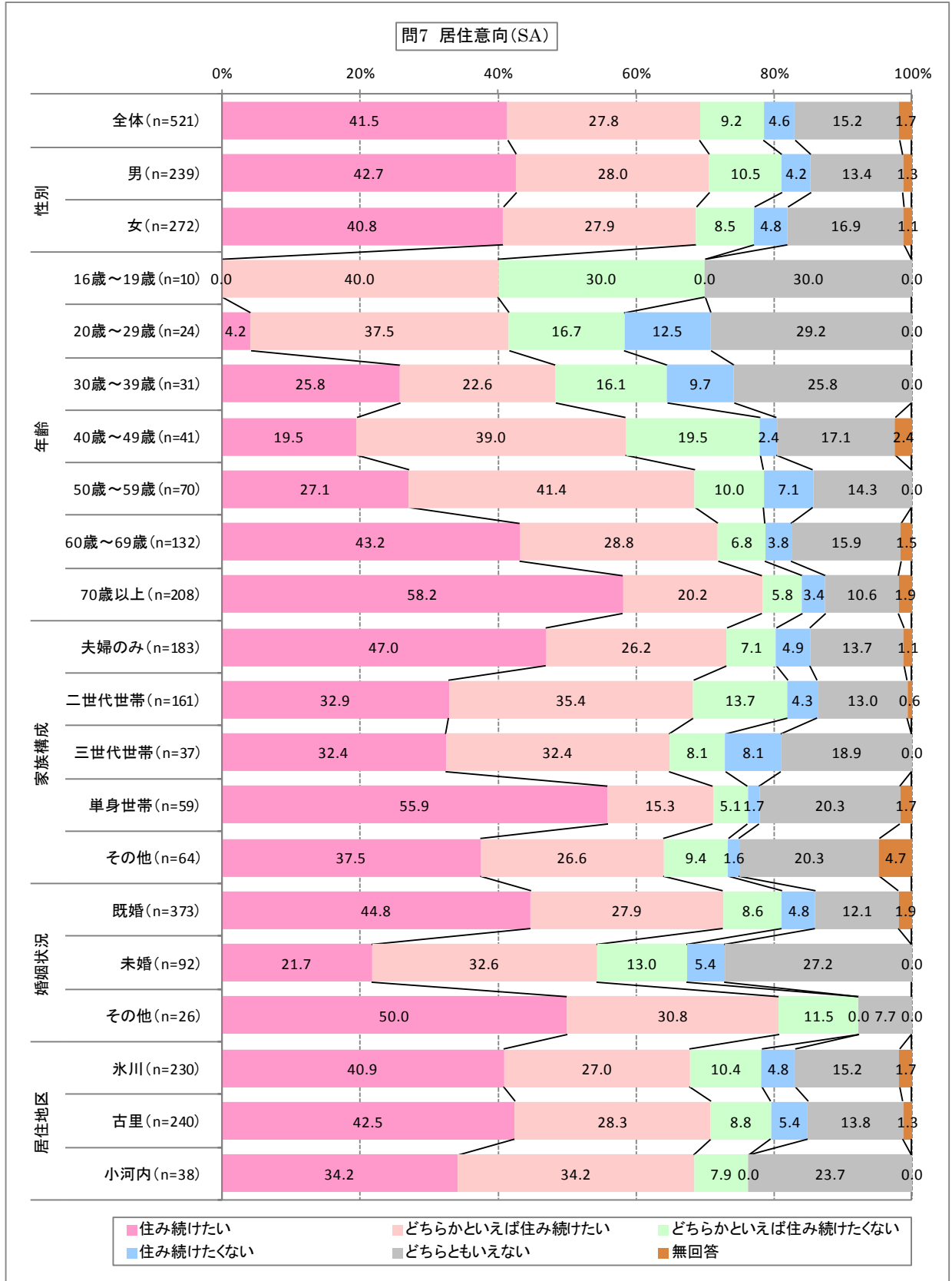


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 4 回実施した調査結果を比較すると、“住み続けたい”（「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた回答）は、平成 17 年度が 68.0%、平成 19 年度が 64.7%、平成 21 年度が 71.2%、平成 23 年度が 69.3%となっており、7 割前後で推移しています。

〔属性別 結果一覧〕



【奥多摩町の行政運営について】

問 8 行政運営の満足度

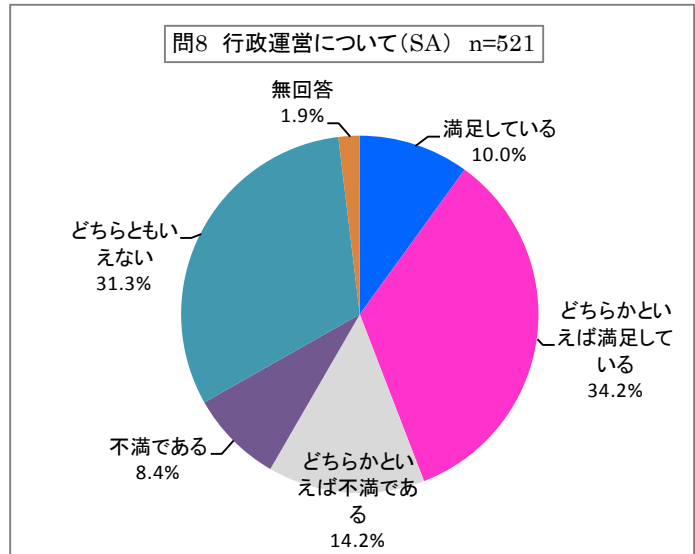
奥多摩町の行政運営については、「満足している」が 10.0%、「どちらかといえば満足している」が 34.2%であり、“満足”（「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた回答）と評価する回答者割合は 44.2%となっています。

一方、「どちらかといえば不満である」が 14.2%、「不満である」が 8.4%であり、“不満”（「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた回答）と評価する回答者割合は 22.6%となっています。

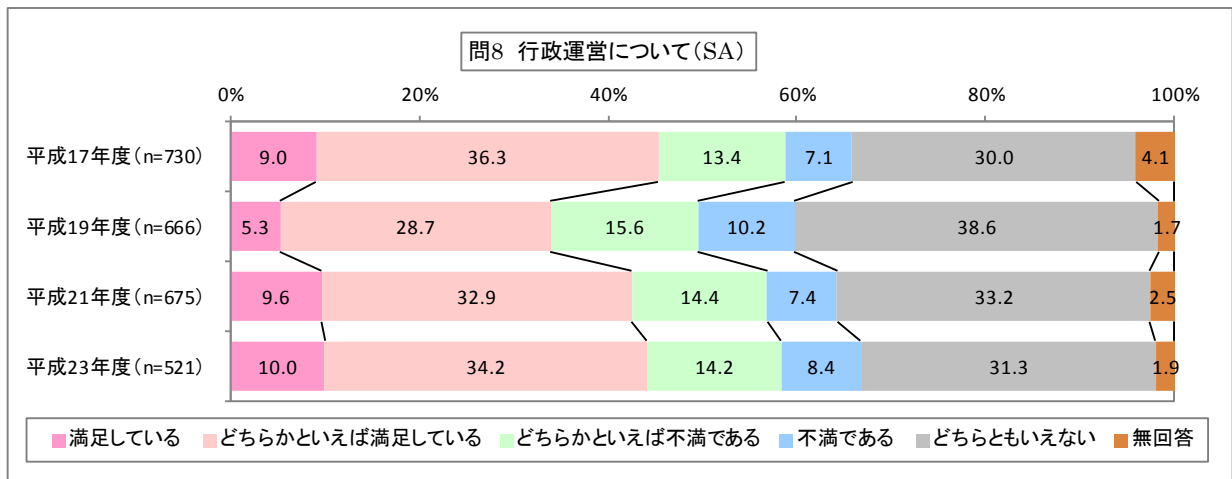
なお、「どちらともいえない」が 31.3%と約 3 割を占めています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ“満足”の回答割合は増える傾向にありますが、「30 歳～39 歳」及び「50 歳～59 歳」では“不満”の回答割合が 3 割を超えています。

居住地区別では、「氷川」地区及び「古里」地区に比べ「小河内」地区の“満足”が少なくなっています。

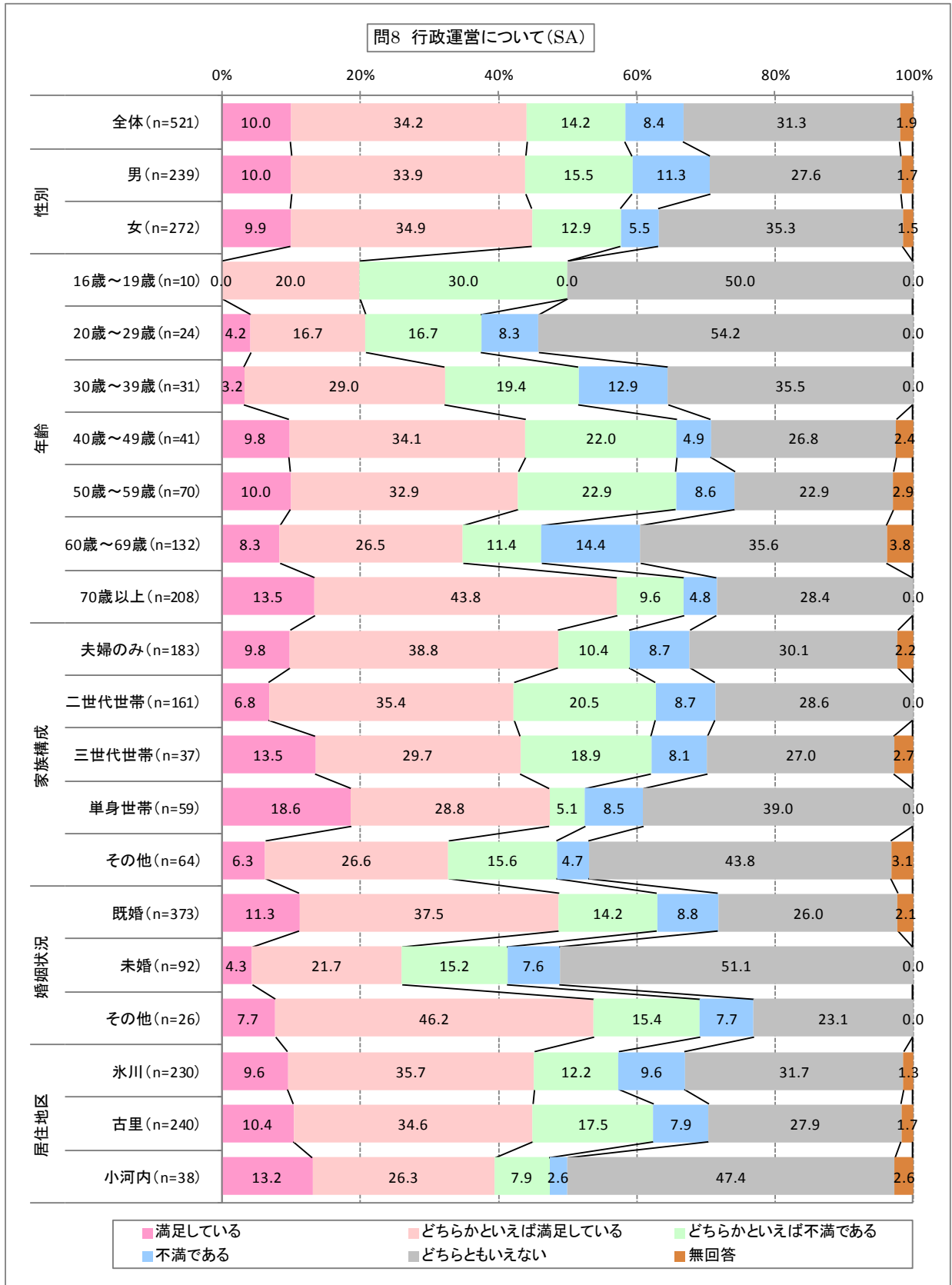


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 4 回実施した調査結果を比較すると、“満足”は、平成 17 年度が 45.3%、平成 19 年度が 34.0%、平成 21 年度が 42.5%、平成 23 年度が 44.2%となっており、平成 19 年度は他の実施年度に比べて厳しい評価でしたが、平成 19 年度以外ではいずれも 40%台の評価となっています。

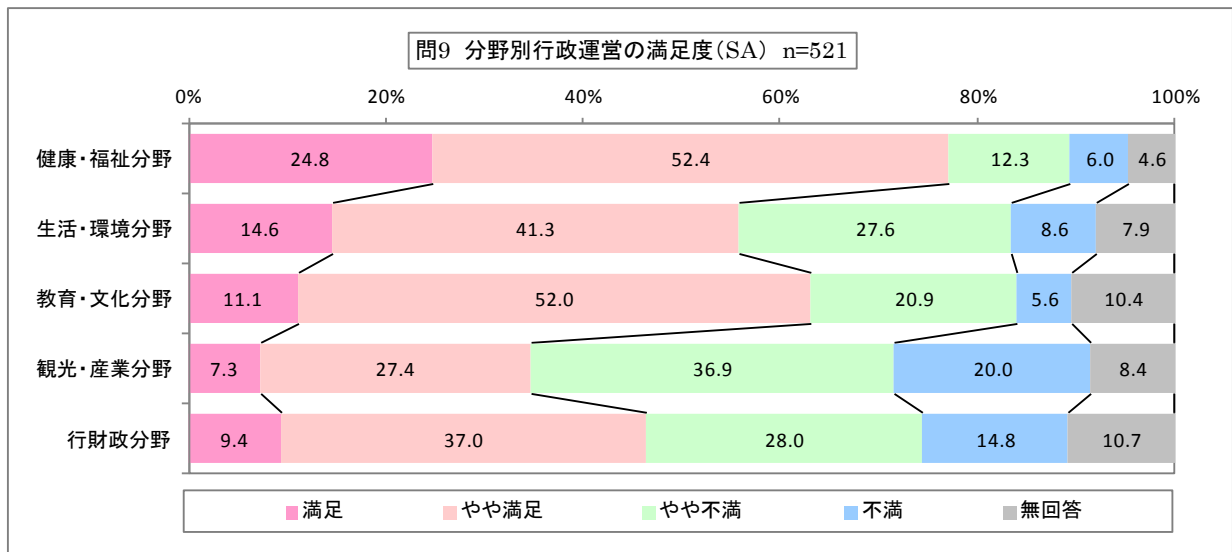
〔属性別 結果一覧〕



問 9 分野別行政運営の満足度

分野別行政運営の満足度についてお聞きしたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合が、「やや不満」と「不満」を合わせた“不満”の回答割合を上回る項目は、「健康・福祉分野」、「生活・環境分野」、「教育・文化分野」の3分野です。これらの“満足”の割合としては、「健康・福祉分野」が最も高く77.2%となっており、次いで「教育・文化分野」が63.1%、「生活・環境分野」が55.9%と続いています。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた“不満”の回答割合が上回る分野は、「観光・産業分野」、「行財政分野」の2項目です。これらの“不満”の割合は、「観光・産業分野」が56.9%、次いで「行財政分野」が42.8%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

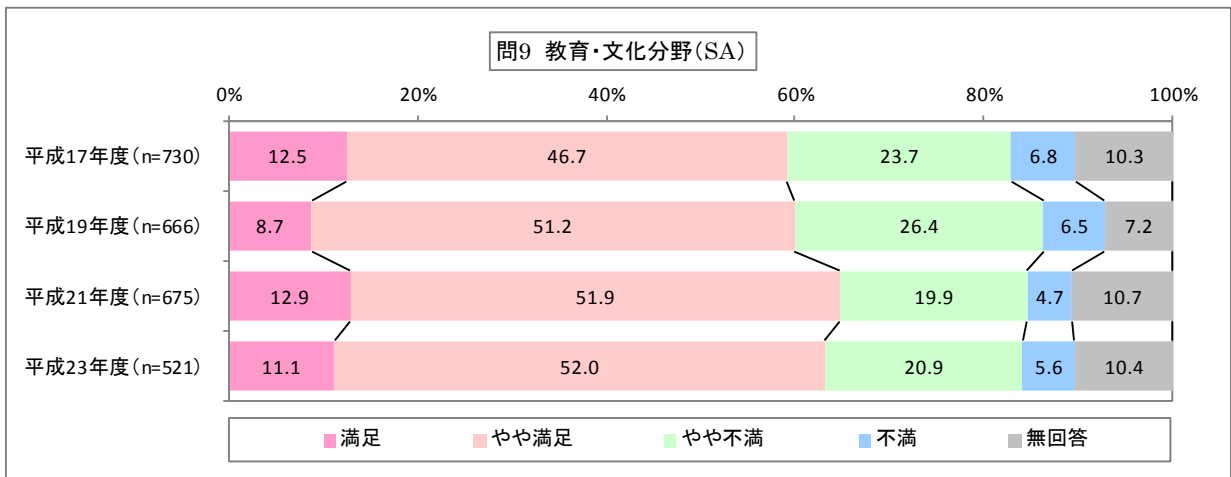
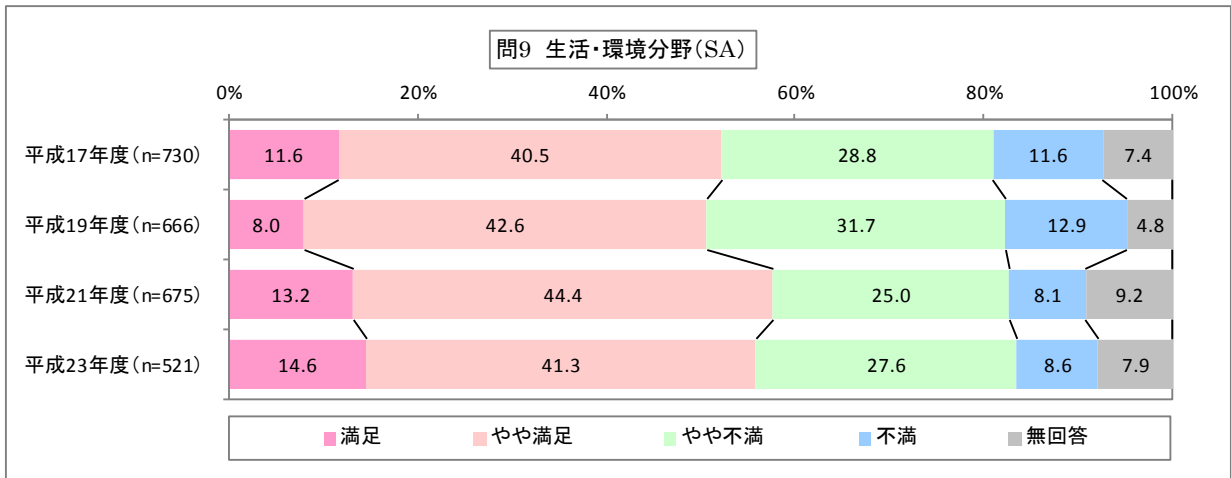
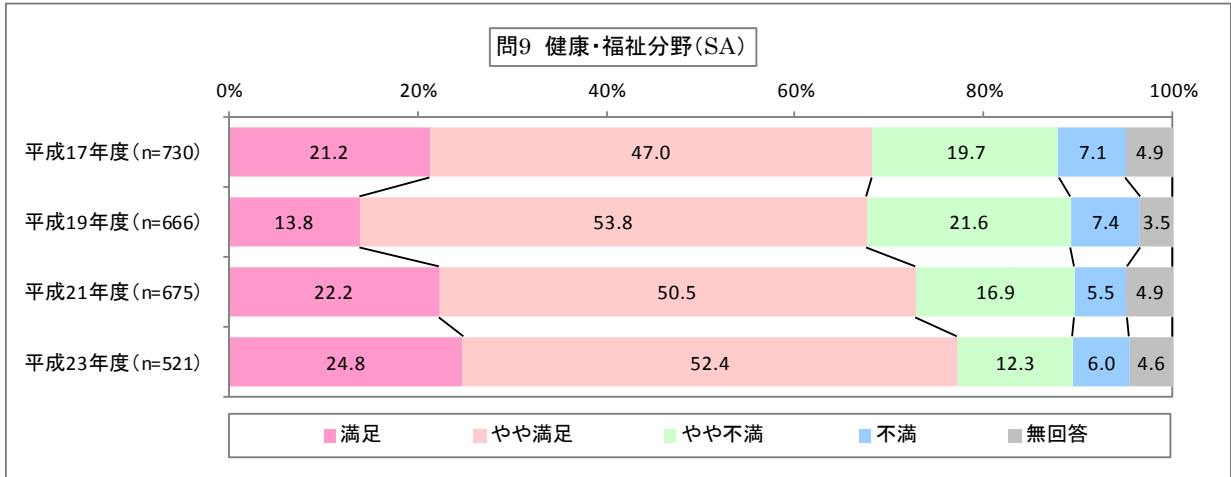
なお、今回の調査を含め、過去4回実施した調査結果を分野別に比較した結果が次頁以降（p.11～p.12）のグラフですが、健康・福祉分野における「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”は、平成17年度が68.2%、平成19年度が67.6%、平成21年度が72.7%、平成23年度が77.2%と増加する結果となっています。

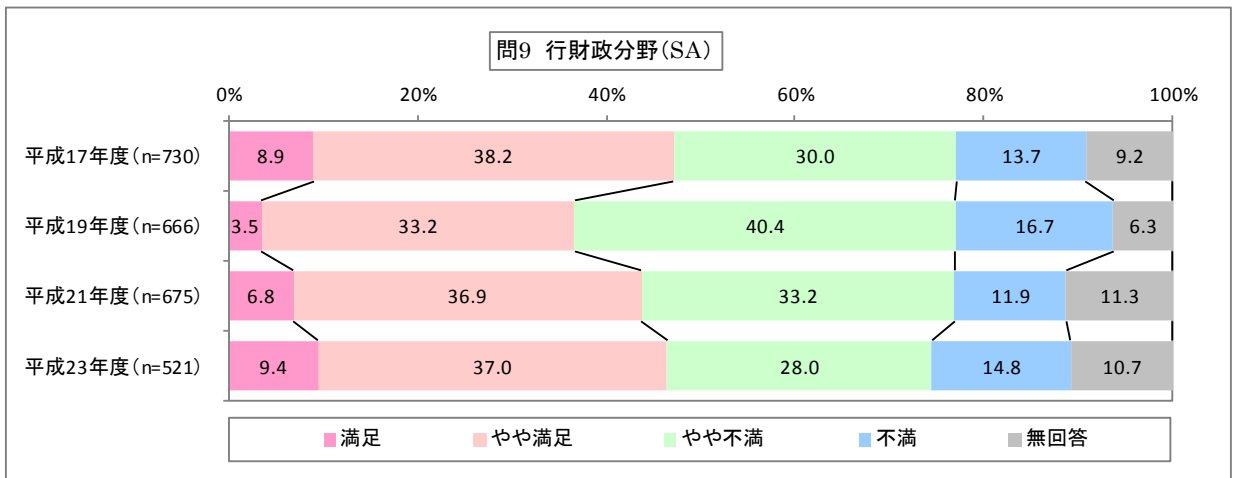
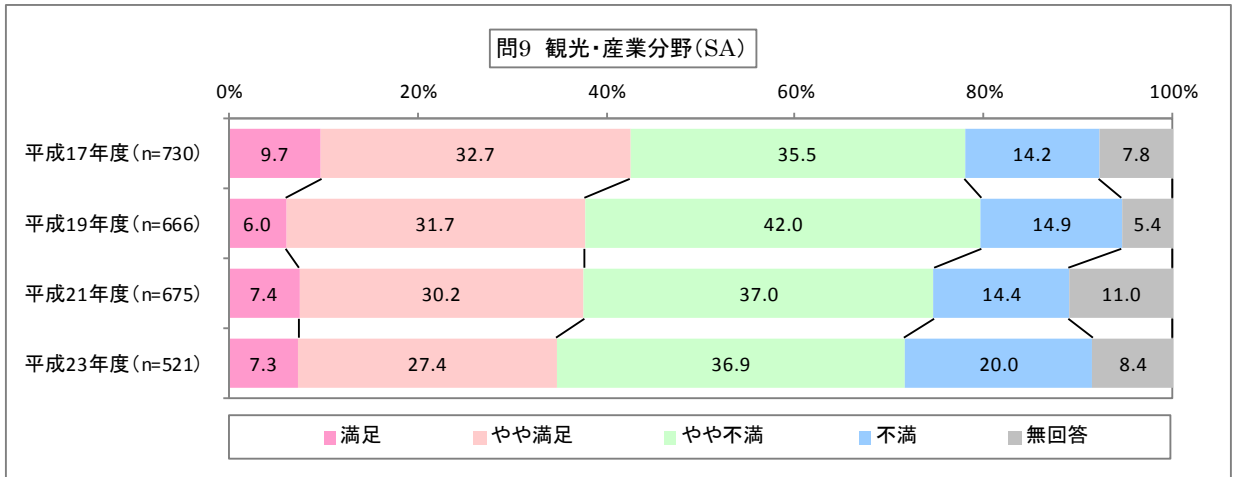
生活・環境分野における“満足”の推移は、平成17年度が52.1%、平成19年度が50.6%、平成21年度が57.6%、平成23年度が55.9%と、50%台前半から50%台後半へと増加傾向にあります。

教育・文化分野における“満足”の推移は、平成17年度が59.2%、平成19年度が59.9%、平成21年度が64.8%、平成23年度が63.1%と、50%台後半から60%台後半へと増加傾向にあります。

観光・産業分野における“満足”の推移は減少傾向にありますが、「やや不満」と「不満」を合わせた“不満”の推移は、平成17年度が49.7%、平成19年度が56.9%、平成21年度が51.4%、平成23年度が56.9%と、増減を繰り返していますが、平成23年度には「不満」が20.0%と、初めて2割を超える結果となっています。

行財政分野における“満足”の推移は、平成19年度に大きく減少しましたが、その後増加に転じています。



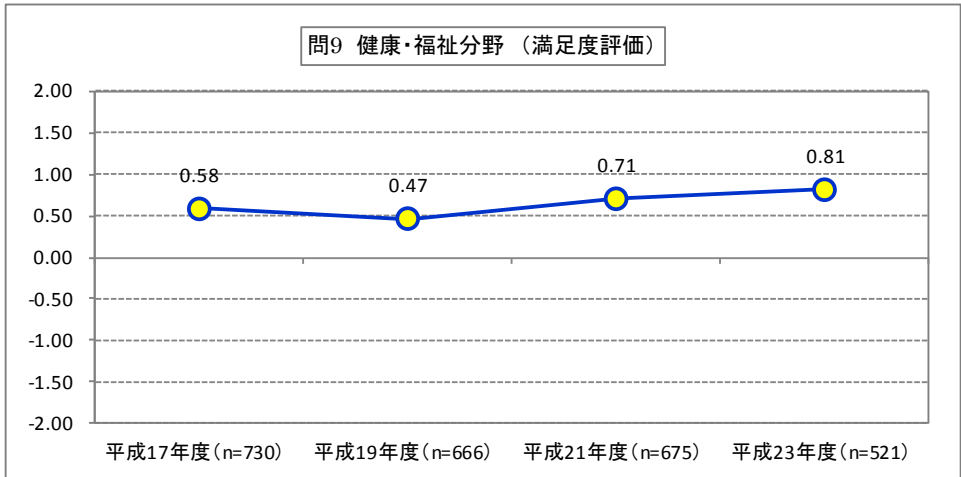




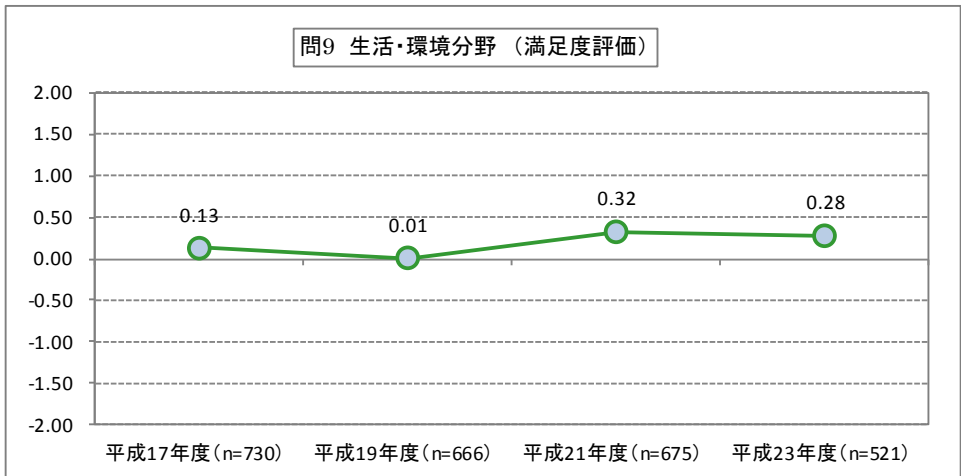
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が以下のグラフです。（※ここでは「満足」に2ポイント、「やや満足」に1ポイント、「やや不満」に-1ポイント、「不満」に-2ポイントを与え、無回答を除く合計回答数で割った結果としています。仮に全員が「満足」の場合は2ポイントとなり、「満足」と「不満」がそれぞれ50%の場合は0ポイントとなります。）

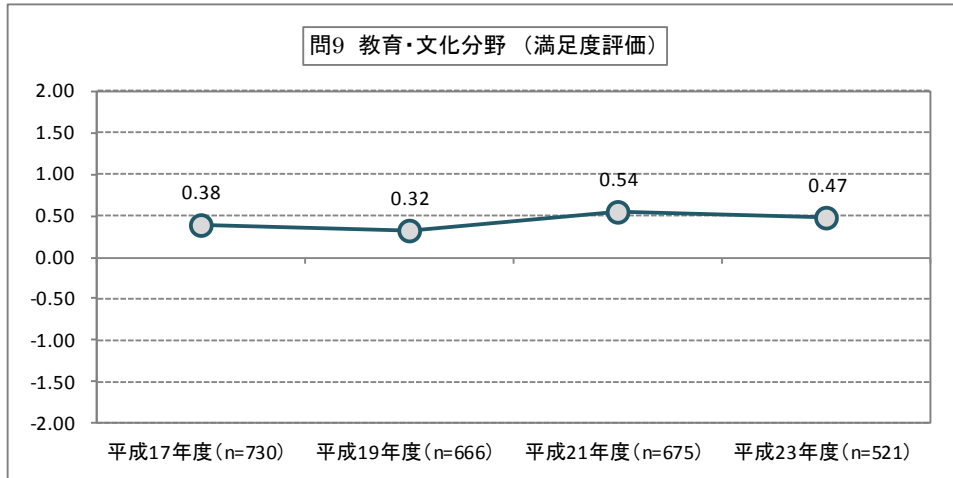
健康・福祉分野の加重平均値は、平成19年度に0.47と減少しましたが、平成23年度には0.81と増加しており、満足の度合いが高まっていることがうかがえます。



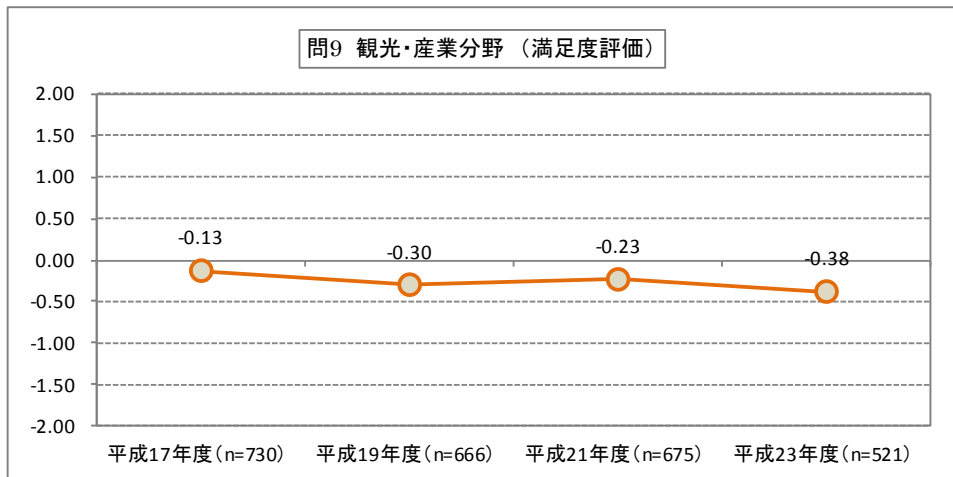
生活・環境分野では、平成21年度が最も高い値でしたが平成23年度では低下する結果となっています。



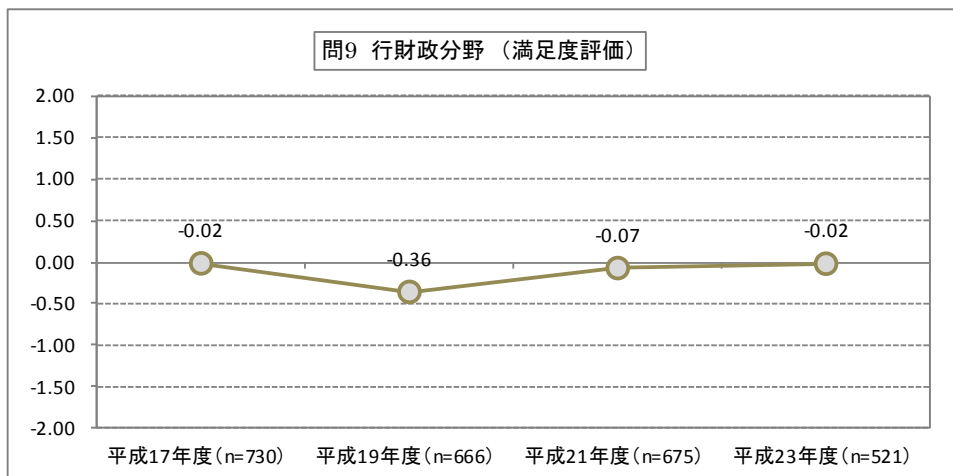
教育・文化分野でも、平成 21 年度が最も高い値でしたが平成 23 年度では低下する結果となっています。



観光・産業分野では過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“不満”の評価がより大きいことを示していますが、平成 23 年度ではこれまでで最も低い結果（-0.38）となっています。

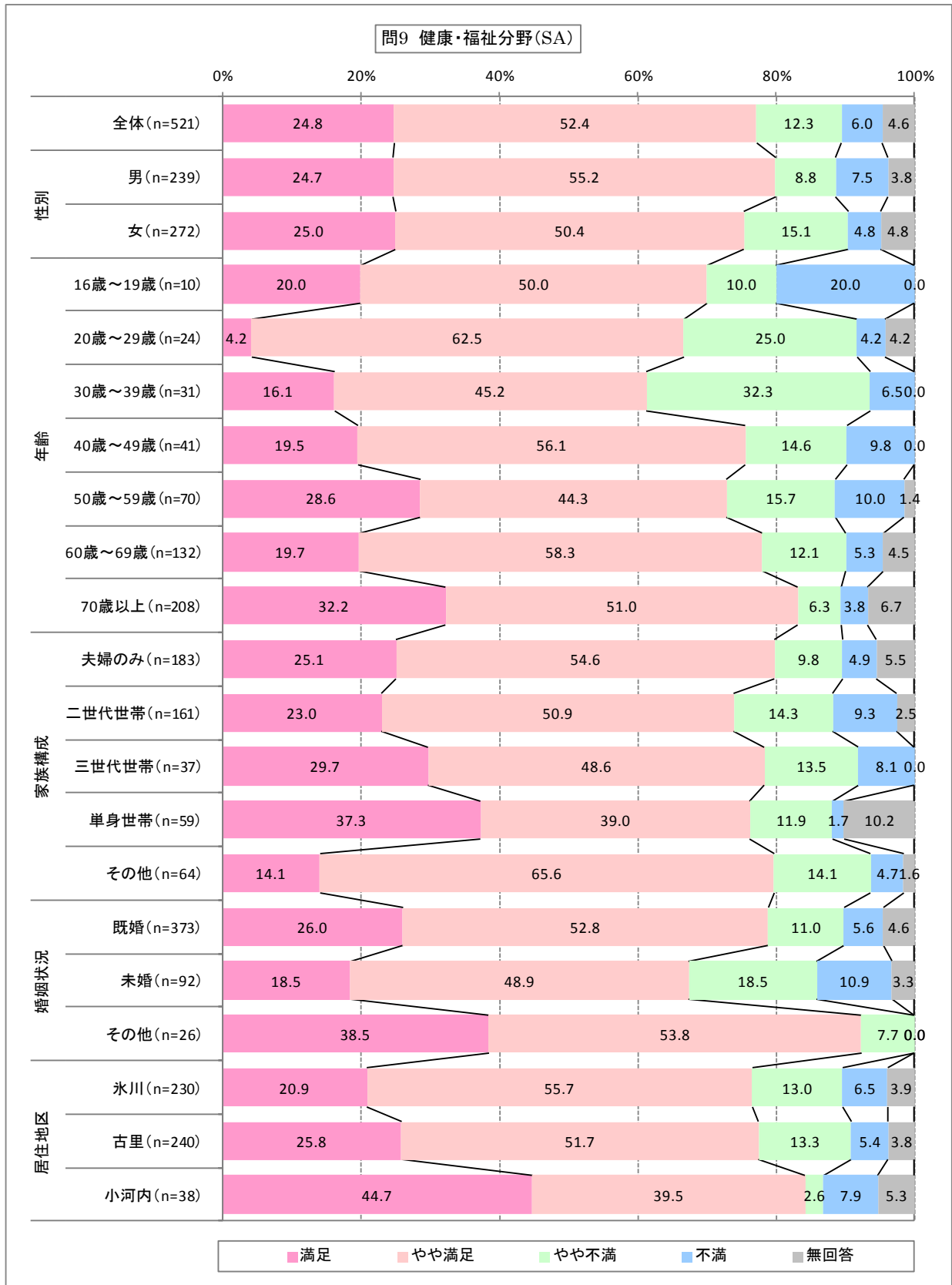


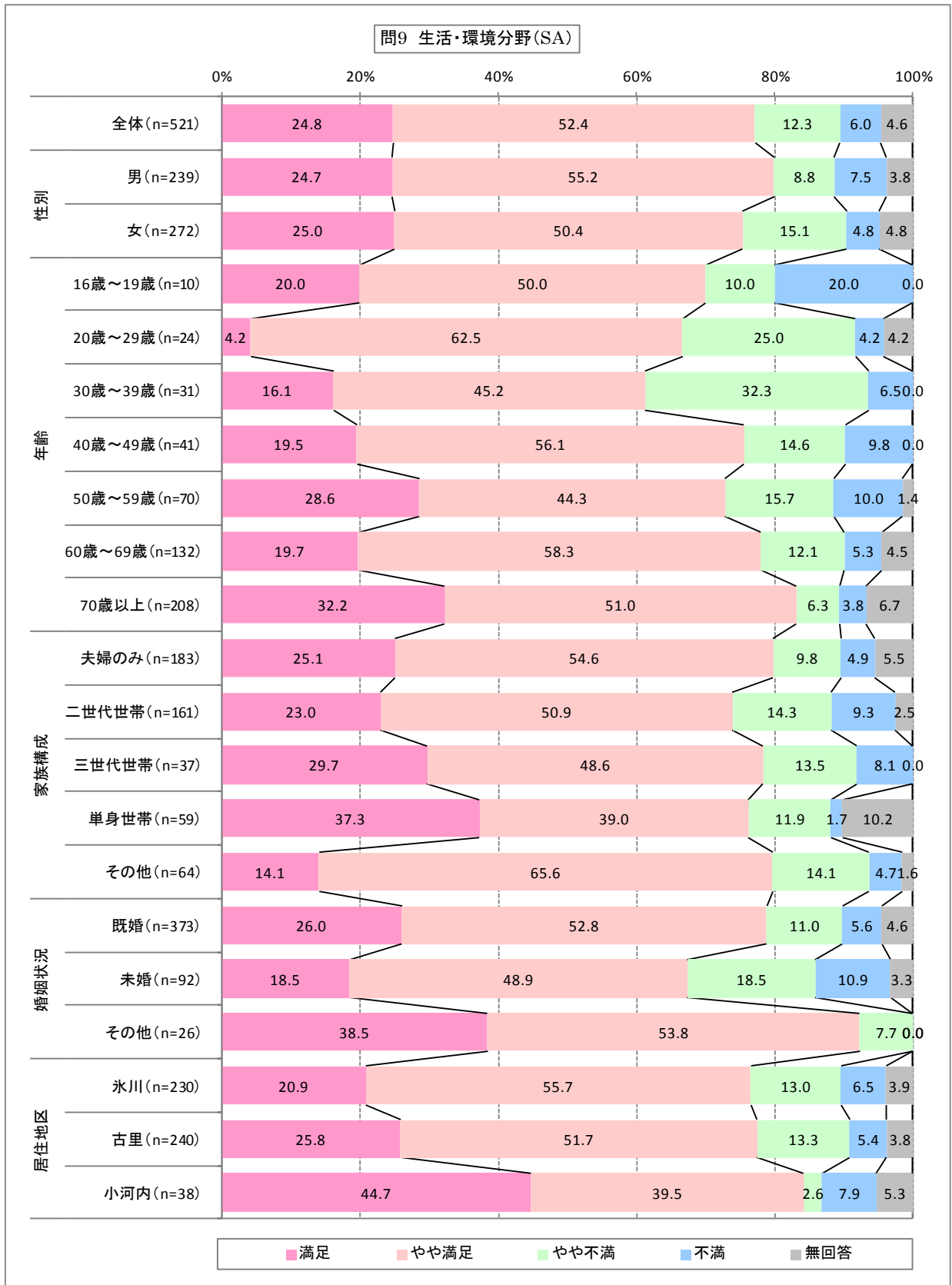
行財政分野も観光・産業分野と同様に過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“不満”の評価がより大きいことを示していますが、平成 19 年度以降評価が高まっていることがうかがえます。

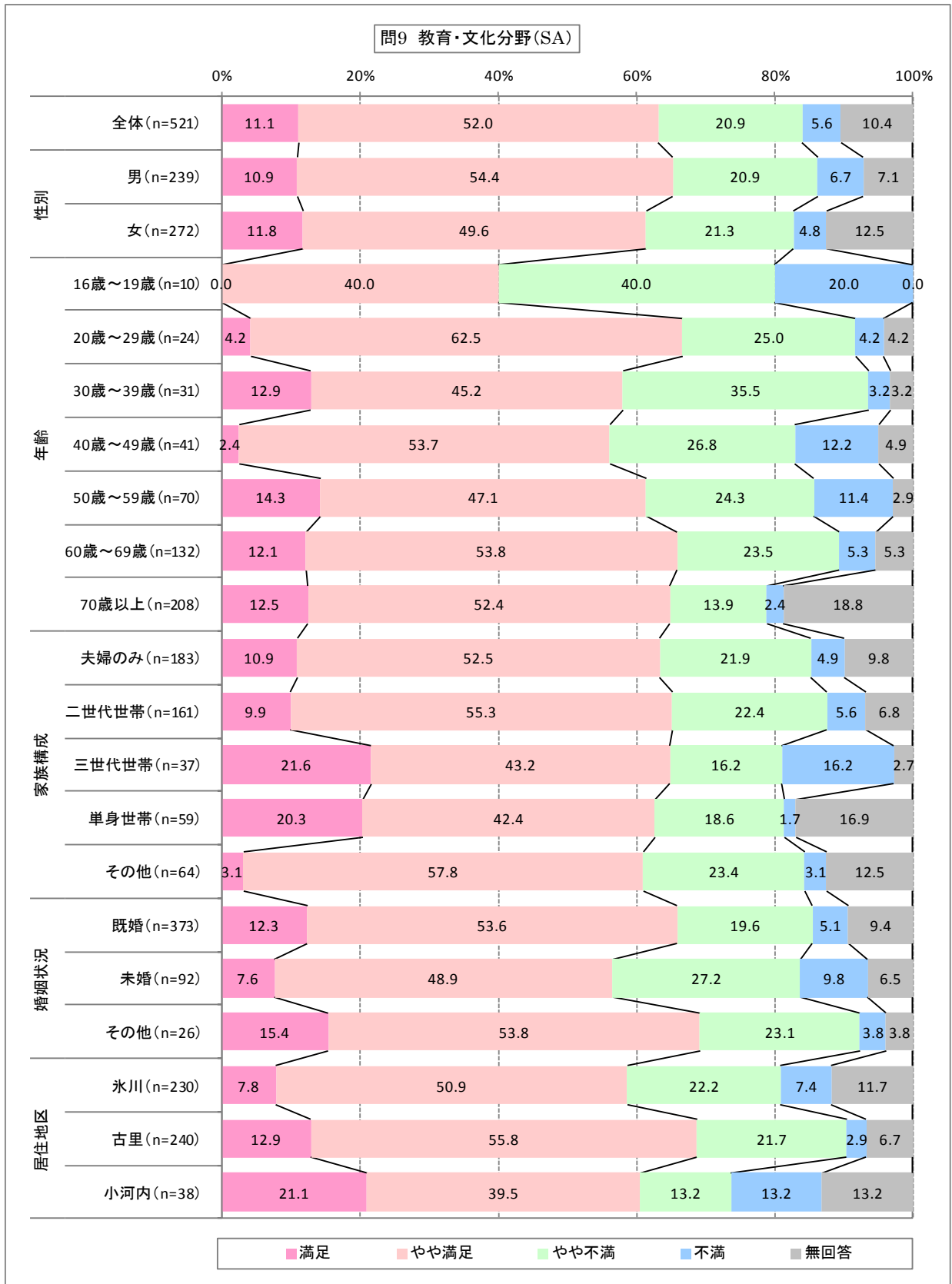


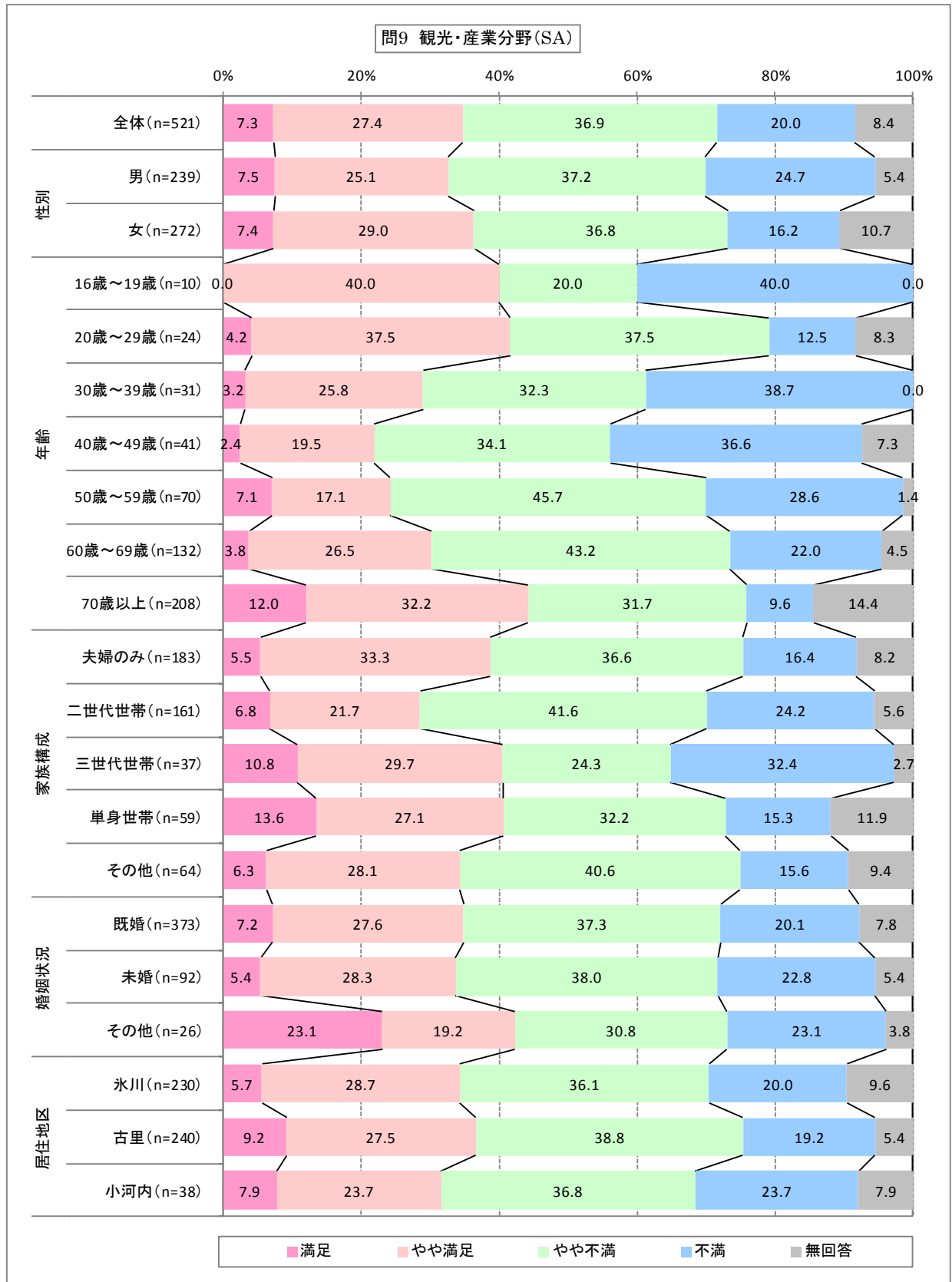
〔属性別 結果一覧〕

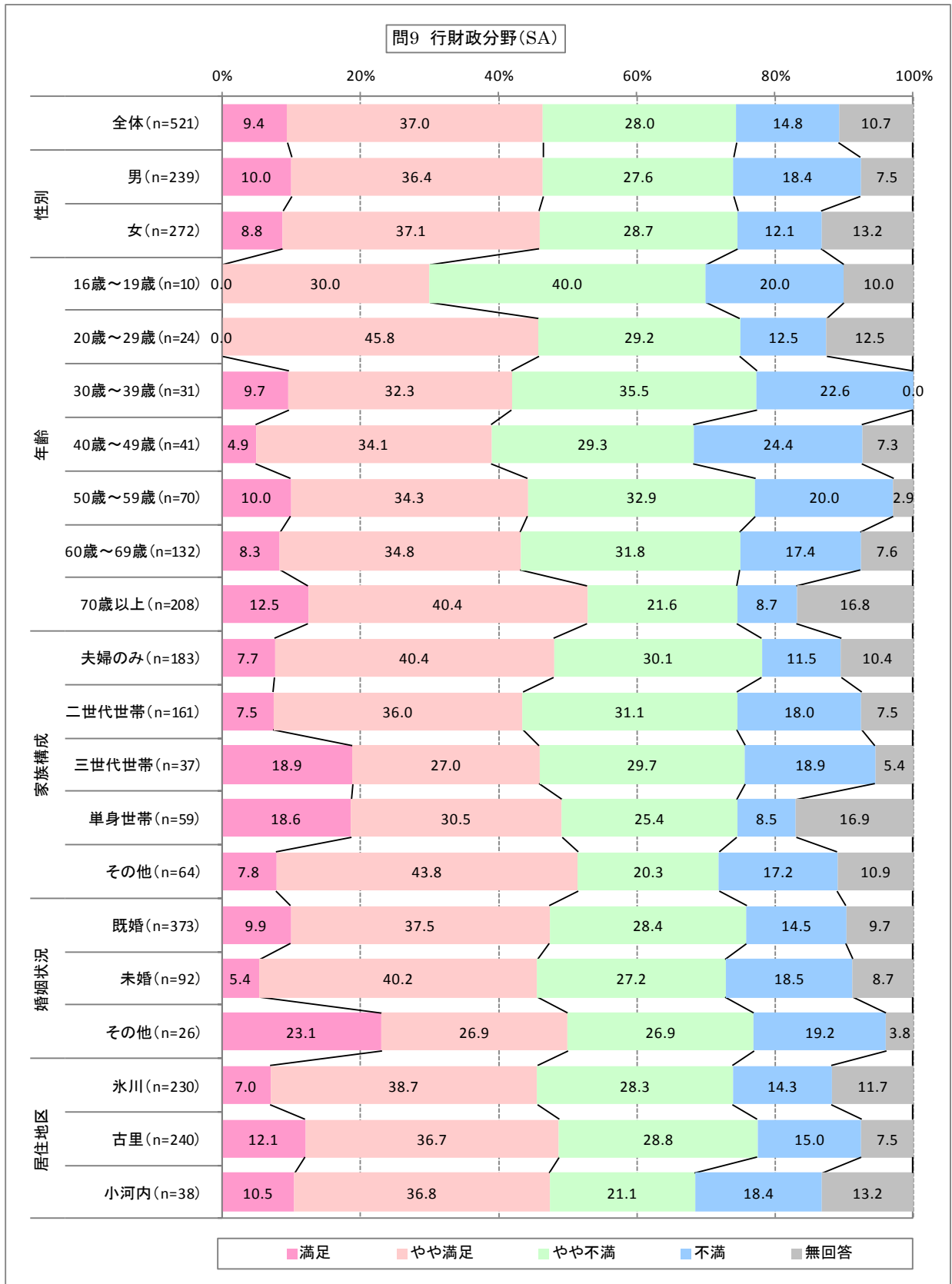
分野毎の、属性別の「満足」から「不満」の回答割合は以下のとおりです。





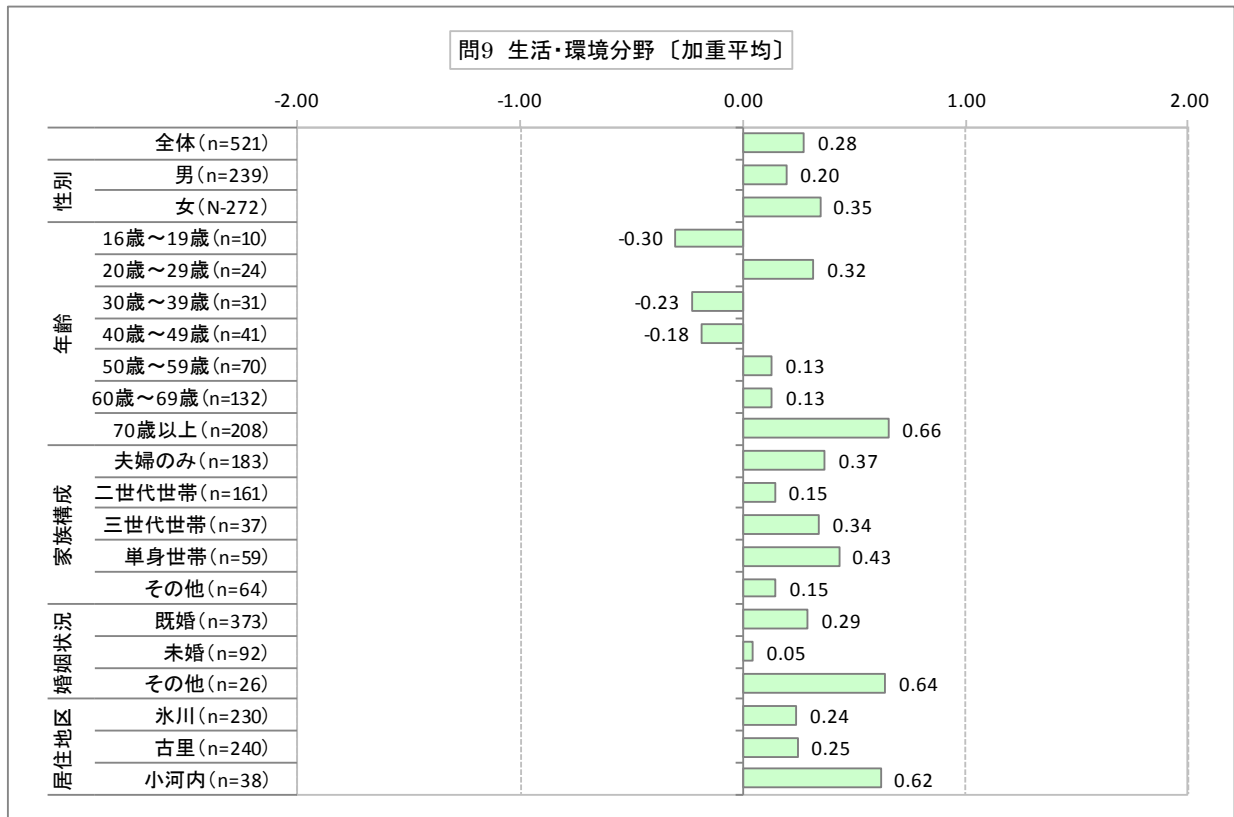
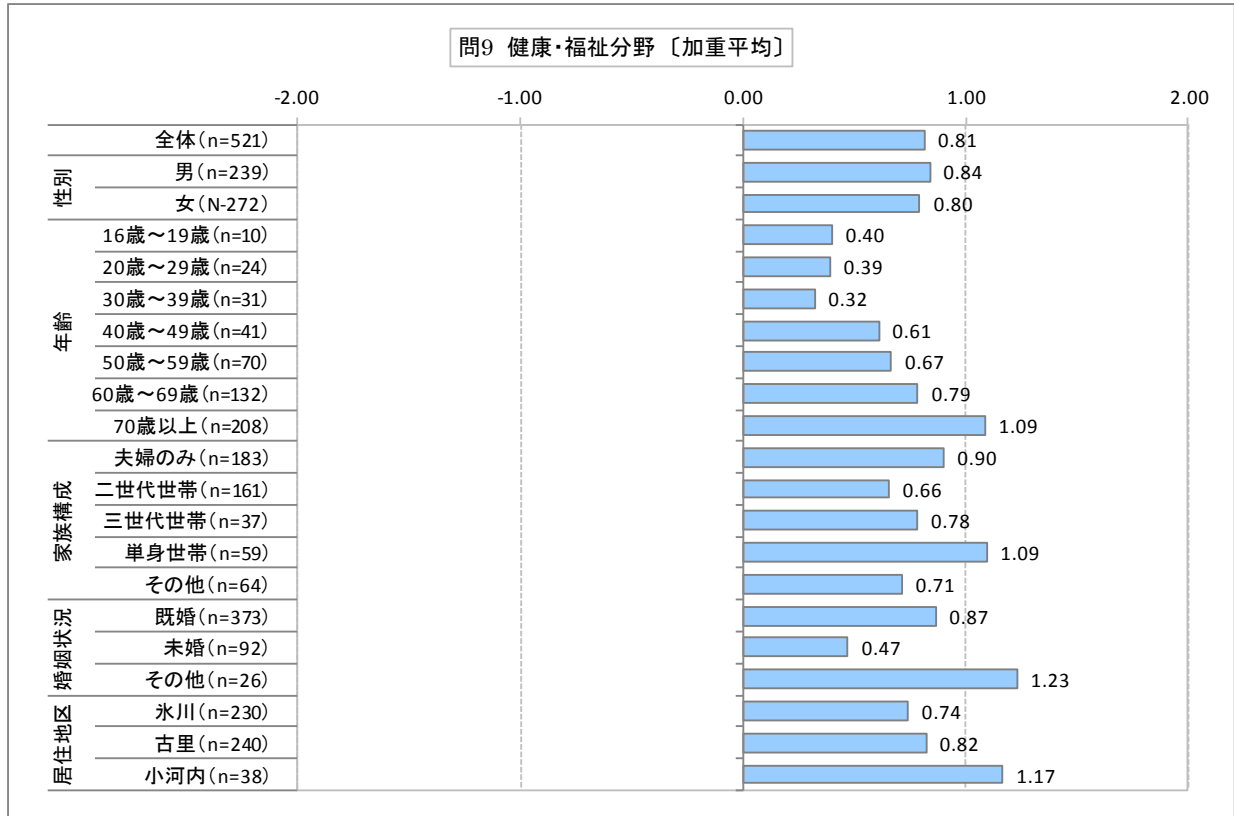




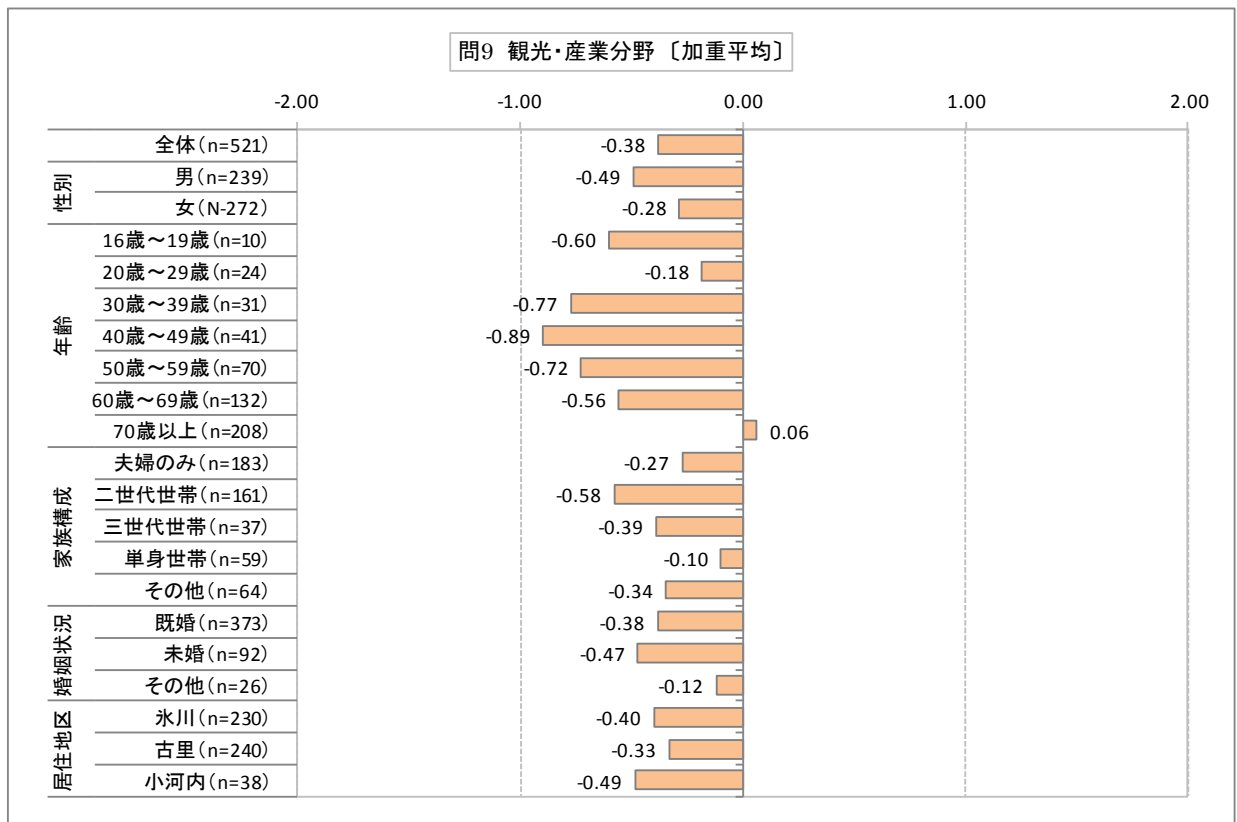
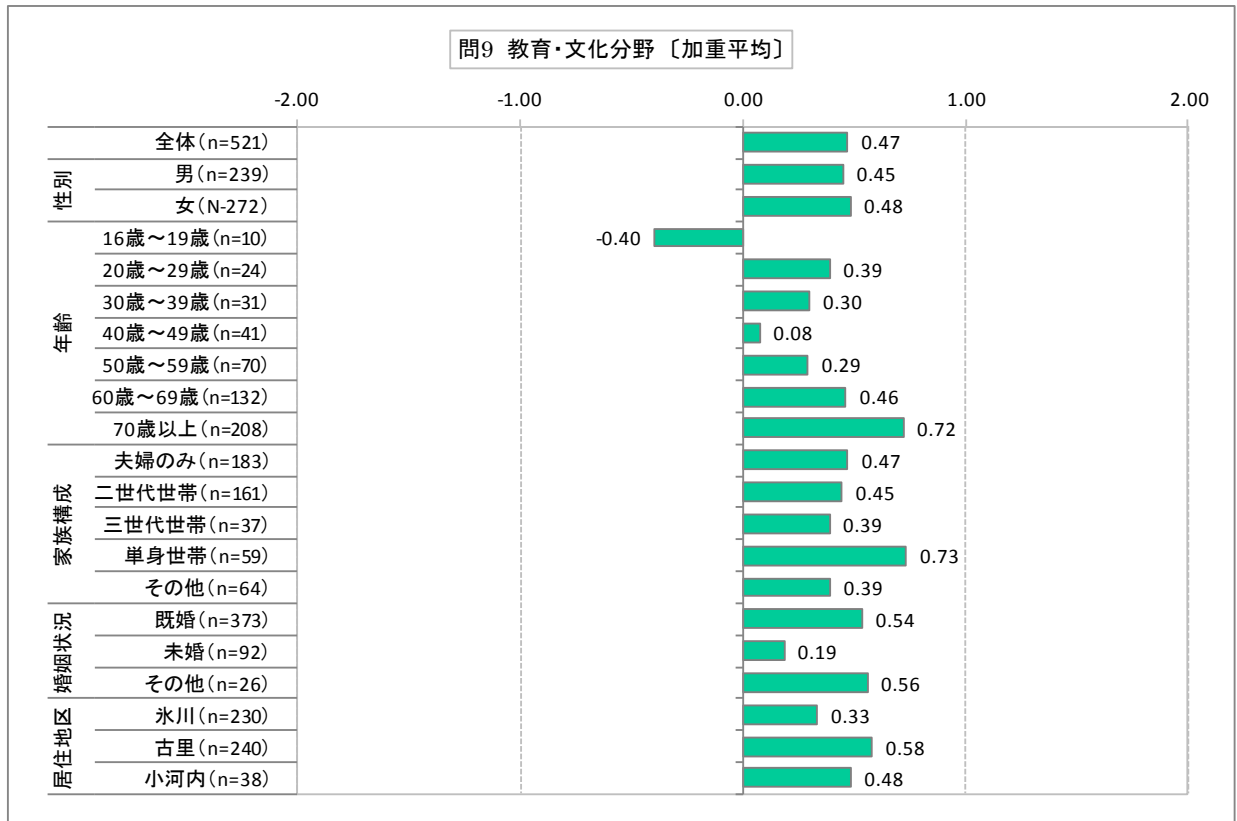


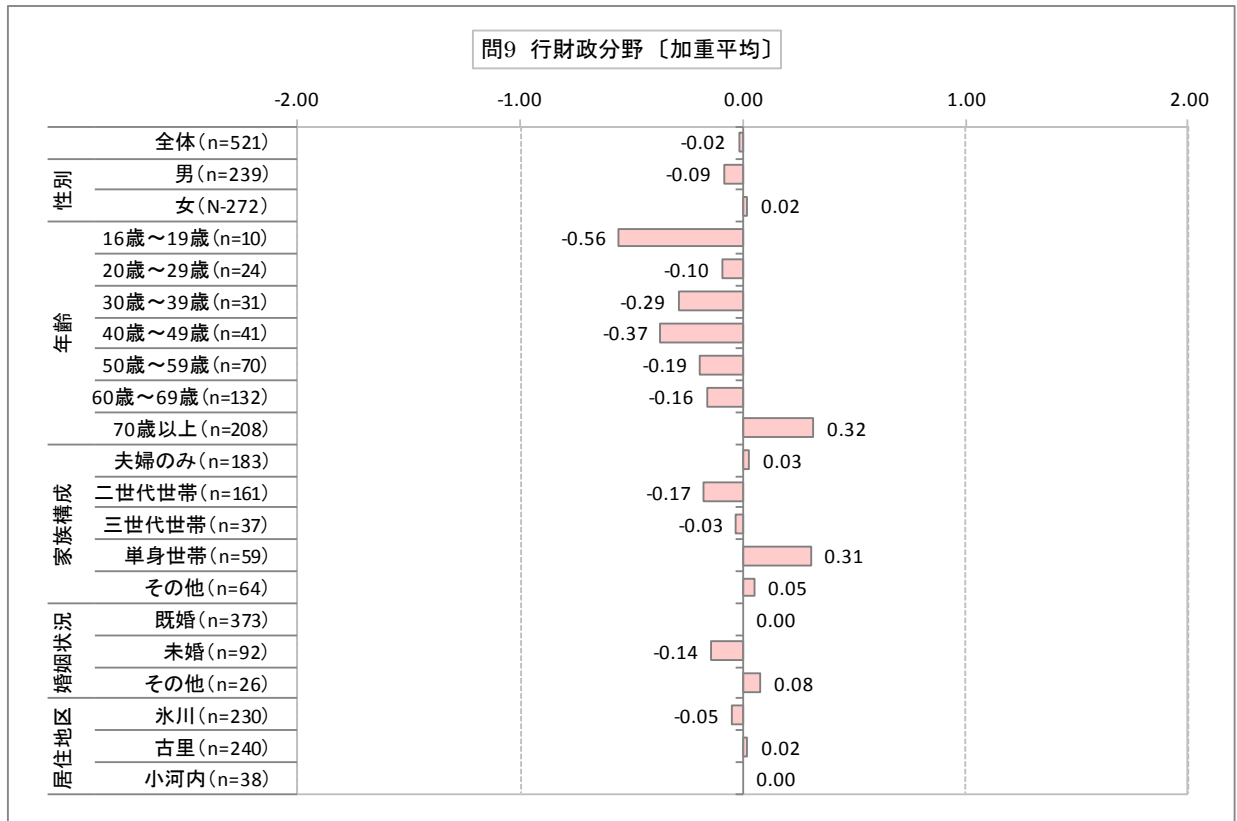
〔属性別 加重平均結果〕

分野毎の、属性別の「満足」から「不満」を合わせた加重平均値は以下のとおりです。







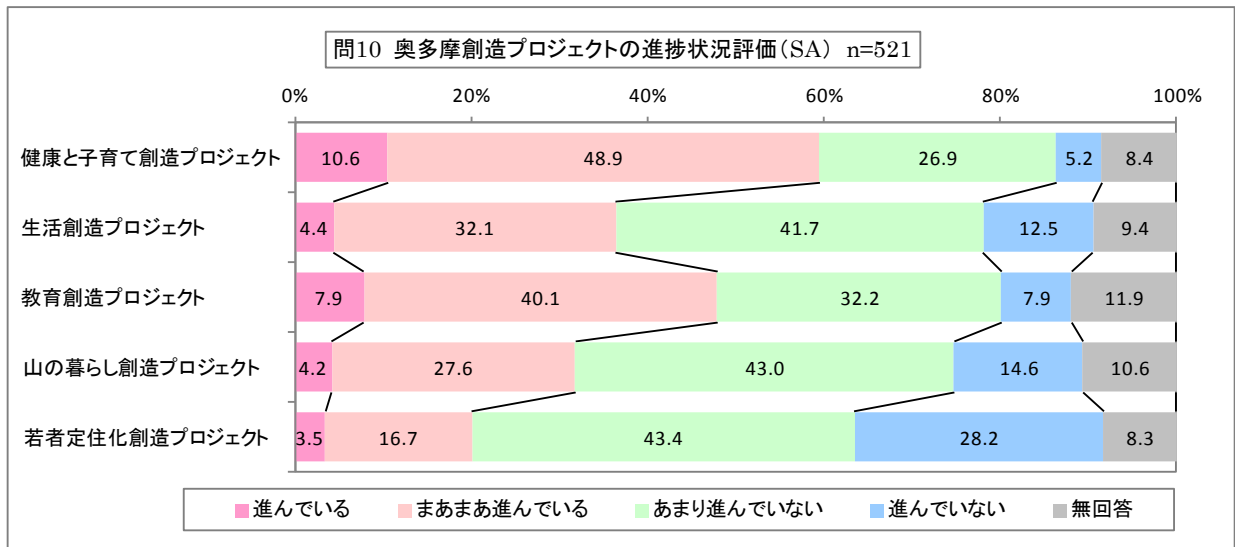


【奥多摩町のまちづくり施策について】

問 10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価

奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価については、「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた“進んでいる”と評価する割合が、“進んでいない”と感じている割合を上回る項目は、「健康と子育てプロジェクト」と「教育創造プロジェクト」の 2 つのプロジェクトです。これらの“進んでいる”の回答割合は、「健康と子育てプロジェクト」が 59.5%と高く、次いで「教育創造プロジェクト」が 48.0%と続いています。

一方、“進んでいる”よりも、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた“進んでいない”と評価する割合が上回るプロジェクトは、「生活創造プロジェクト」、「山の暮らし創造プロジェクト」、「若者定住化創造プロジェクト」の 3 つのプロジェクトです。これらの“進んでいない”の回答割合は、「若者定住化創造プロジェクト」が 71.6%に達し最も多くなっており、次いで「山の暮らし創造プロジェクト」が 57.6%、「生活創造プロジェクト」が 54.2%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

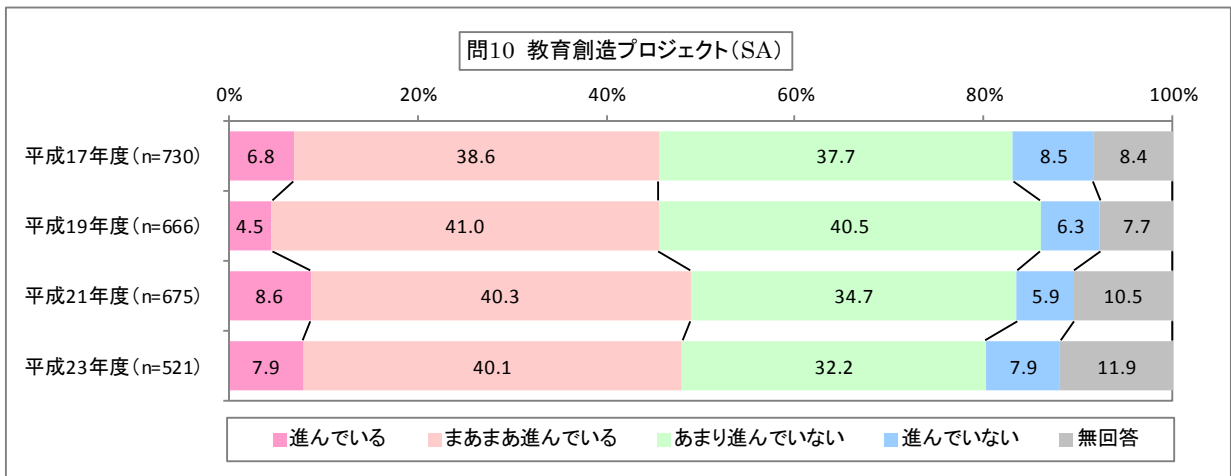
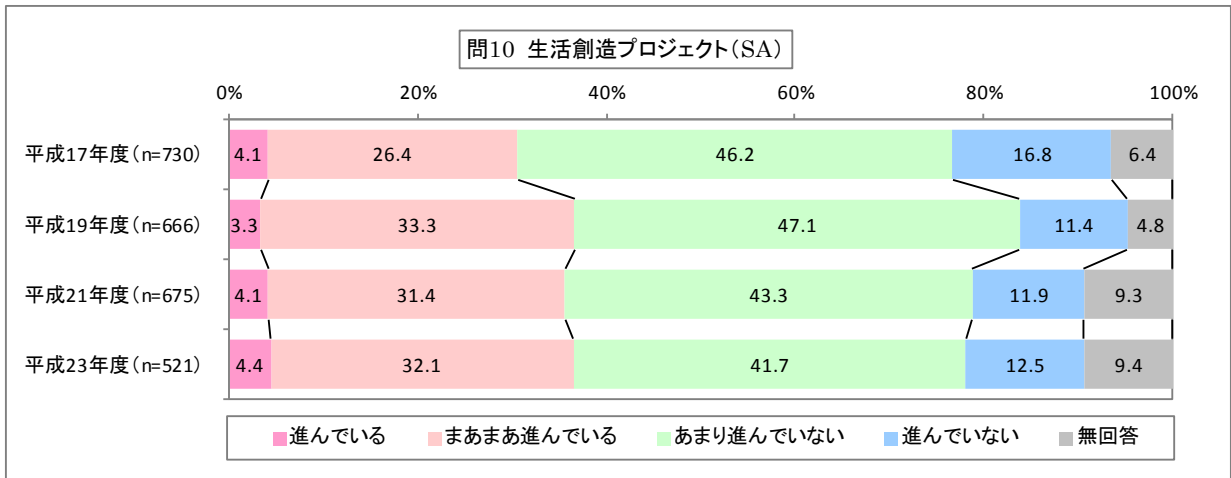
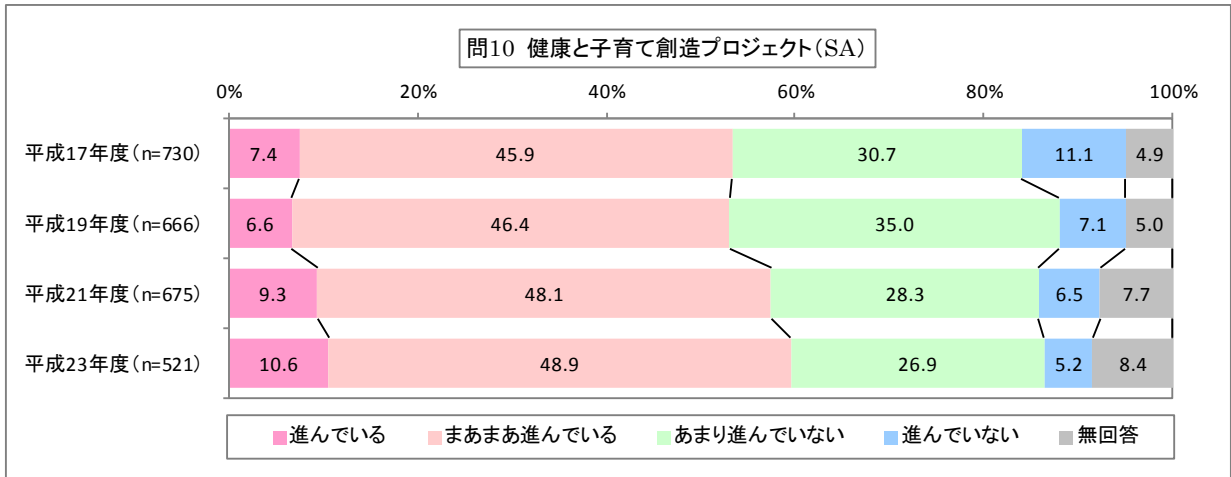
なお、今回の調査を含め、過去 4 回実施した調査結果を分野別に比較した結果が次頁以降 (p.24 ~p.25) のグラフですが、健康と子育て創造プロジェクトに対する「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた“進んでいる”と評価する回答は、平成 17 年度増加傾向を示しています。

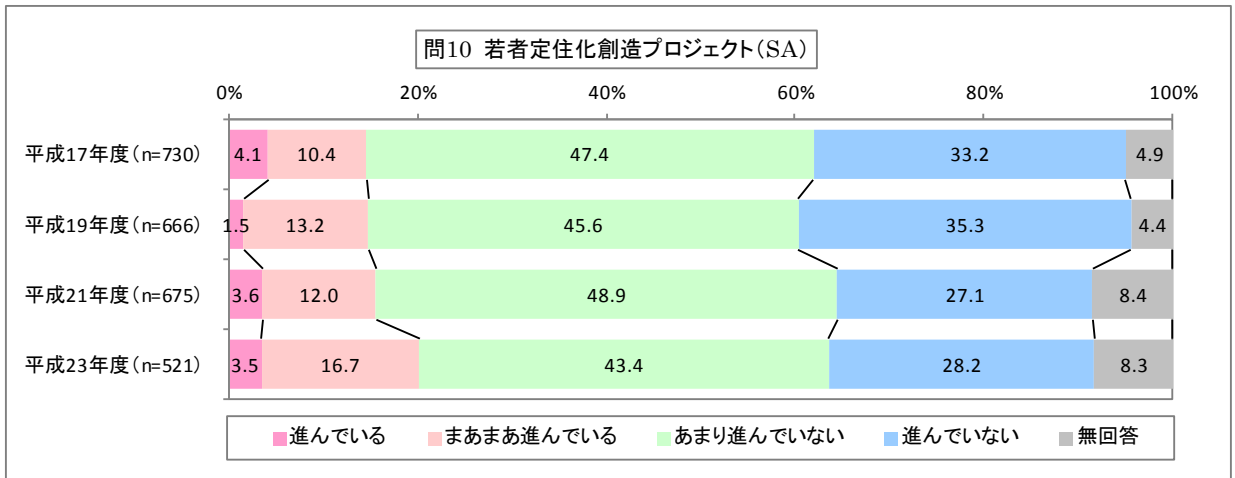
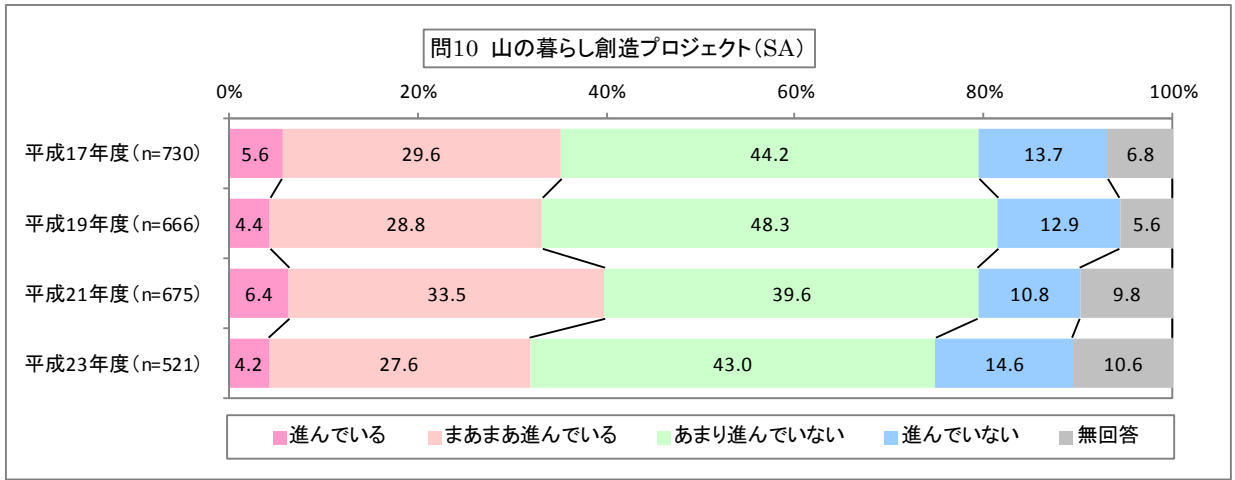
生活創造プロジェクトに対する“進んでいる”と評価する回答は、平成 19 年度以降大きく変化していない結果となっています。

教育創造プロジェクトに対する“進んでいる”と評価する回答は、相対的に回答割合が高いものの大きな増加とはなっていない結果となっています。

山の暮らし創造プロジェクトは、平成 21 年度の評価が多少高くなったものの、平成 23 年度ではこれまでもっとも少ない結果となっています。

若者定住化創造プロジェクトは、相対的に“進んでいる”と評価する回答割合は低いものの、僅かながら増加傾向を示す結果となっています。

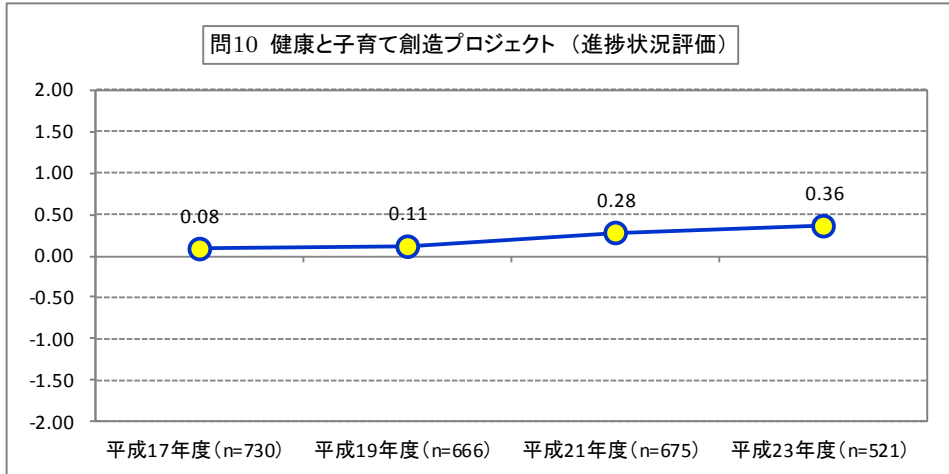




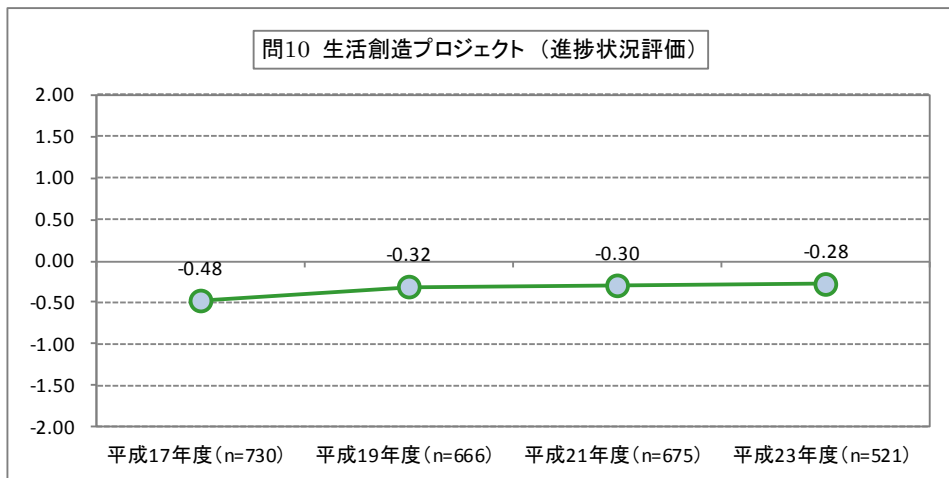
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

「無回答」を除く「進んでいる」、「まあまあ進んでいる」、「あまり進んでいない」及び「進んでいない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が以下のグラフです。

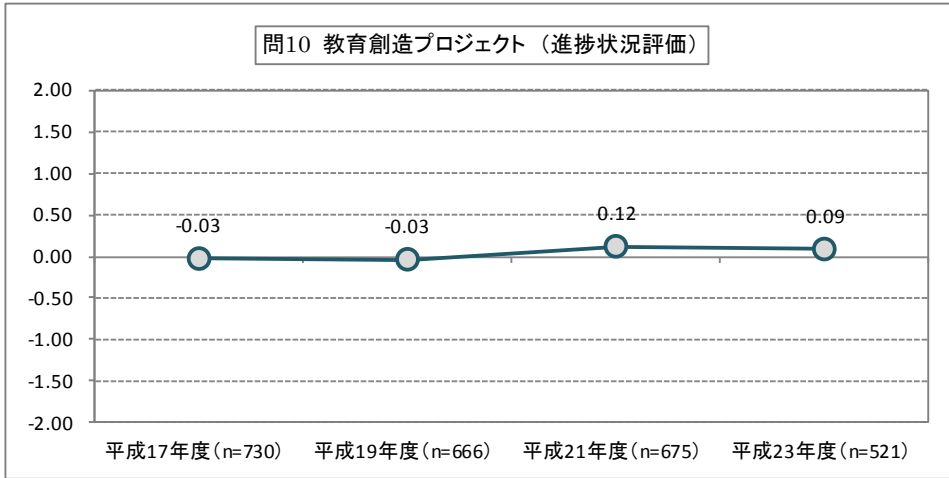
健康と子育て創造プロジェクトの加重平均値は、平成 17 年度の 0.08 から増加を続け、平成 23 年度には 0.36 となっており、評価の度合いが高まっていることがうかがえます。



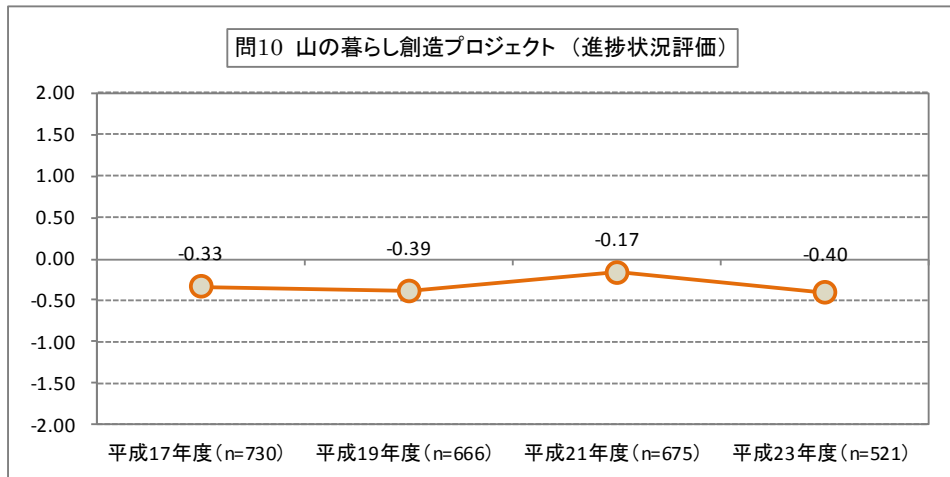
生活創造プロジェクトでは過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、評価の度合いは高まっており平成 23 年度ではこれまでで最も高い結果（-0.28）となっています。



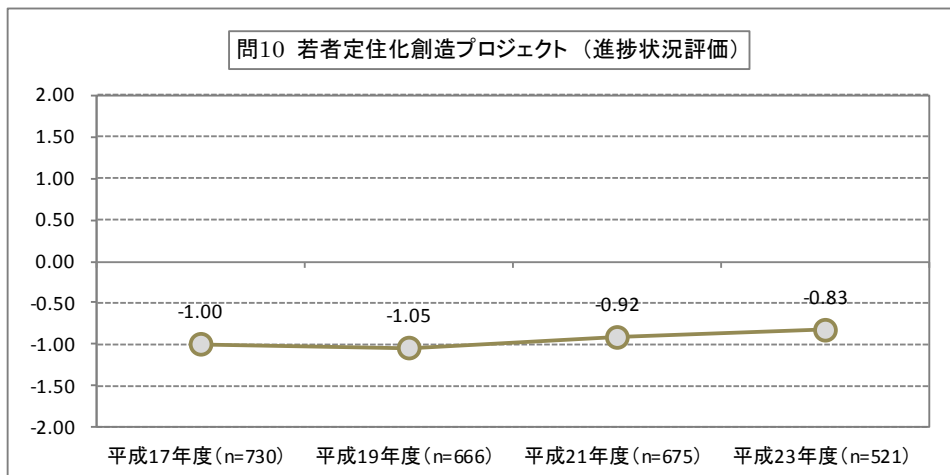
教育創造プロジェクトは、平成 17 年度及び平成 19 年度の調査結果いずれも 0.0 を下回っていましたが、平成 21 年度以降は 0.0 を超えており、“進んでいる”の評価の割合が高まっていることがうかがえます。



生活創造プロジェクトでは過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、平成 23 年度ではこれまでで最も低い結果（-0.40）となっています。

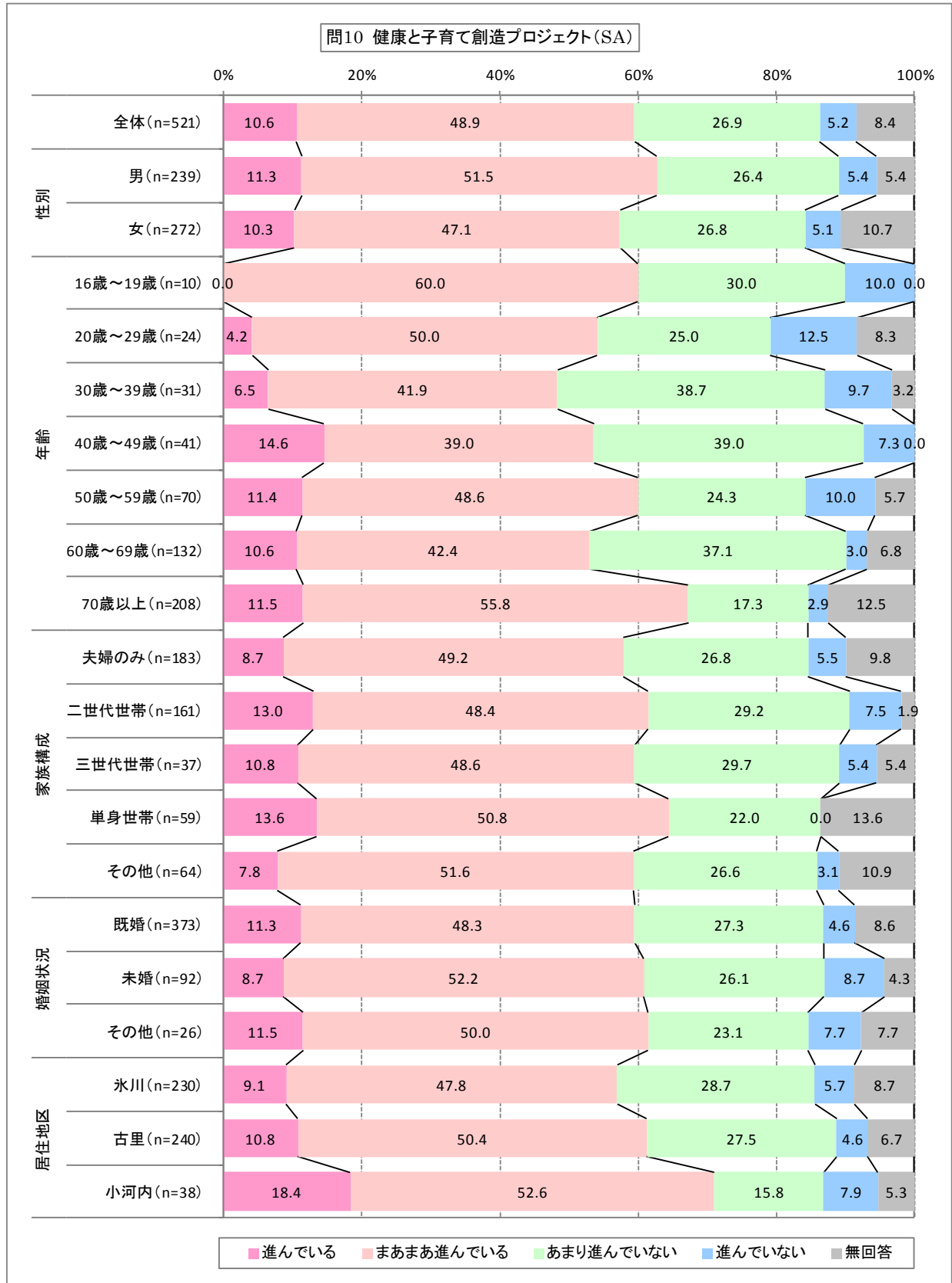


若者定住化創造プロジェクトでは過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、僅かながら評価は向上していることがうかがえます。

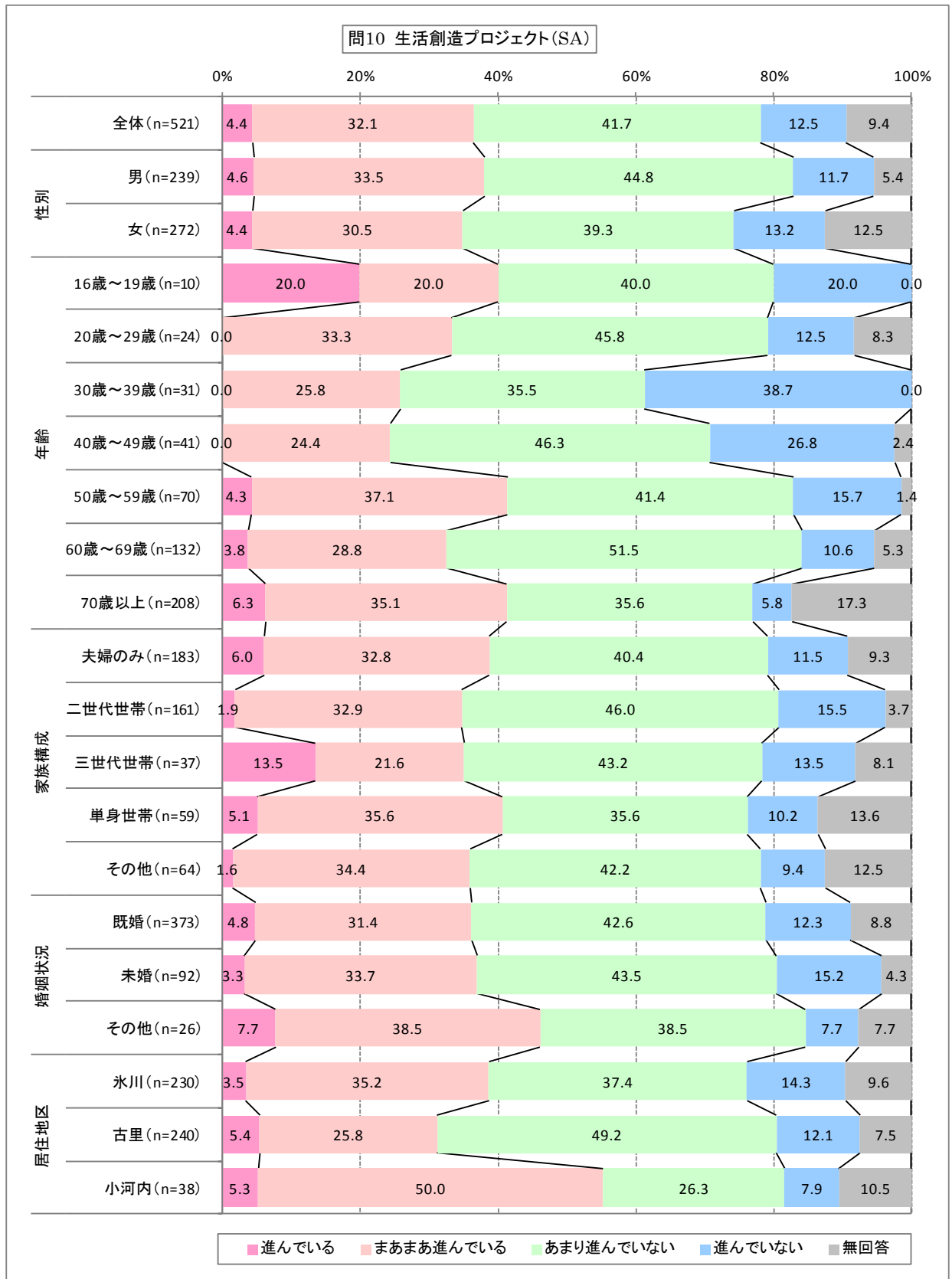


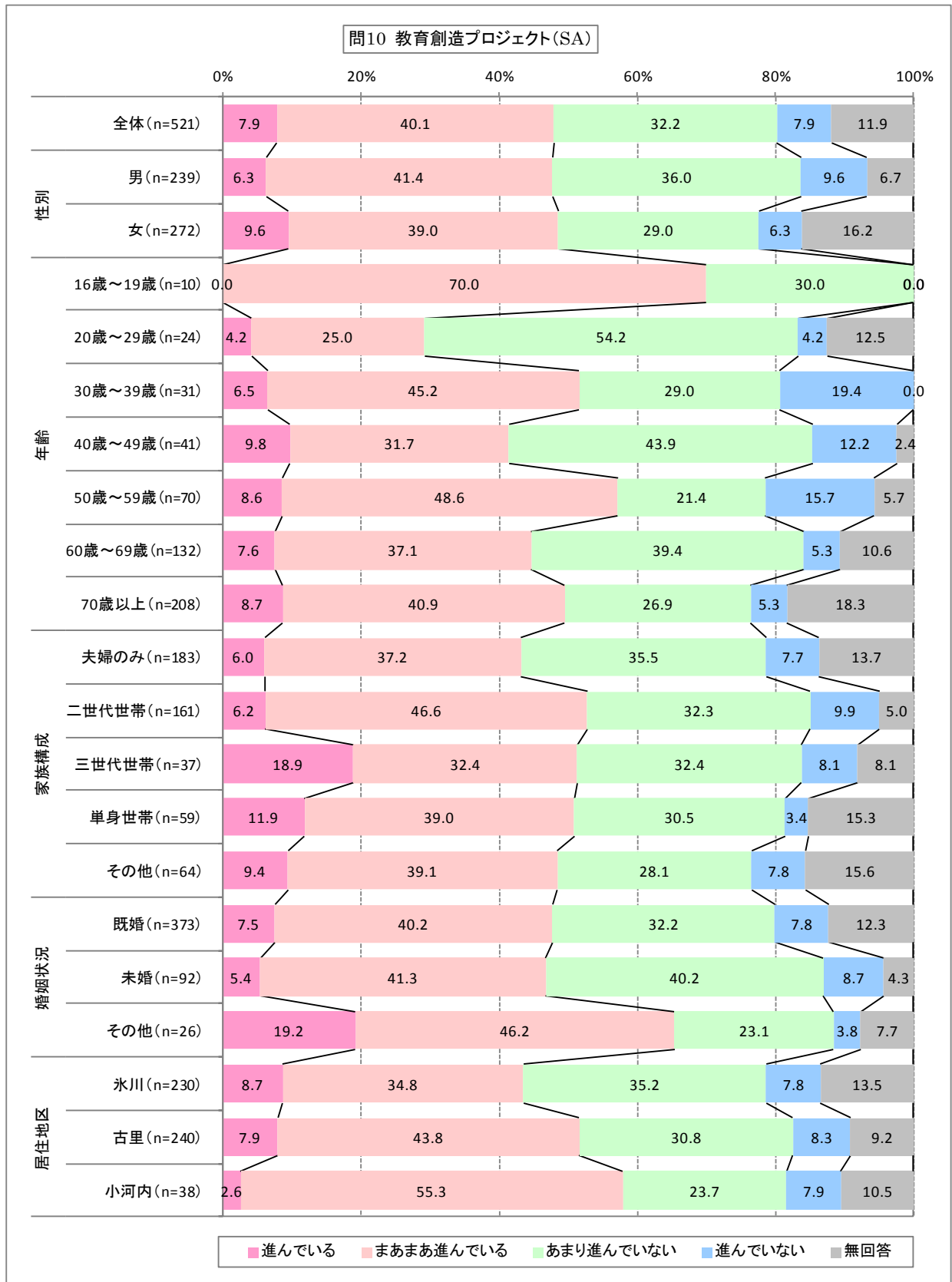
〔属性別 結果一覧〕

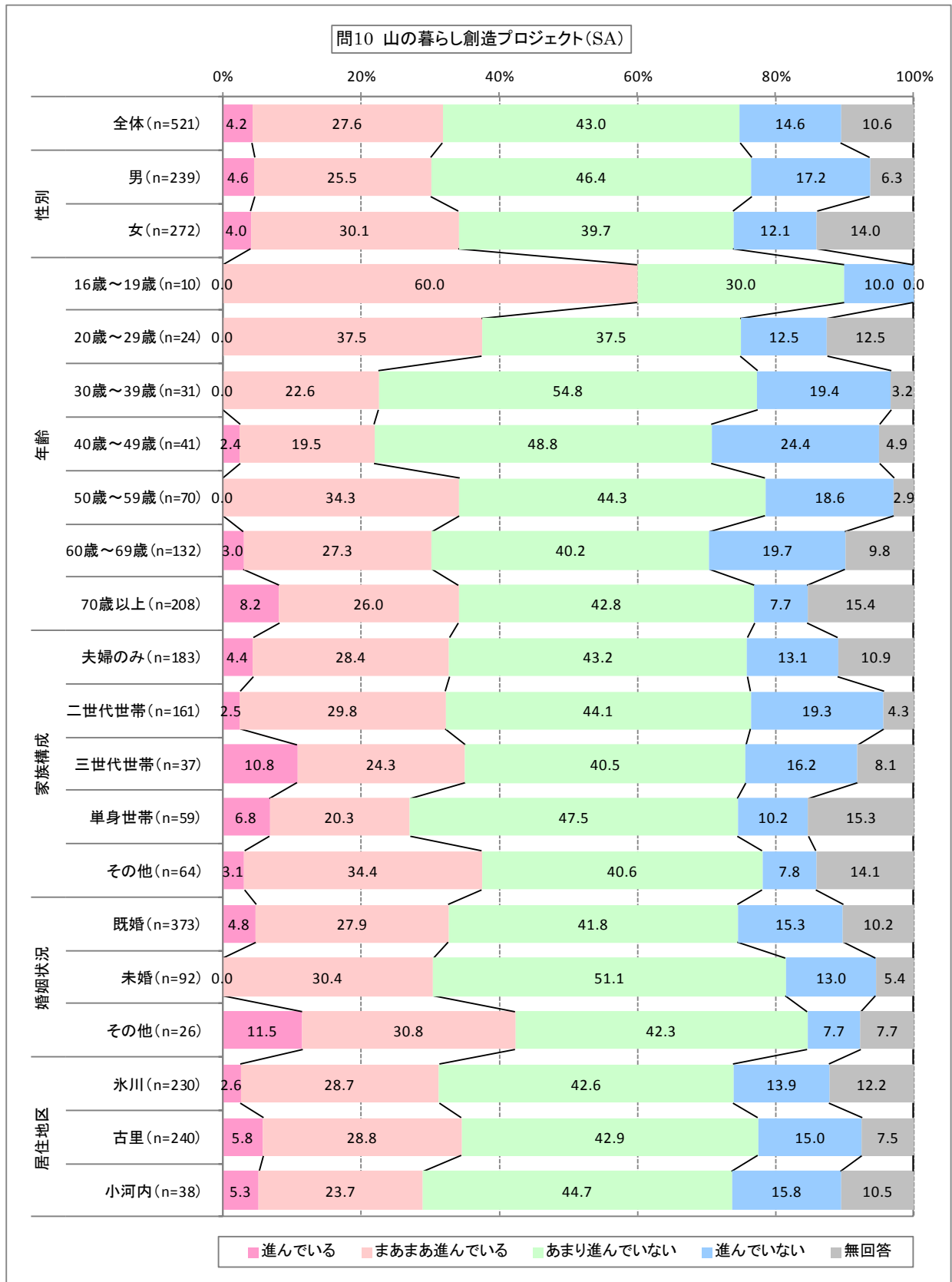
分野毎の、属性別の「進んでいる」から「進んでいない」の回答割合は以下のとおりです。

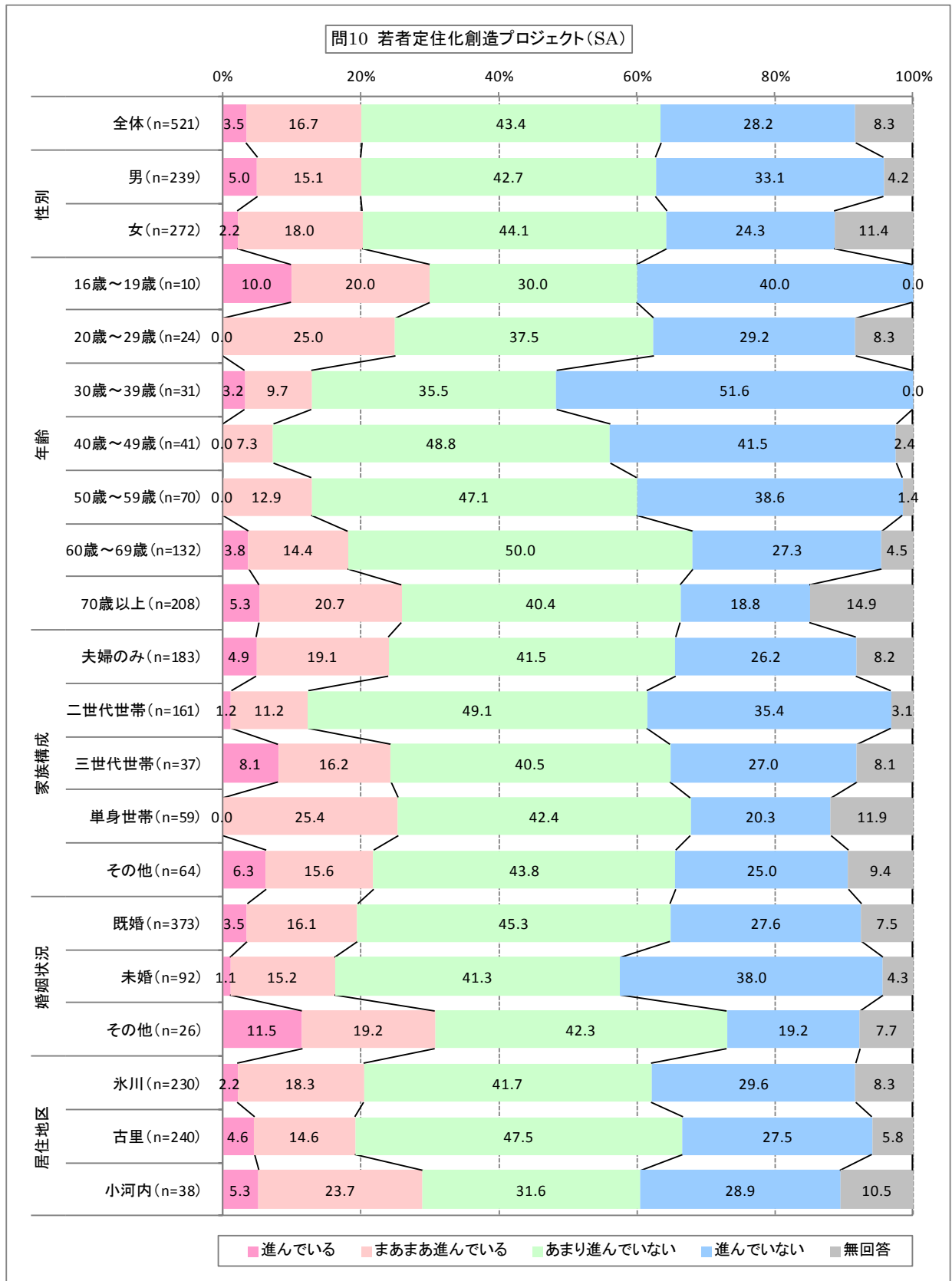






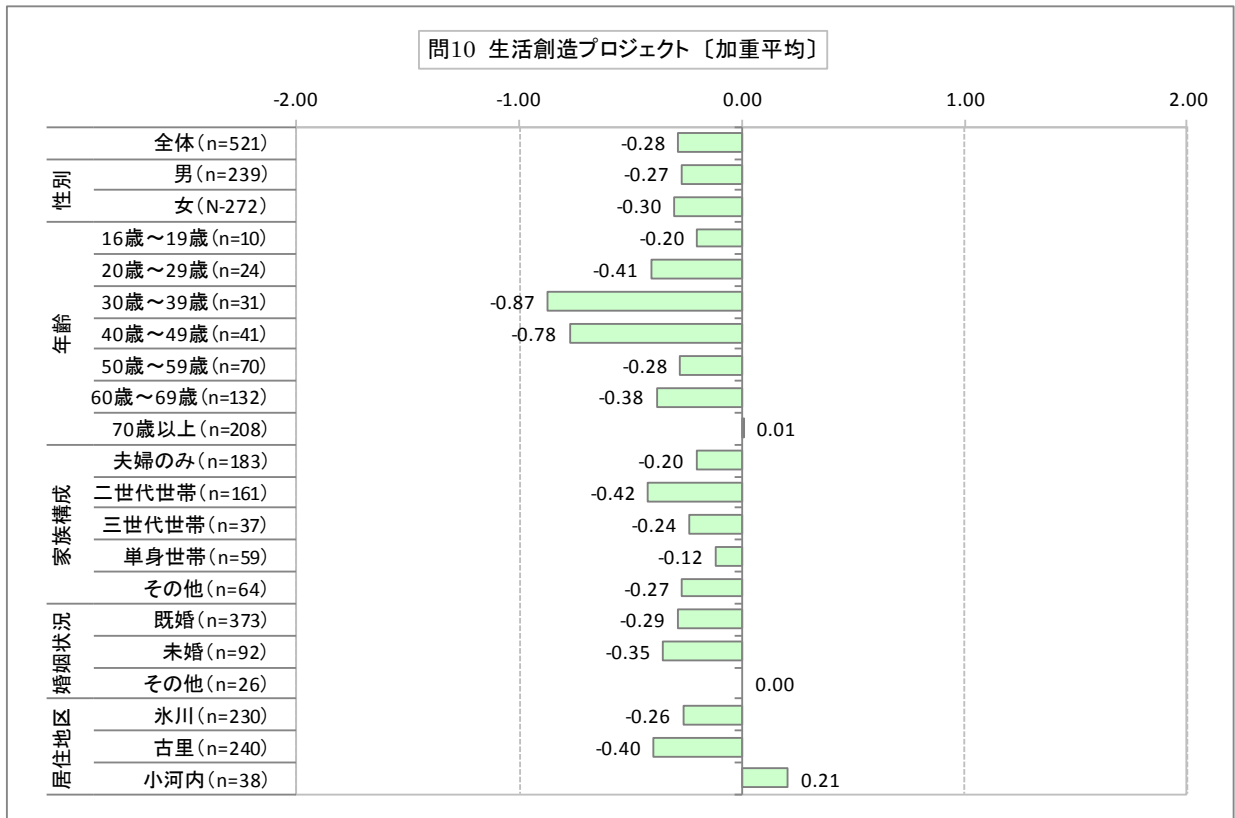
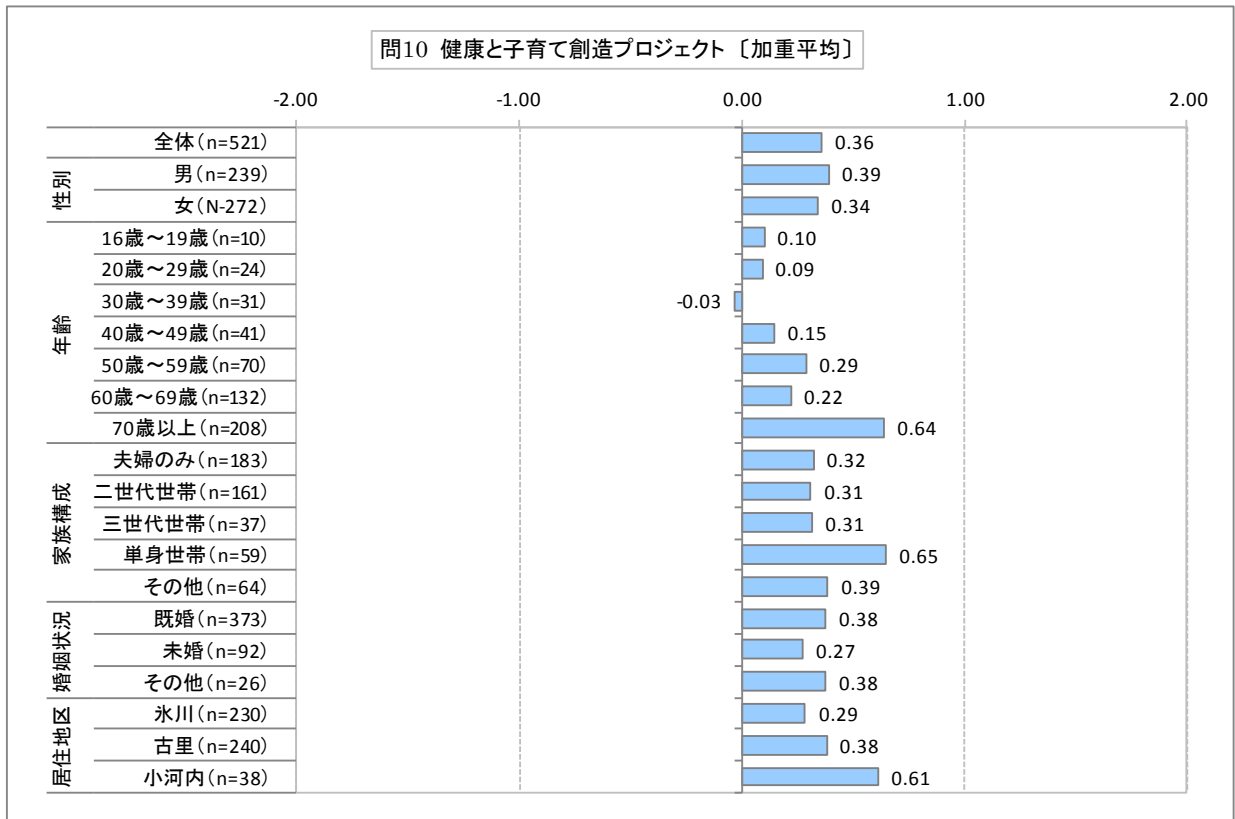


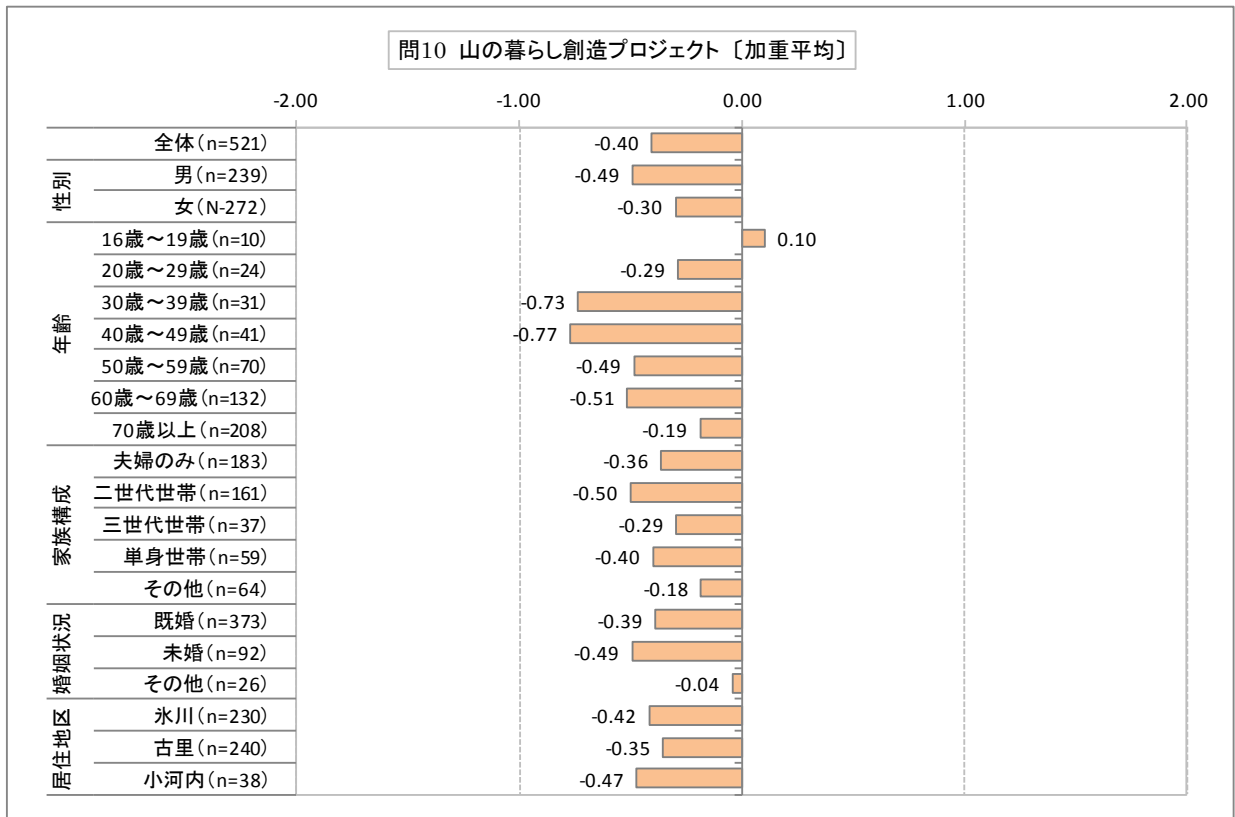
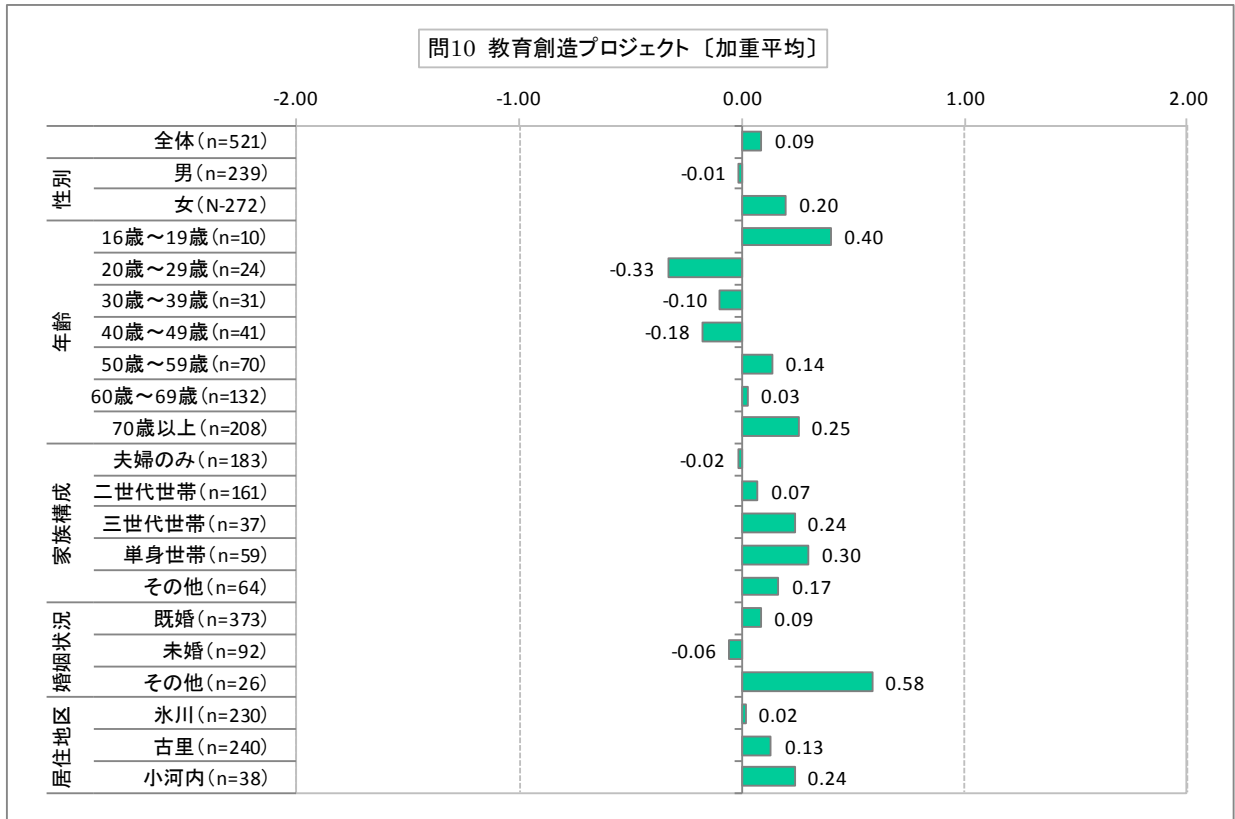


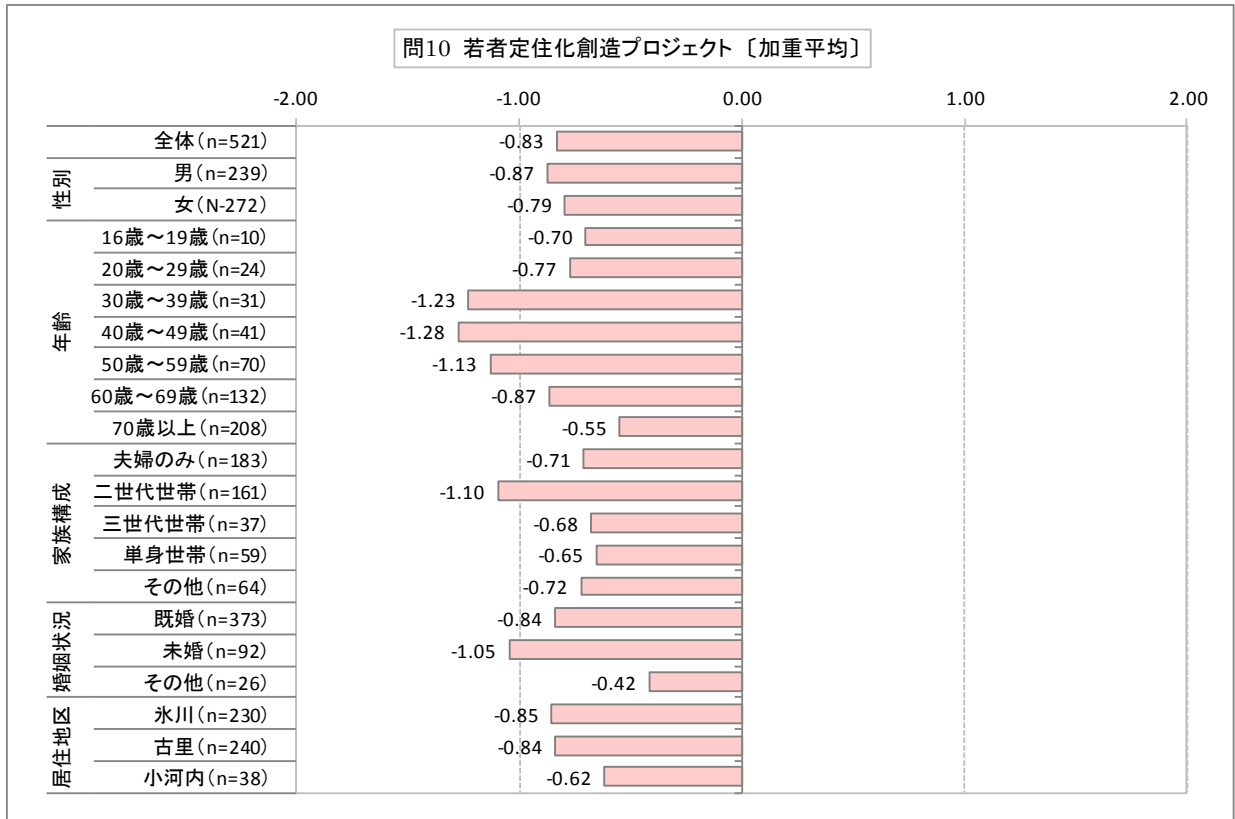


〔属性別 加重平均結果〕

プロジェクト毎の、属性別の「進んでいる」から「進んでいない」を合わせた加重平均値は以下のとおりです。



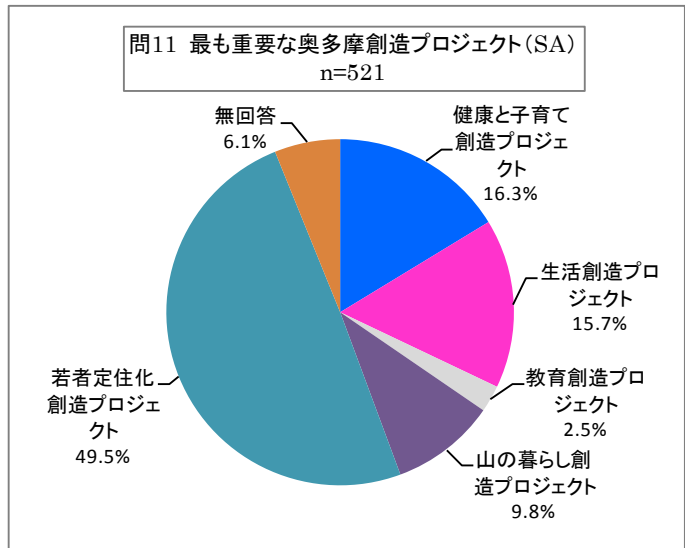




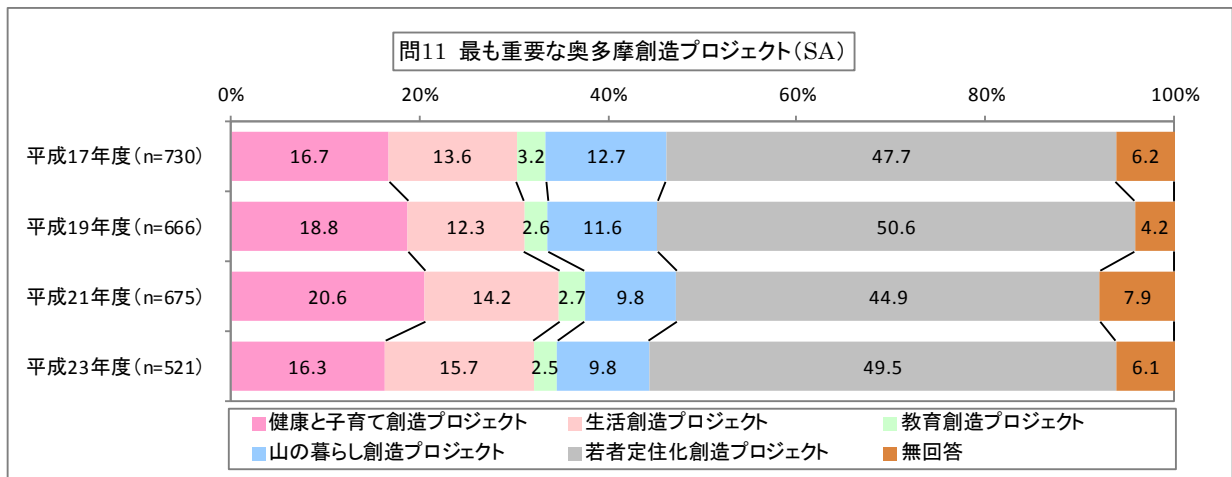
問11 最重要と考える奥多摩創造プロジェクト

最重要と考える奥多摩創造プロジェクトとしては、「若者定住化創造プロジェクト」が最も多く49.5%に達し、次いで「健康と子育て創造プロジェクト」が16.3%、「生活創造プロジェクト」が15.7%と続いています。

また、属性別の結果では、各属性（男女・年齢・家族構成・婚姻状況・居住地）ともに「若者定住化創造プロジェクト」が最も多い回答割合となっています。



〔過去調査結果との比較〕

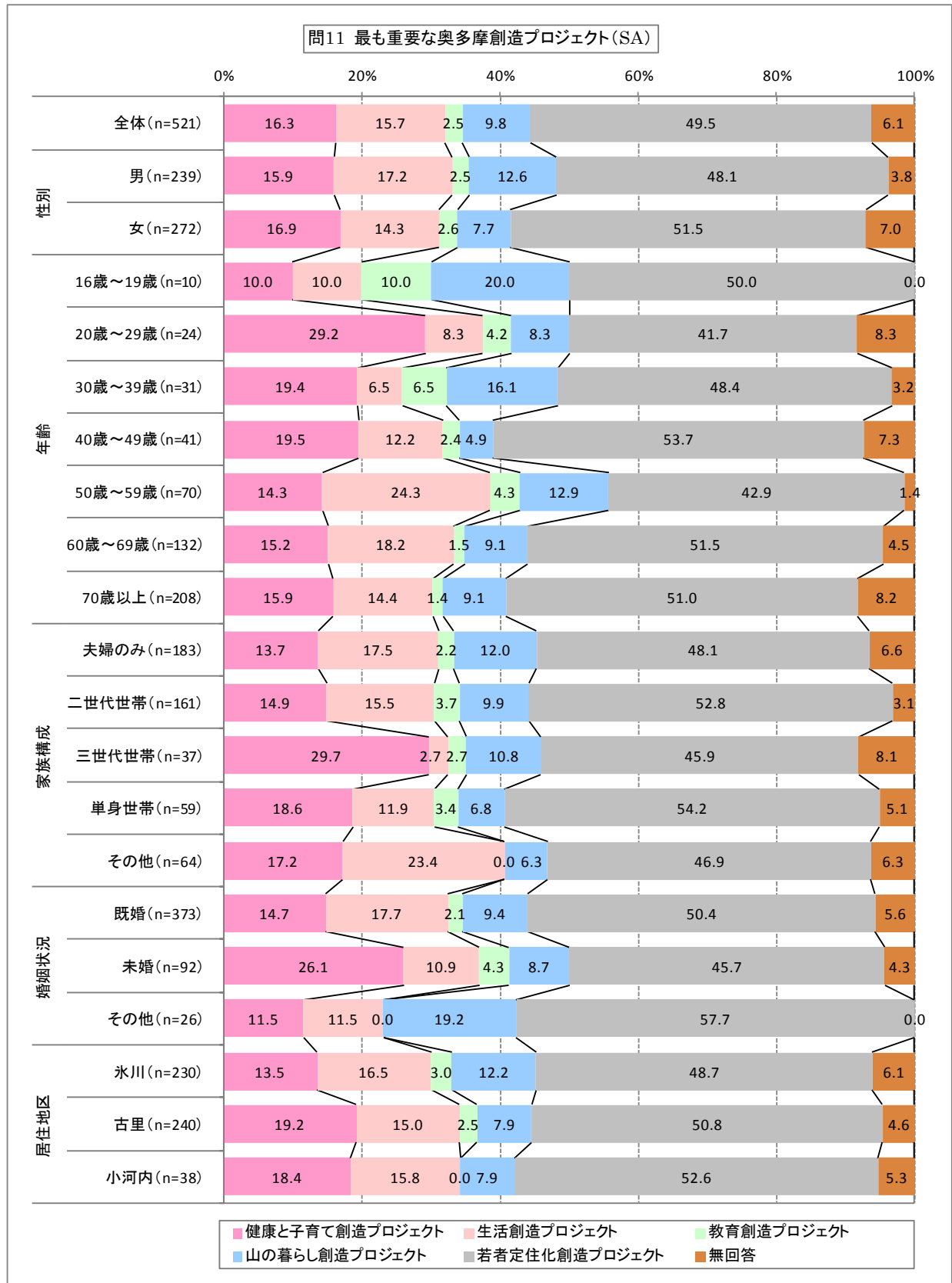


今回の調査を含め、過去4回実施した調査結果を比較すると、「若者定住化プロジェクト」は40～50%台で推移しており、若者の定住化を促進するプロジェクトへの期待が高いことがうかがえます。



〔属性別 結果一覧〕

最も重要と考えるプロジェクトの属性別回答割合は以下のとおりです。

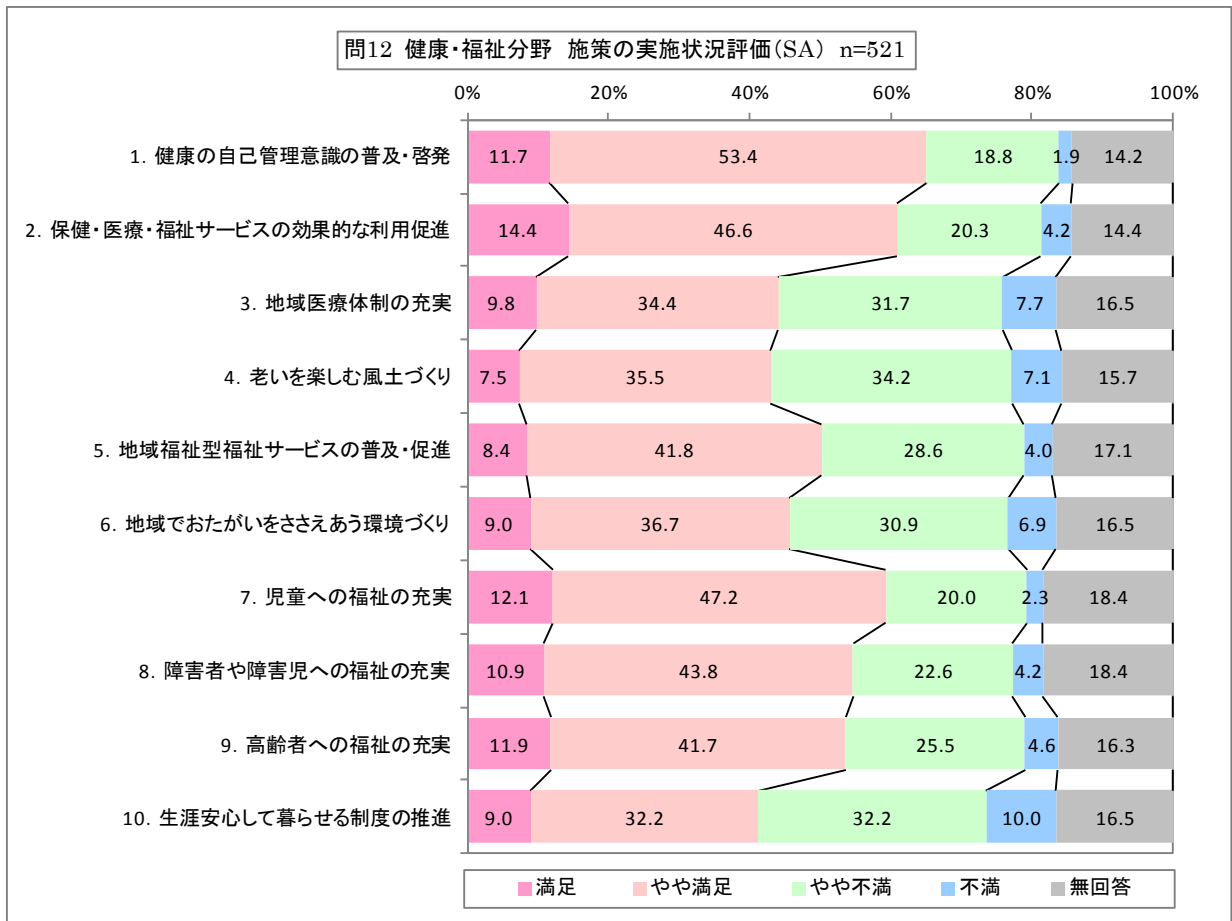


問12 分野別施策の実施状況の満足度

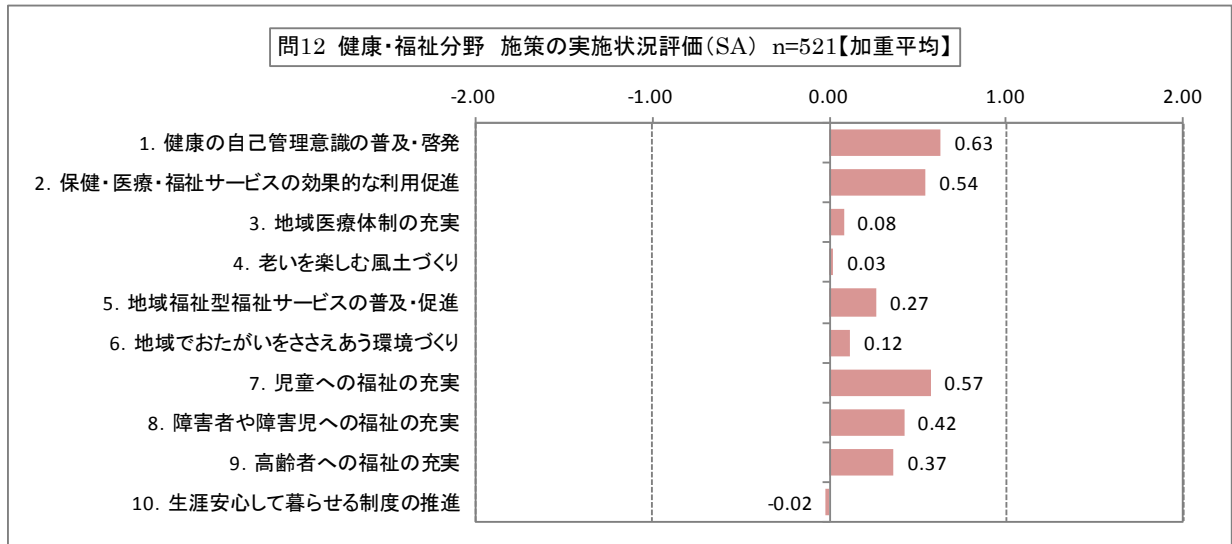
【健康・福祉分野】

健康・福祉分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「1. 健康の自己管理意識の普及・啓発」、「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」及び「7. 児童への福祉の充実」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「3. 地域医療体制の充実」、「4. 老いを楽しむ風土づくり」、「6. 地域でおたがいをささえあう環境づくり」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



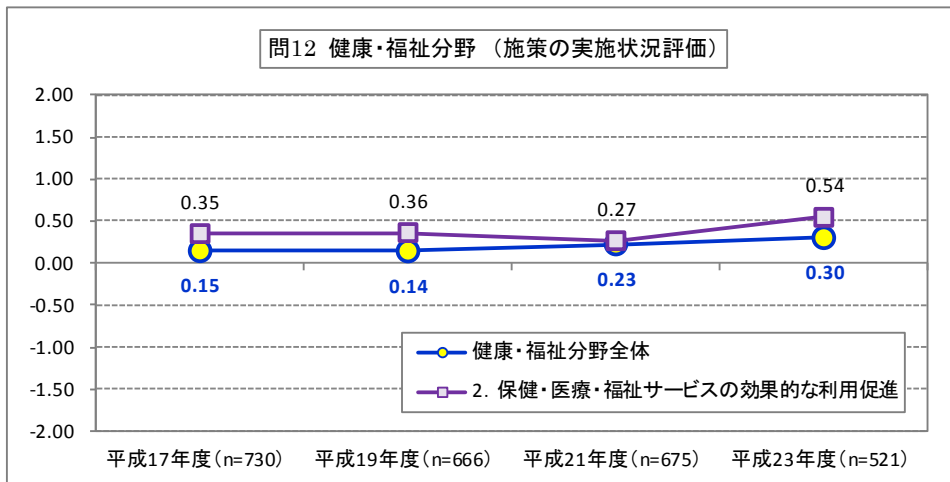
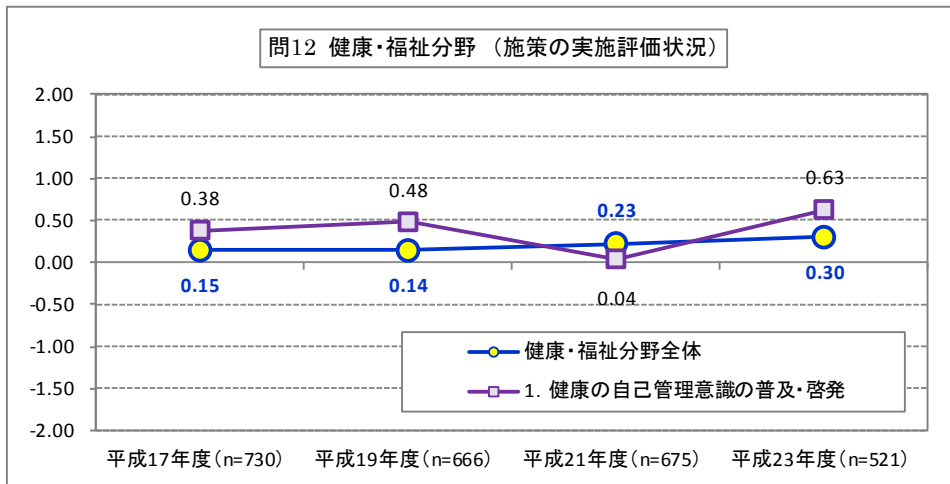
「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.39）のグラフですが、「3. 地域医療体制の充実」、「4. 老いを楽しむ風土づくり」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」は、評価が拮抗していることがうかがえます。

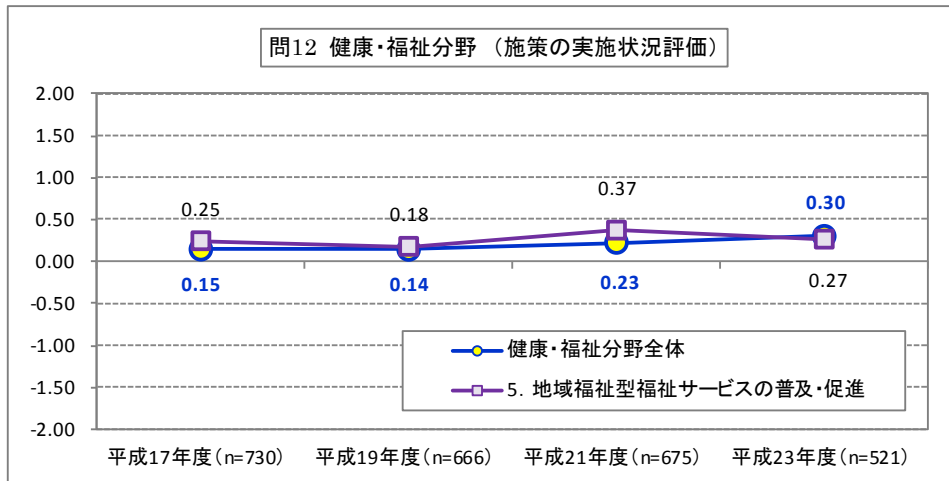
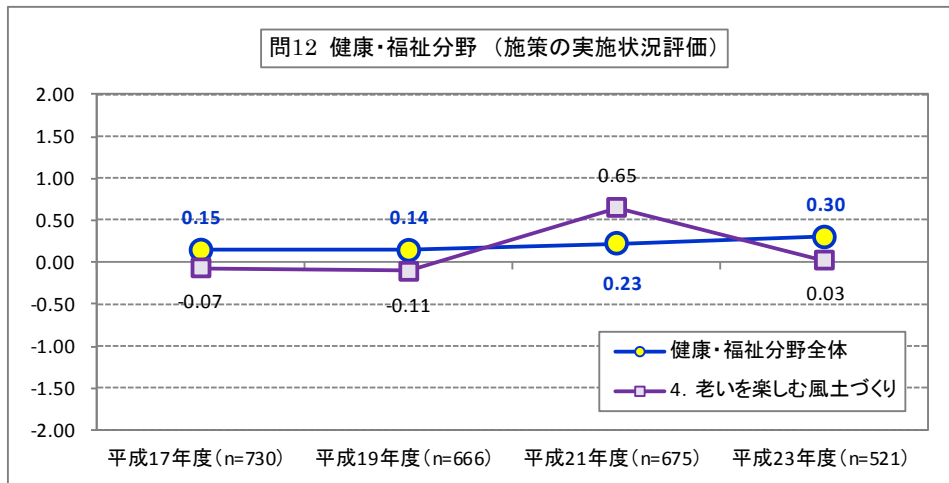
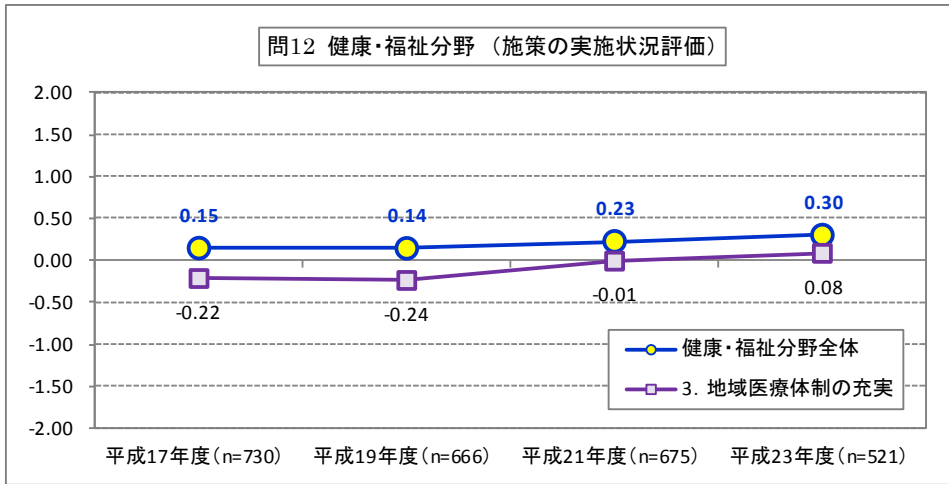


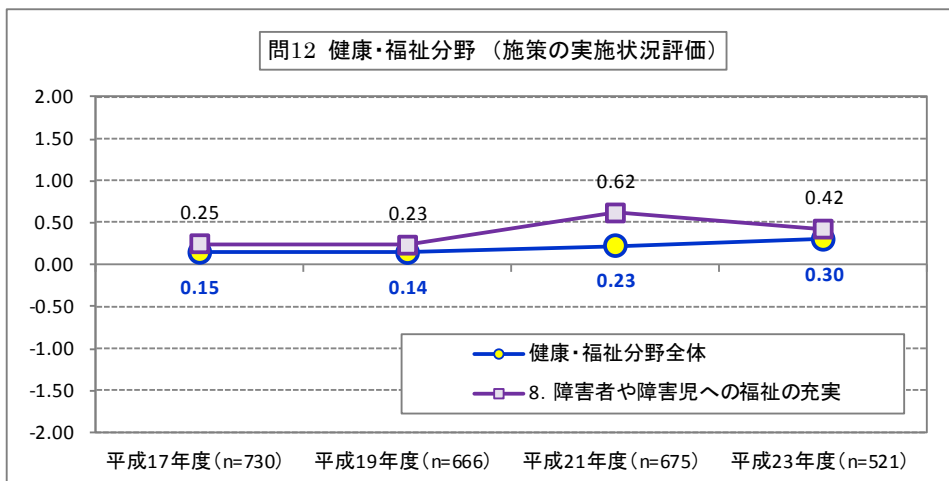
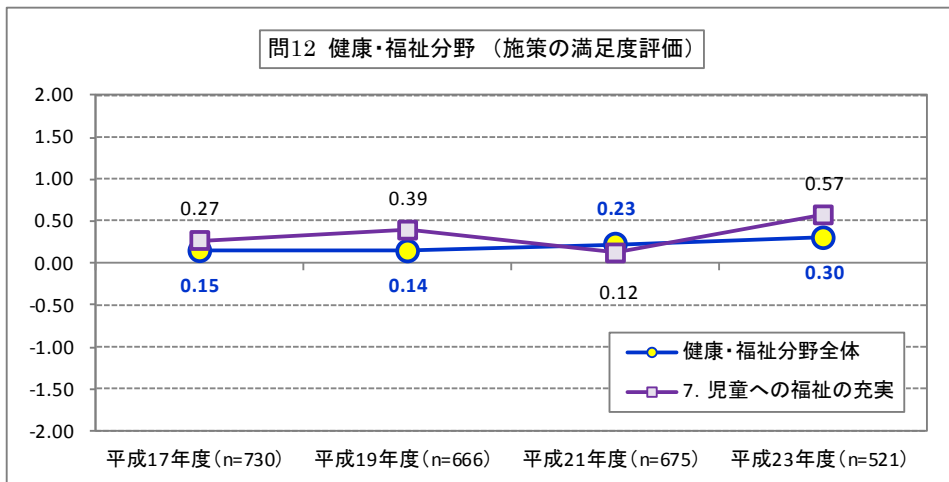
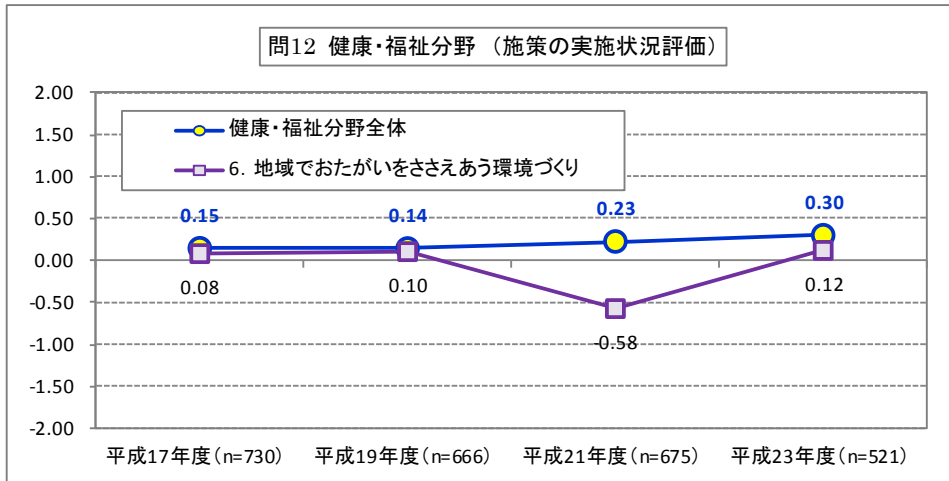
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

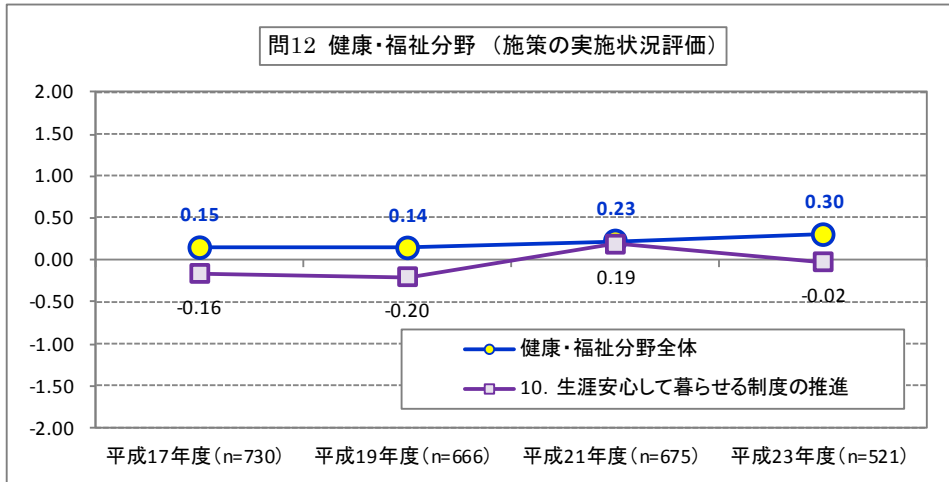
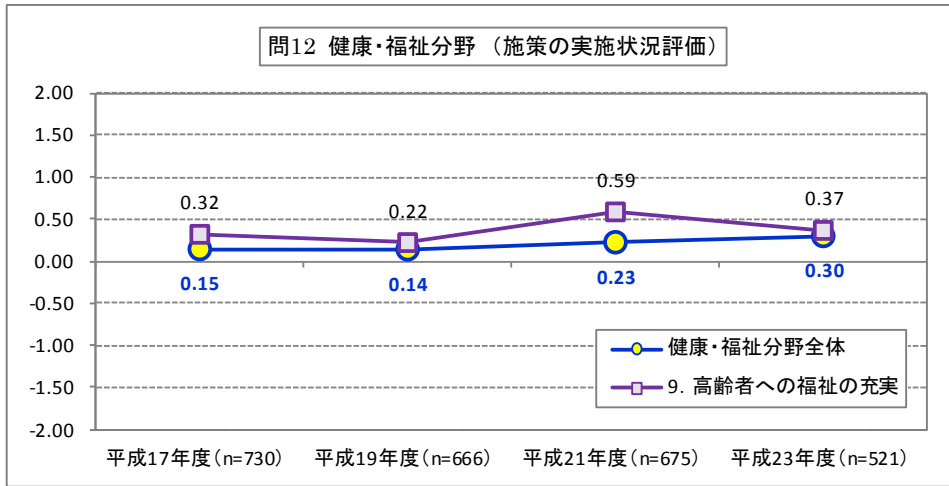
健康・福祉分野の各施策の満足度を、過去4回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、健康・福祉分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

過去4回の調査で、健康・福祉分野全体の加重平均値を上回っている施策は、  
 「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」  
 「8. 障害者や障害児への福祉の充実」  
 「9. 高齢者への福祉の充実」  
 の3施策であり、逆に下回っている施策は、  
 「3. 地域医療体制の充実」  
 「6. 地域でおたがいをささえあう環境づくり」  
 「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」  
 の3施策となっています。





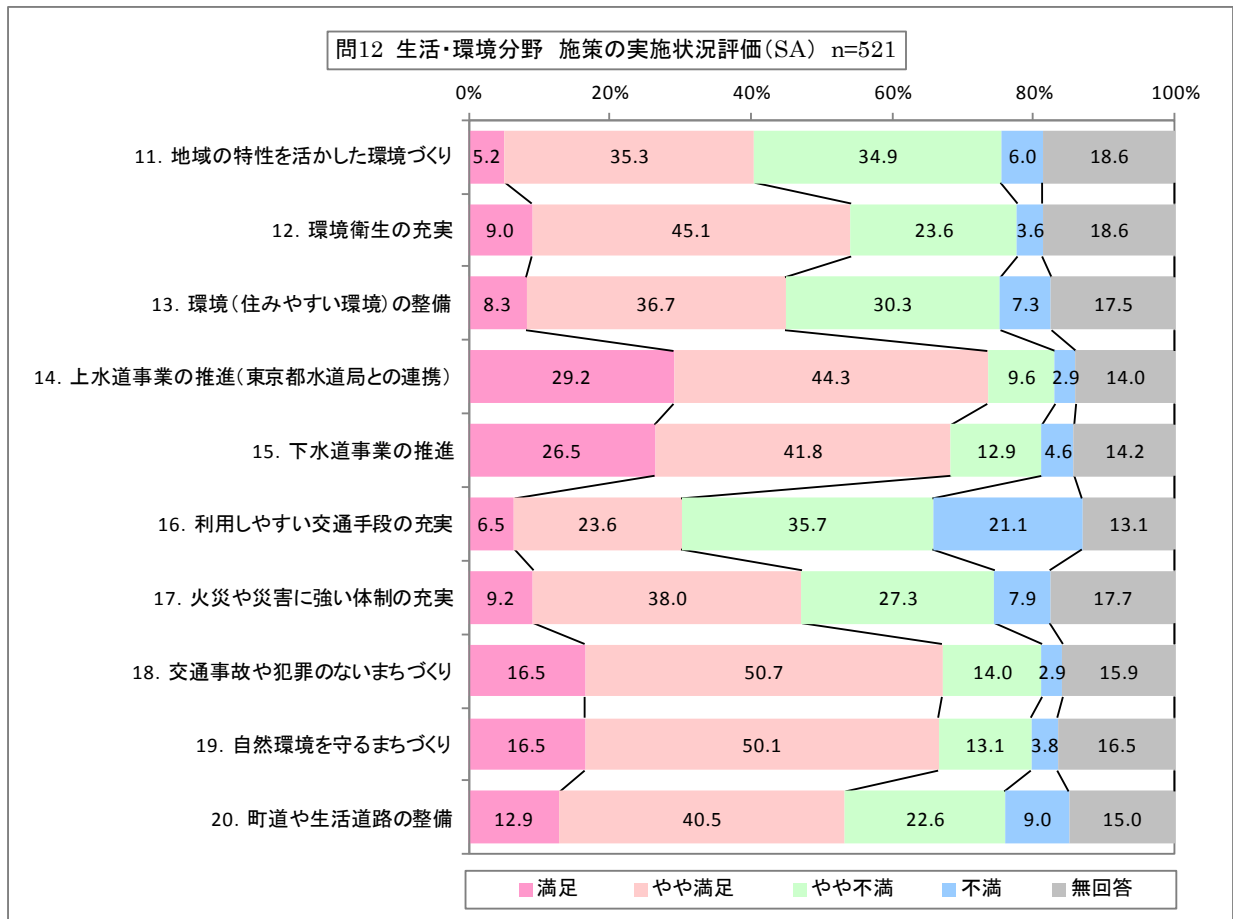




【生活・環境分野】

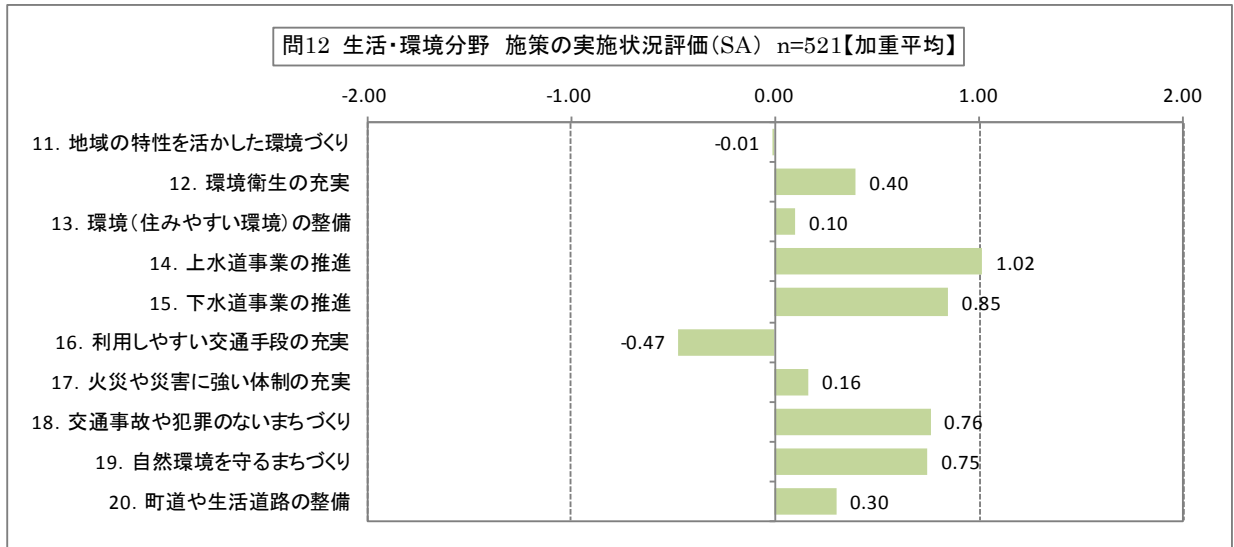
生活・環境分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「14. 上水道事業の推進（東京都水道局との連携）」、「15. 下水道事業の推進」、「18. 交通事故や犯罪のないまちづくり」及び「19. 自然環境を守るまちづくり」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」、「13. 環境（住みやすい環境）の整備」、「16. 利用しやすい交通手段の充実」及び「17. 火災や災害に強い体制の充実」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.45）のグラフですが、「16. 利用しやすい交通手段の充実」は評価が非常に低く、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」、「13. 環境（住みやすい環境）の整備」及び「17. 火災や災害に強い体制の充実」は、評価が拮抗していることがうかがえます。





〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

生活・環境分野の各施策の満足度を、過去4回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、生活・環境分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

過去4回の調査で、生活・環境分野全体の加重平均値を上回っている施策は、

- 「14. 上水道事業の推進」
- 「18. 交通事故や犯罪のないまちづくり」
- 「19. 自然環境を守るまちづくり」

の3施策であり、逆に下回っている施策は、

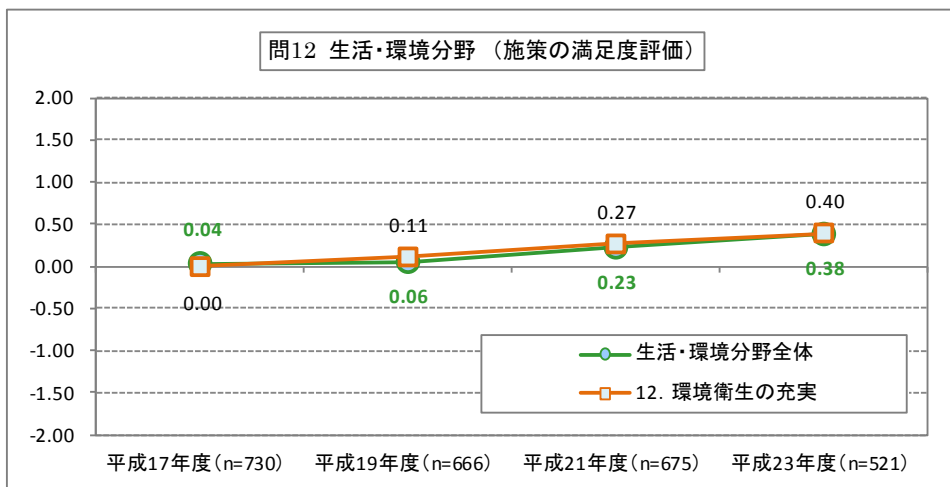
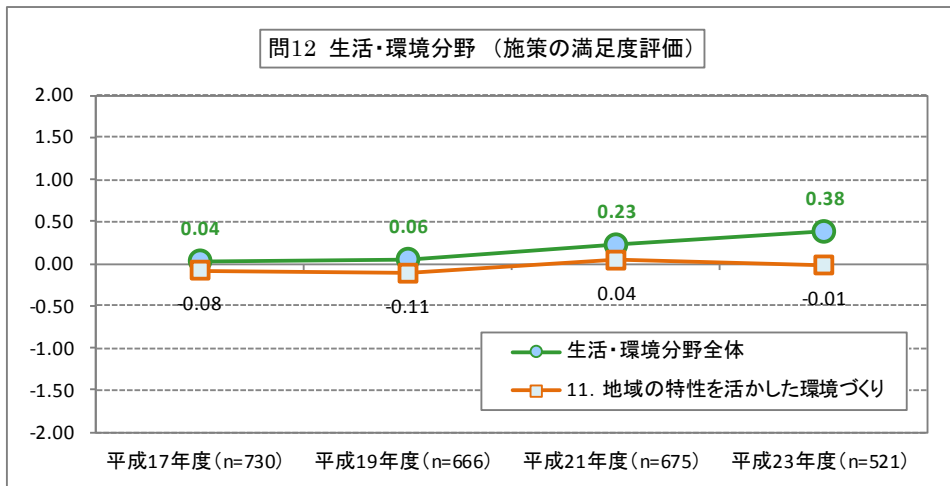
- 「11. 地域の特性を活かした環境づくり」
- 「13. 環境（住みやすい環境）の整備」
- 「16. 利用しやすい交通手段の充実」

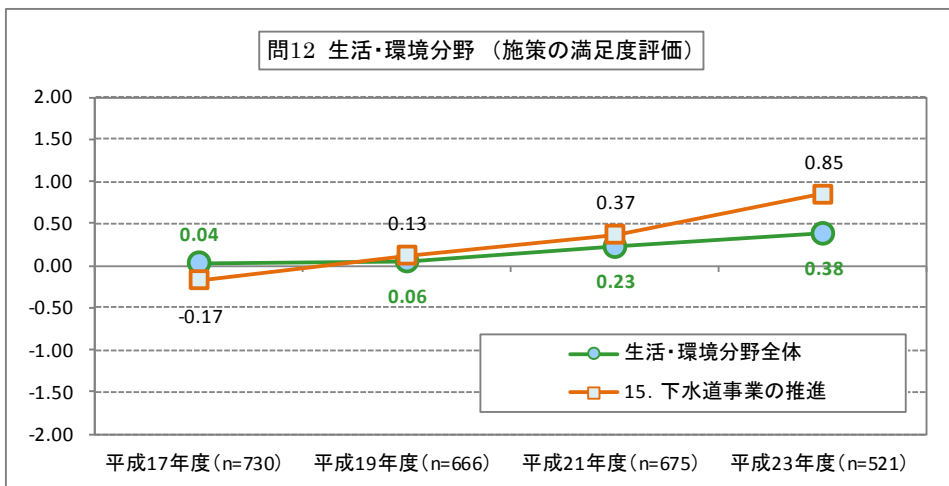
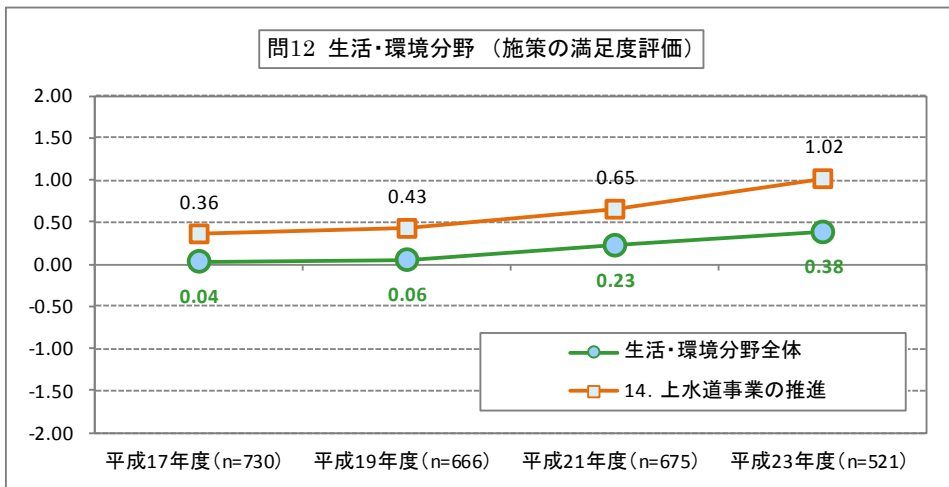
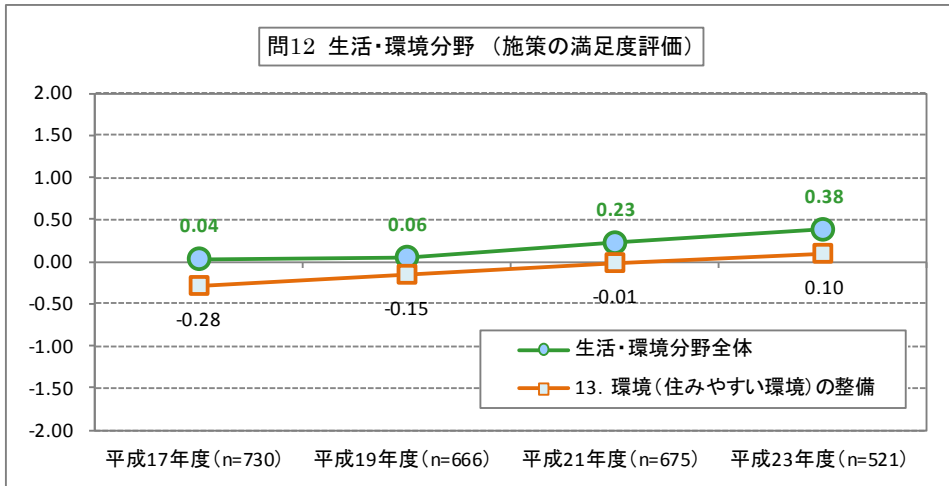
の3施策となっています。

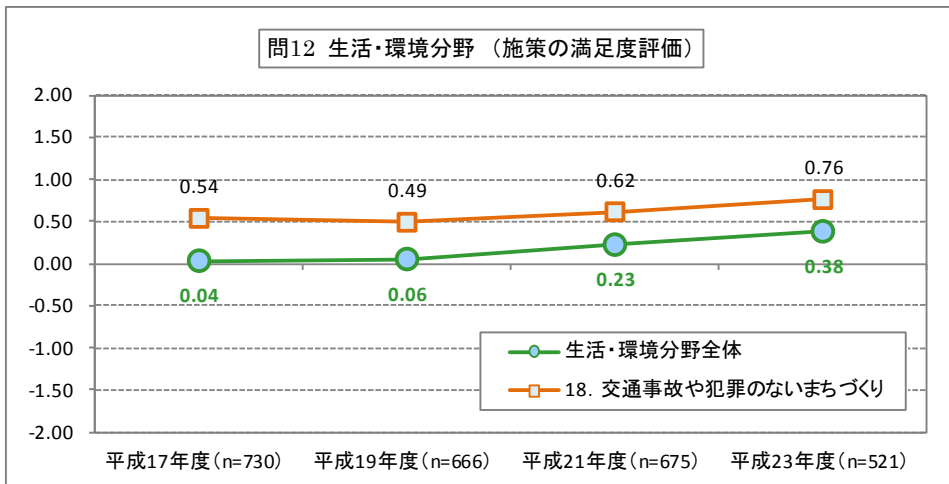
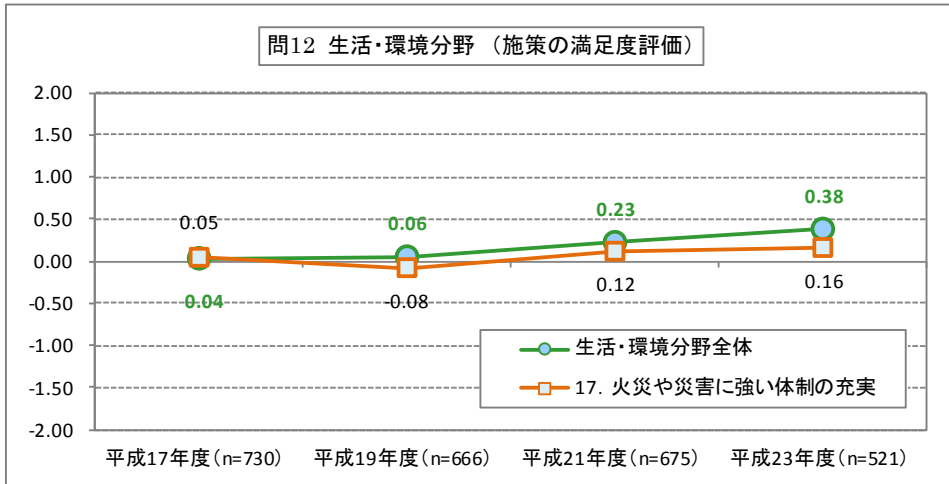
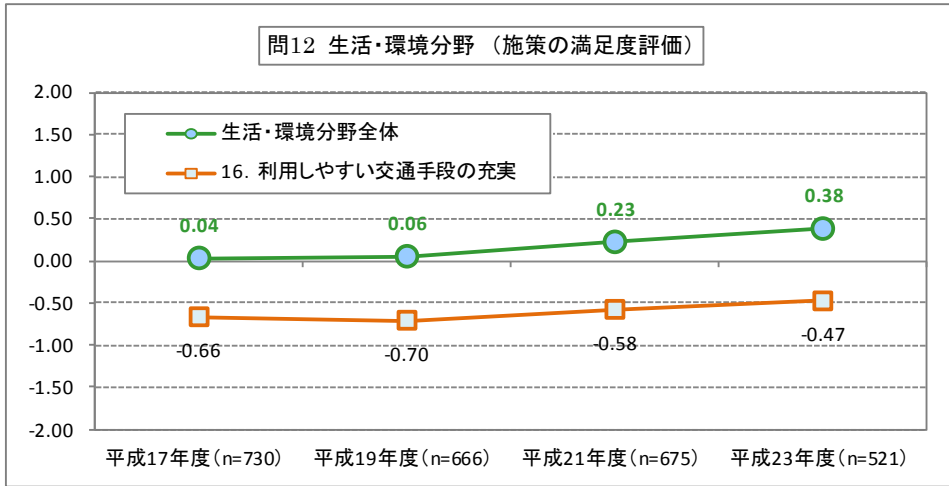
なお、生活・環境分野の加重平均値との比較で、調査実施毎に評価が高くなっている施策は、

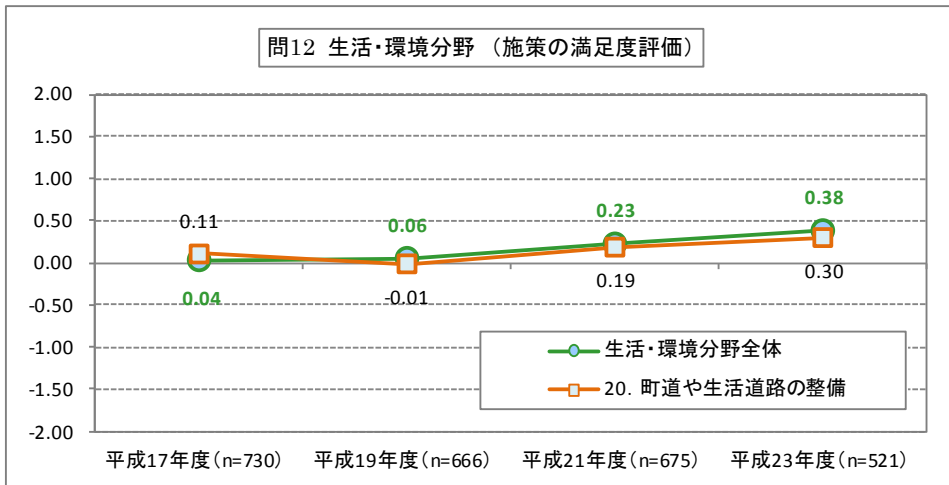
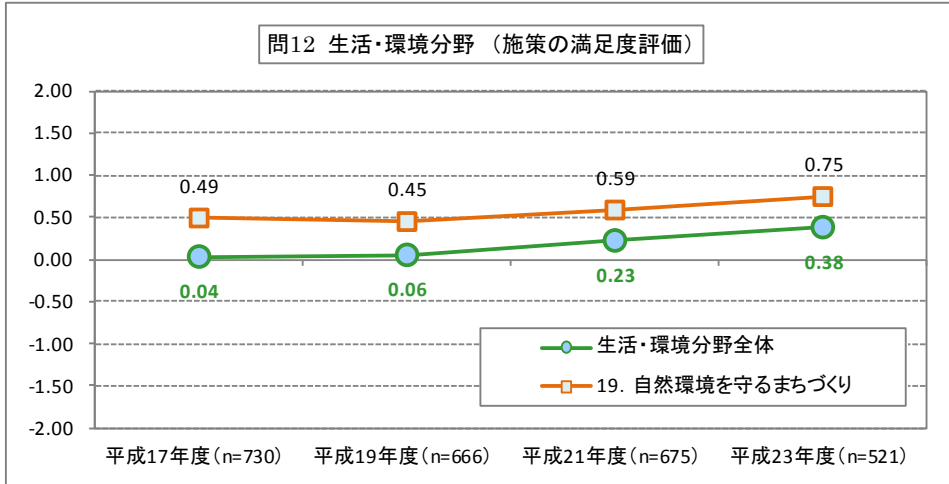
- 「15. 下水道事業の推進」

となっています。





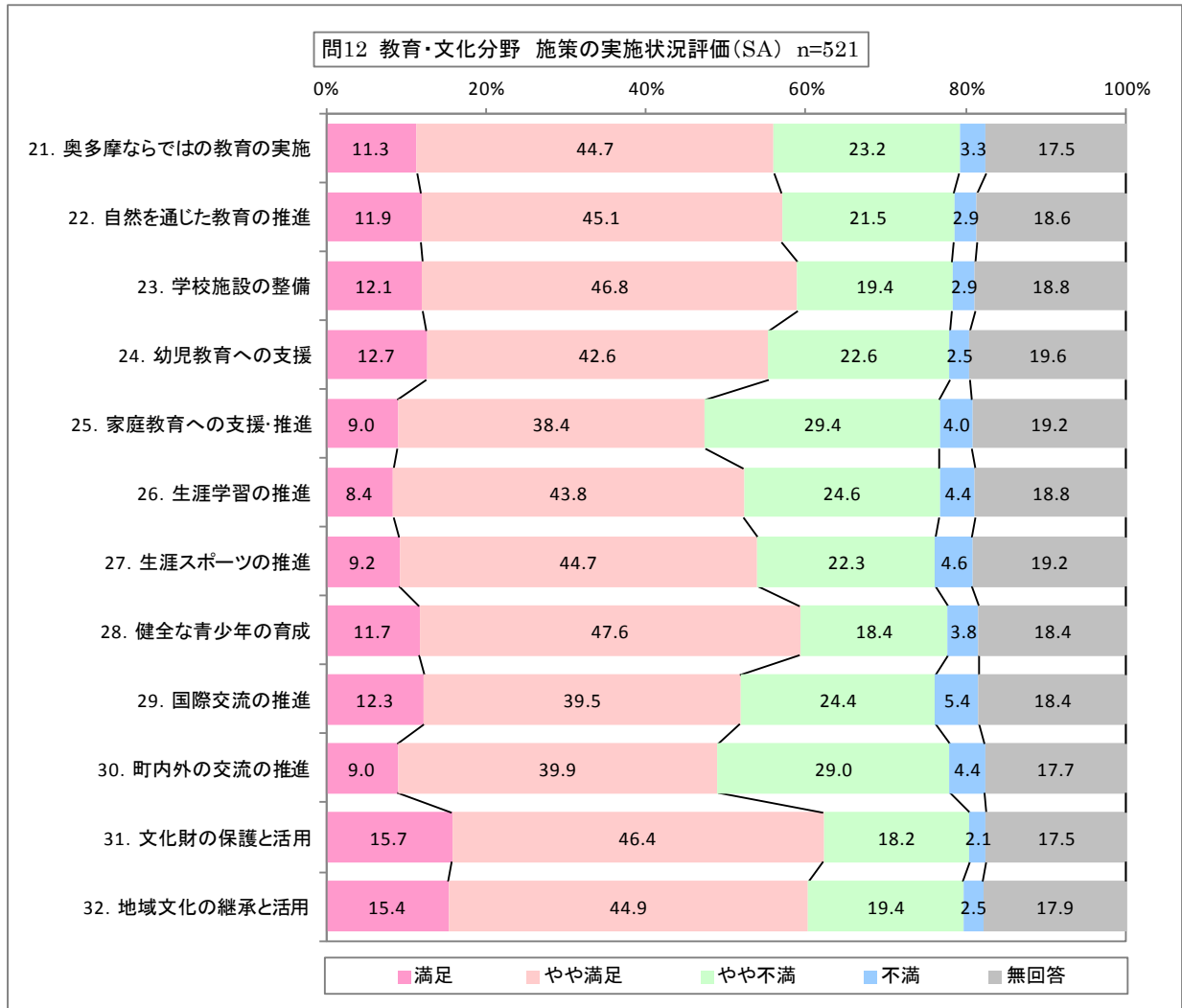




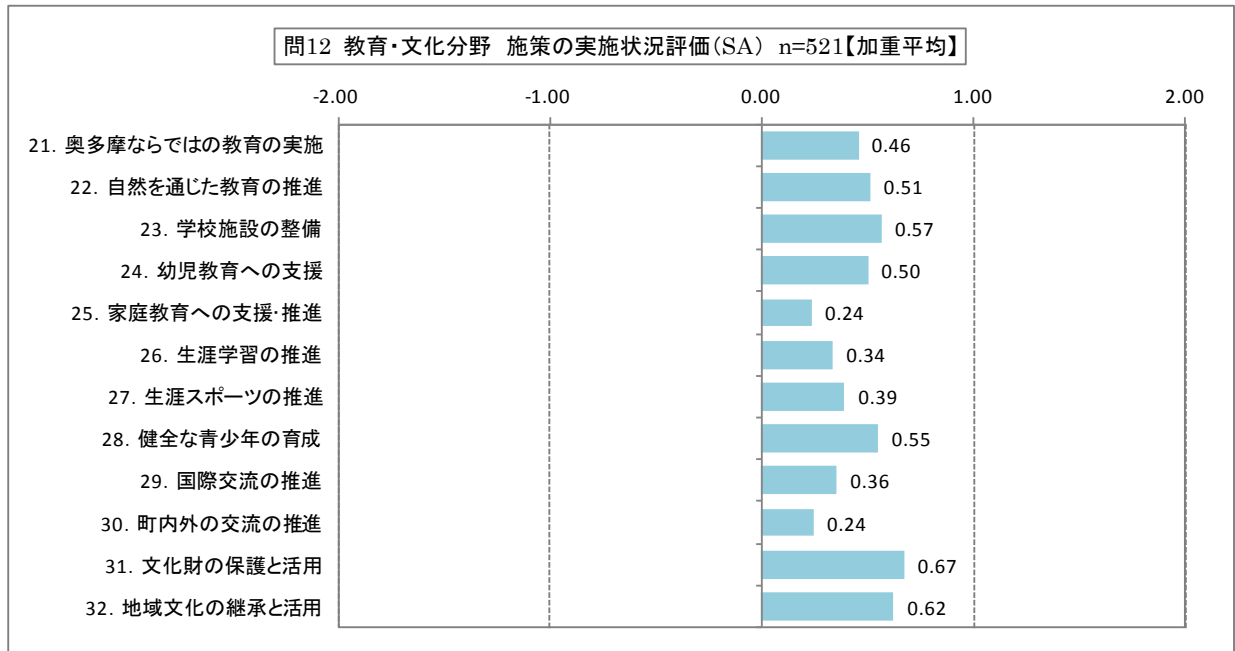
【教育・文化分野】

教育・文化分野の施策の実施状況の評価は、各施策ともに満足度が高い結果となっていますが、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「23. 学校施設の整備」、「28. 健全な青少年の育成」、「31. 文化財の保護と活用」及び「32. 地域文化の継承と活用」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「25. 家庭教育への支援・推進」、「29. 国際交流の推進」及び「30. 町内外の交流の推進」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.51）のグラフですが、「25. 家庭教育への支援・推進」及び「30. 町内外の交流の推進」は評価が比較的拮抗していることがうかがえます。



〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

教育・文化分野の各施策の満足度を、過去4回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、教育・文化分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

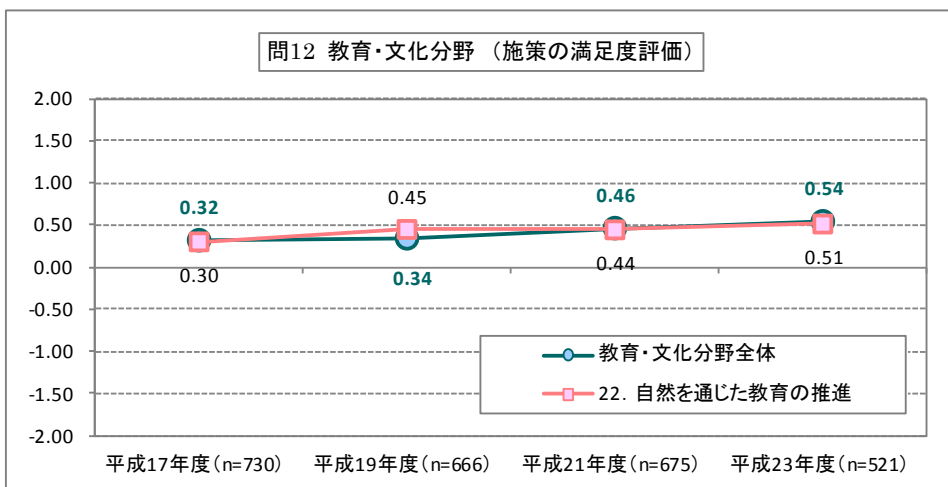
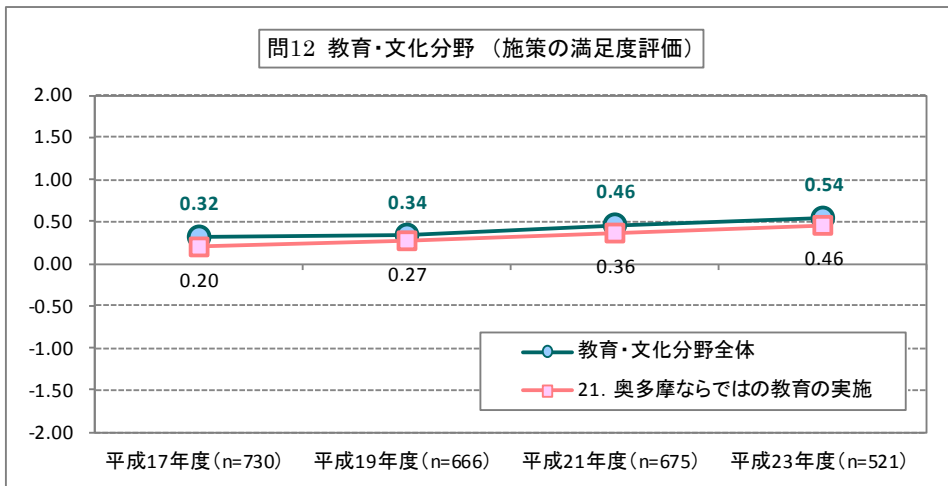
過去4回の調査で、教育・文化分野全体の加重平均値を上回っている施策は、

- 「23. 学校施設の整備」
- 「31. 文化財の保護と活用」
- 「32. 地域文化の継承と活用」

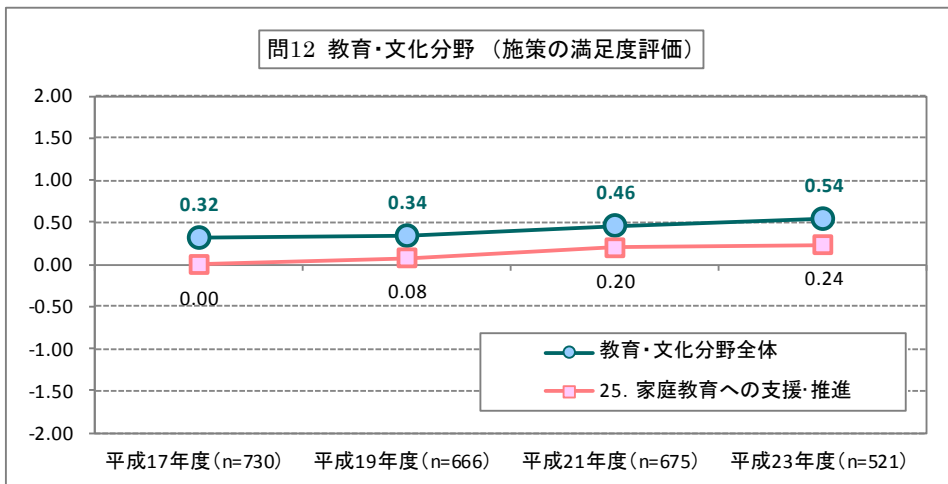
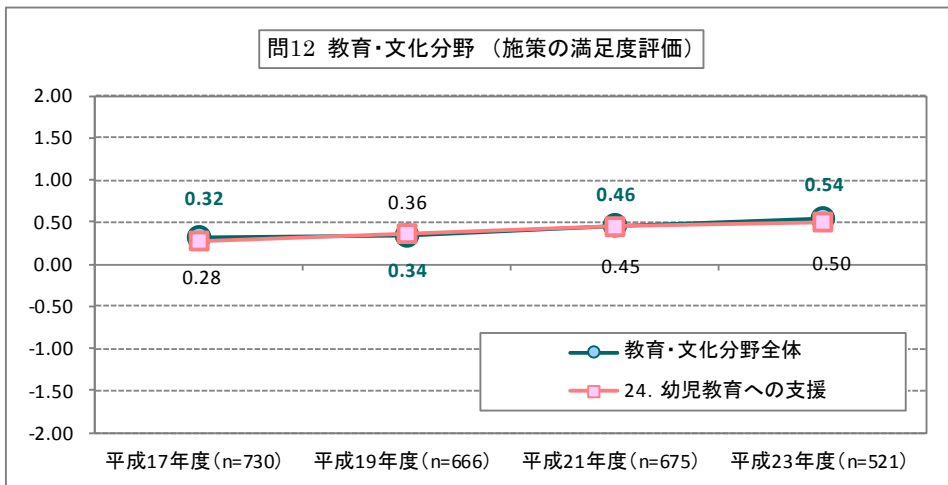
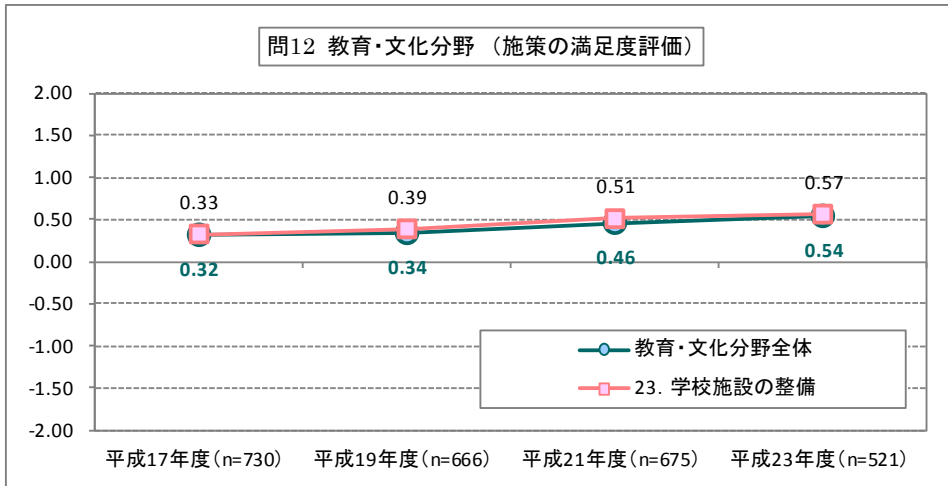
の3施策であり、逆に下回っている施策は、

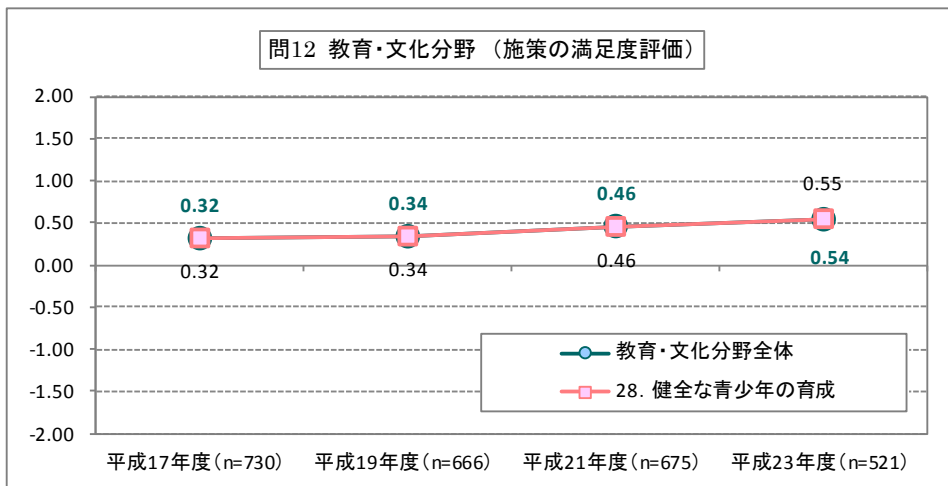
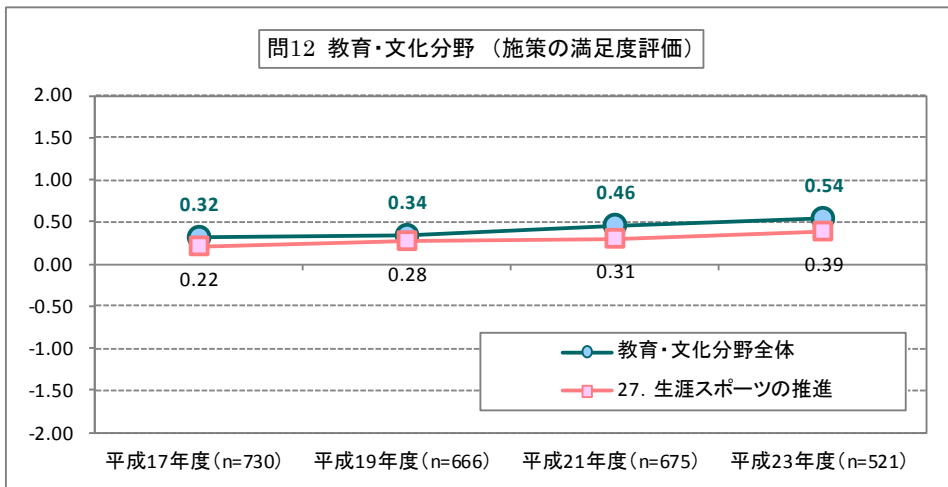
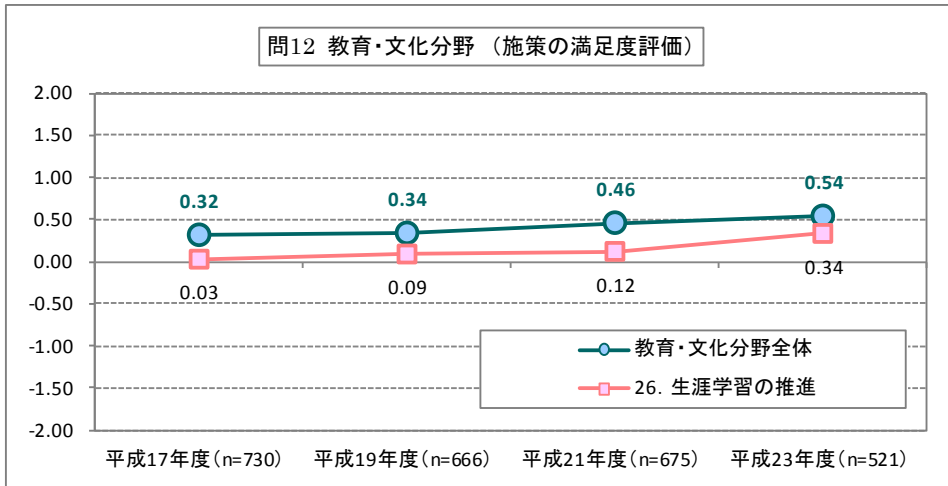
- 「21. 奥多摩ならではの教育の実施」
- 「25. 家庭教育への支援・推進」
- 「26. 生涯学習の推進」
- 「27. 生涯スポーツの推進」
- 「29. 国際交流の推進」
- 「30. 町内外の交流の推進」

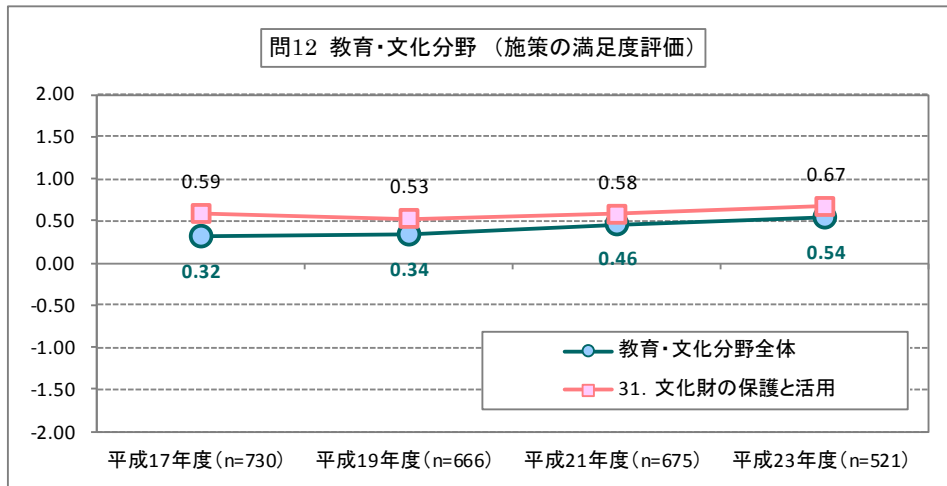
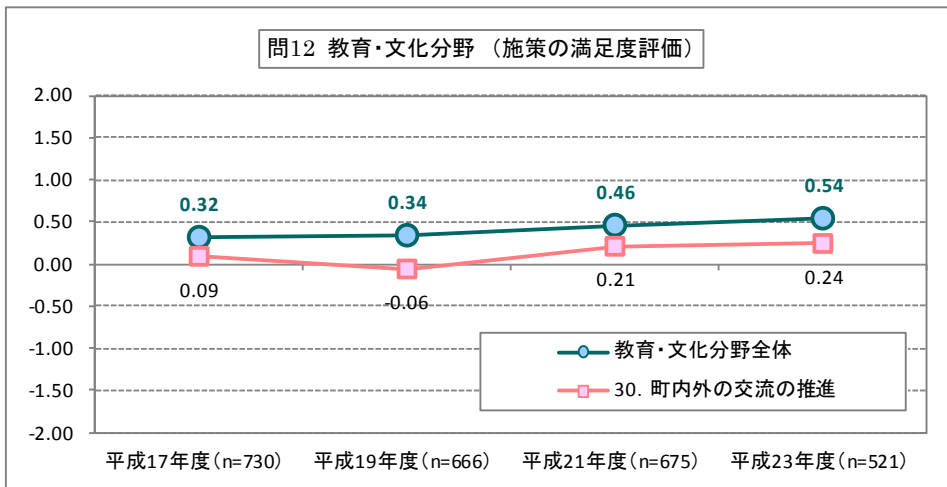
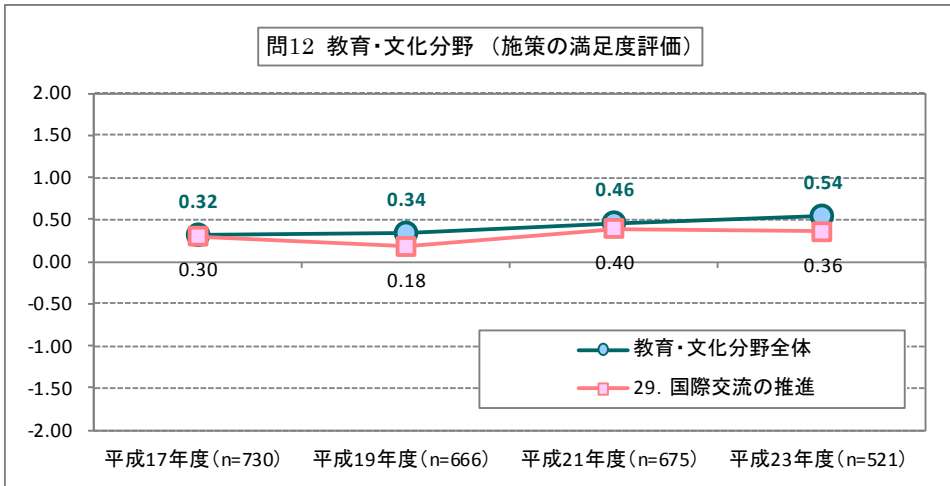
の6施策となっています。

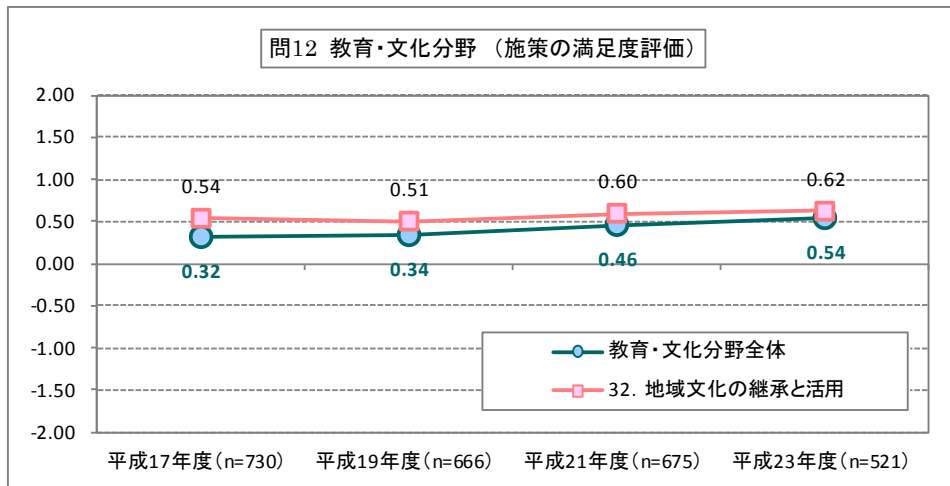








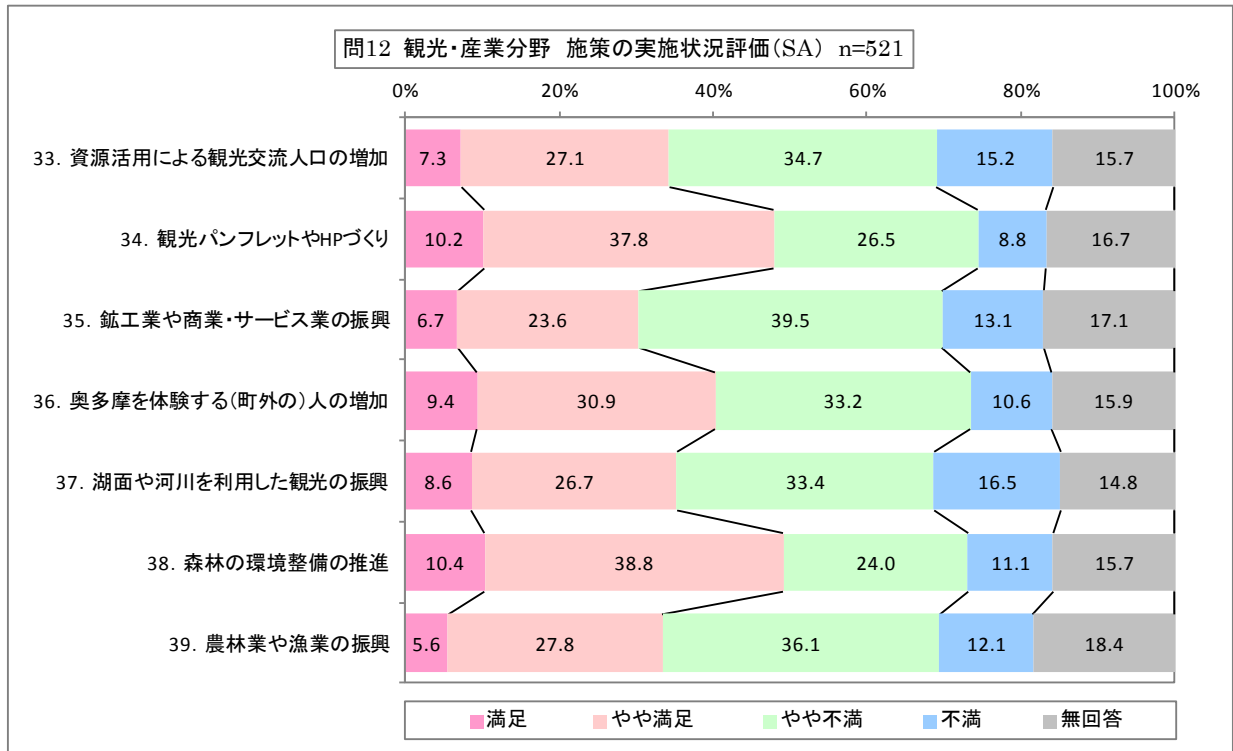




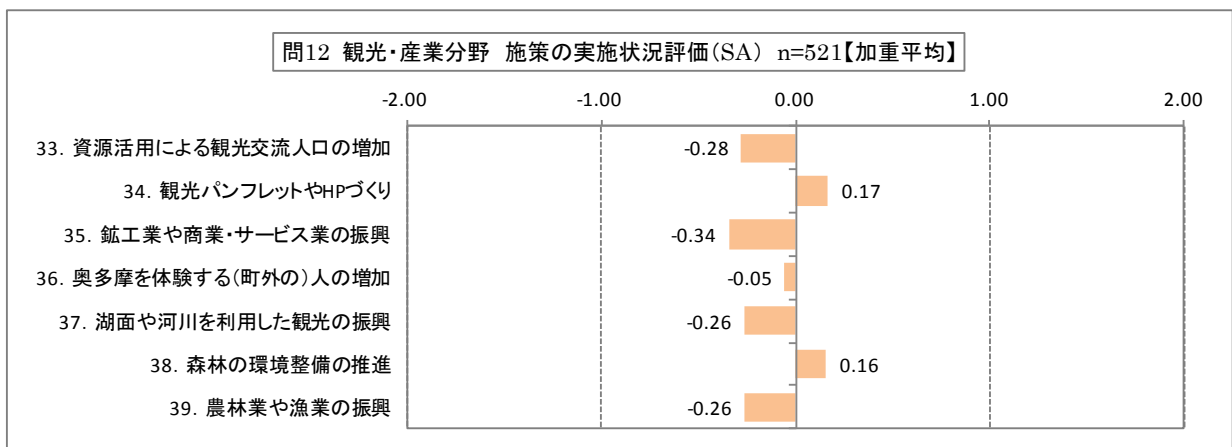
【観光・産業分野】

観光・産業分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「34. 観光パンフレットやHPづくり」及び「38. 森林の環境整備の推進」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「33. 資源活用による観光交流人口の増加」、「35. 鉱工業や商業・サービス業の振興」、「37. 湖面や河川を利用した観光の振興」及び「39. 農林業や漁業の振興」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



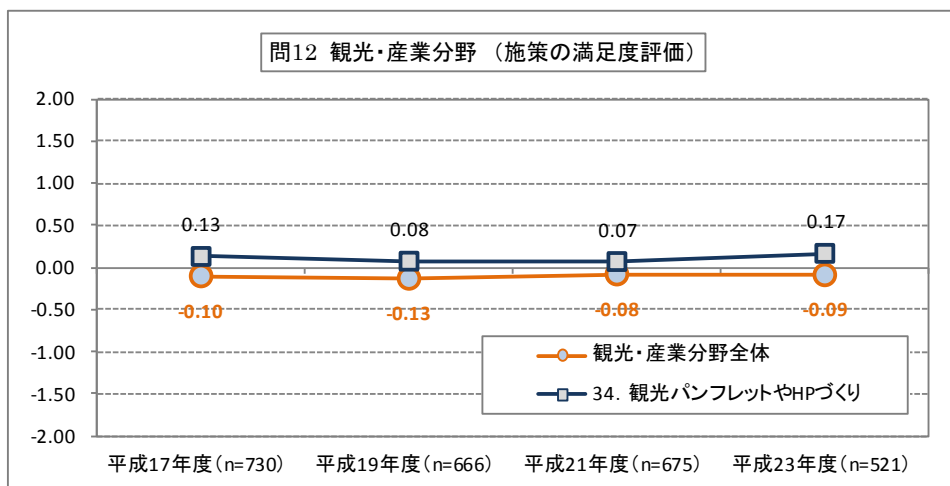
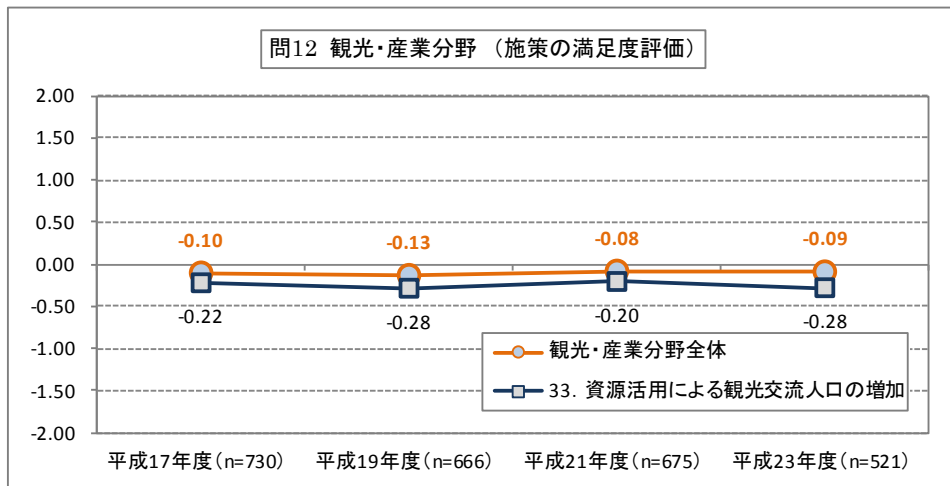
「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁 (p.58) のグラフですが、「36. 奥多摩を体験する(町外の)人の増加」は評価が拮抗していることがうかがえます。

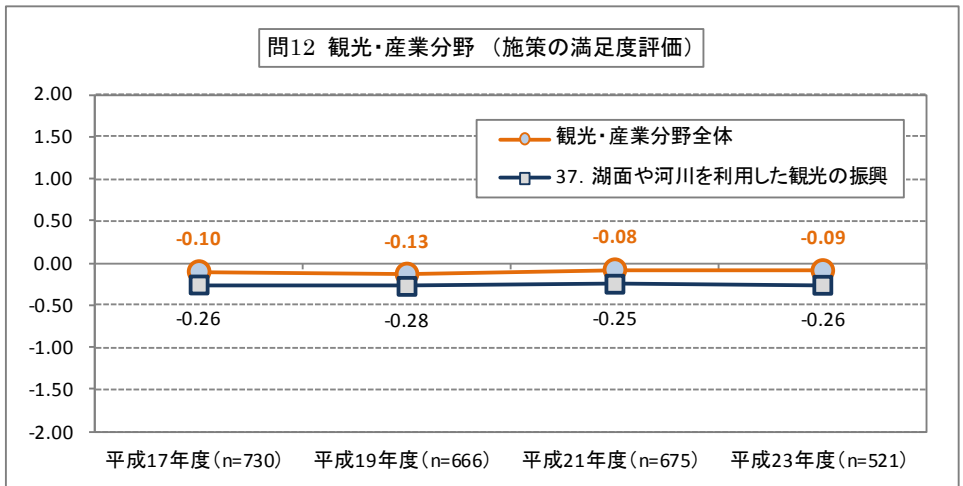
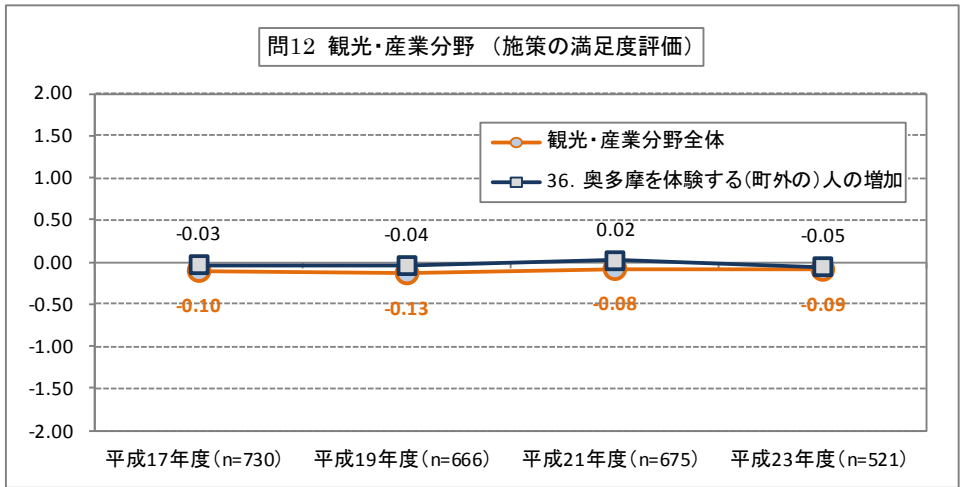
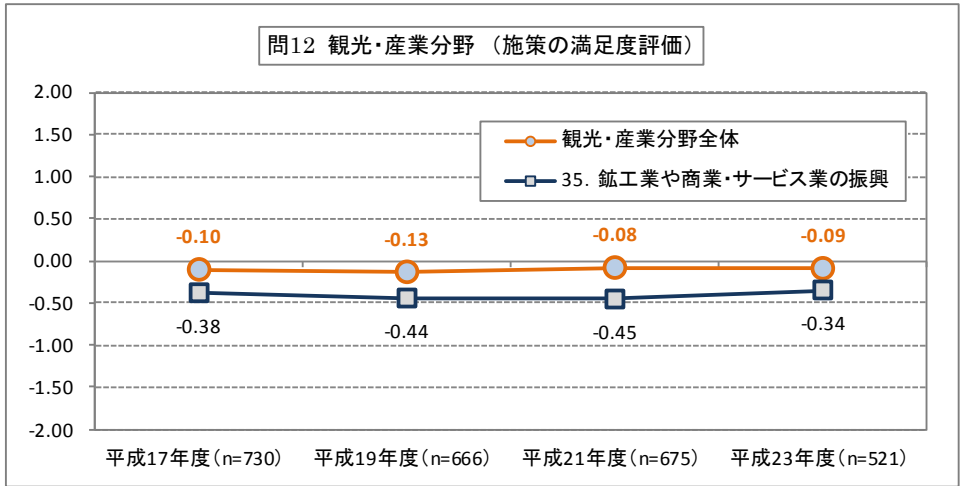


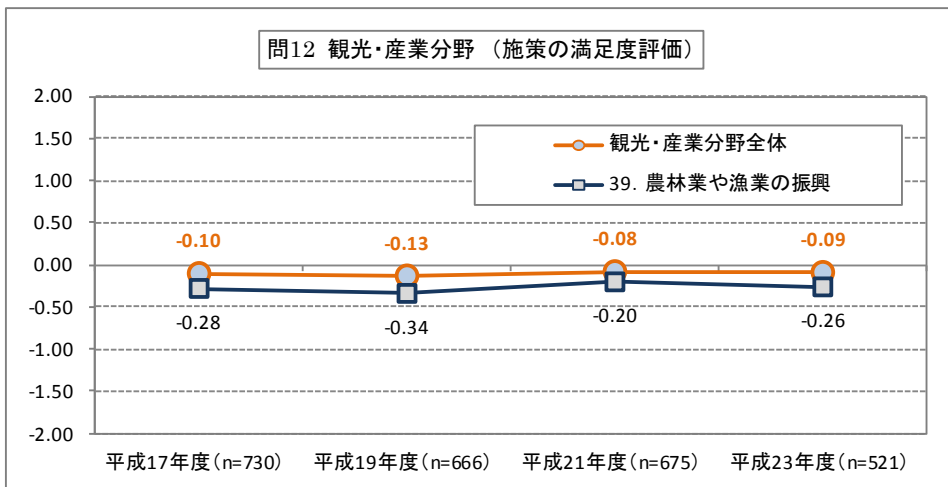
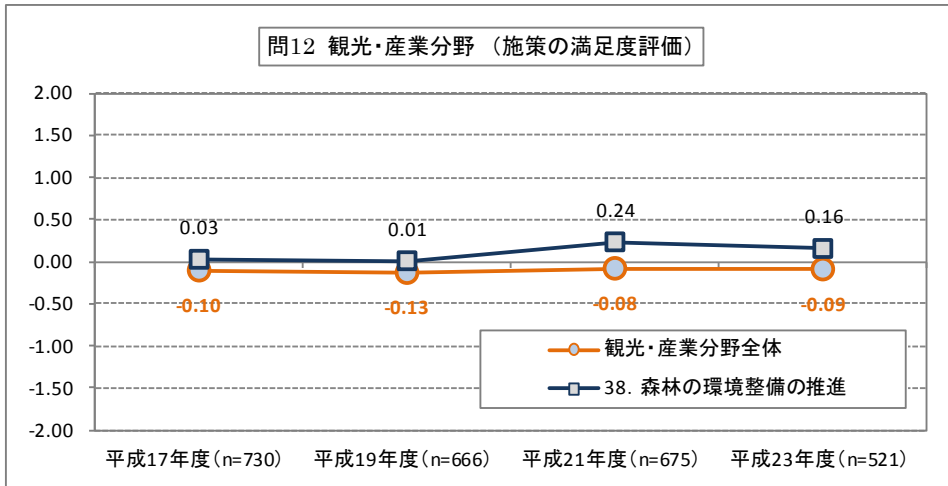
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

観光・産業分野の各施策の満足度を、過去4回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、観光・産業分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

過去4回の調査で、観光・産業分野全体の加重平均値を上回っている施策は、  
 「34. 観光パンフレットやHPづくり」  
 「38. 森林の環境整備の推進」  
 の2施策であり、逆に下回っている施策は、  
 「33. 資源活用による観光交流人口の増加」  
 「35. 鉱工業や商業・サービス業の振興」  
 「37. 湖面や河川を利用した観光の振興」  
 「39. 農林業や漁業の振興」  
 の4施策となっています。





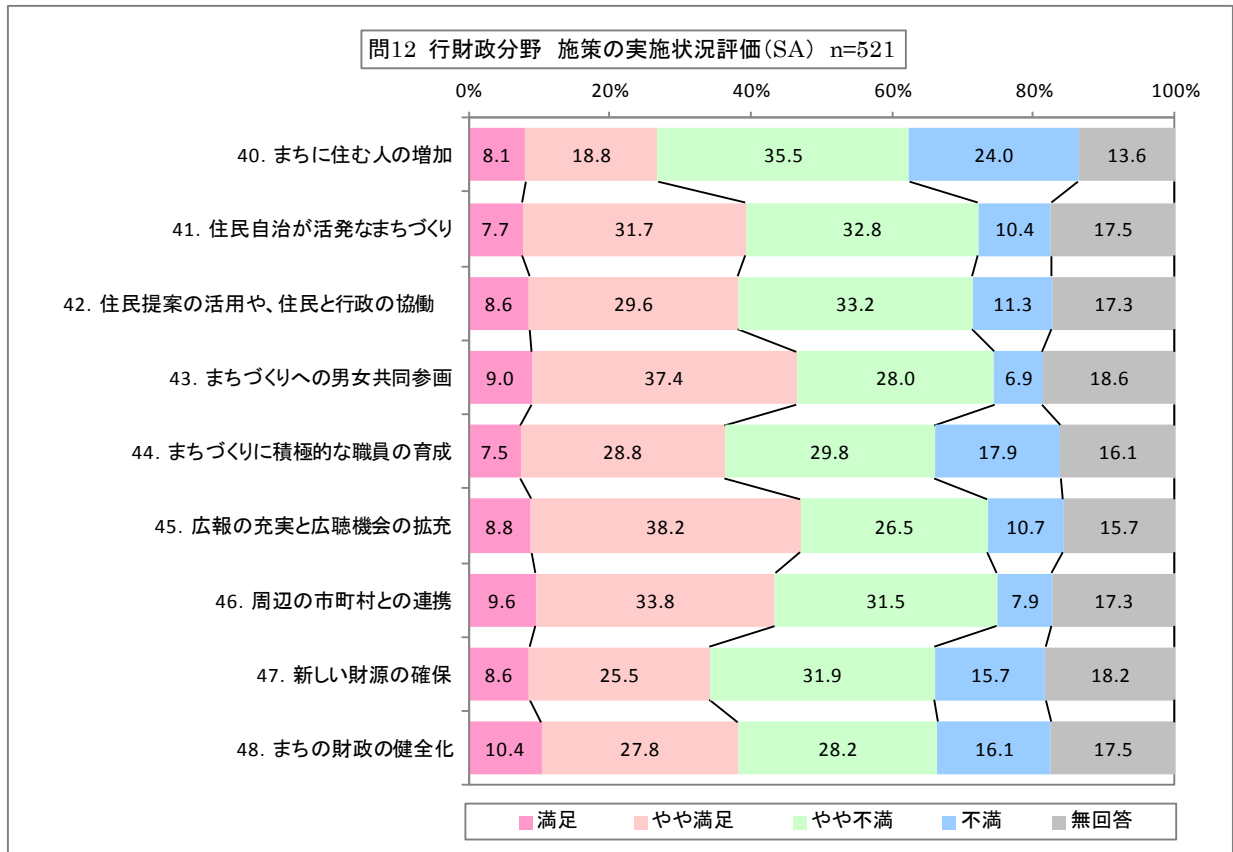




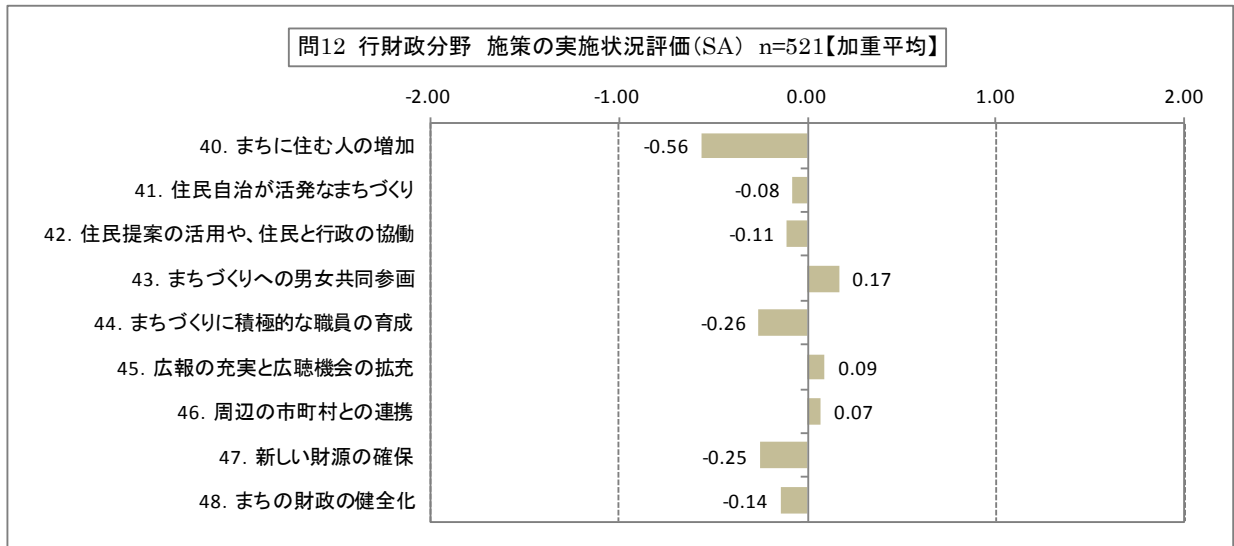
【行財政分野】

行財政分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「43. まちづくりへの男女共同参画」、「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」及び「46. 周辺の市町村との連携」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「40. まちに住む人の増加」及び「47. 新しい財源の確保」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁 (p.63) のグラフですが、「41. 住民自治が活発なまちづくり」、「42. 住民提案の活用や、住民と行政の協働」、「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」及び「46. 周辺の市町村との連携」は評価が比較的拮抗していることがうかがえます。



〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

行財政分野の各施策の満足度を、過去4回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、行財政分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

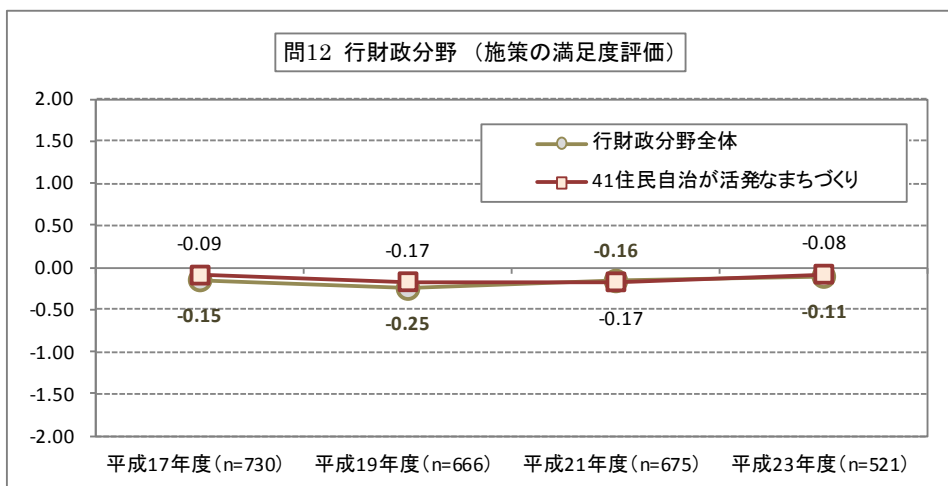
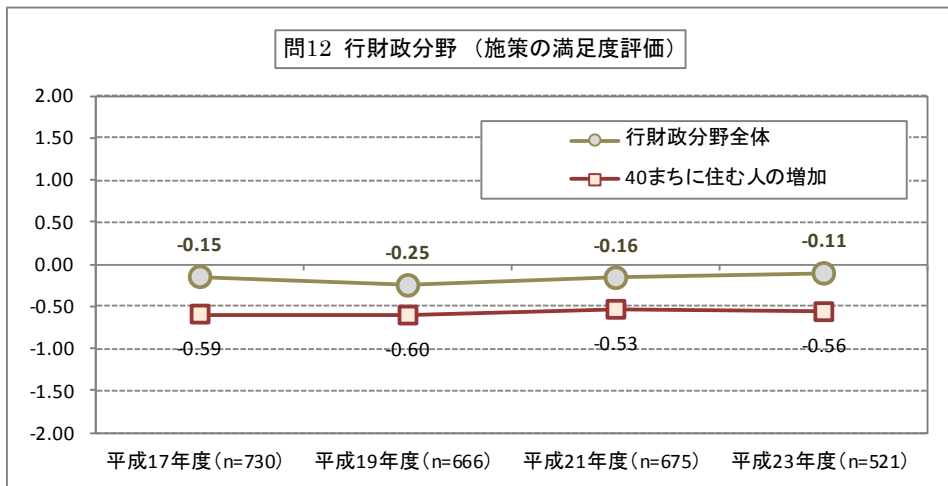
過去4回の調査で、行財政分野全体の加重平均値を上回っている施策は、

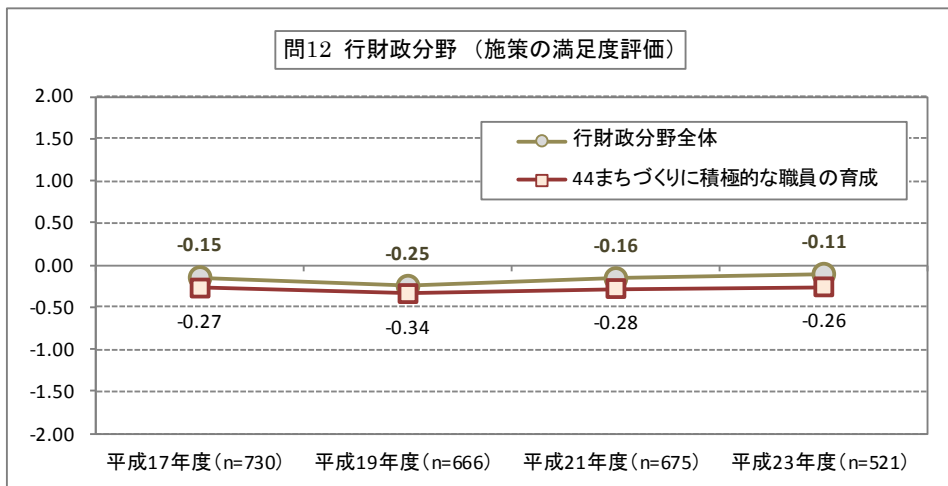
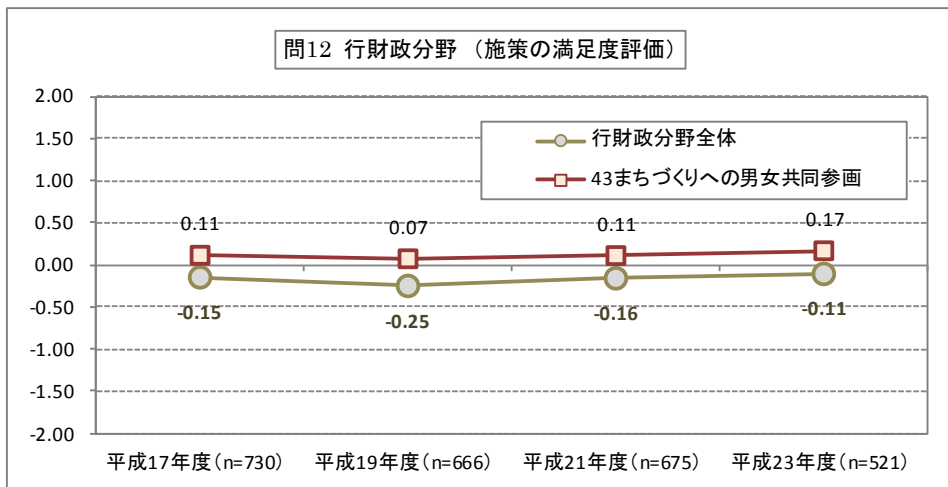
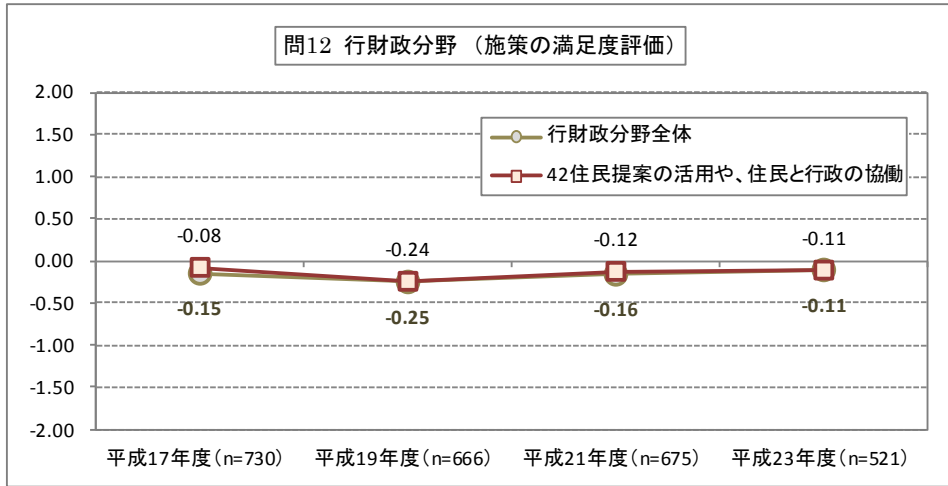
- 「43. まちづくりへの男女共同参画」
- 「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」
- 「46. 周辺の市町村との連携」

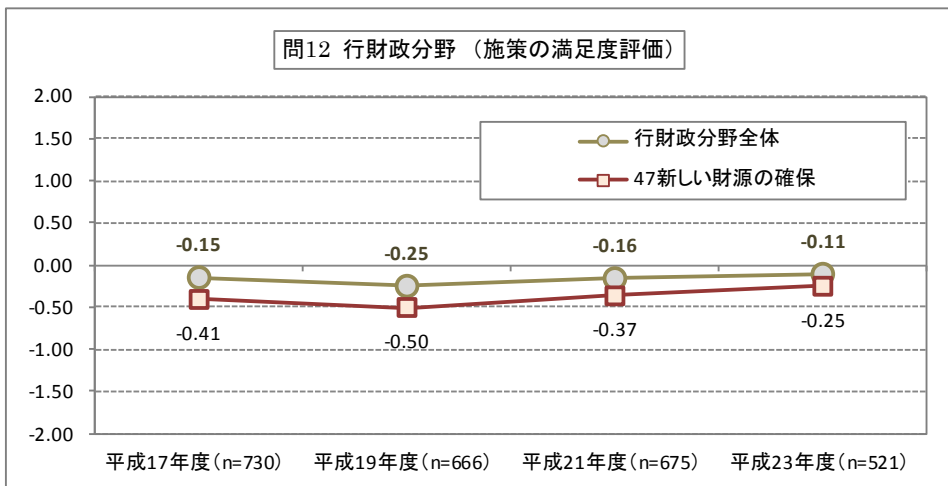
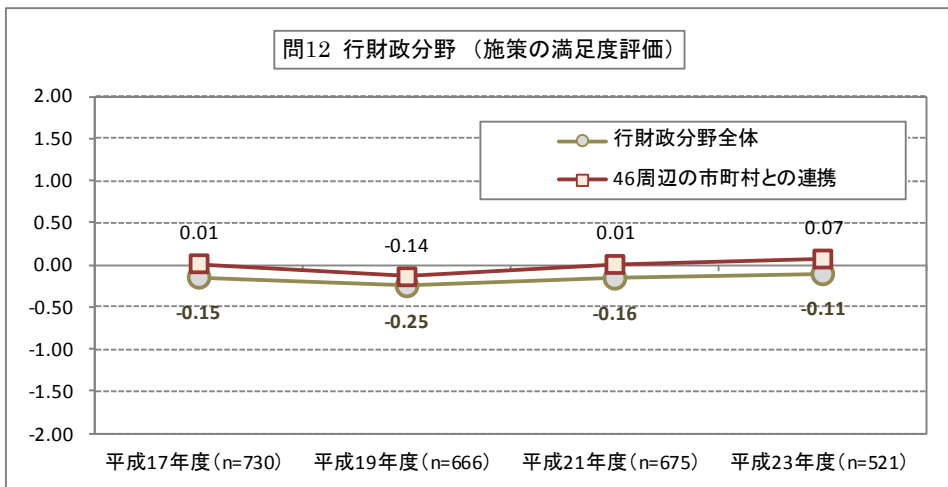
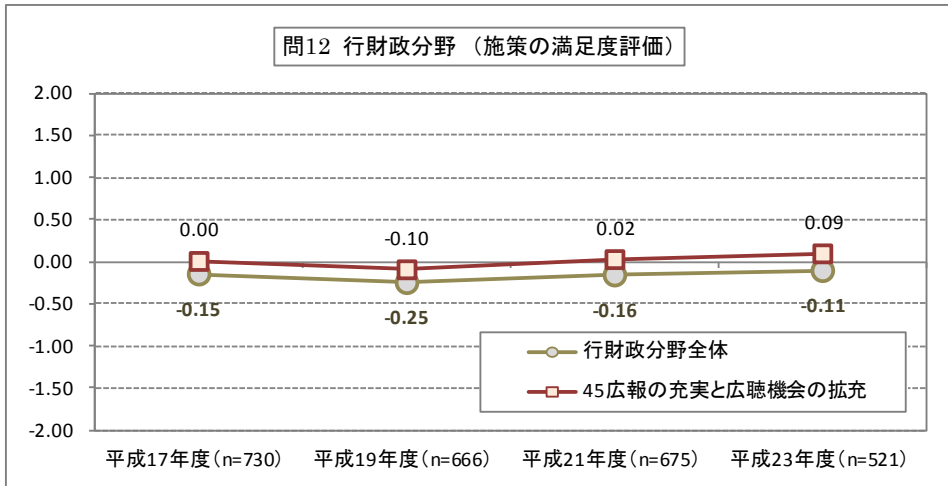
の3施策であり、逆に下回っている施策は、

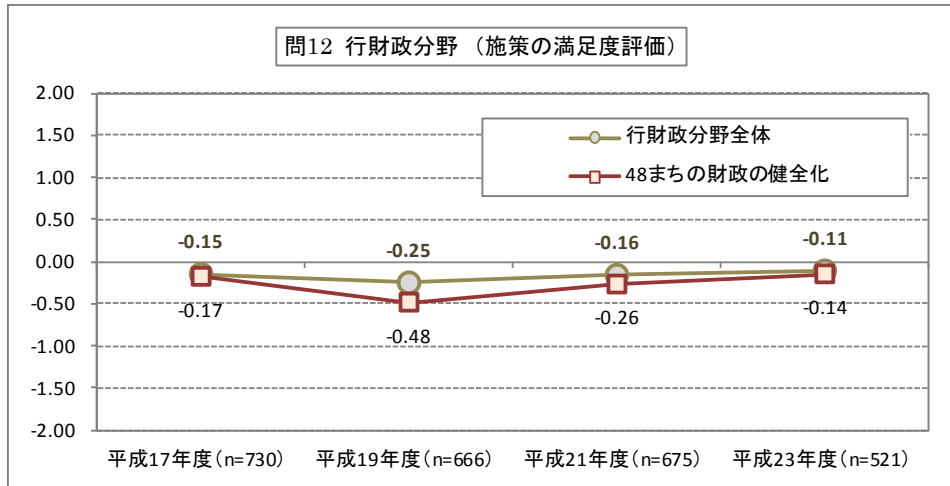
- 「40. まちに住む人の増加」
- 「44. まちづくりに積極的な職員の育成」
- 「45. 新しい財源の確保」

の3施策となっています。









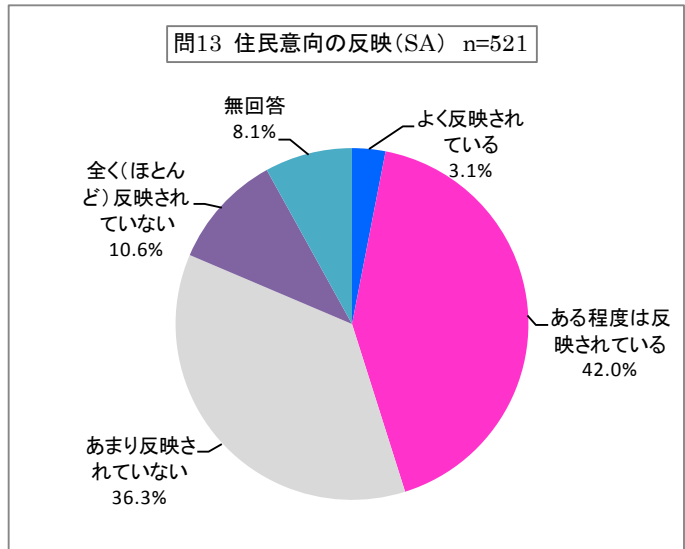
問 13 住民意向のまちづくりへの反映

町民の意向の町政への反映については、「よく反映されている」が 3.1%、「ある程度は反映されている」が 42.0%であり、「反映されている」と感じている割合は 45.1%となっています。

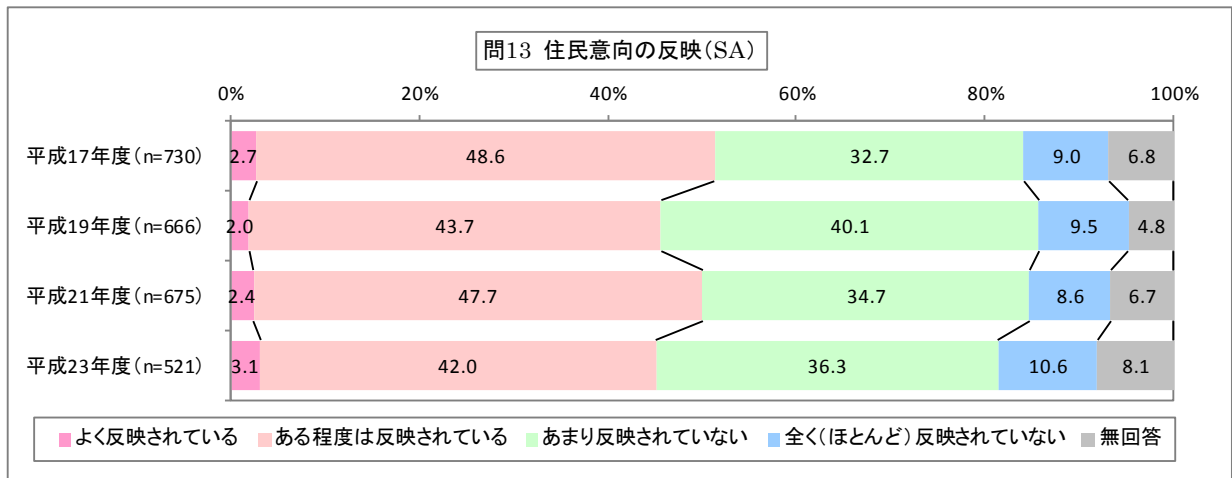
一方、「あまり反映されていない」が 36.3%、「全く（ほとんど）反映されていない」が 10.6%であり、「反映されていない」と感じている割合は 46.9%となっており、「反映されている」がやや上回っています。

なお、年齢別には、16 歳～49 歳までの各世代で「反映されていない」が上回り、60 歳以上の世代で「反映されている」が上回っています。

また、居住地区別では「氷川」地区では、「反映されていない」が「反映されている」を上回り、「古里」地区では「反映されていない」と「反映されている」がほぼ同じ割合、「小河内」地区では「反映されている」が「反映されていない」を上回っています。

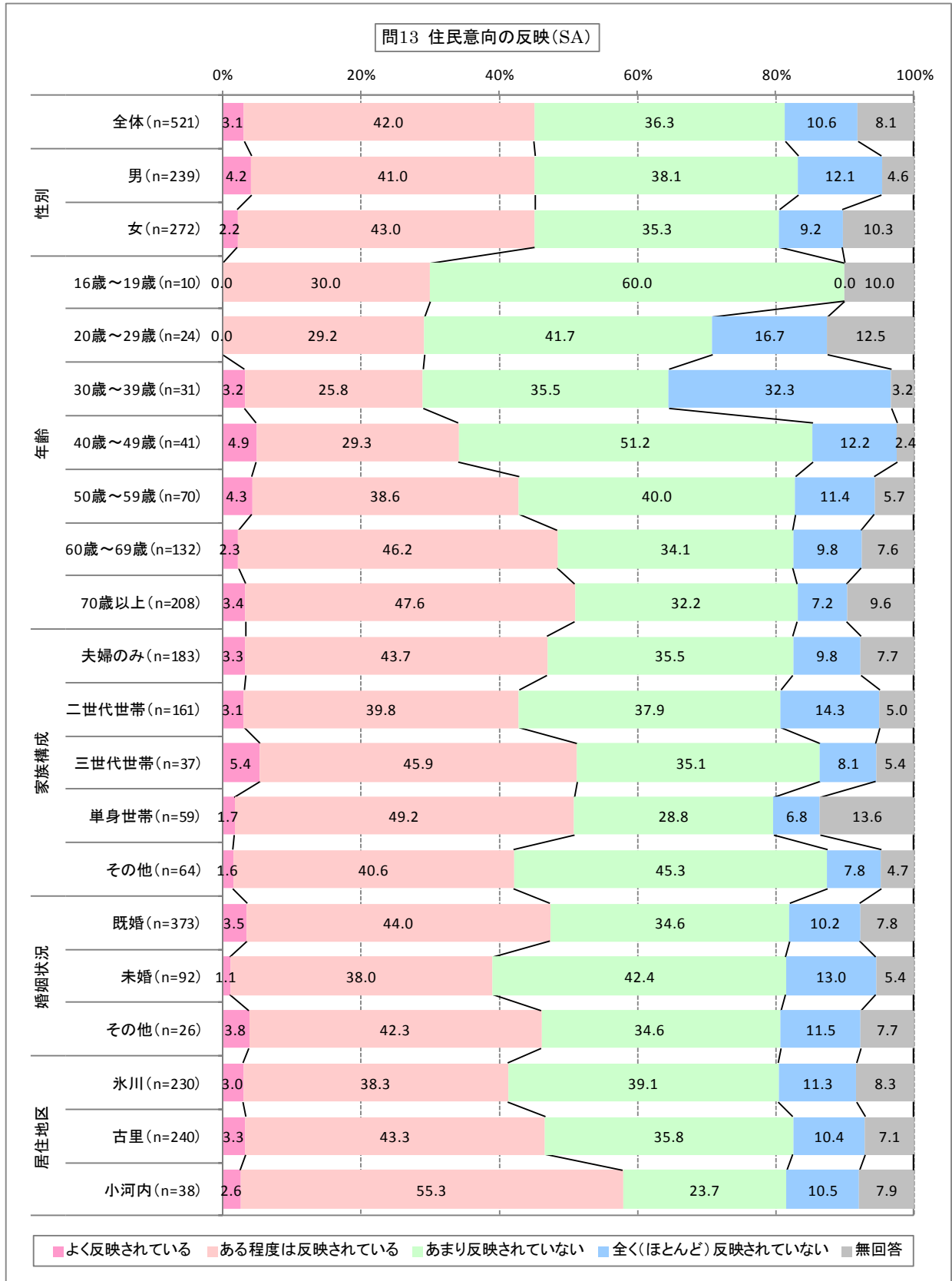


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 4 回実施した調査結果を比較すると、平成 17 年度と平成 21 年度では「反映されている」が「反映されていない」を上回っていますが、平成 19 年度と平成 23 年度では「反映されていない」が「反映されている」を上回っています。

〔属性別 結果一覧〕





問 14 まちづくりへの取組み

奥多摩町のまちづくりの取組みについての評価は、「満足できる」が 2.3%、「どちらかといえば満足できる」が 30.3%であり、「満足できる」と感じている割合は 32.6%となっています。

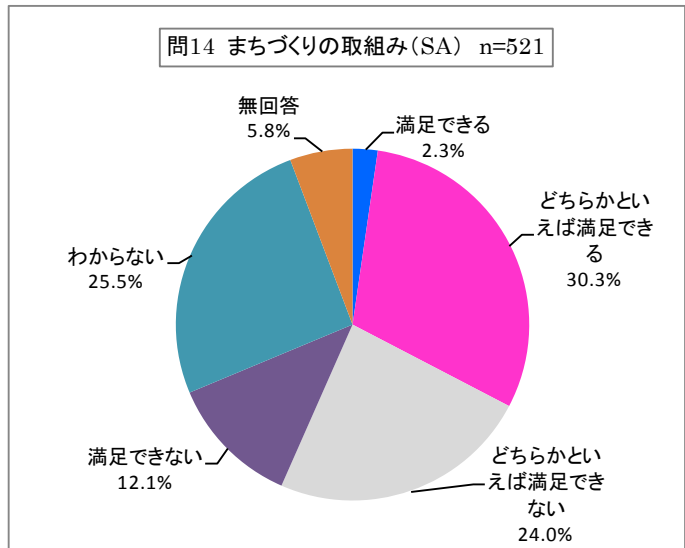
一方、「どちらかといえば満足できない」が 24.0%、「満足できない」が 12.1%であり、「満足できない」と感じている割合は 36.1%となっており、「満足できない」が上回っています。

また、回答者の四分の一（25.5%）が「わからない」と回答しています。

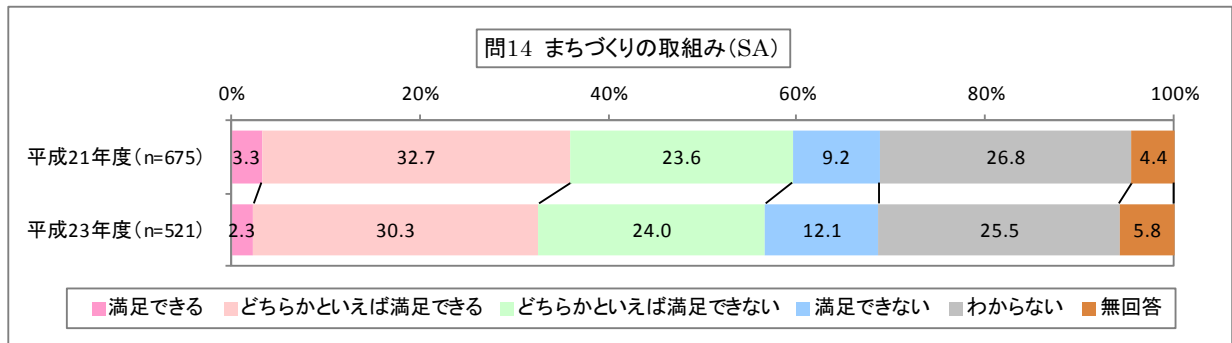
性別では、「女性」で評価の割合が拮抗しているのに対し、「男性」では「満足できる」が 33.5%、「満足できない」が 42.3%と、満足できないと回答する割合が大きくなっています。

年齢別では「16 歳～19 歳」及び「70 歳以上」で「満足できる」が上回る一方、20 歳～49 歳と 60 歳代では「満足できない」が上回っています。なお、「50 歳～59 歳」では「満足できる」と「満足できない」はほぼ同じ回答割合となっています。

居住地区別では、「小河内」地区で「満足できる」が「満足できない」を上回っていますが、「氷川」地区と「古里」地区では「満足できない」が「満足できる」を上回る結果となっています。

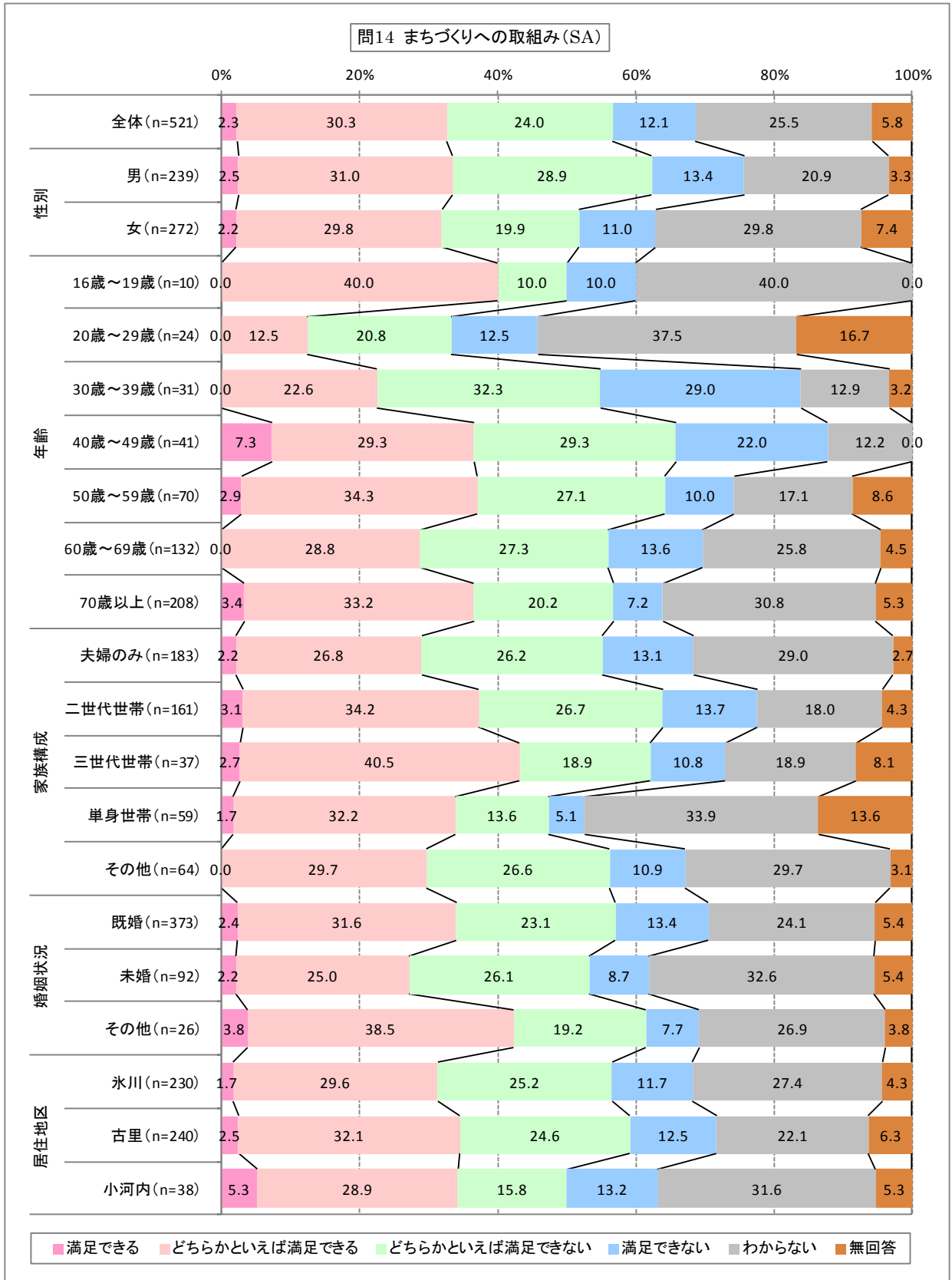


〔過去調査結果との比較〕



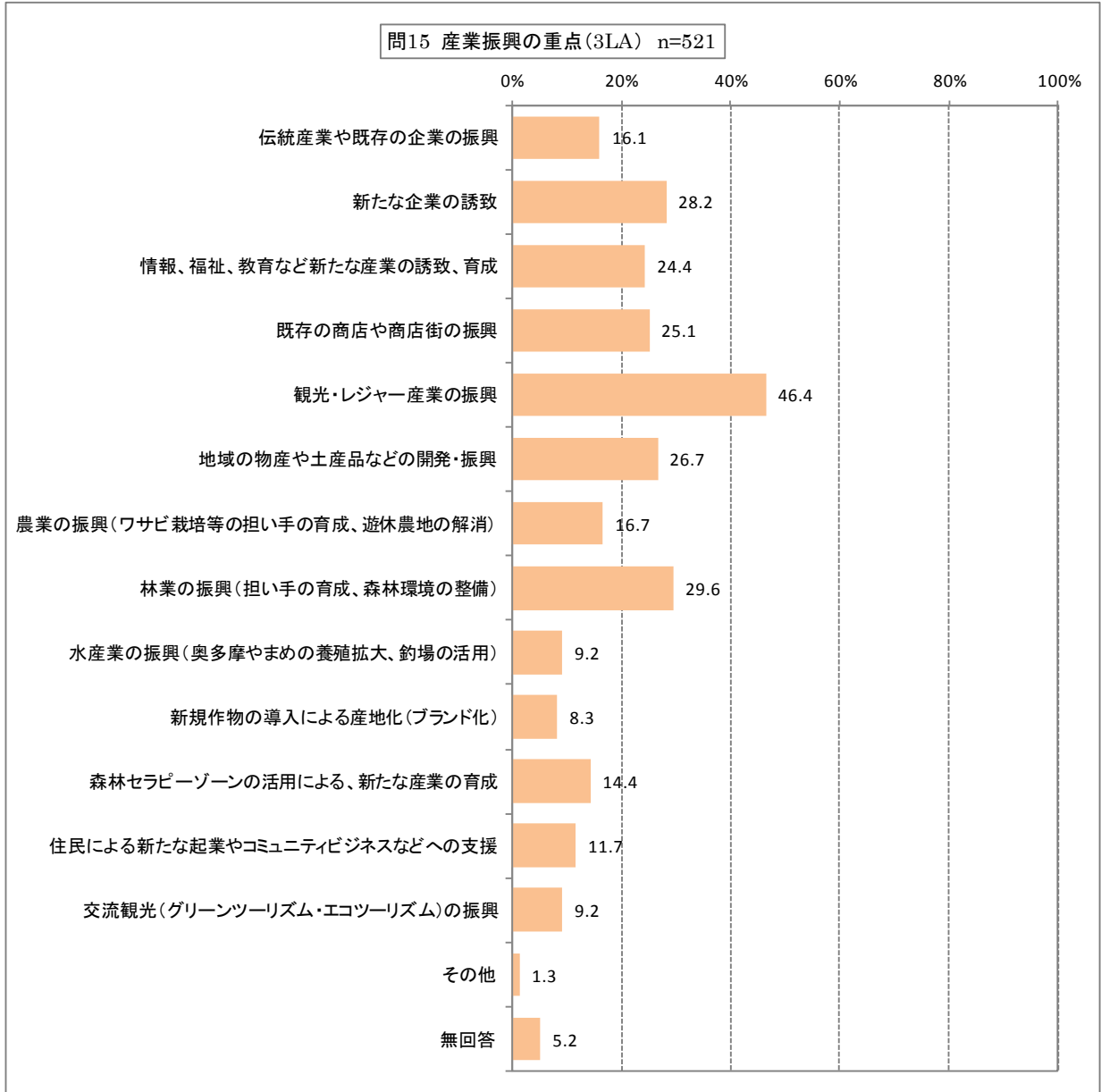
今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、平成 21 年度では「満足できる」が「満足できない」を上回っていますが、平成 23 年度では「満足できない」が「満足できる」を上回る結果となっています。

〔属性別 結果一覧〕



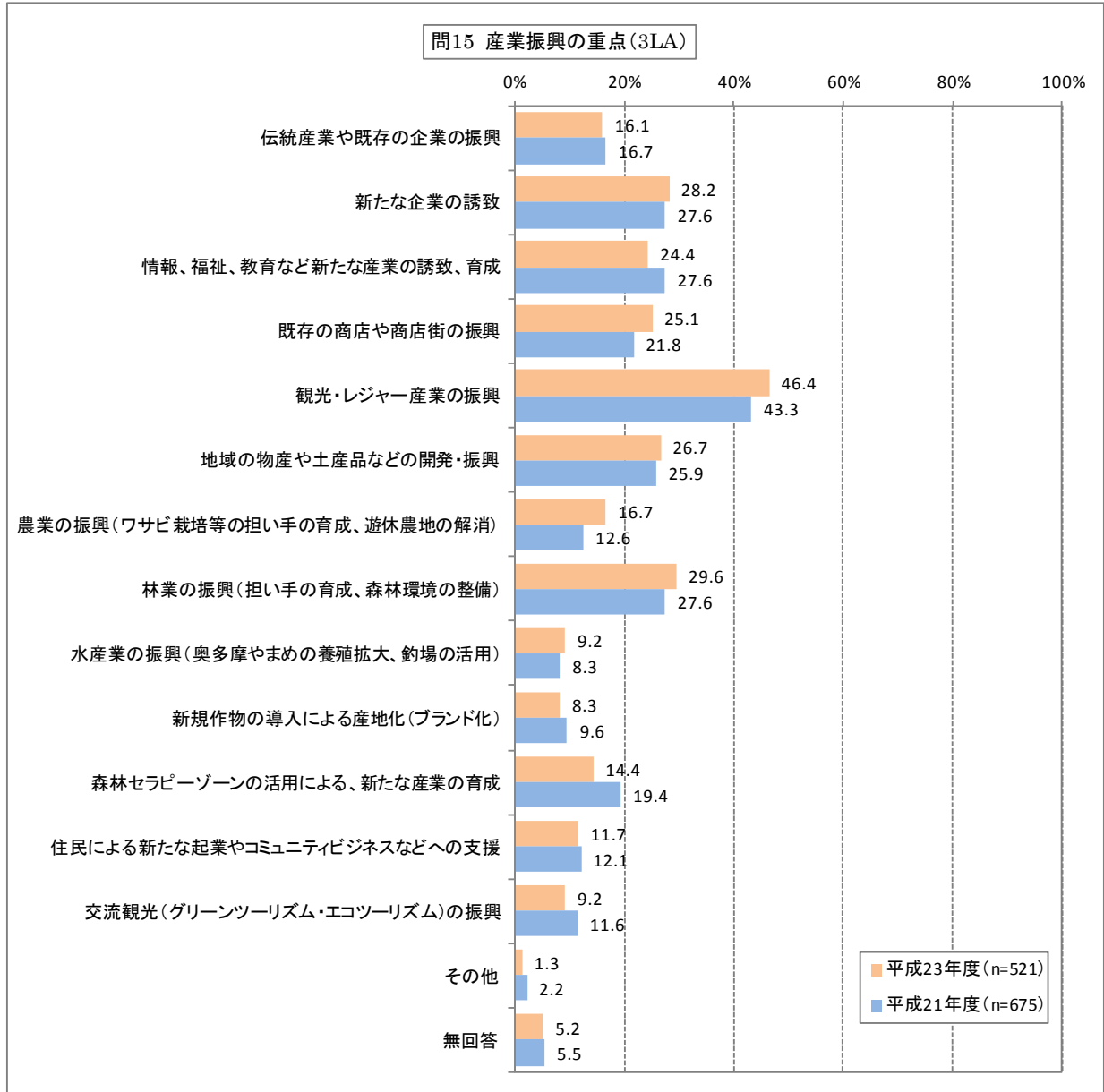
問15 産業振興の重点

奥多摩町の産業振興の重点については、「観光・レジャー産業の振興」が46.4%と最も高く、次いで「林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）」が29.6%、「新たな企業誘致」が28.2%、「地域の物産や土産品などの開発・振興」が26.7%、「既存の商店や商店街の振興」が25.1%、「情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成」が24.4%と続いています。



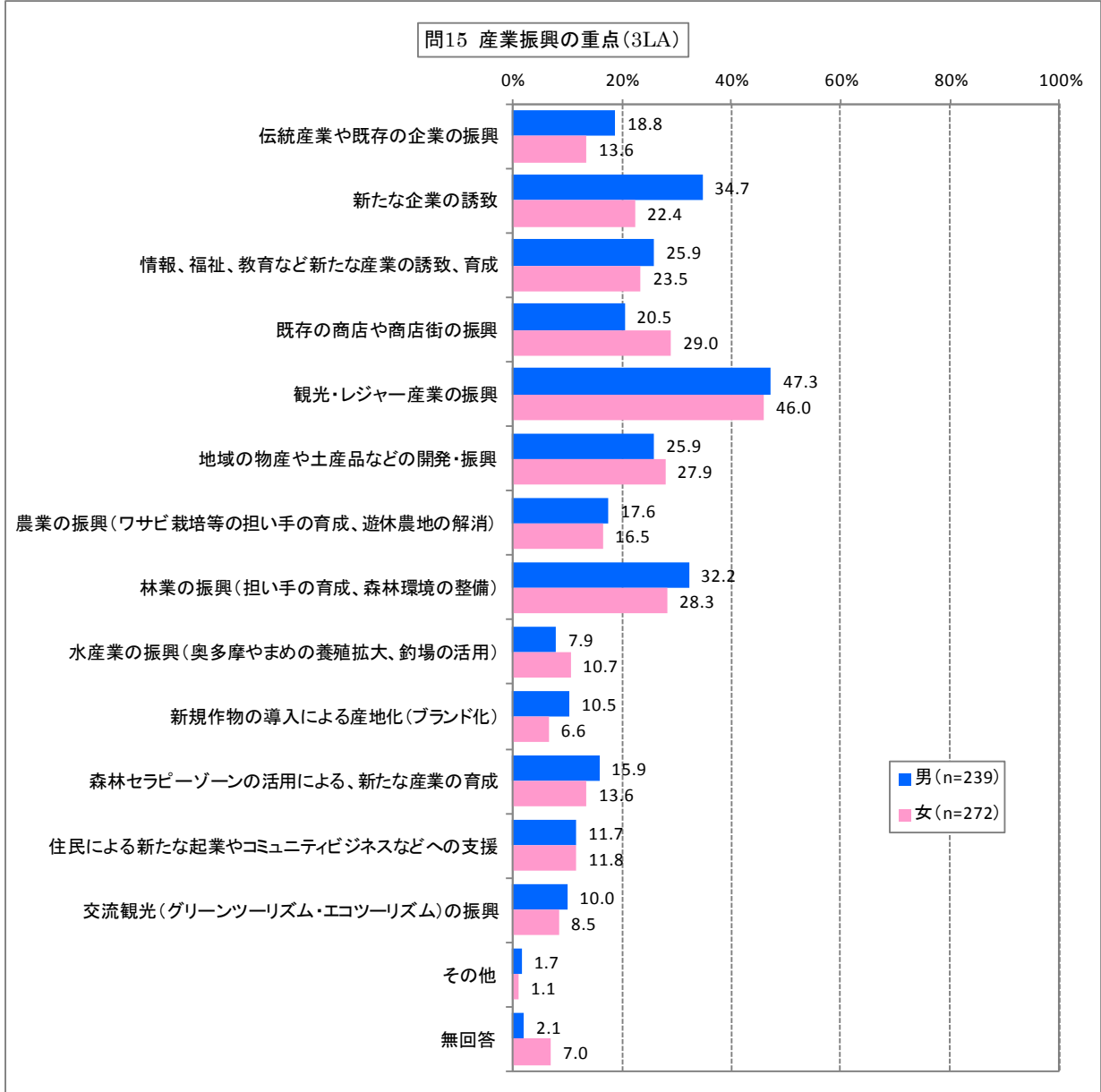
〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「観光・レジャー産業の振興」、「林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）」、「新たな企業の誘致」及び「地域の物産や土産品などの開発・振興」は、いずれも回答割合が増加する結果となっています。



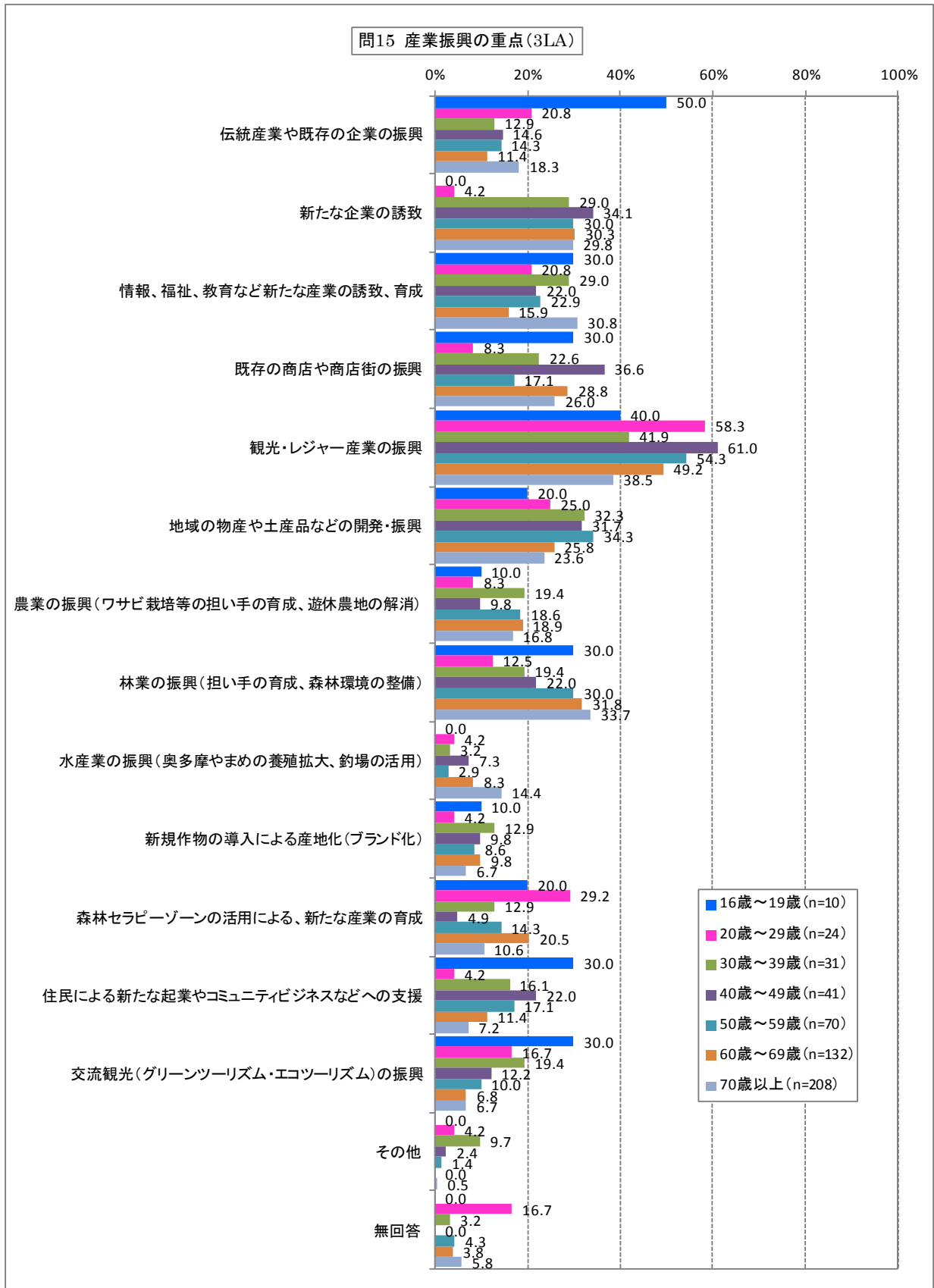
〔属性別結果：性別〕

奥多摩町の産業振興の重点について男女別にみると、「観光・レジャー産業の振興」や「林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）」及び「地域の物産や土産品などの開発・振興」では男女の差はあまり出ていませんが、「既存の商店や商店街の振興」では女性が、「新たな企業誘致」では男性の回答割合が高くなっています。



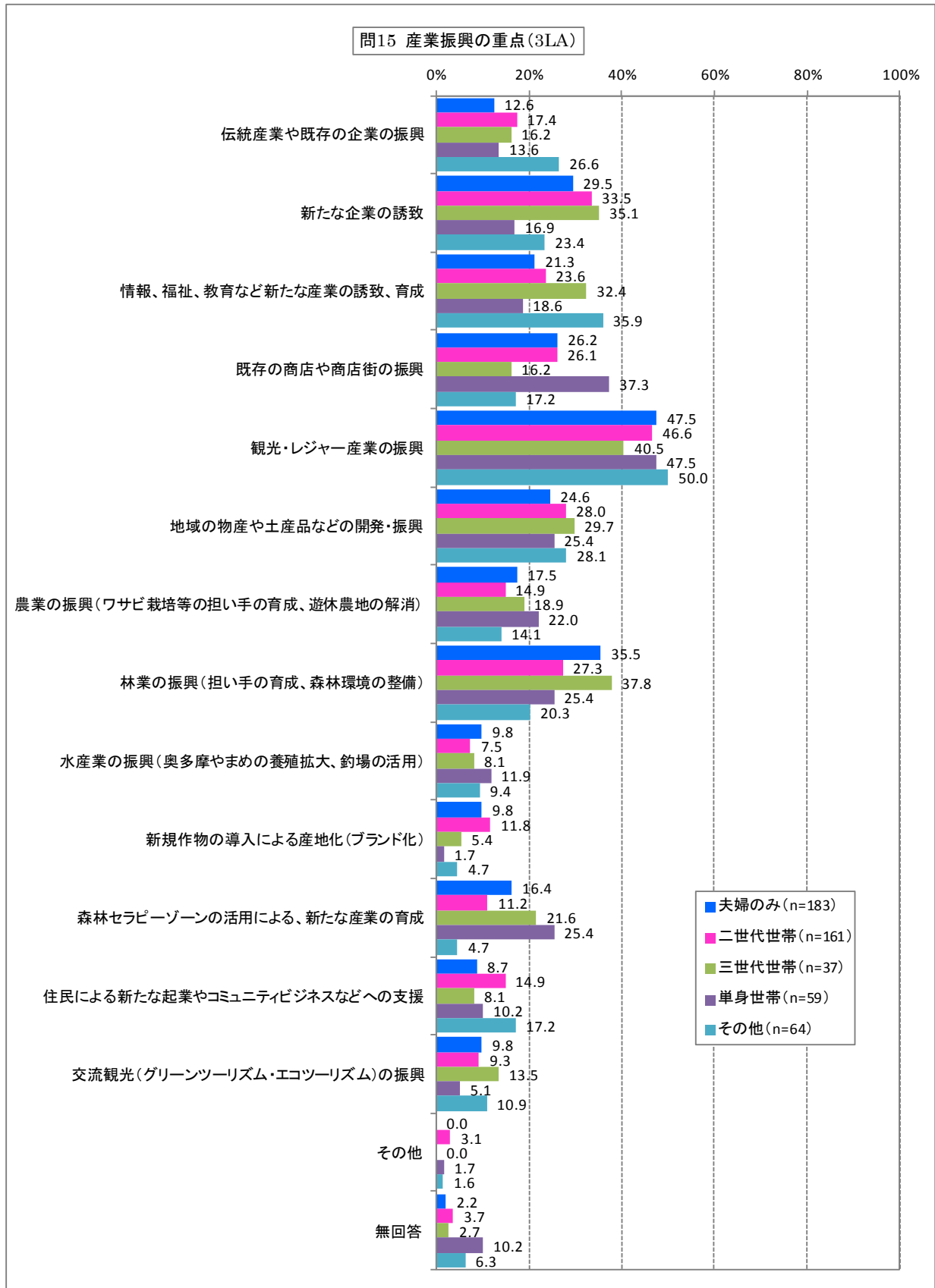
〔属性別結果：年齢別〕

奥多摩町の産業振興の重点について、全体の回答割合が最も高い「観光・レジャー産業の振興」を年齢別にみると、「20歳～29歳」、「40歳～49歳」及び「50歳～59歳」の回答割合が高いのに対し、「30歳～39歳」及び「60歳以上」では多少低くなっています。



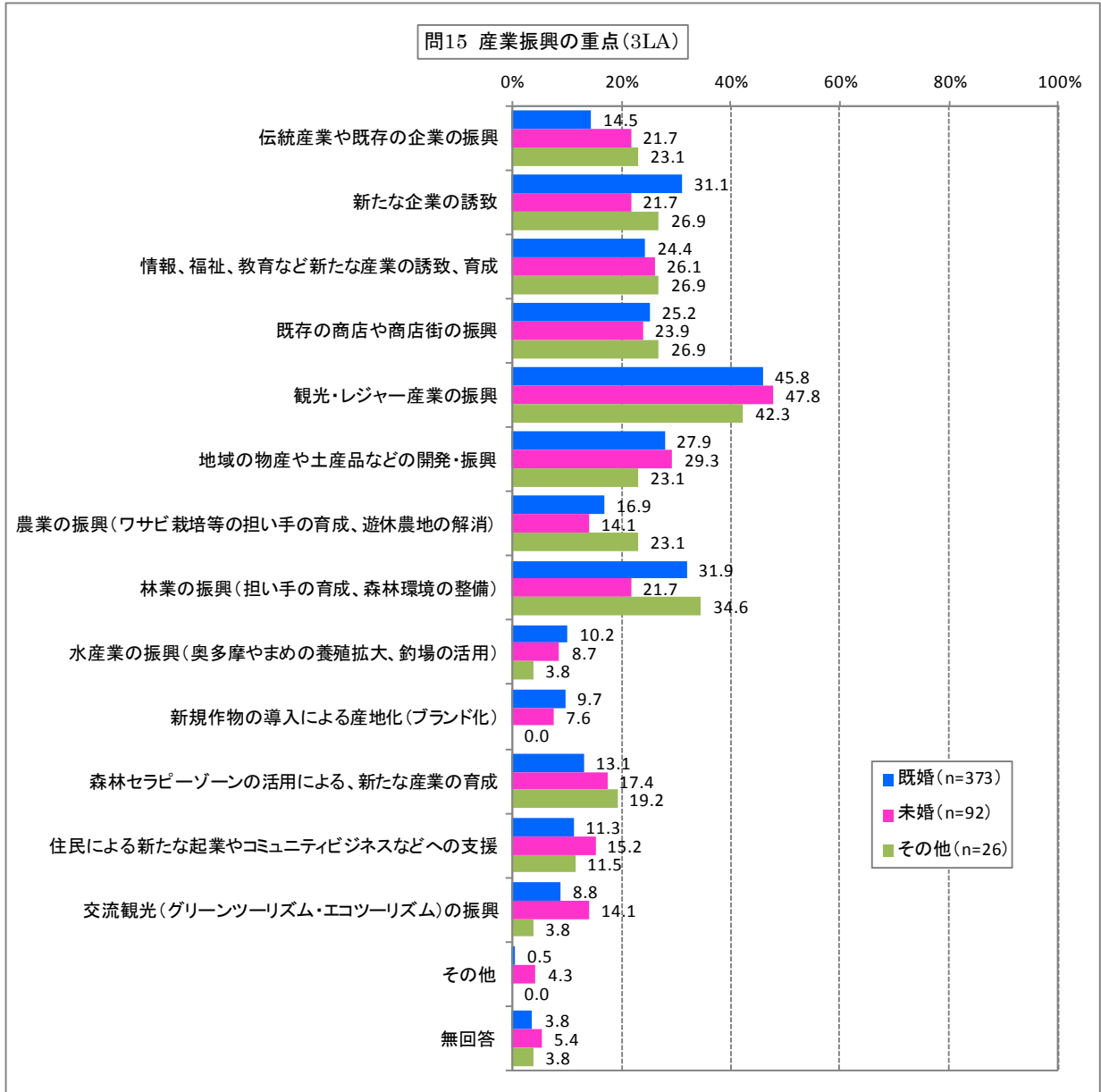
〔属性別結果：家族構成別〕

奥多摩町の産業振興の重点について、全体の回答割合が最も高い「観光・レジャー産業の振興」を家族構成別にみると、「三世帯世帯」以外の世帯では回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

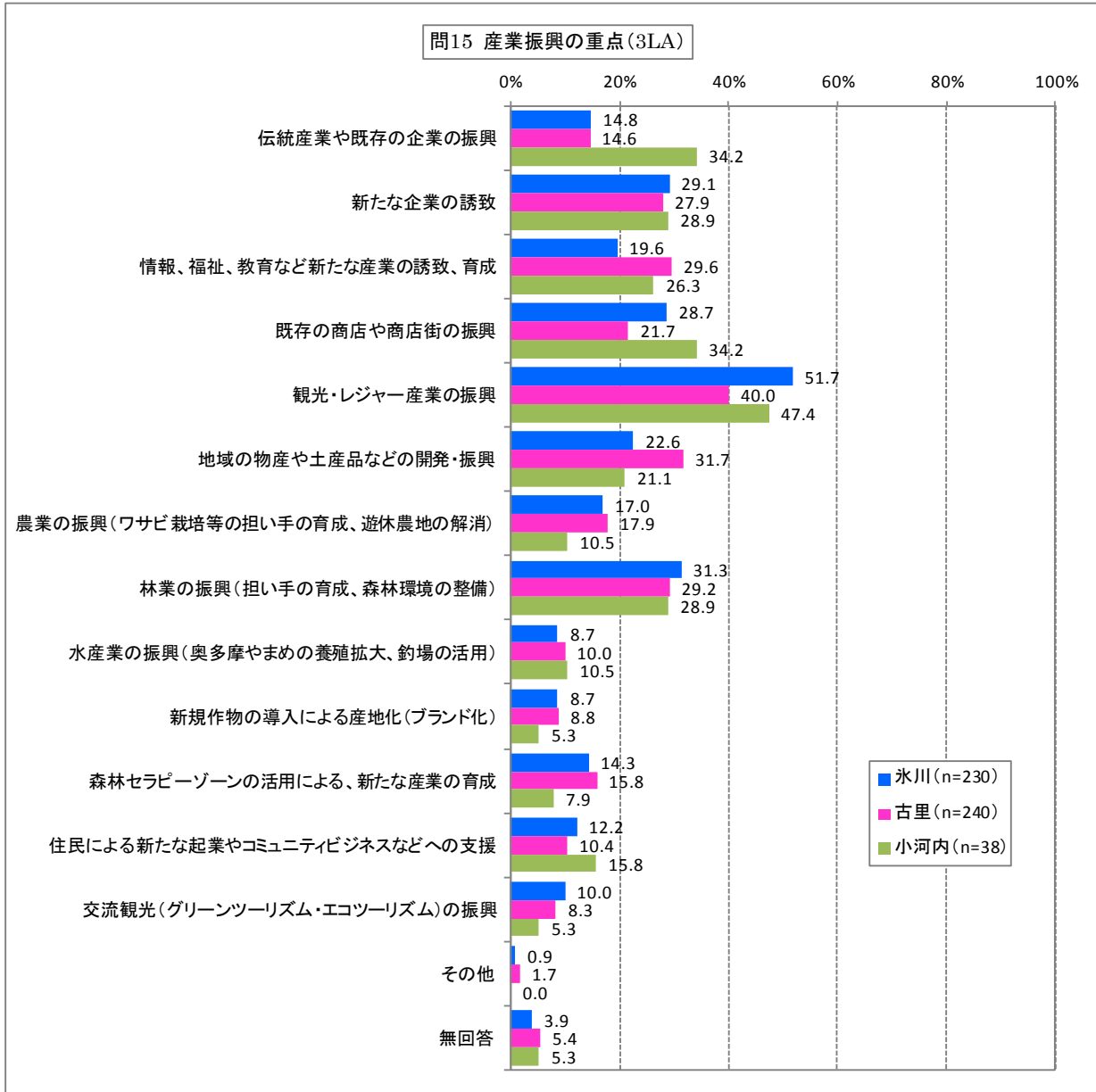
奥多摩町の産業振興の重点について、全体の回答割合が最も高い「観光・レジャー産業の振興」を婚姻状況別にみると、「既婚」と「未婚」での回答割合に大きな差は出ていない結果となっています。





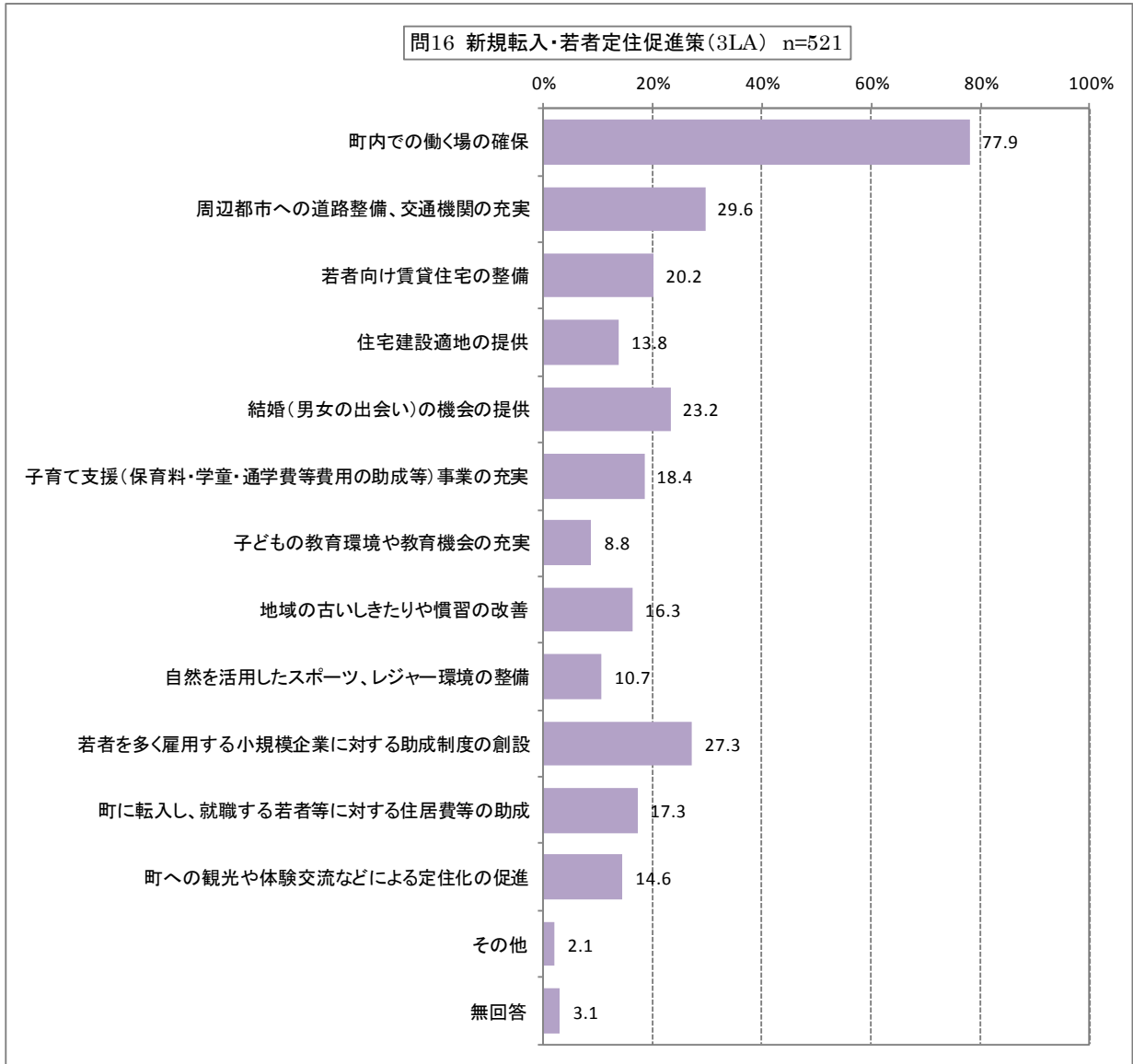
〔属性別結果：居住地区別〕

奥多摩町の産業振興の重点について、全体の回答割合が最も高い「観光・レジャー産業の振興」を居住地区別にみると、「氷川」地区と「小河内」地区に比べ、「古里」地区の回答割合が低くなっています。



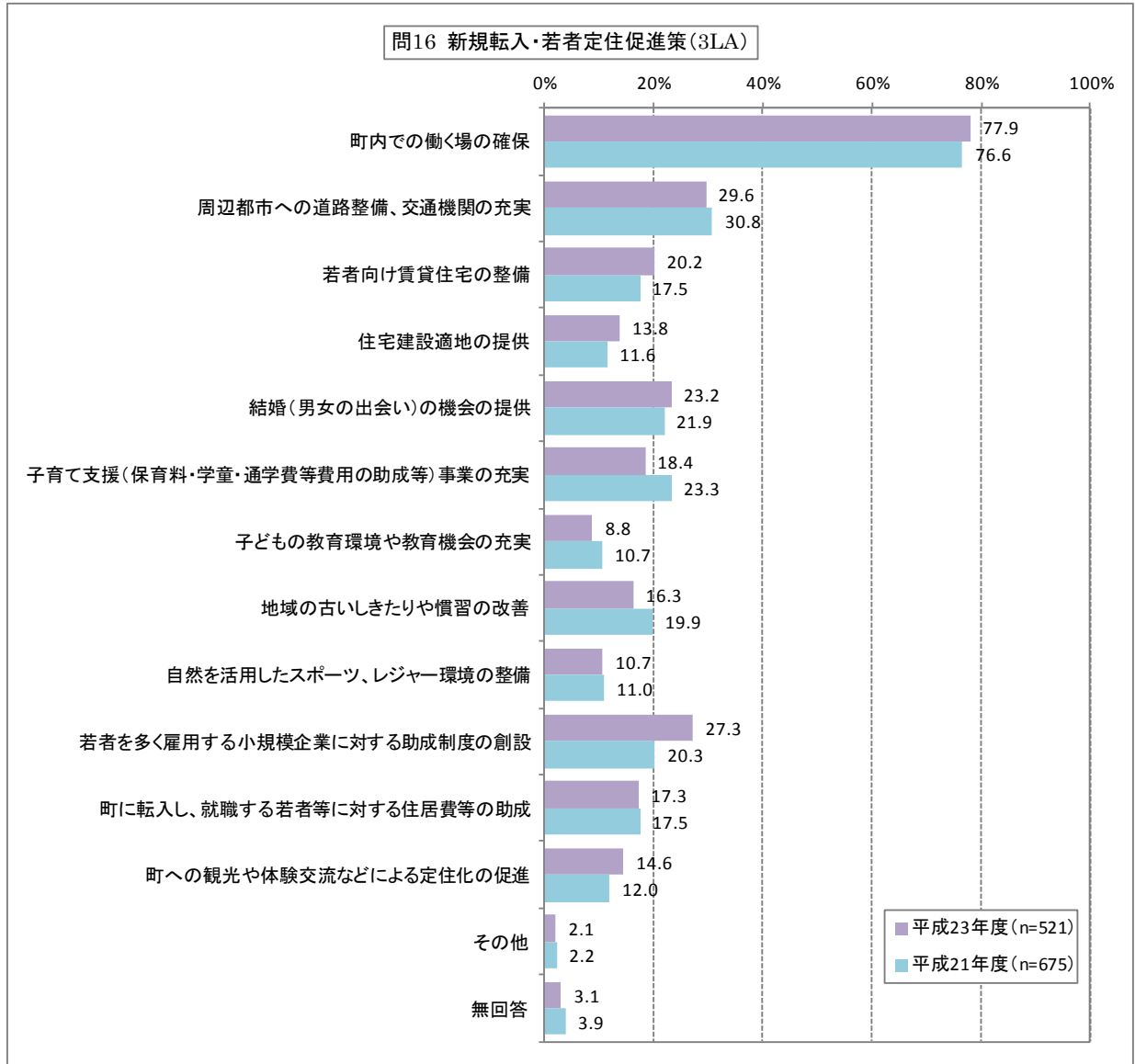
問16 新規転入・若者定住促進策

奥多摩町の新規転入・若者定住促進策については、「町内での働く場の確保」が77.9%に達し最も高く、次いで「周辺都市への道路整備、交通機関の充実」が29.6%、「若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設」が27.3%、「結婚（男女の出会い）の機会の提供」が23.2%と続いています。



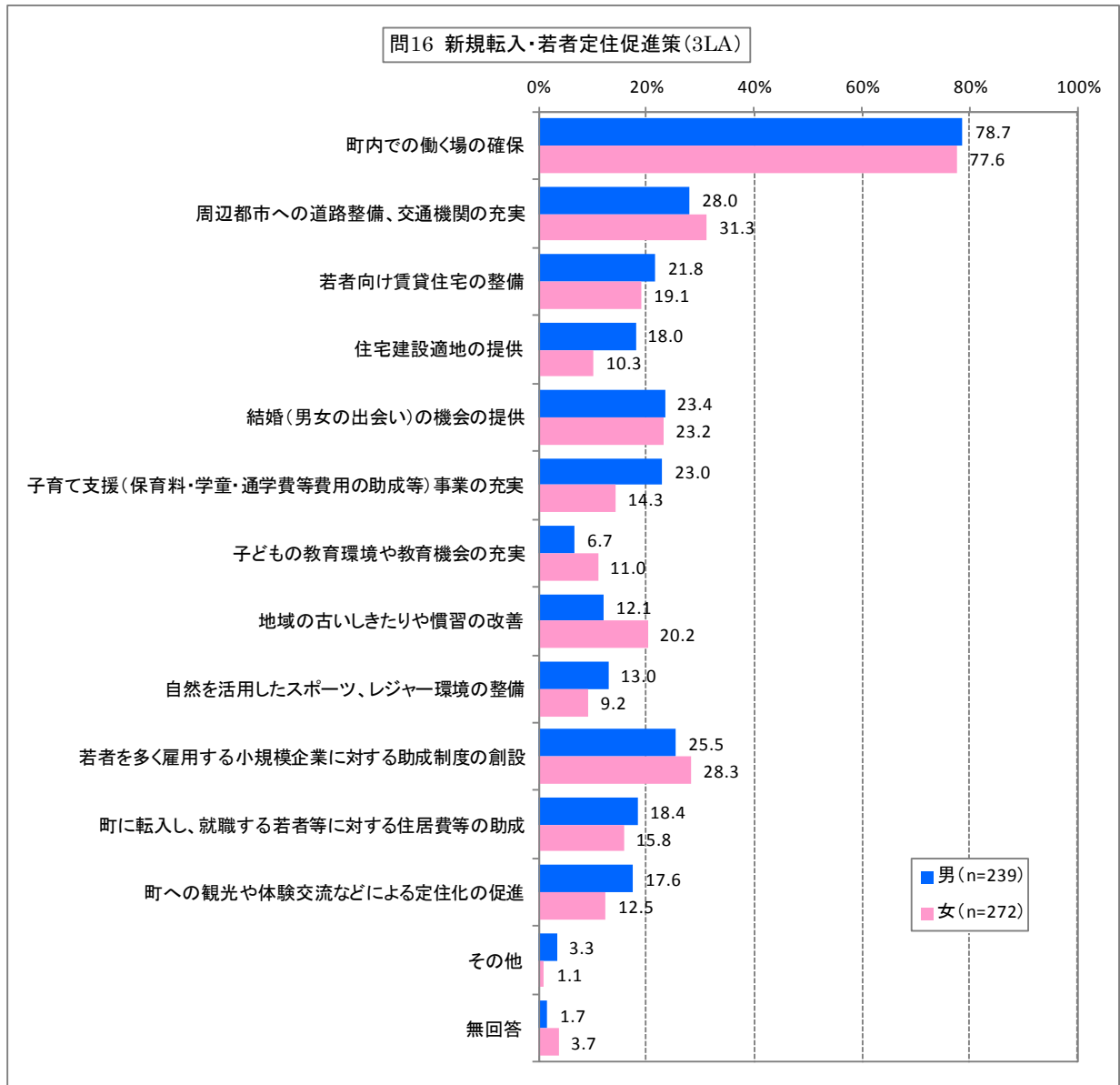
〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「町内での働く場の確保」、「周辺都市への道路整備、交通機関の充実」、「若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設」及び「結婚（男女の出会い）の機会の提供」は、その順位に大きな変動はなく、ほぼ同じ回答割合となっています。いずれも回答割合が増加する結果となっています。



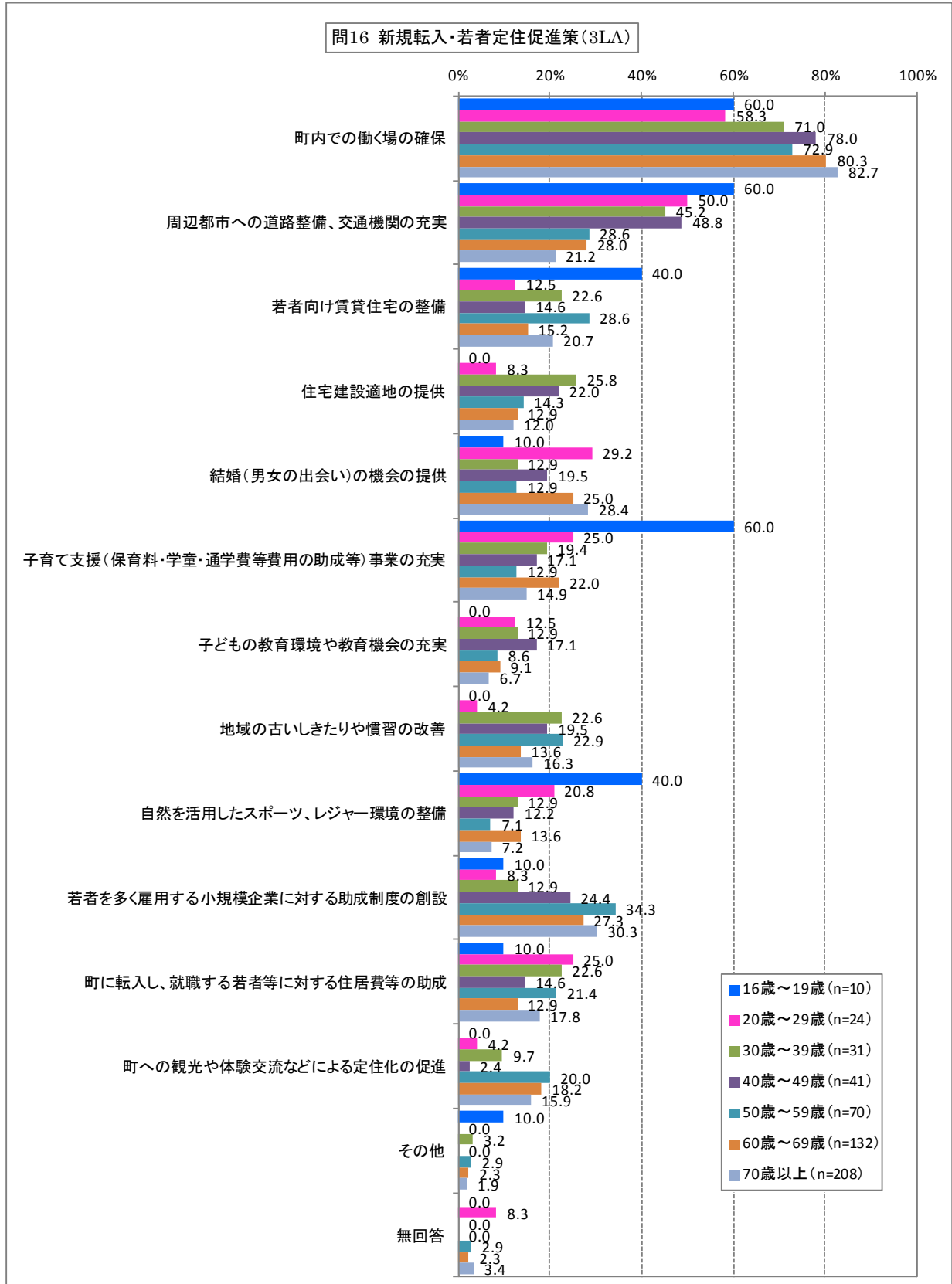
〔属性別結果：性別〕

奥多摩町の新規転入・若者定住促進策について、全体の回答割合が最も高い「町内での働く場の確保」を性別にみると、ほぼ同じ回答割合となっています。



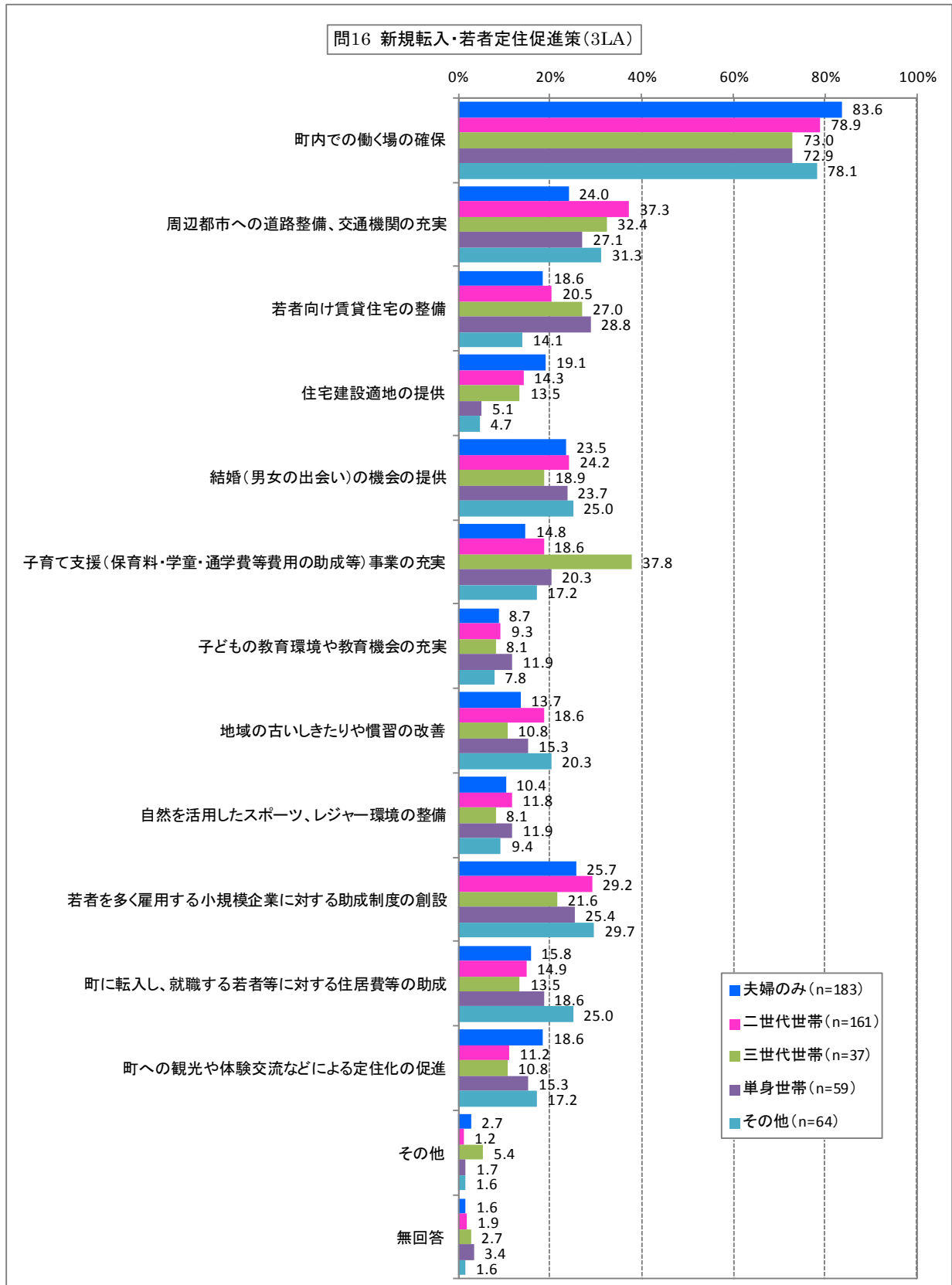
〔属性別結果：年齢別〕

奥多摩町の新規転入・若者定住促進策について、全体の回答割合が最も高い「町内での働く場の確保」を年齢別にみると、「16歳～29歳」では60%前後ですが、「30歳～59歳」では70%台、「60歳以上」では80%以上の回答割合となっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

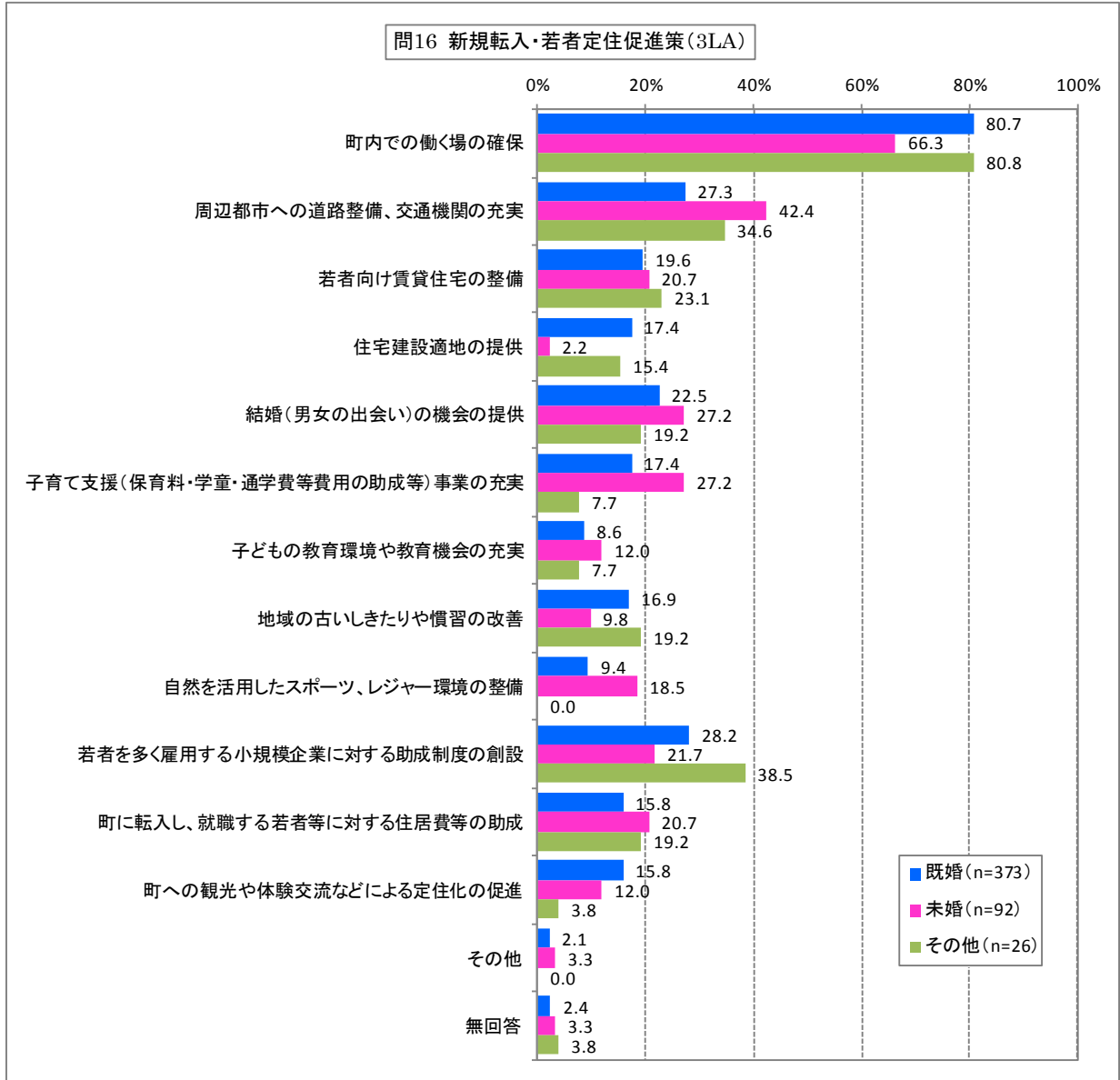
奥多摩町の新規転入・若者定住促進策について、全体の回答割合が最も高い「町内での働く場の確保」を家族構成別にみると、「夫婦のみ」では80%を超えています。その他の家族構成でも70%以上の回答割合となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

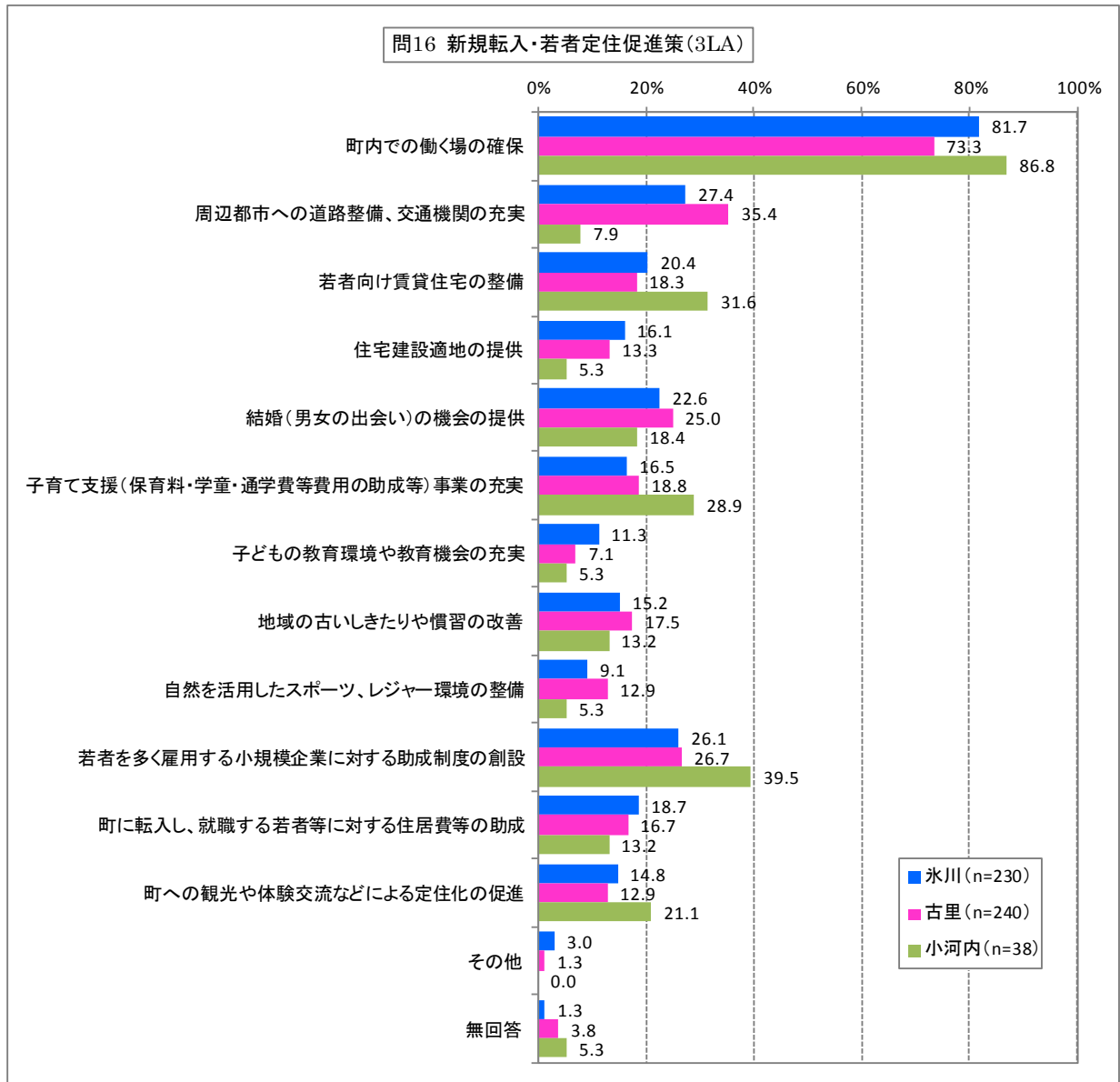
奥多摩町の新規転入・若者定住促進策について、全体の回答割合が最も高い「町内での働く場の確保」を婚姻状況別にみると、「既婚」では80%を超えている一方で、「未婚」では60%と低くなっています。

また、「周辺都市への道路整備、交通機関の充実」への回答が「未婚」では42.4%である一方、「既婚」では27.3%にとどまっており、「未婚」者は道路交通機関等の利便性が良ければ、就労の場が町外であっても新規転入や定住促進になると判断していることがうかがえます。



〔属性別結果：居住地区別〕

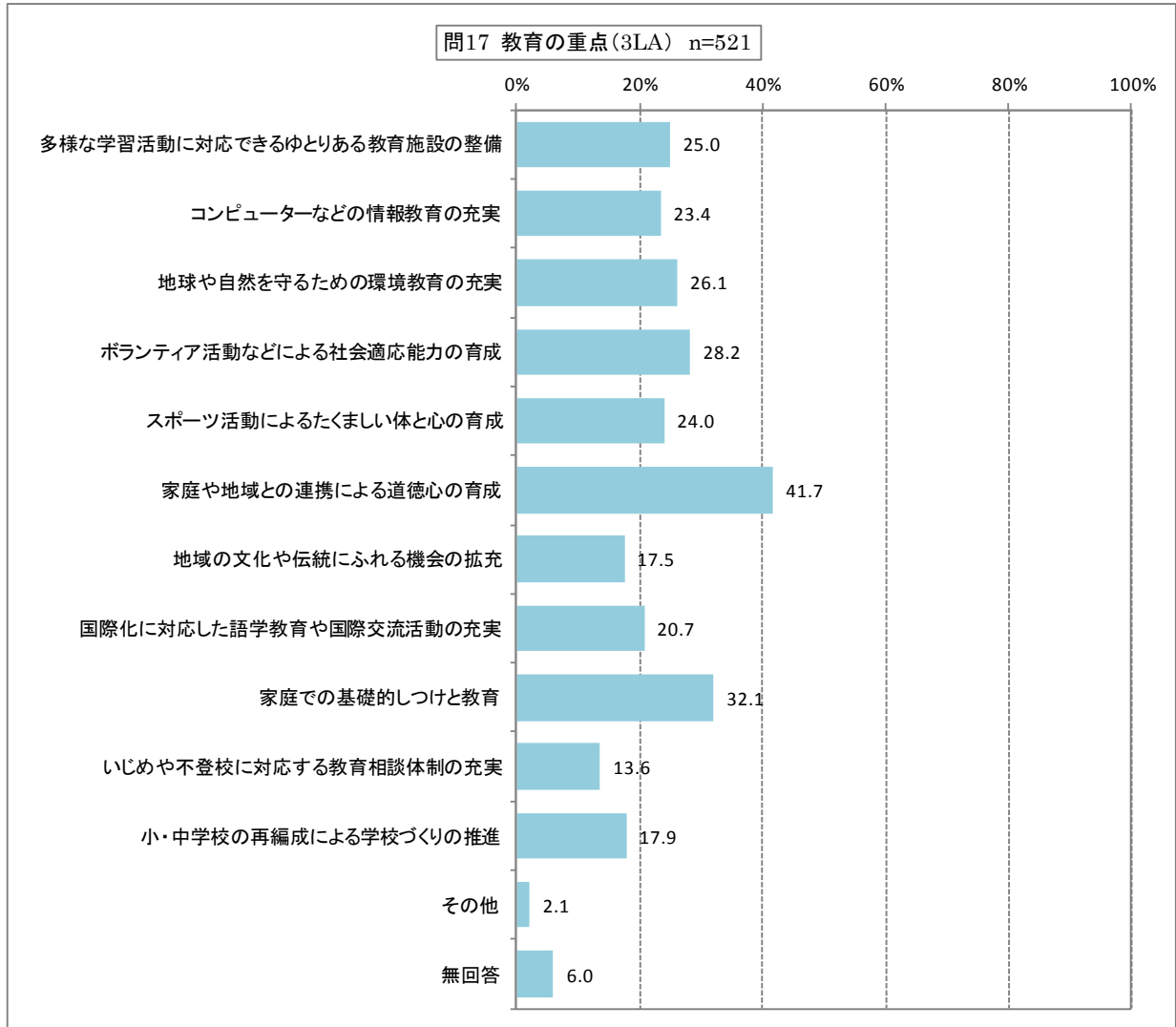
奥多摩町の新規転入・若者定住促進策について、全体の回答割合が最も高い「町内での働く場の確保」を居住地区別にみると、「氷川」地区と「小河内」地区では80%を超えている一方で、「古里」地区では70%台にとどまっています。





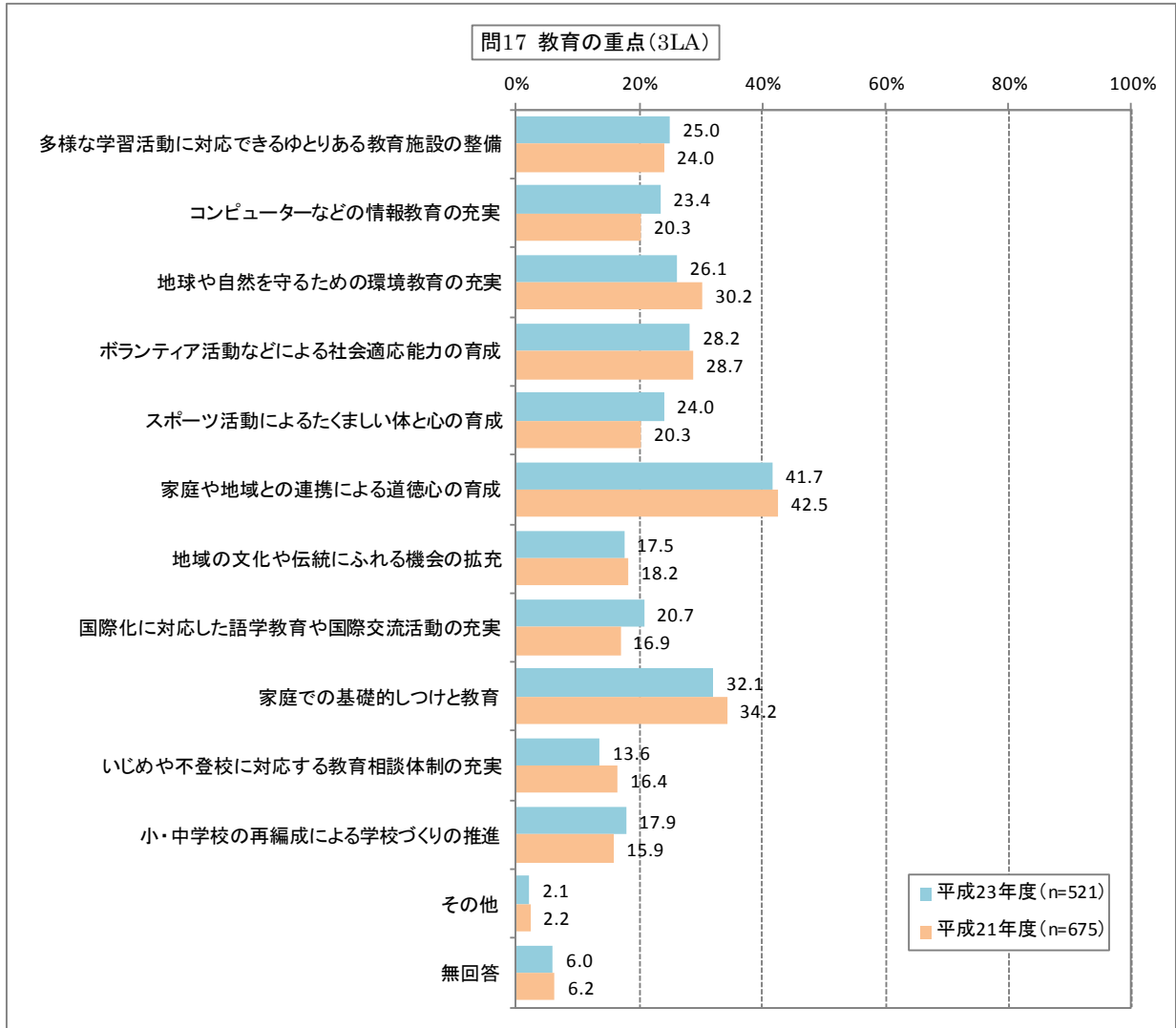
問 17 教育の重点

21 世紀を担う子どもたちに対する教育の重点については、「家庭や地域との連携による道徳心の育成」が 41.7%と最も高く、次いで、「家庭での基礎的しつけと教育」が 32.1%、「ボランティア活動などによる社会適応能力の育成」が 28.2%、「地球や自然を守るための環境教育の充実」が 26.1%、「多様な学習活動に対応できるゆとりある教育施設の整備」が 25.0%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

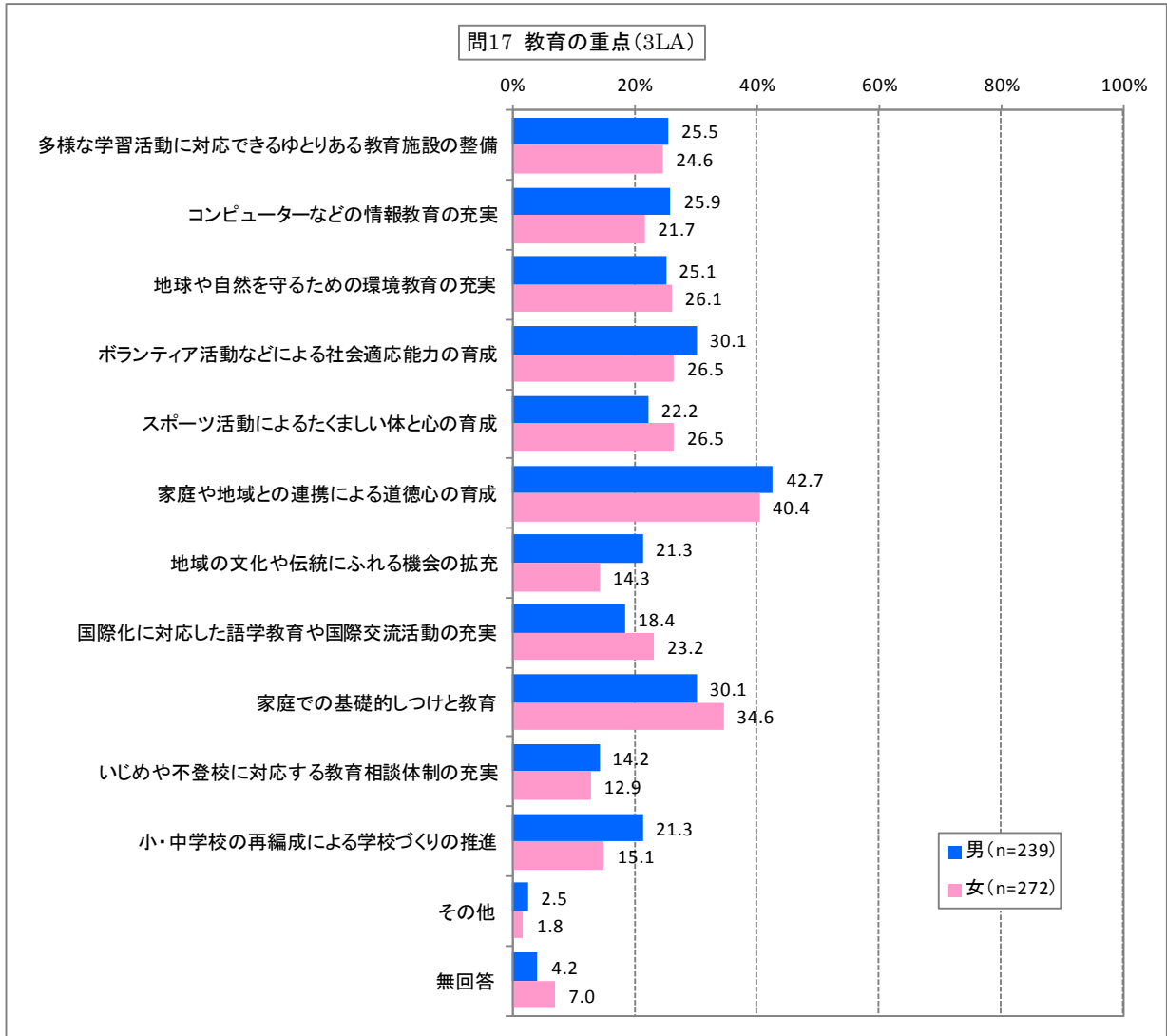
今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度調査において回答割合の高い「家庭や地域との連携による道徳心の育成」、「家庭での基礎的しつけと教育」、「ボランティア活動などによる社会適応能力の育成」、「地球や自然を守るための環境教育の充実」及び「多様な学習活動に対応できるゆとりある教育施設の整備」は、その順位に大きな変動はなく、ほぼ同じ回答割合となっています。



〔属性別結果：性別〕

21世紀を担う子どもたちに対する教育の重点について、全体の回答割合が最も高い「家庭や地域との連携による道徳心の育成」を性別で見ると、僅かですが「女性」よりも「男性」の回答割合が高くなっています。

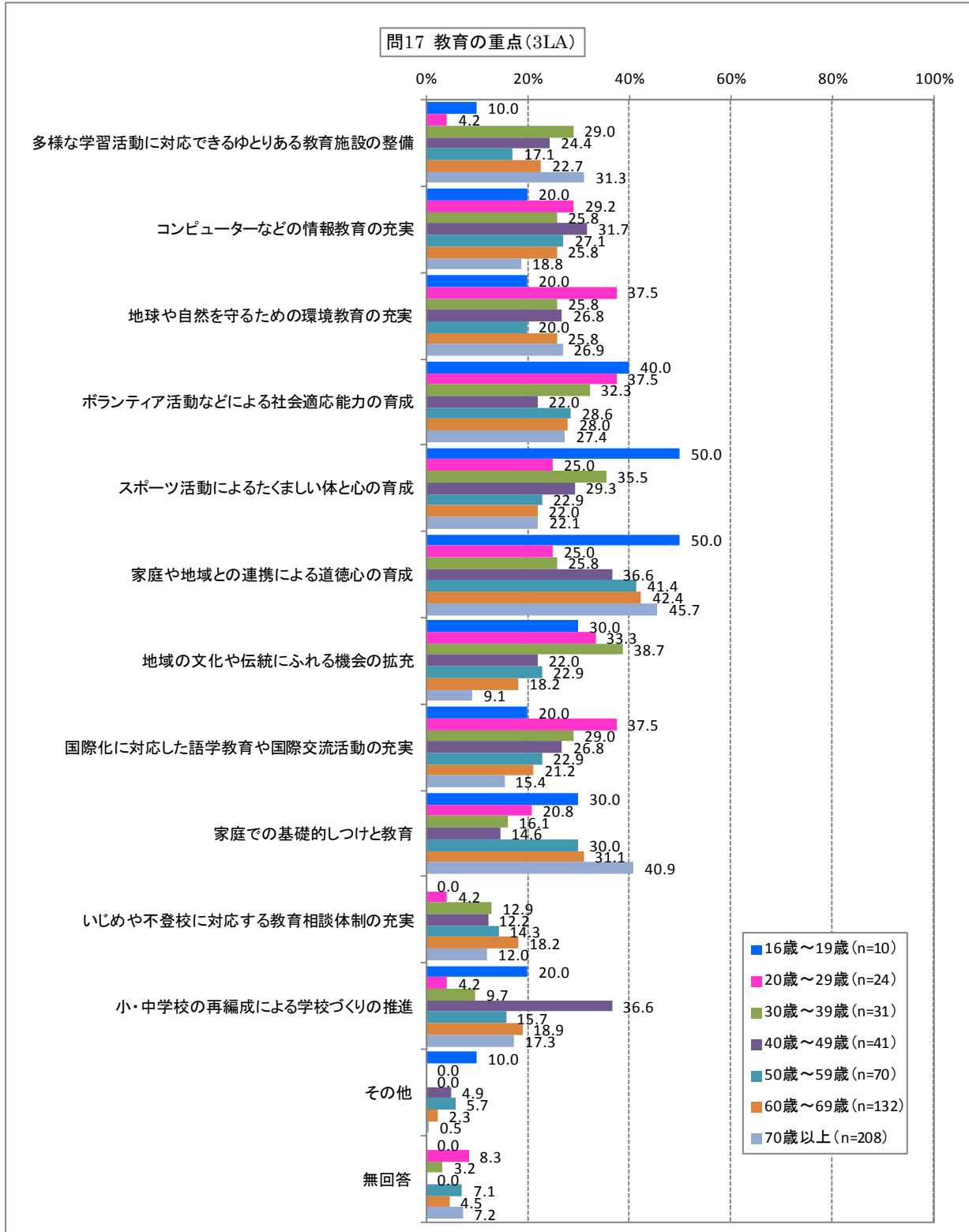
また、次いで全体の回答割合が高い「家庭での基礎的しつけと教育」をみると、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっており、「男性」は公的な場面での教育を、「女性」は私的（家庭内）な場面での教育を志向する傾向があることがうかがえます。



〔属性別結果：年齢別〕

21世紀を担う子どもたちに対する教育の重点について、全体の回答割合が最も高い「家庭や地域との連携による道徳心の育成」を年齢別で見ると、年代が上がるにつれ回答割合が高くなる結果となっています。

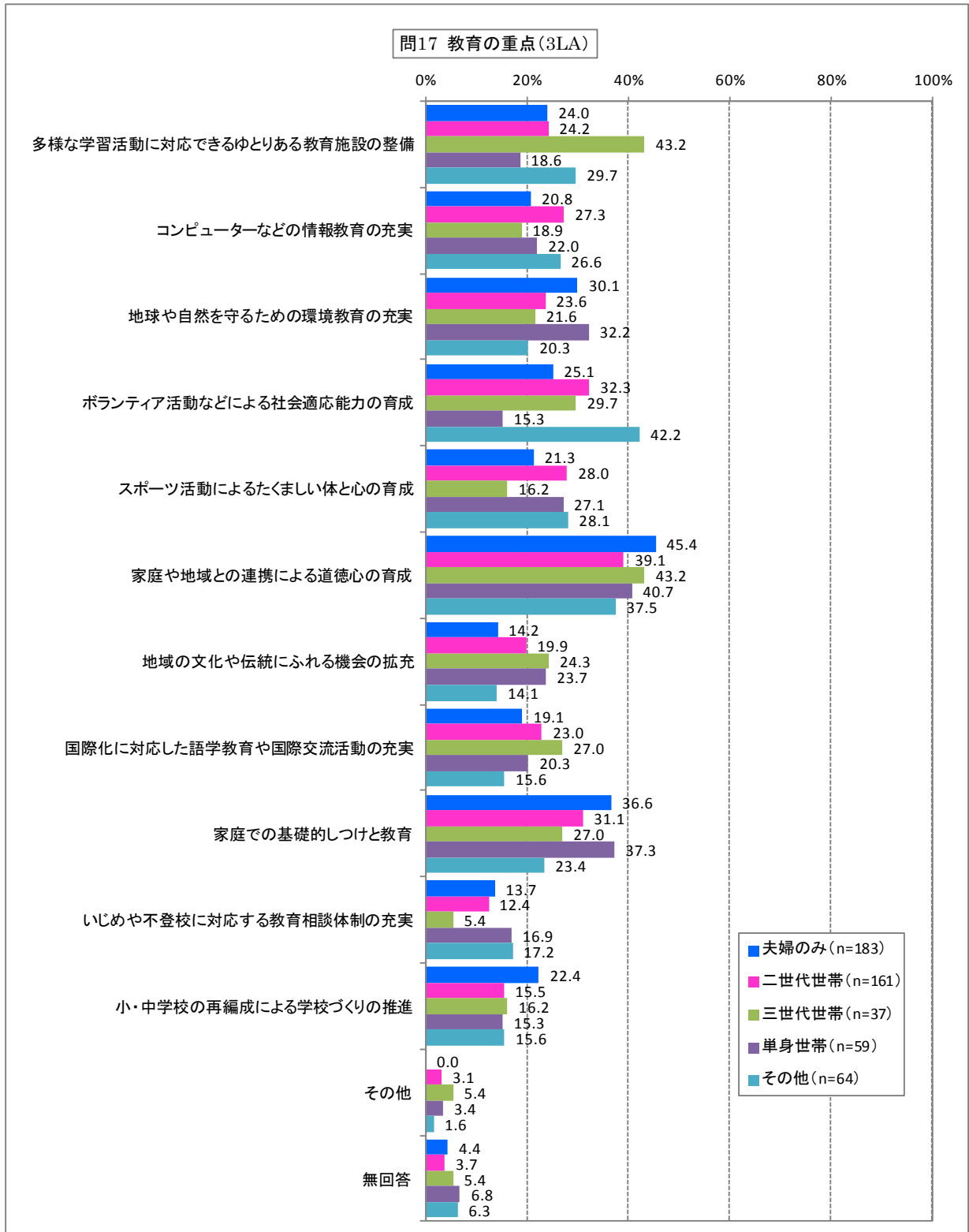
また、次いで全体の回答割合が高い「家庭での基礎的しつけと教育」でも同様の傾向となっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

21世紀を担う子どもたちに対する教育の重点について、全体の回答割合が最も高い「家庭や地域との連携による道徳心の育成」を家族構成別でみると、「夫婦のみ」と「三世代世帯」での回答割合が高くなっています。

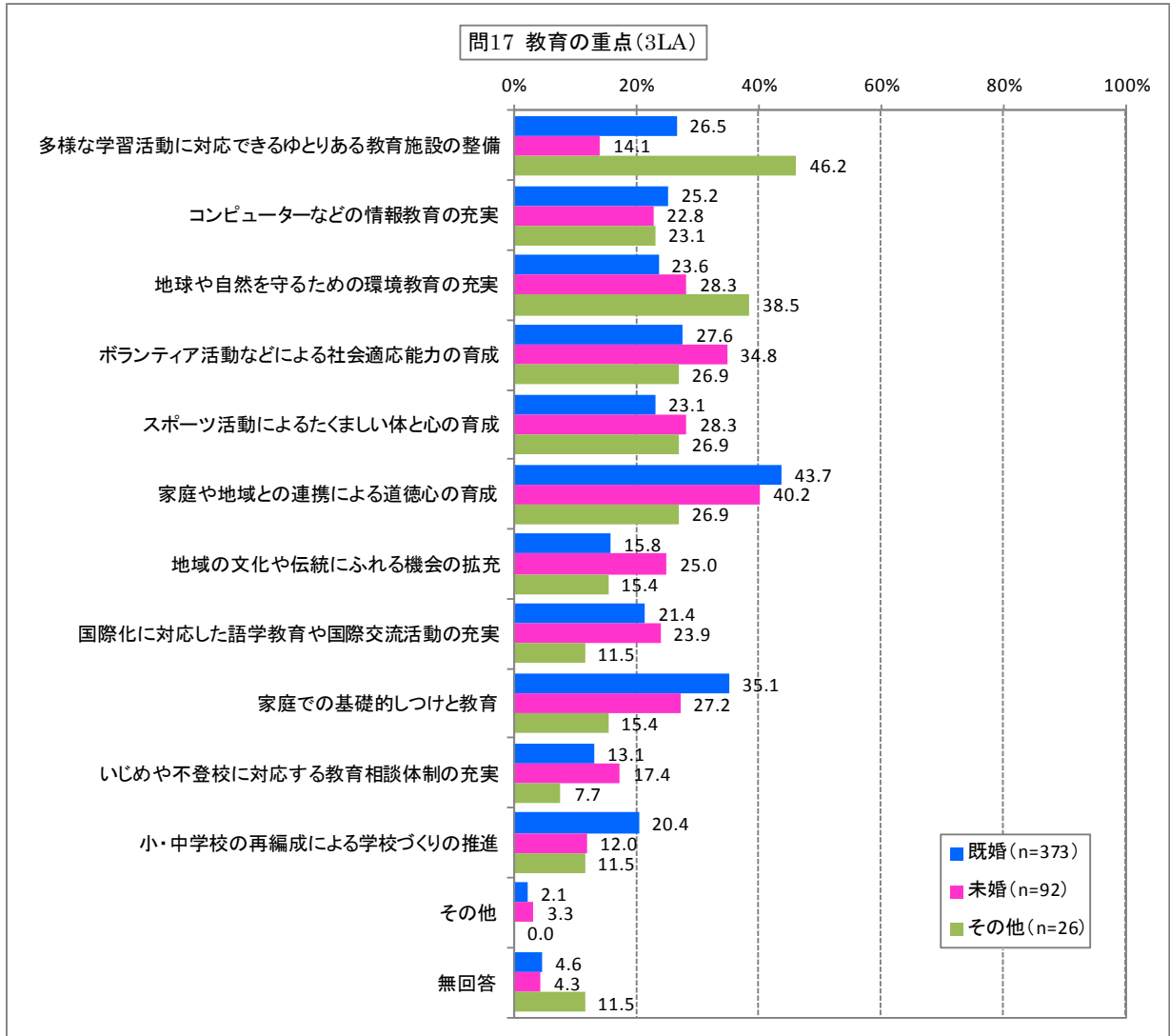
また、次いで全体の回答割合が高い「家庭での基礎的しつけと教育」では「夫婦のみ」と「単身世帯」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

21世紀を担う子どもたちに対する教育の重点について、全体の回答割合が最も高い「家庭や地域との連携による道徳心の育成」を婚姻状況別でみると、「未婚」よりも「既婚」の回答割合が高くなっています。

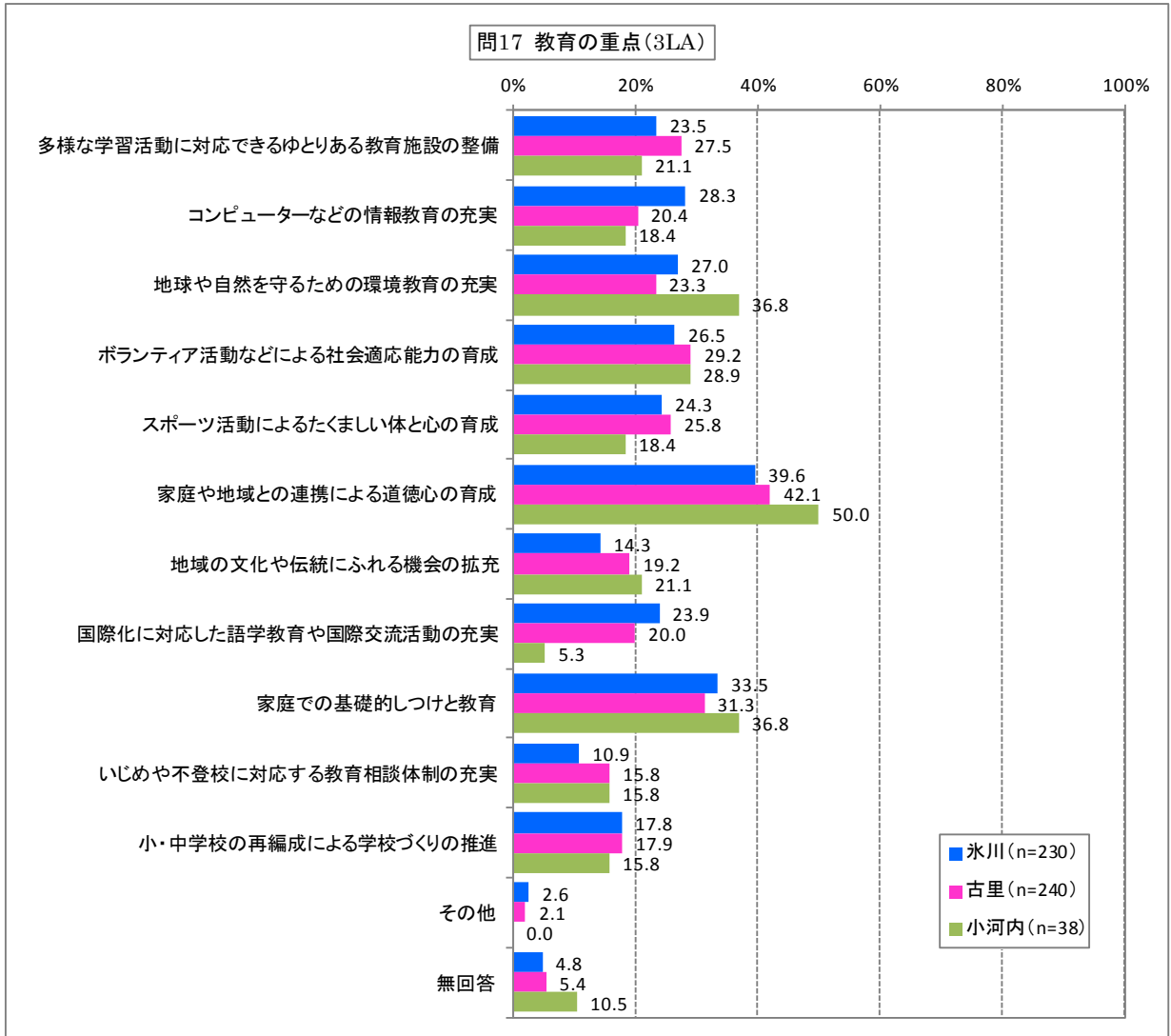
また、次いで全体の回答割合が高い「家庭での基礎的しつけと教育」でも同様の回答傾向となっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

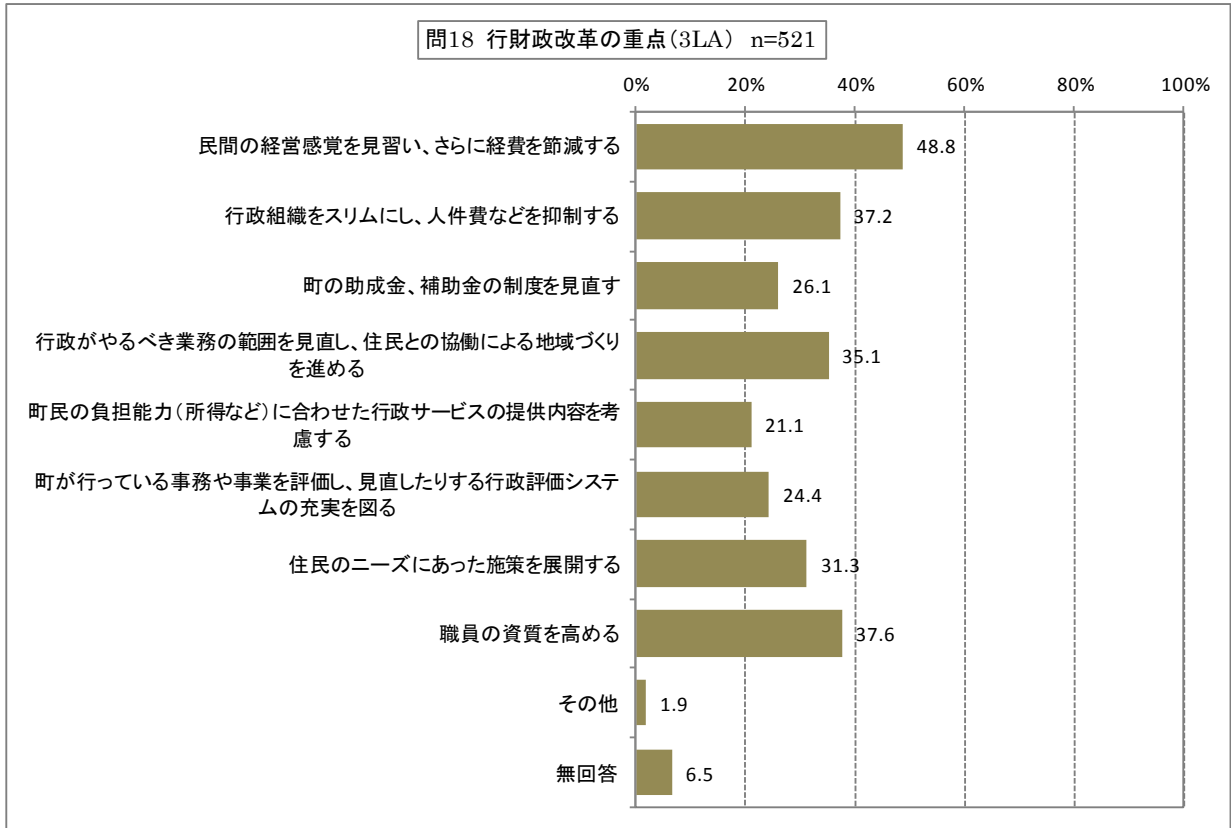
21世紀を担う子どもたちに対する教育の重点について、全体の回答割合が最も高い「家庭や地域との連携による道德心の育成」を居住地区別で見ると、「氷川」地区と「古里」地区では4割前後ですが、「小河内」地区では5割の回答割合となっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「家庭での基礎的しつけと教育」でも「小河内」地区の回答割合が高くなっています。



問 18 行財政改革の重点

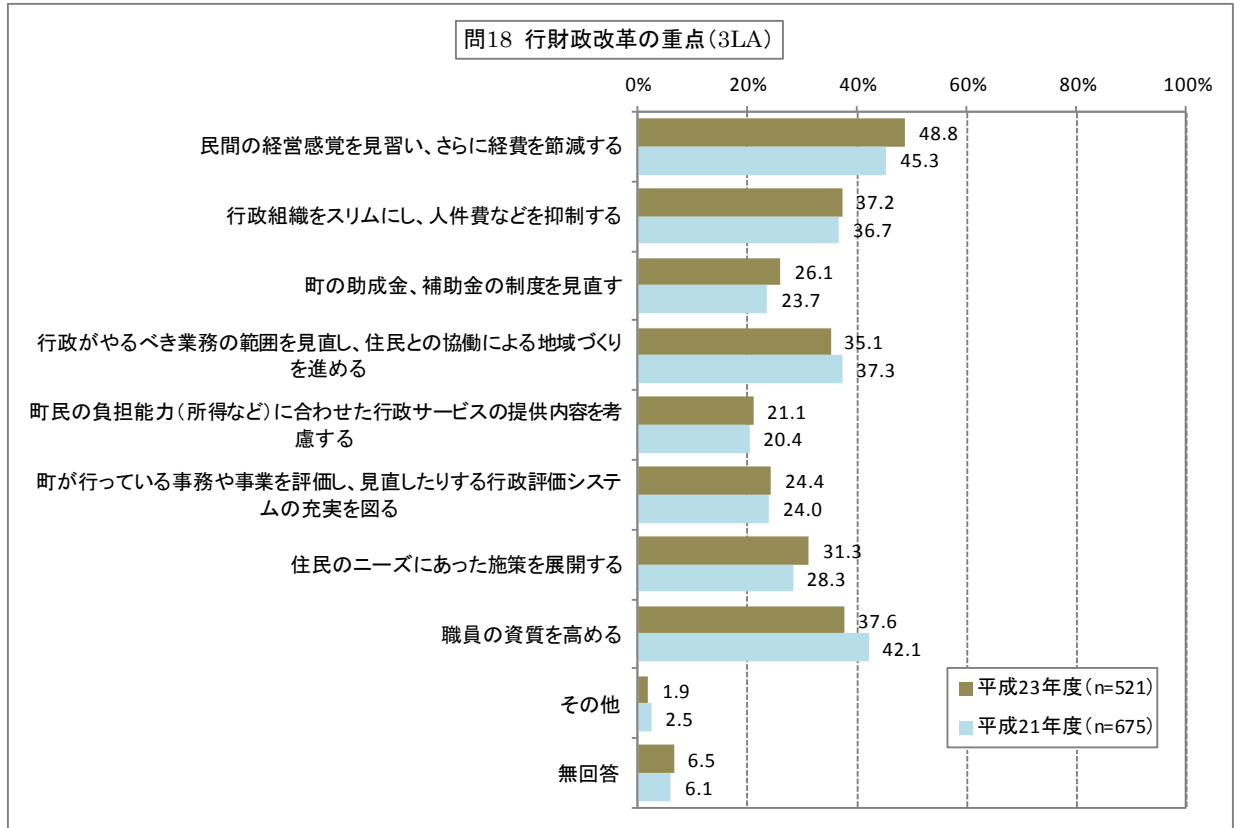
行財政改革の重点については、「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」が 48.8%と最も高く、次いで「職員の資質を高める」が 37.6%、「行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する」が 37.2%、「行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める」が 35.1%、「住民のニーズにあった施策を展開する」が 31.3%と続いています。





〔過去調査結果との比較〕

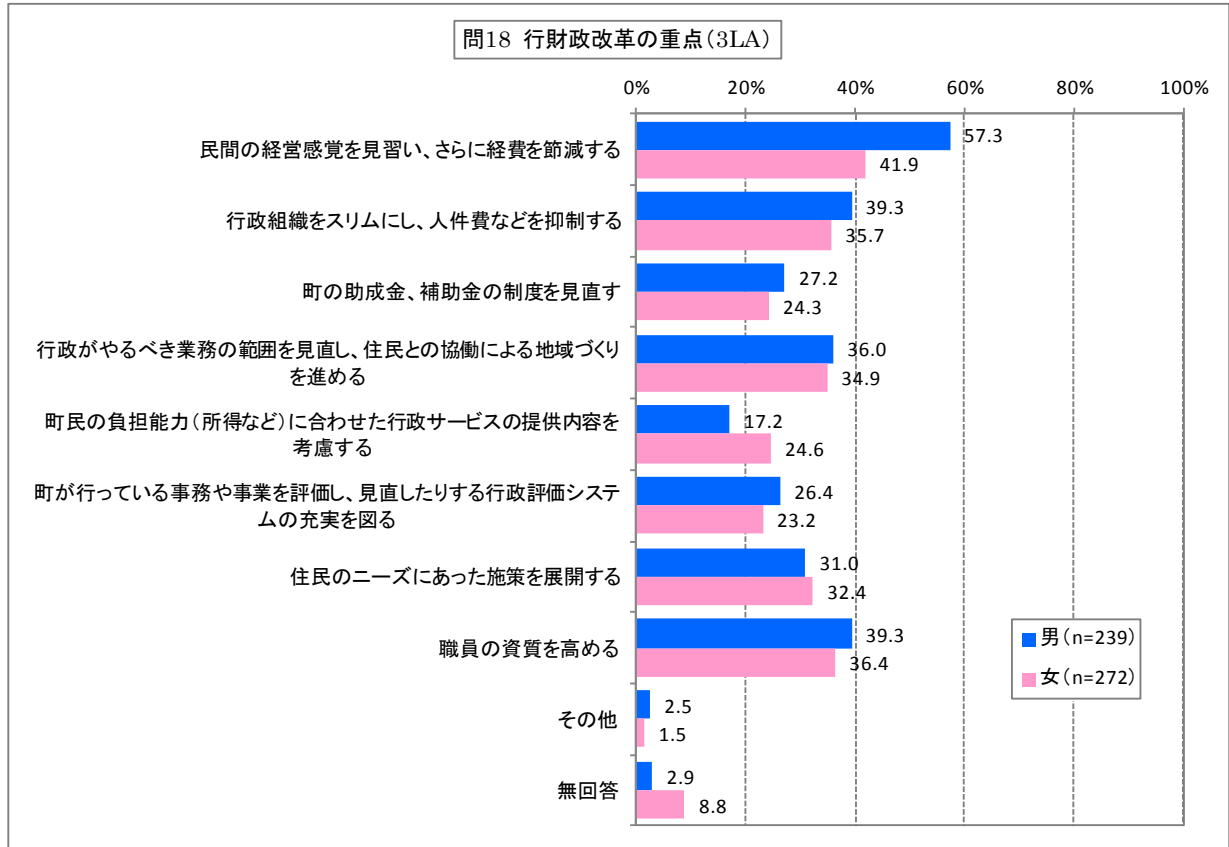
今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度調査において回答割合の高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」が 48.8%と最も高く、次いで「職員の資質を高める」、「行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する」、「行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める」及び「住民のニーズにあった施策を展開する」は、その順位に大きな変動はなく、ほぼ同じ回答割合となっています。



〔属性別結果：性別〕

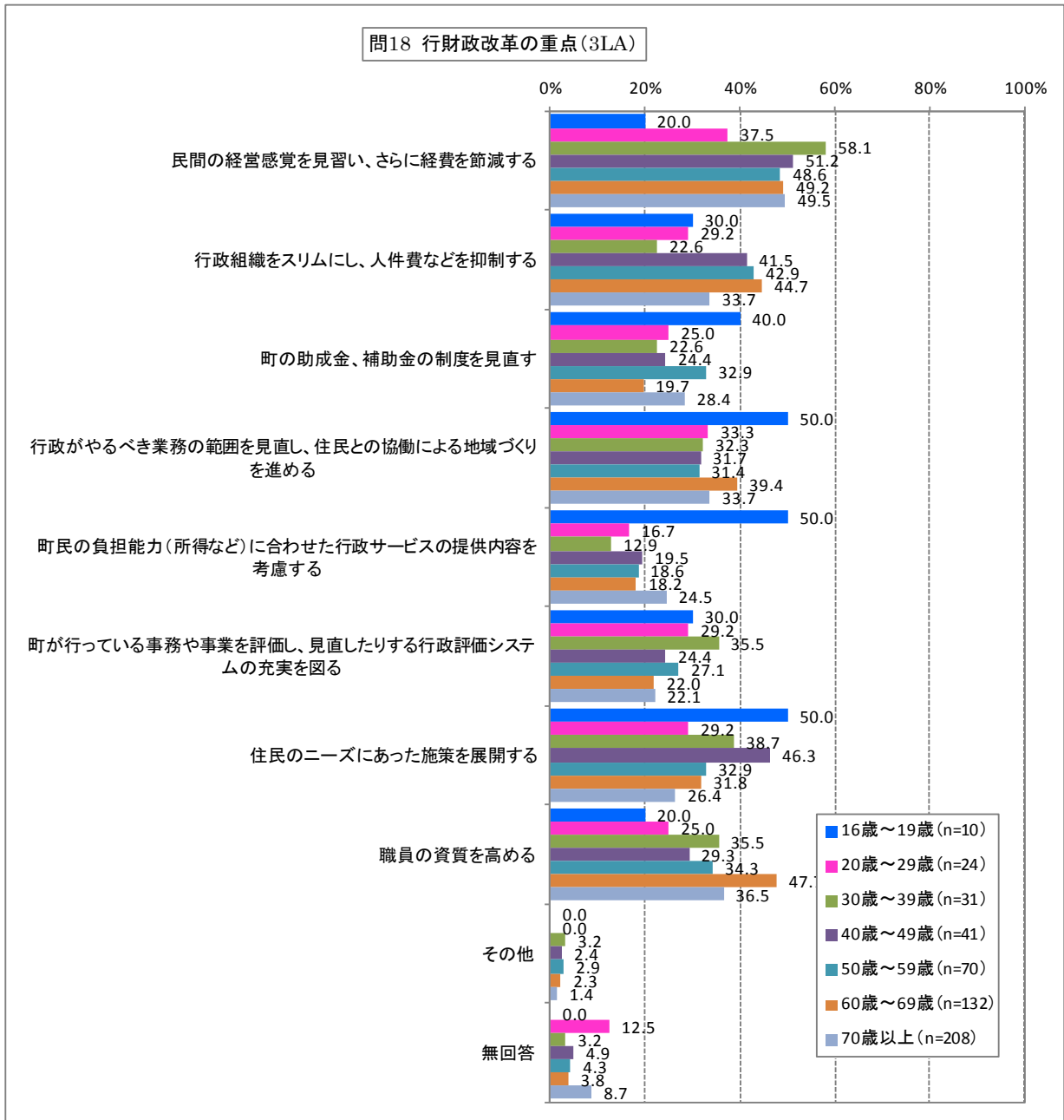
行財政改革の重点について、全体の回答割合が最も高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」を性別で見ると、「男性」が 57.3%であるのに対し「女性」は 41.9%と違いが出ています。

また、次いで回答割合が高い「職員の資質を高める」でも、「女性」より「男性」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：年齢別〕

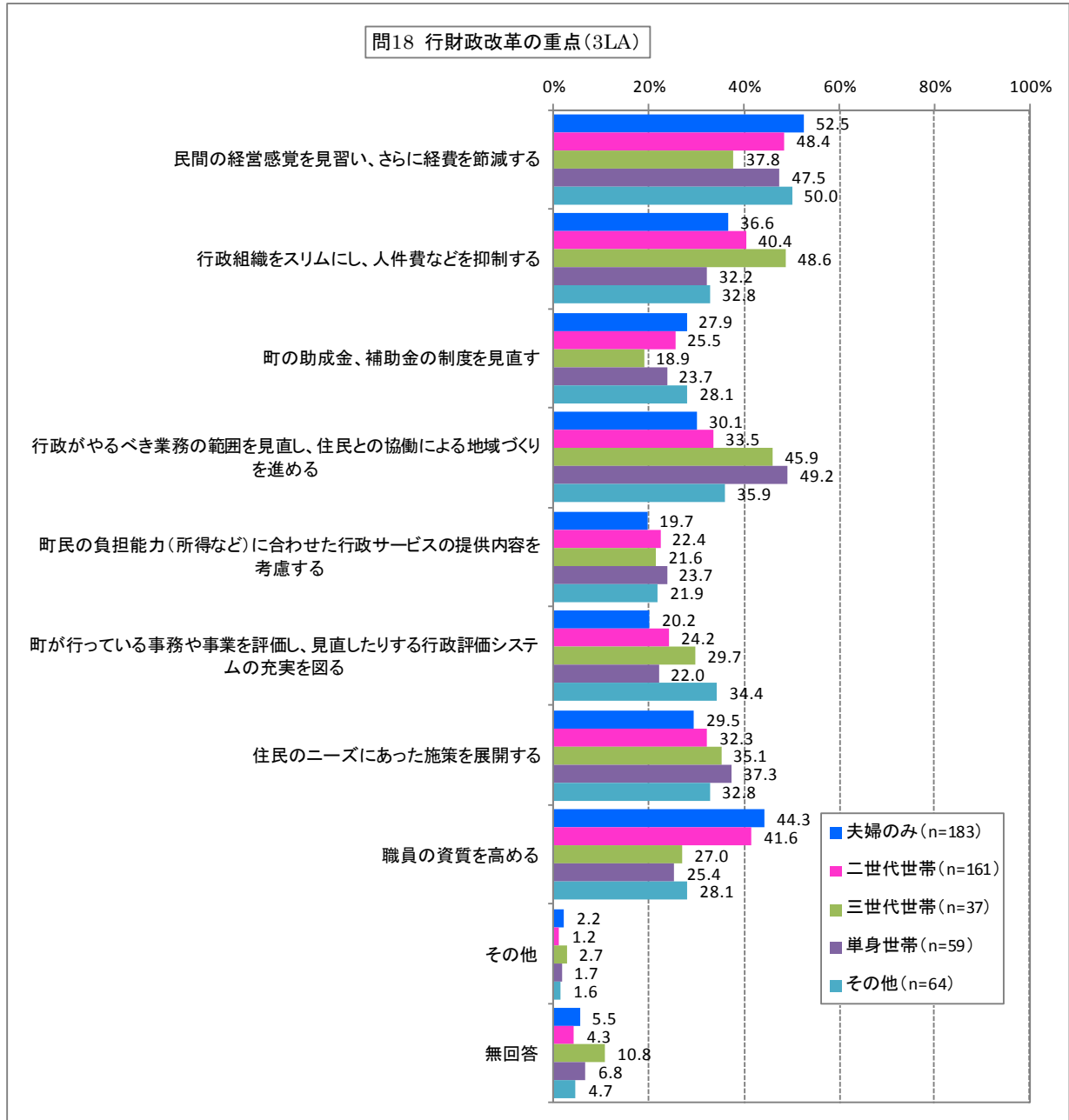
行財政改革の重点について、全体の回答割合が最も高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」を年齢別でみると、「30歳～39歳」では6割近くであるのに対し、「40歳以上」では5割前後となっています。また、「20歳～29歳」では4割を下回っています。



〔属性別結果：家族構成別〕

行財政改革の重点について、全体の回答割合が最も高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」を家族構成別でみると、「三世代世帯」では4割を下回っていますが、その他の世帯では5割前後となっています。

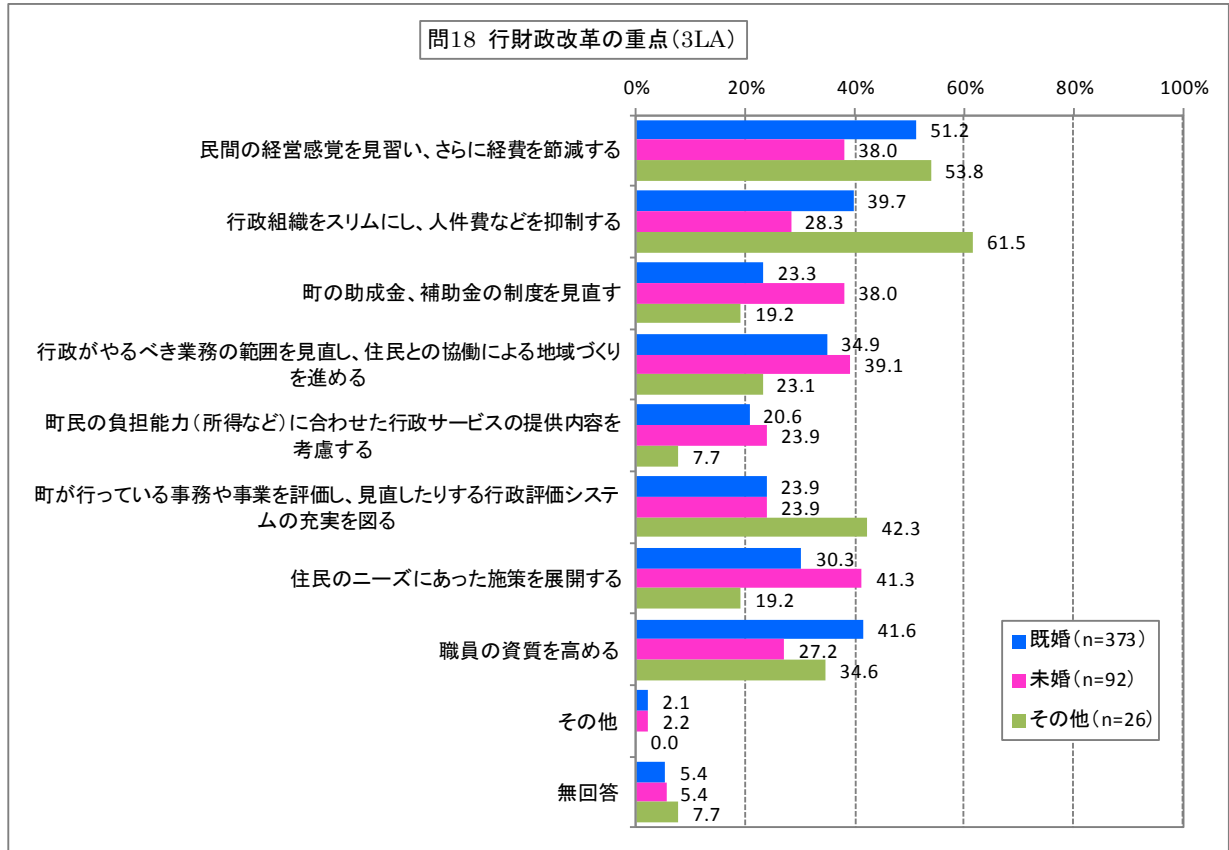
また、「行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める」は、「三世代世帯」及び「単身世帯」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

行財政改革の重点について、全体の回答割合が最も高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」を婚姻状況別で見ると、「既婚」では5割を上回っていますが、「未婚」では4割を下回っています。

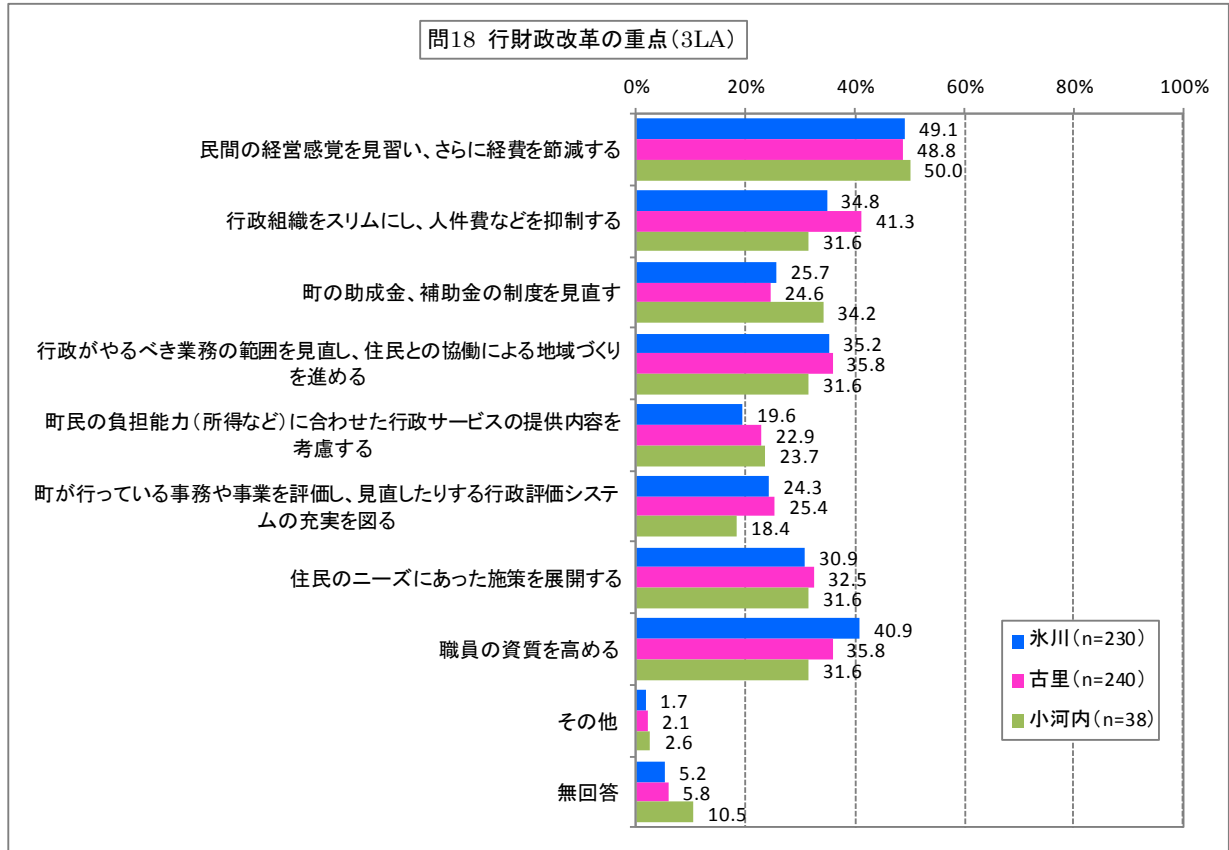
また、次いで全体の回答割合が高い「職員の資質を高める」でも、「既婚」では4割を上回っていますが、「未婚」では3割を下回る結果となっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

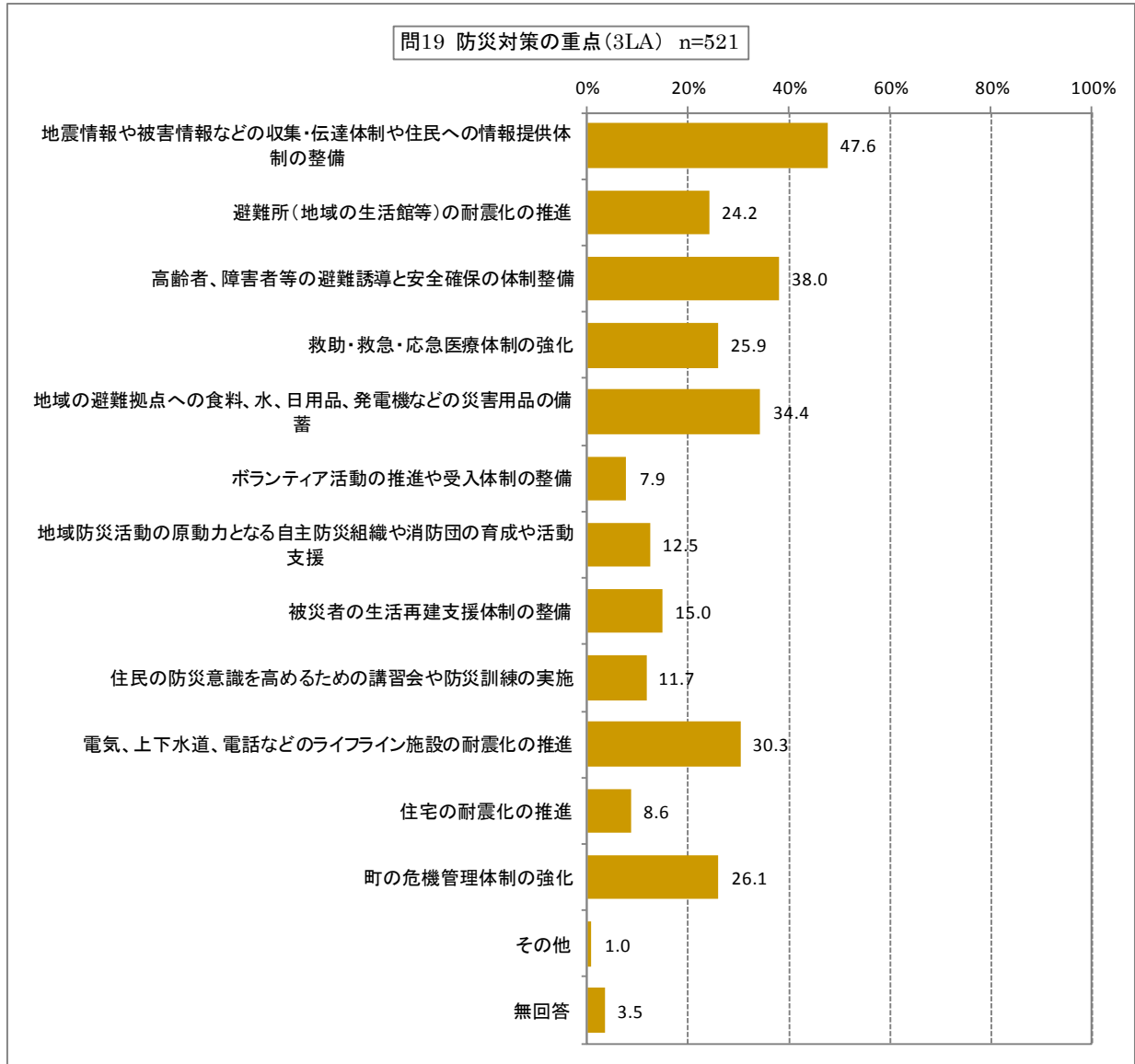
行財政改革の重点について、全体の回答割合が最も高い「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」を居住地区別で見ると、大きな差は出ていない結果となっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「職員の資質を高める」では、「氷川」で地区が 40.9% となっていますが、「古里」地区は 35.8%、「小河内」地区では 31.6% と異なる結果となっています。



問19 防災対策の重点

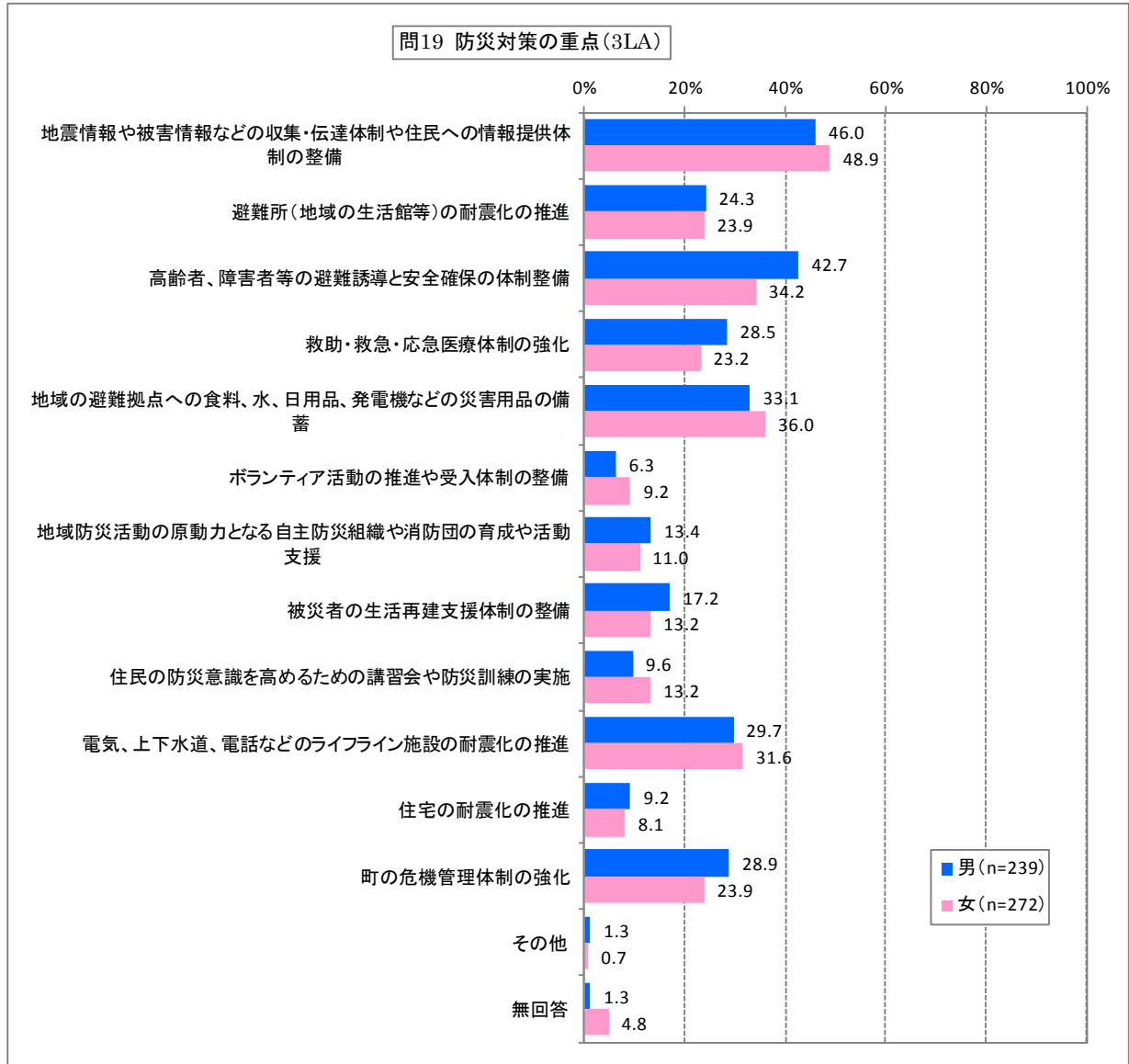
防災対策の重点については、「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」が47.6%と最も高く、次いで「高齢者、障害者等の避難誘導と安全確保の体制整備」が38.0%、「地域の避難拠点への食料、水、日用品、発電機などの災害用品の備蓄」が34.4%、「電気、上下水道、電話などのライフライン施設の耐震化の推進」が30.3%と続いています。



〔属性別結果：性別〕

防災対策の重点について、全体の回答割合が最も高い「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」を性別で見ると、大きな差は出ていない結果となっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「高齢者、障害者等の避難誘導と安全確保の体制整備」では、「男性」の回答割合が「女性」に比べ高い回答割合となっています。

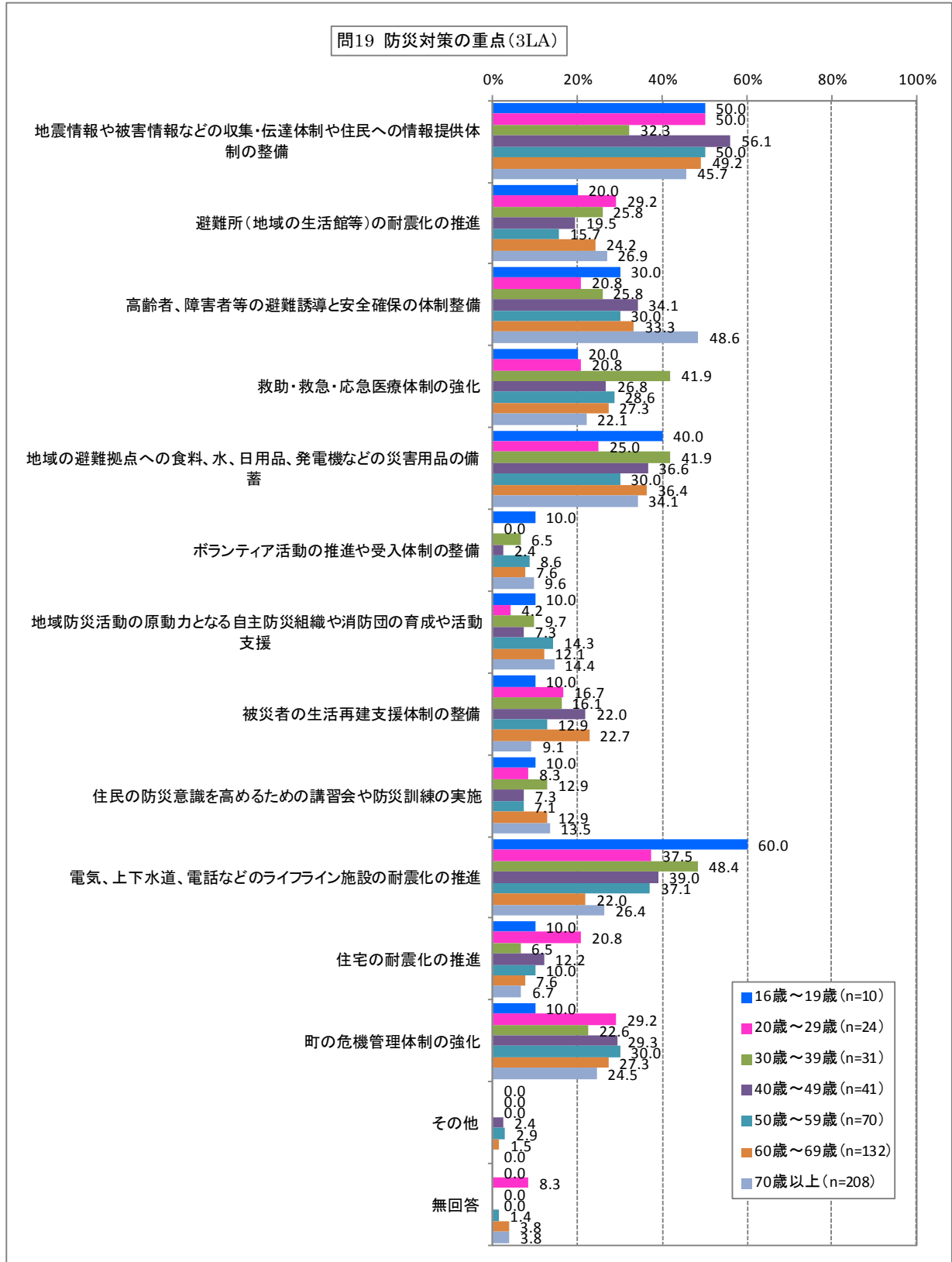




〔属性別結果：年齢別〕

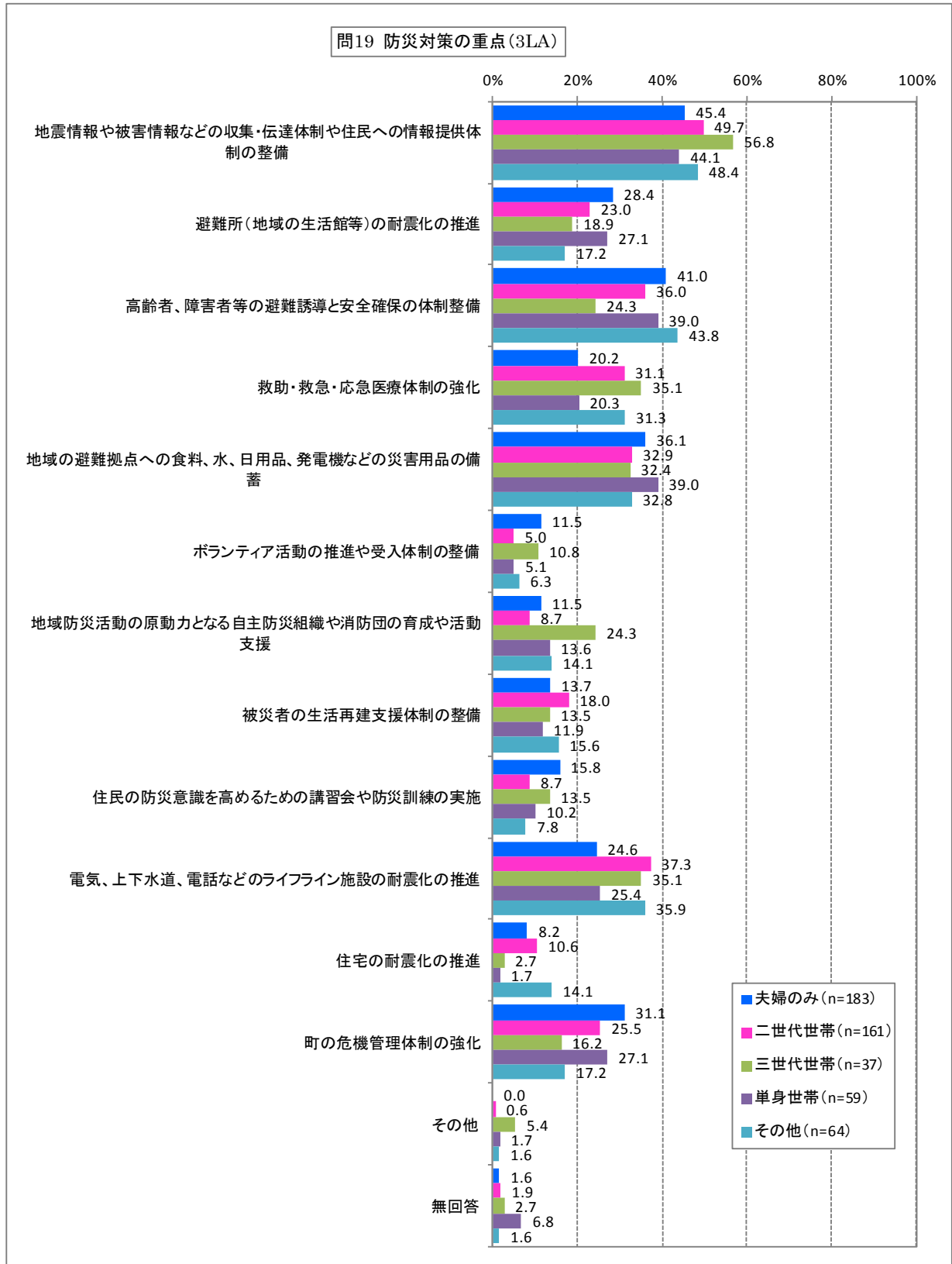
防災対策の重点について、全体の回答割合が最も高い「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」を年齢別でみると、「30歳～39歳」では低いものの、その他の年代では4割から5割の回答割合となっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「高齢者、障害者等の避難誘導と安全確保の体制整備」では、年代が高くなるにつれ回答割合が上がっており、「70歳以上」では5割近くとなっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

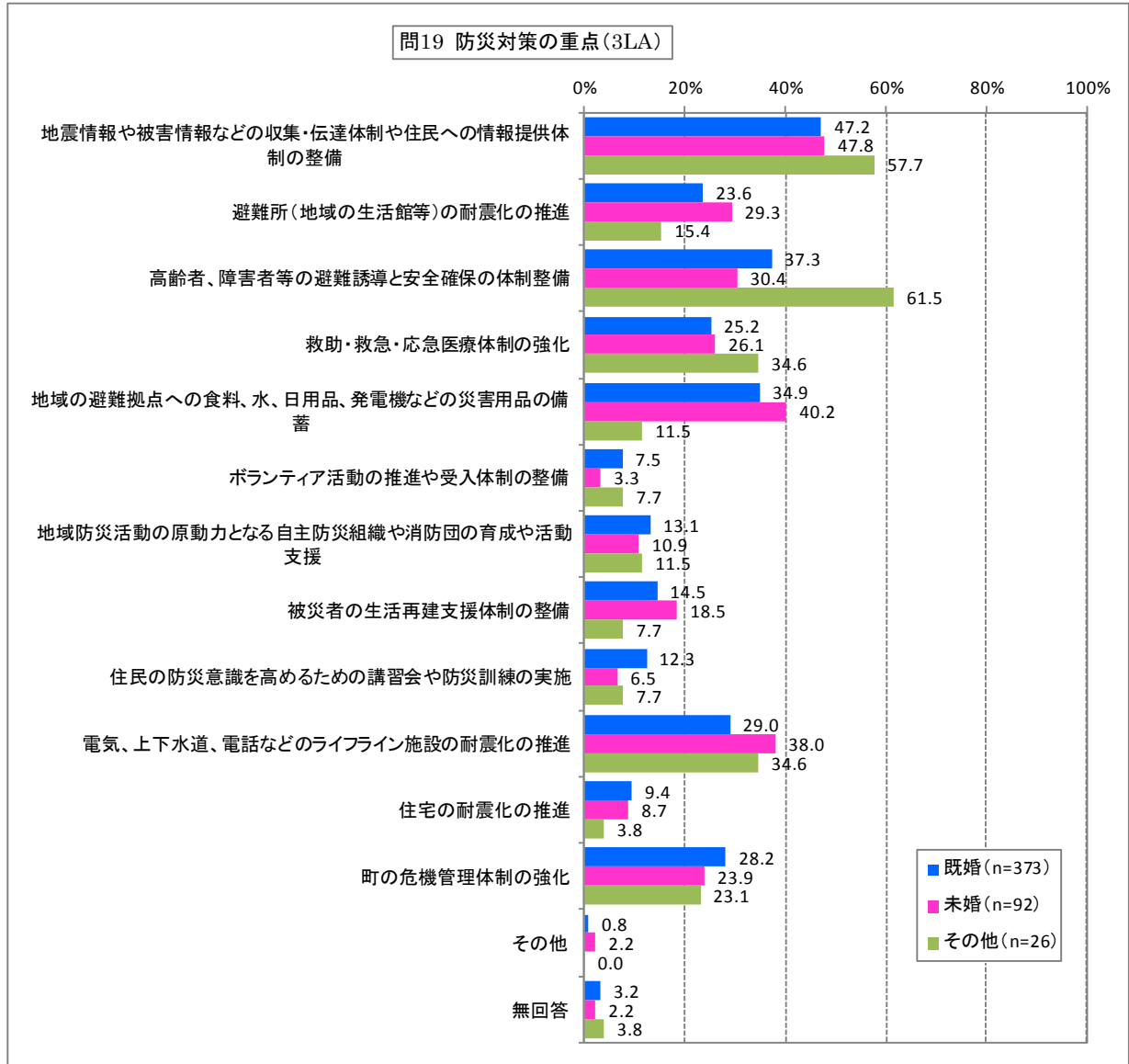
防災対策の重点について、全体の回答割合が最も高い「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」を家族構成別でみると、「三世帯世帯」で6割弱と最も高くなっており、「二世帯世帯」や「その他世帯」でも5割近くの回答割合となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

防災対策の重点について、全体の回答割合が最も高い「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」を婚姻状況別でみると、「既婚」と「未婚」の回答割合に大きな差は出ていない結果となっています。

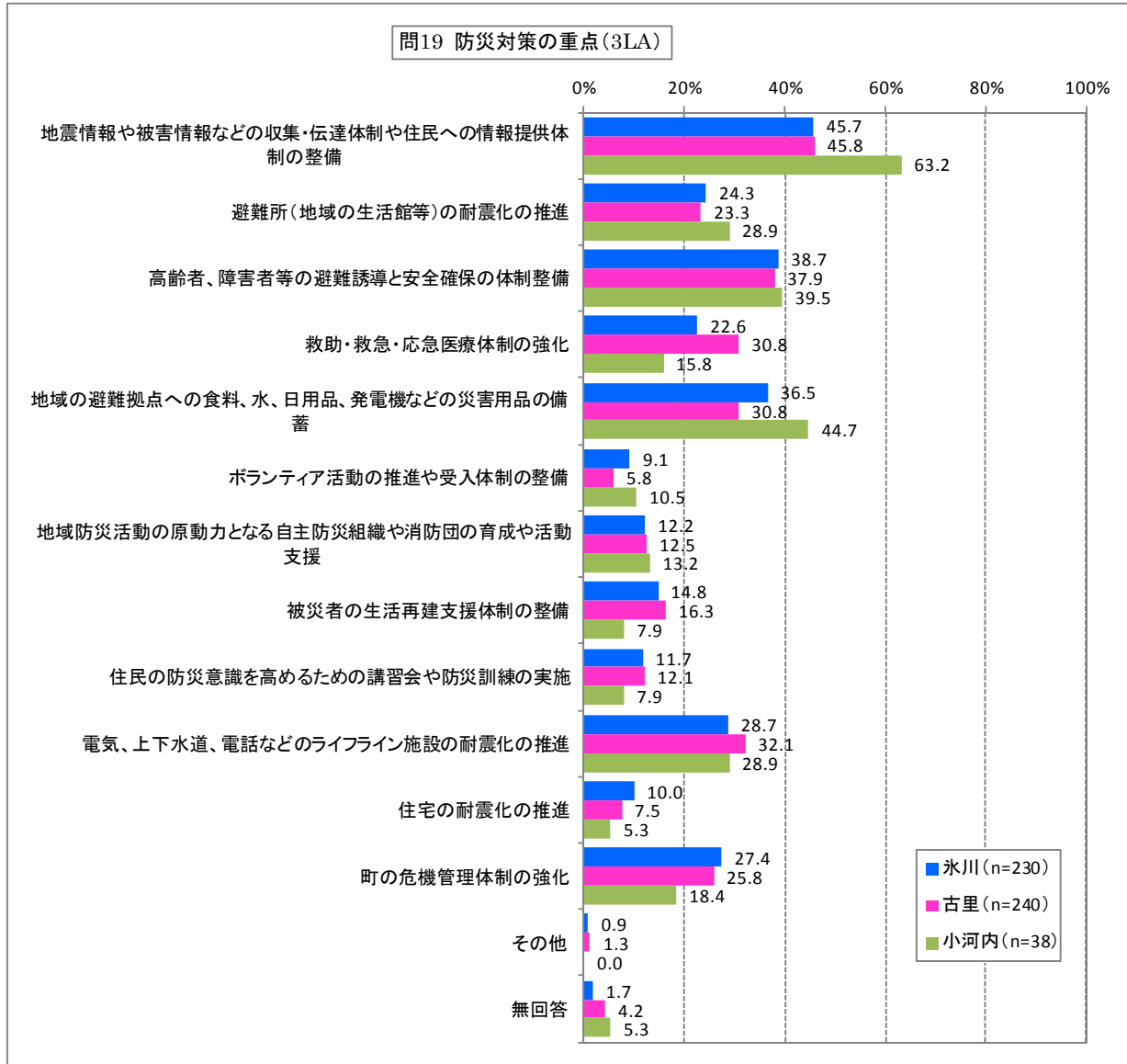
また、次いで全体の回答割合が高い「高齢者、障害者等の避難誘導と安全確保の体制整備」では、「既婚」の回答割合が「未婚」よりも高い結果となっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

防災対策の重点について、全体の回答割合が最も高い「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や住民への情報提供体制の整備」を居住地区別で見ると、「氷川」地区と「古里」地区では大きな違いはありませんが、「小河内」地区では高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「高齢者、障害者等の避難誘導と安全確保の体制整備」でも、「小河内」地区の回答割合が高い結果となっています。



問 20 行政への住民参加状況

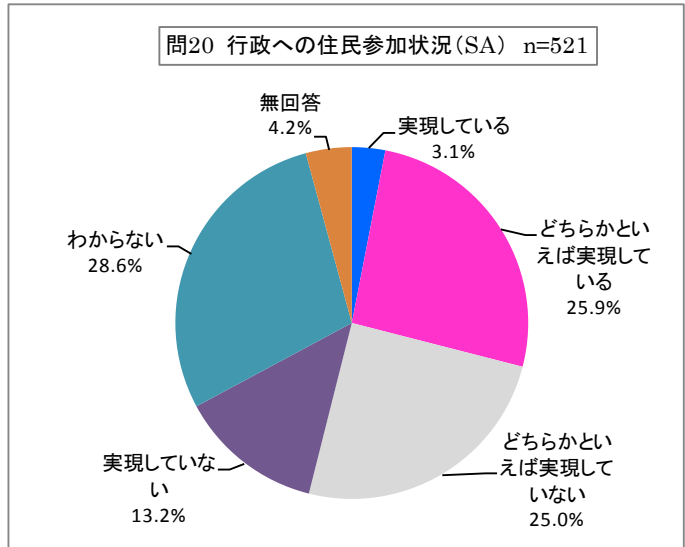
奥多摩町での住民参加状況について、「実現している」が 3.1%、「どちらかといえば実現している」が 25.9%であり、「実現している」と感じている割合は 29.0%となっています。

一方、「どちらかといえば実現していない」が 25.0%、「実現していない」が 13.2%であり、「実現していない」と感じている割合は 38.2%となっており、「実現していない」が上回っています。

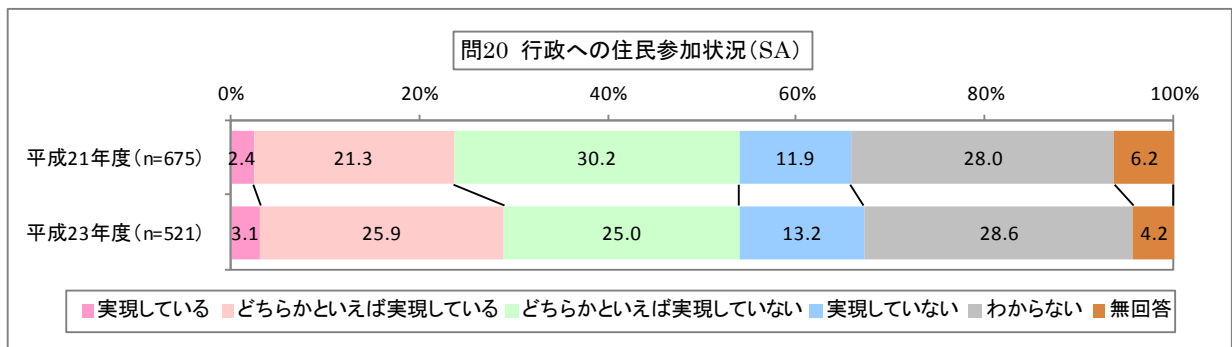
なお、性別では、「実現している」の回答割合に大きな違いは出ていませんが、「実現していない」では「男性」の回答割合が「女性」に比べ高くなっています。

また、年齢別では「30 歳～39 歳」及び「40 歳～49 歳」の「実現していない」の回答割合が他の年代に比べ高く、6 割近くとなっています。

居住地区別では、「小河内」地区の 18.4%に比べ、「氷川」地区と「古里」地区の「実現していない」の回答割合がともに 39.6%と高くなっています。

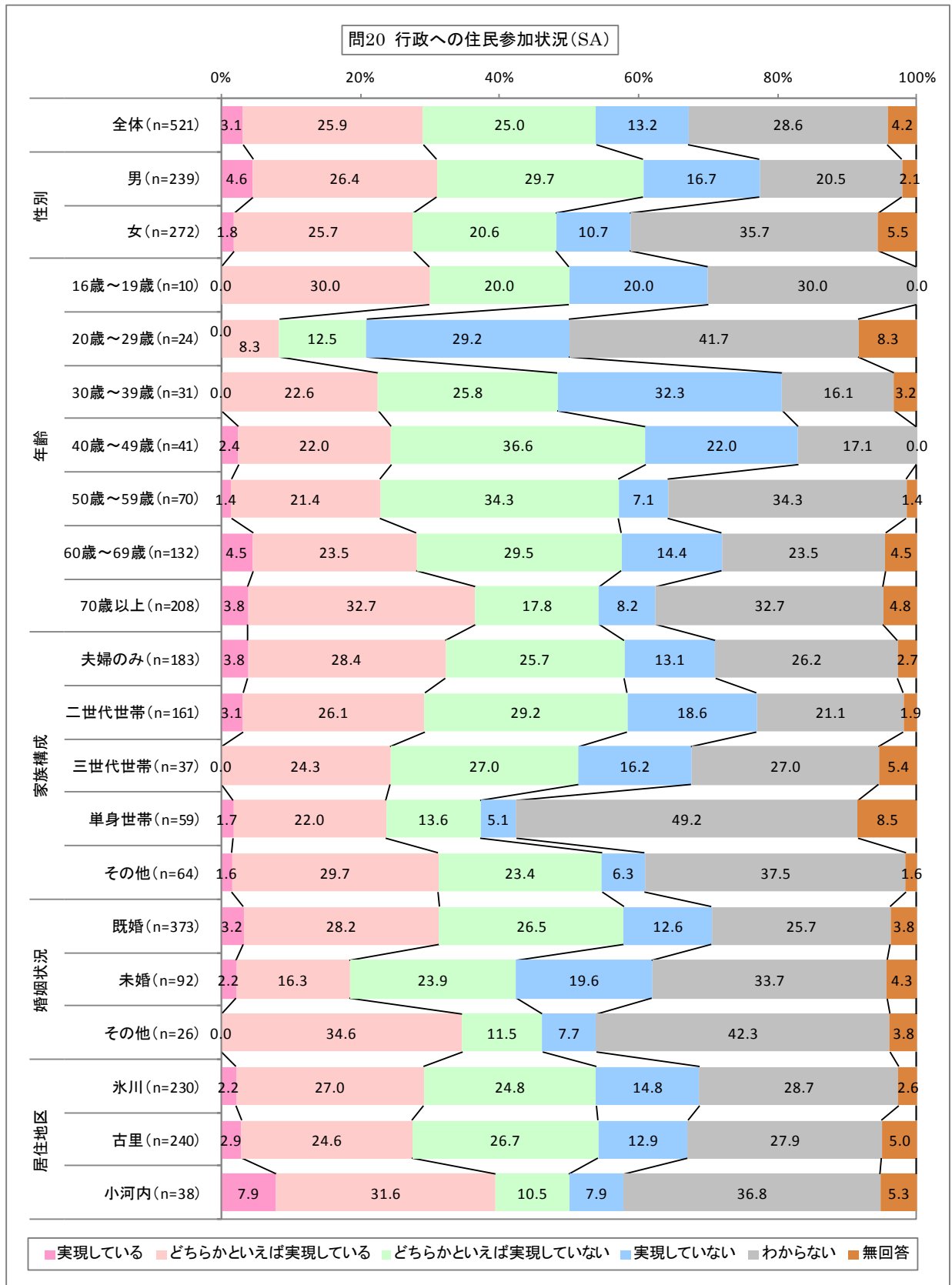


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度は、平成 21 年度に比べ「実現している」の回答割合が増加し、「実現していない」の回答割合が減少しています。

〔属性別 結果一覧〕



## 問 21 住民と行政との役割分担

各種の活動についての住民と行政との役割分担については、14 の活動のうち「主に行政（町）が行う」が最も多かった活動が 2 つ、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が 5 つ、「住民と行政が協働して行う」が 7 つとなり、多くの活動は「住民が行政に活動に協力する」かあるいは「住民と行政が協働して行う」ことが望まれている結果となっています。

「主に行政（町）が行う」が最も多かったのは、

「カ 保健・医療や福祉の増進を図る活動」

「シ 国内外との協力・交流を推進する活動」

です。

また、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が最も多かったのは、

「エ 防災や災害救援の活動」

「キ 高齢者等の介護を支援する活動」

「サ 学校教育の充実を図る活動」

「ス 町の総合計画等各種計画の策定に参加する活動」

「セ 男女共同参画を推進したり、啓発する活動」

です。

「住民と行政が協働して行う」が最も多かったのは、

「ア 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」

「イ ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」

「ウ環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」

「オ 交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動」

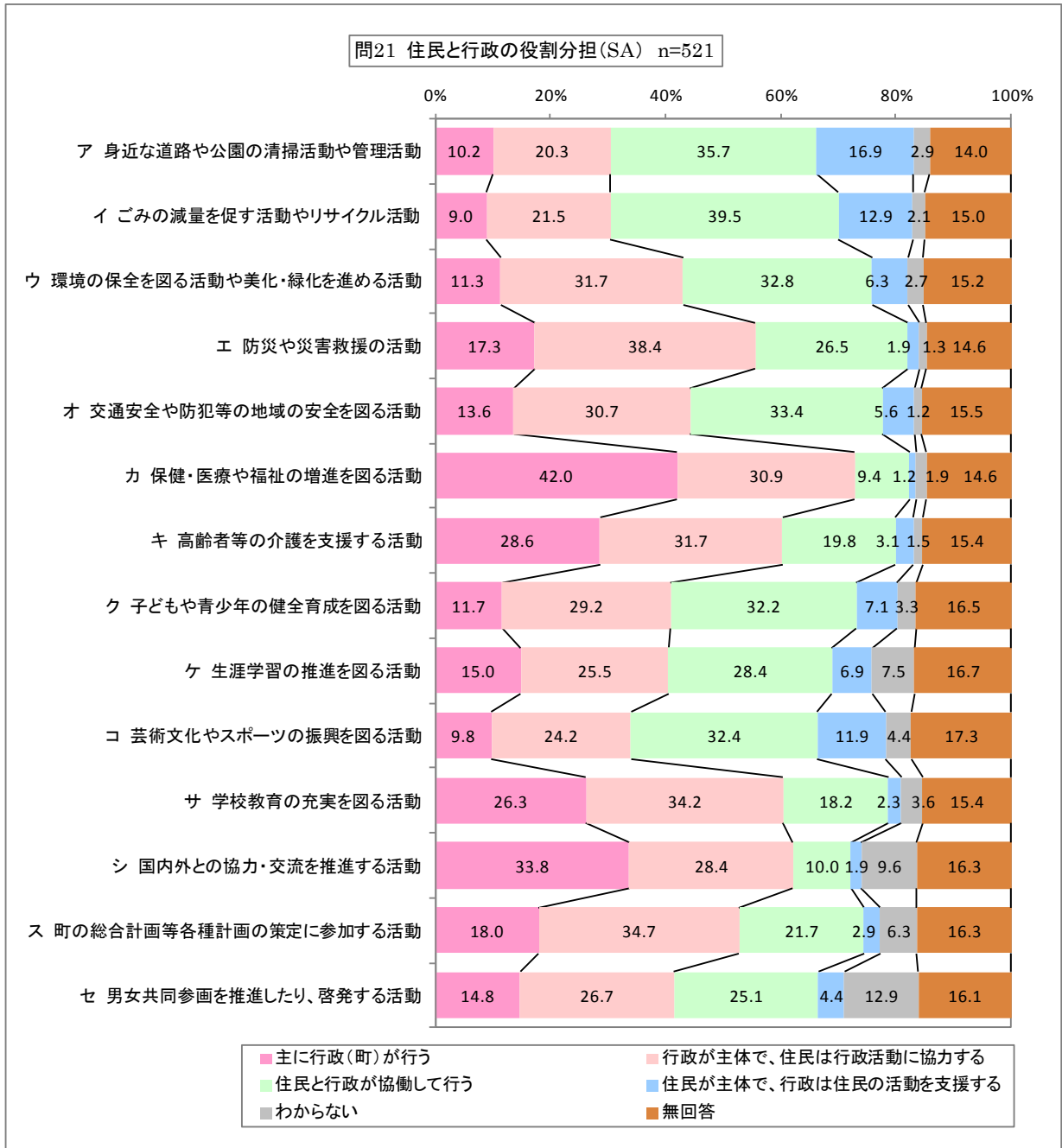
「ク 子どもや青少年の健全育成を図る活動」

「ケ 生涯学習の推進を図る活動」

「コ 芸術文化やスポーツの振興を図る活動」

となっています。

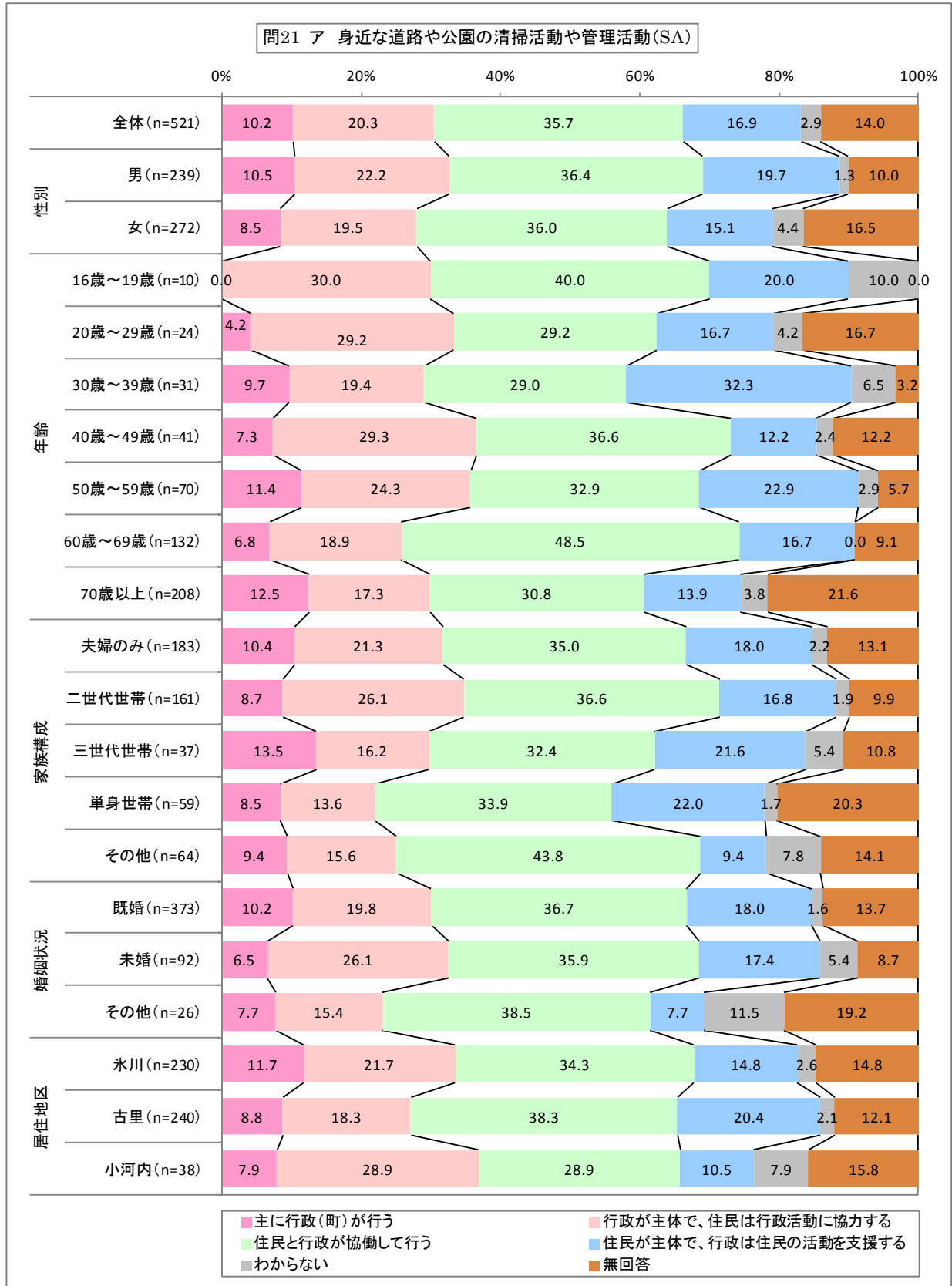
なお、この結果は平成 21 年度調査とほぼ同じ結果となっています。

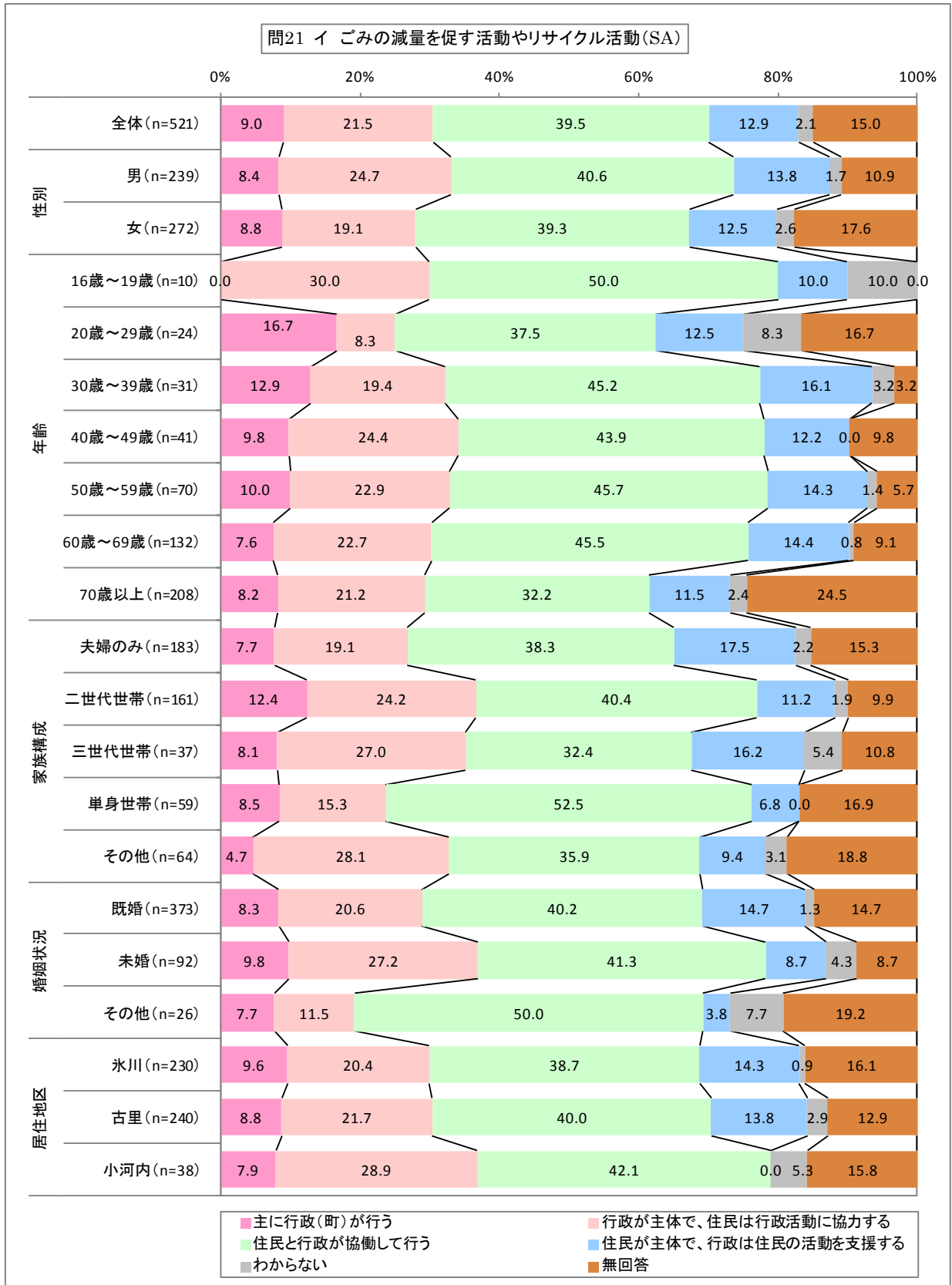


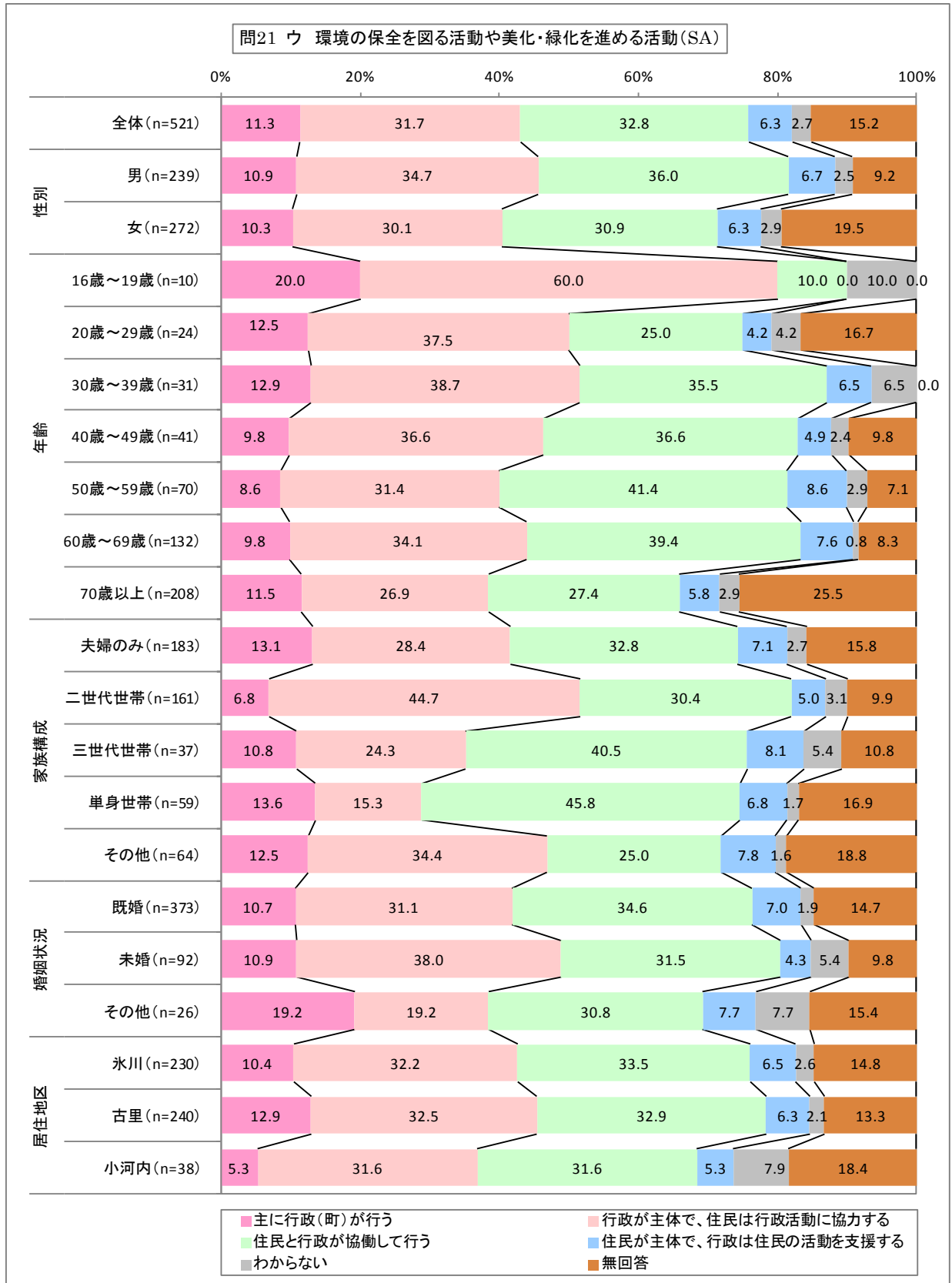


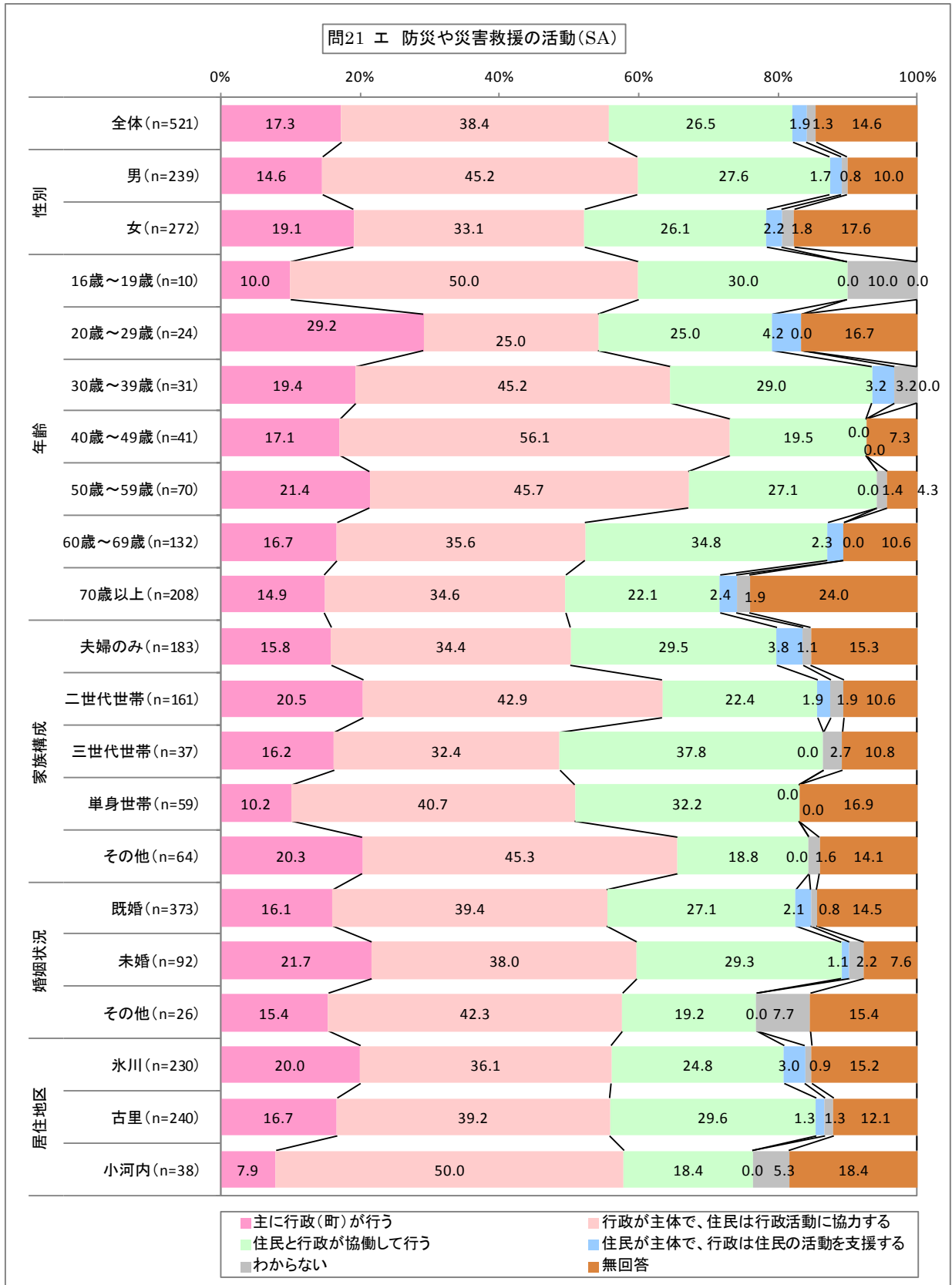
〔活動項目別属性別 結果一覧〕

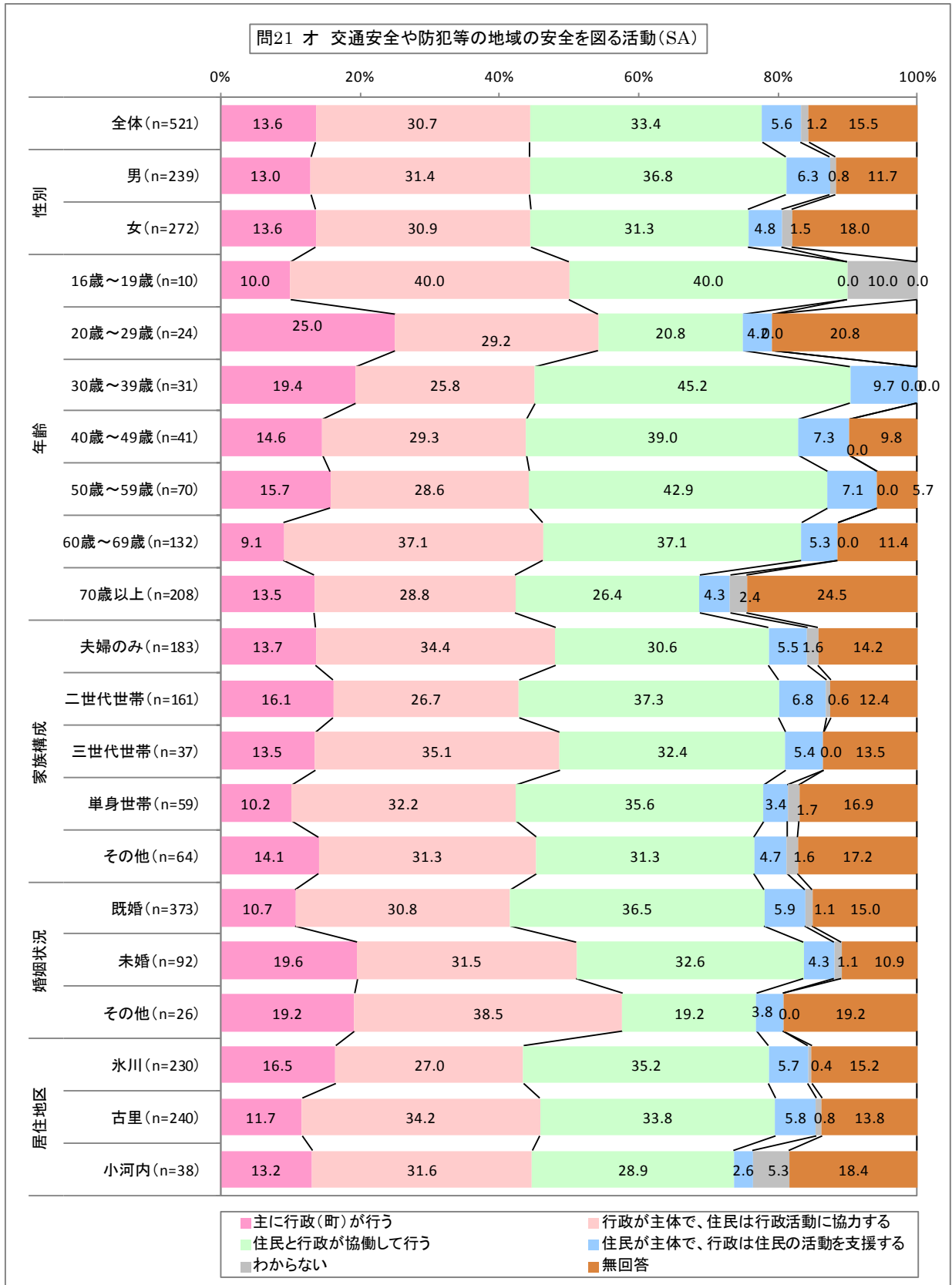
アからセまでの14の活動について、それぞれの属性別の回答結果は以下のとおりです。

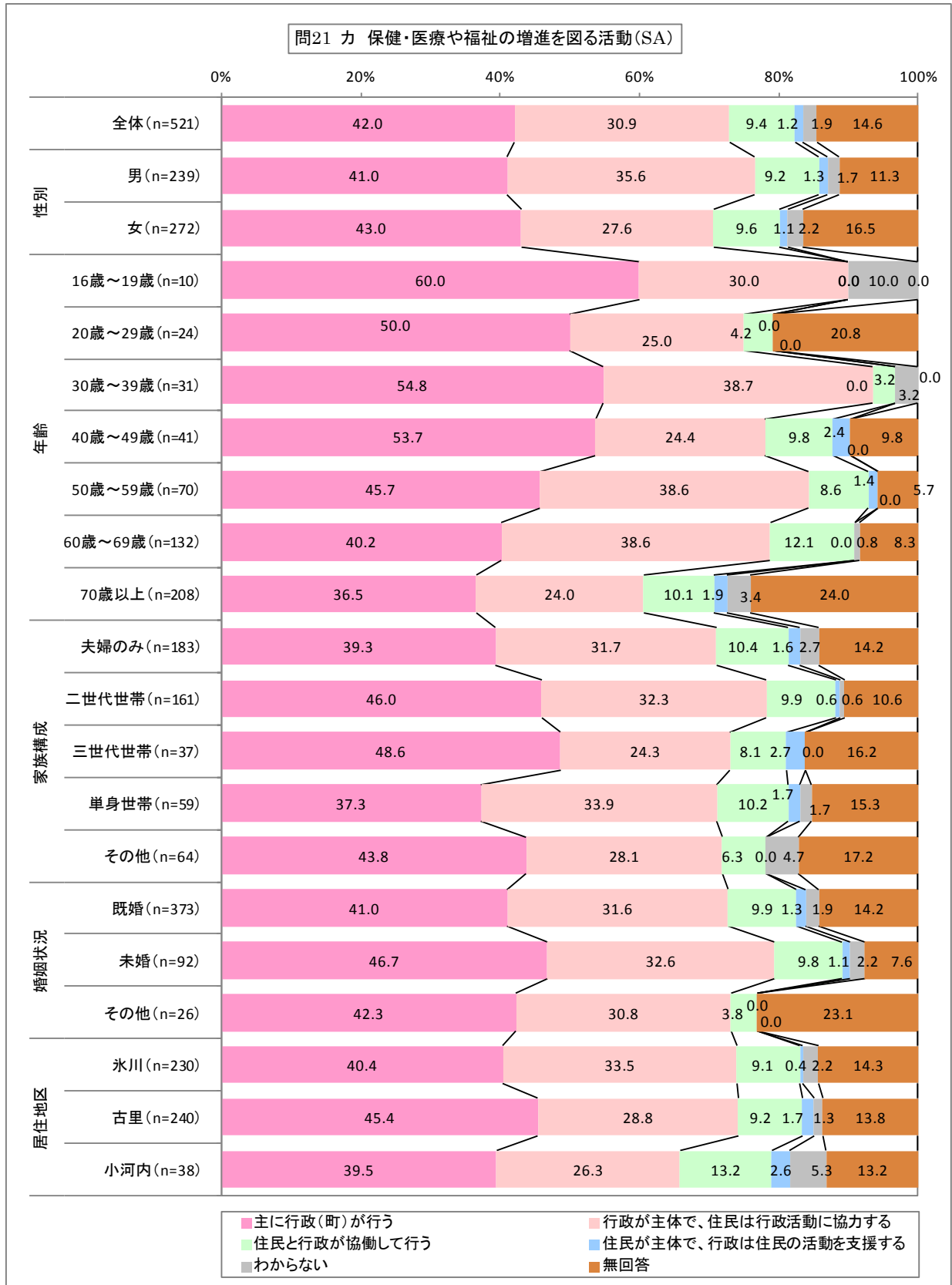


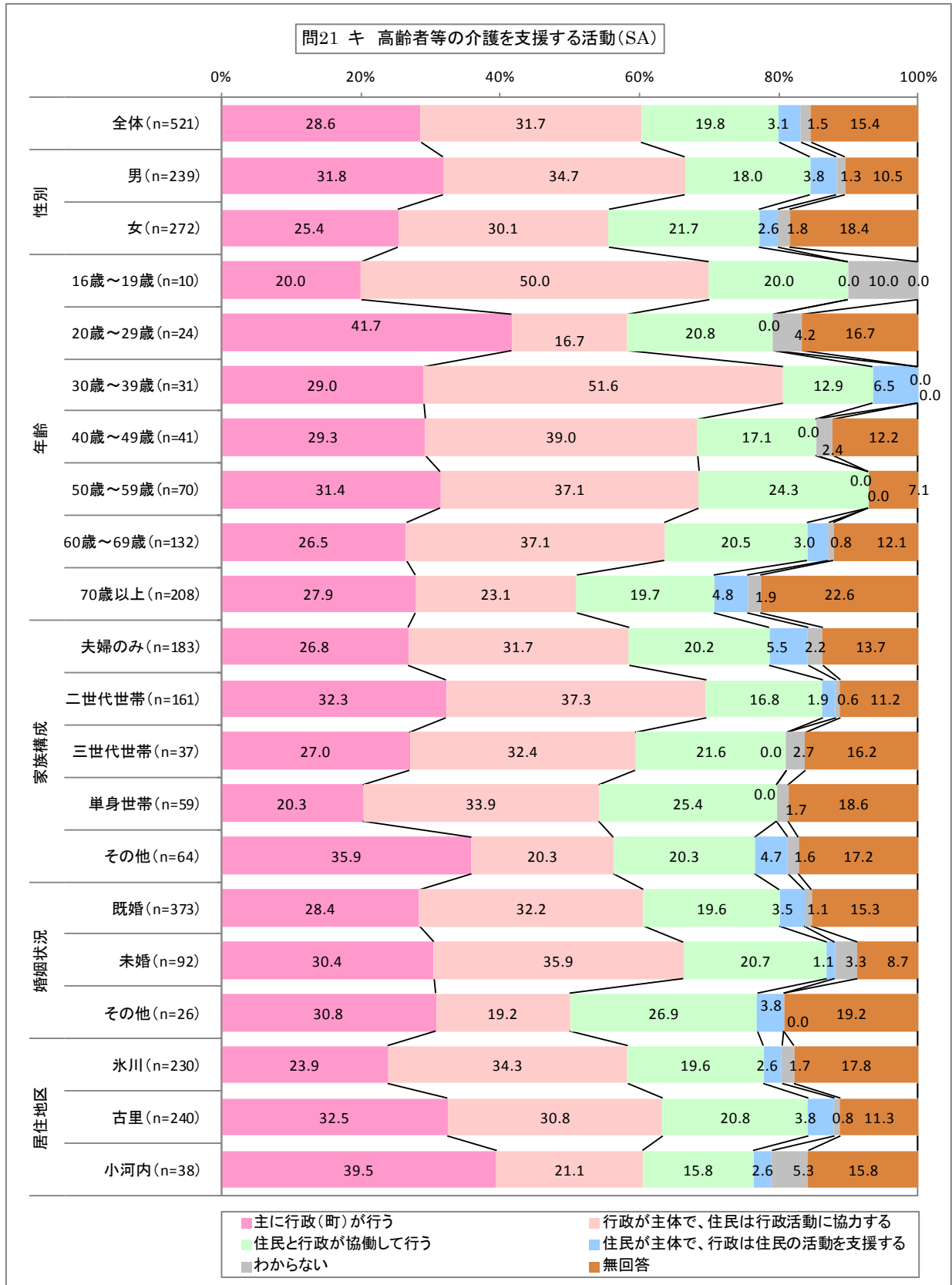


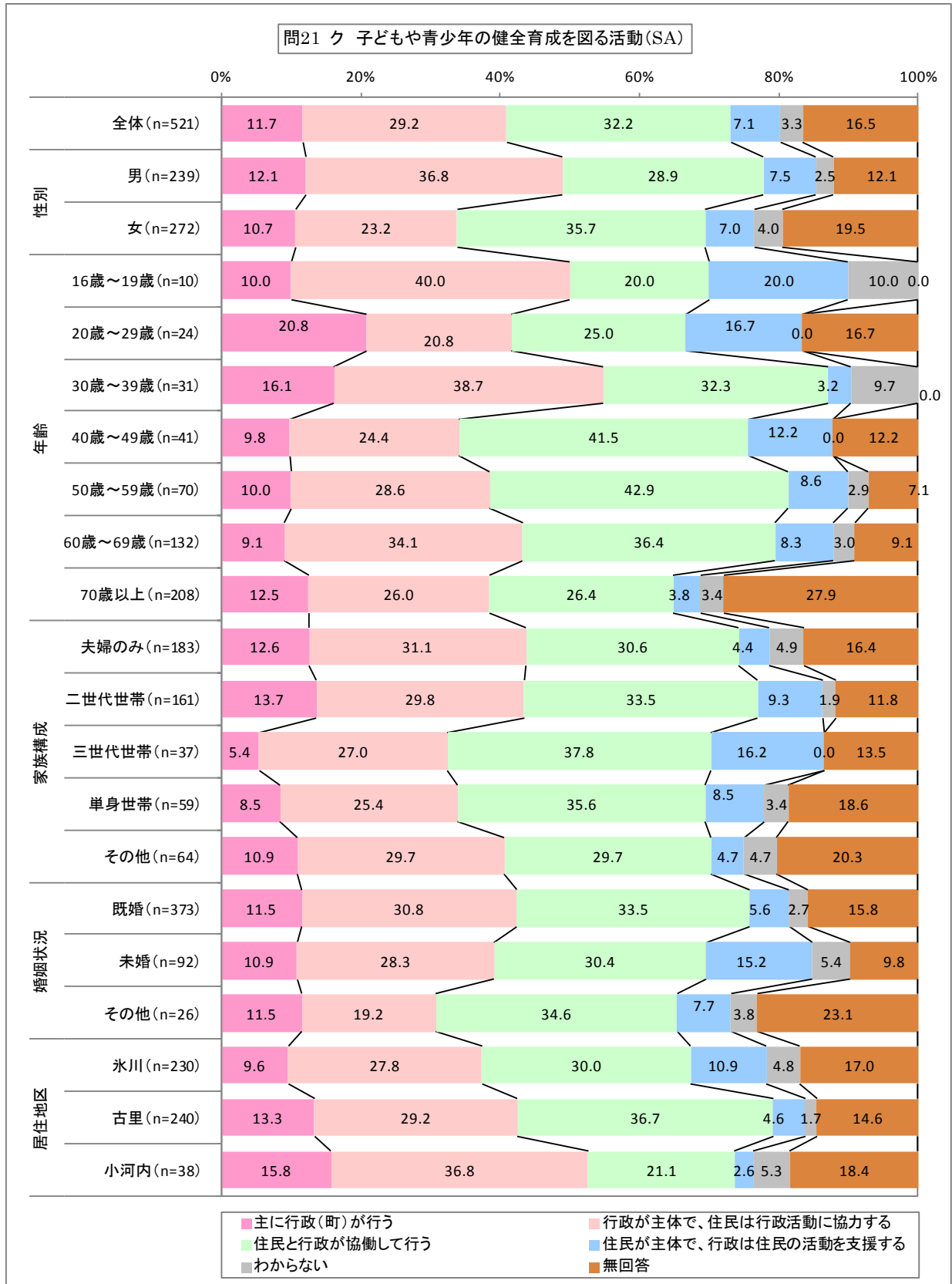




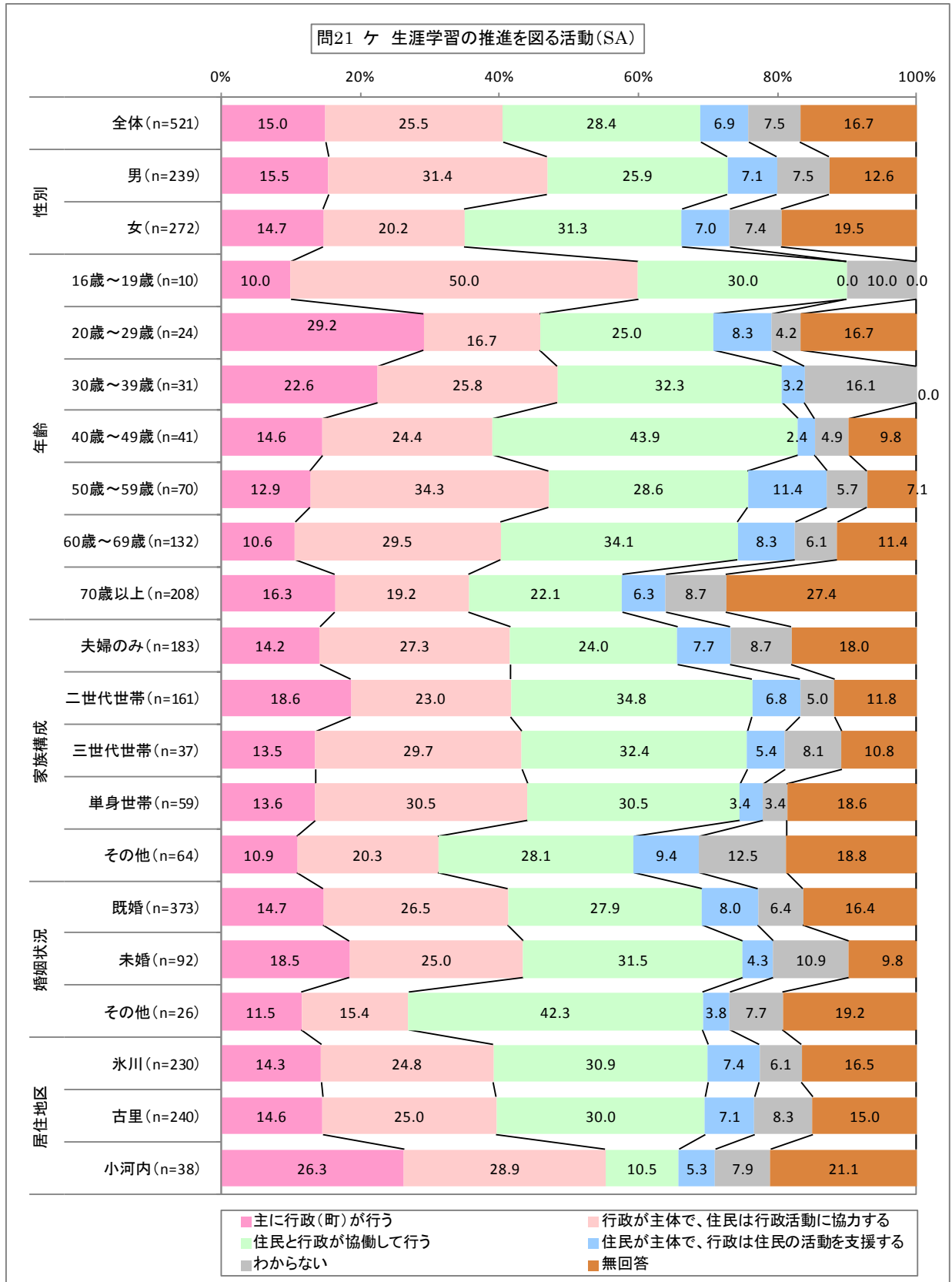


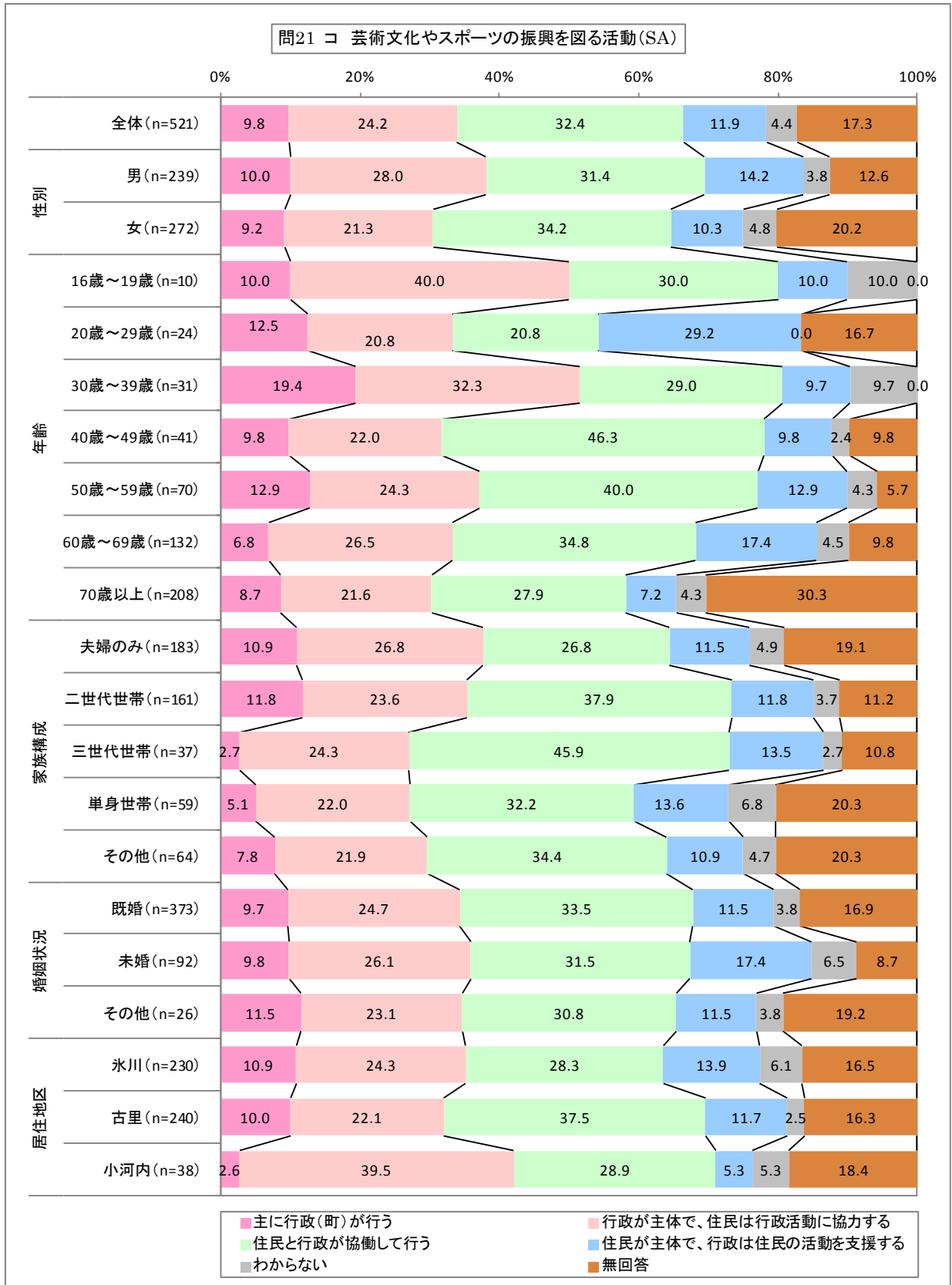


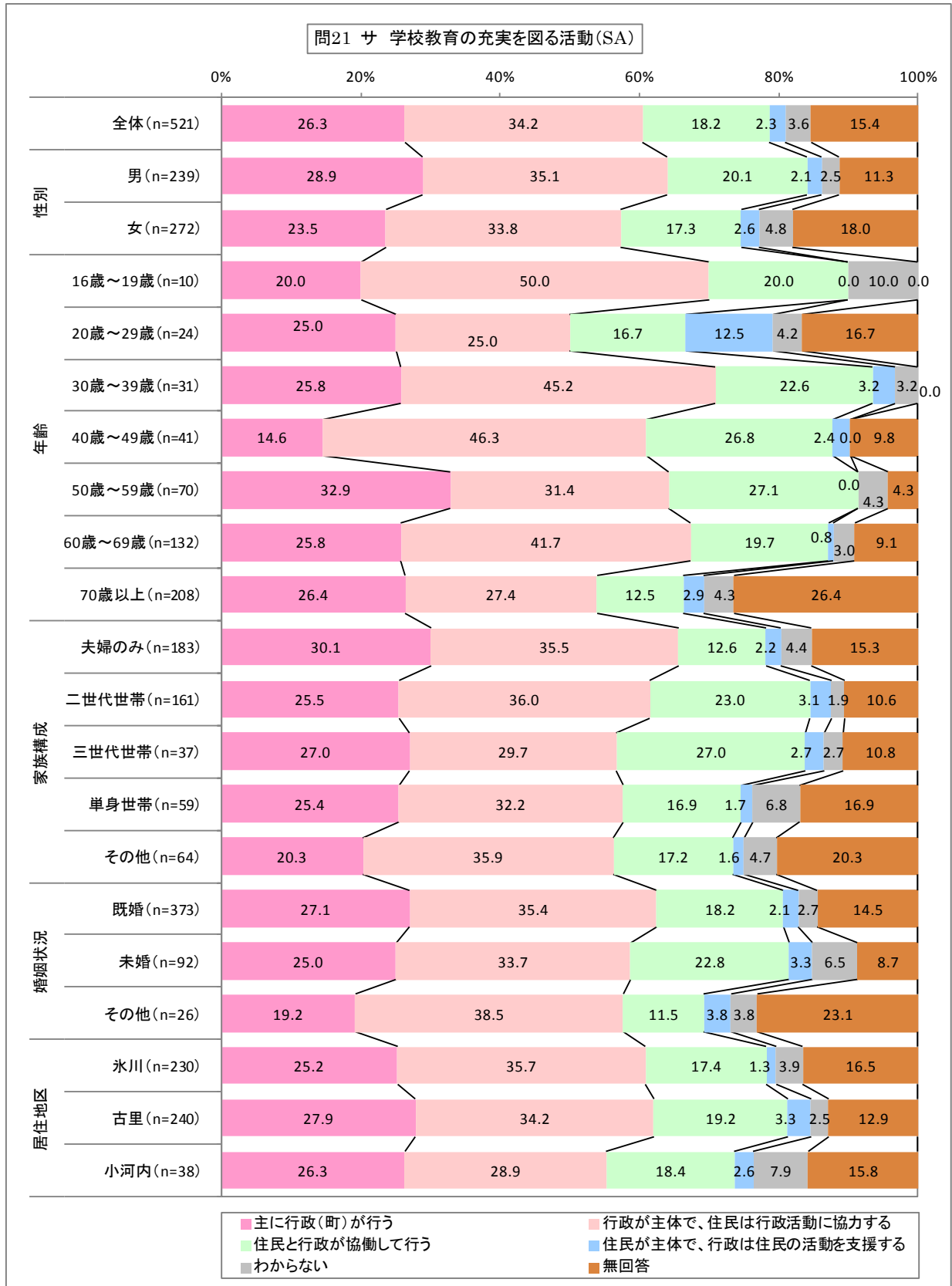


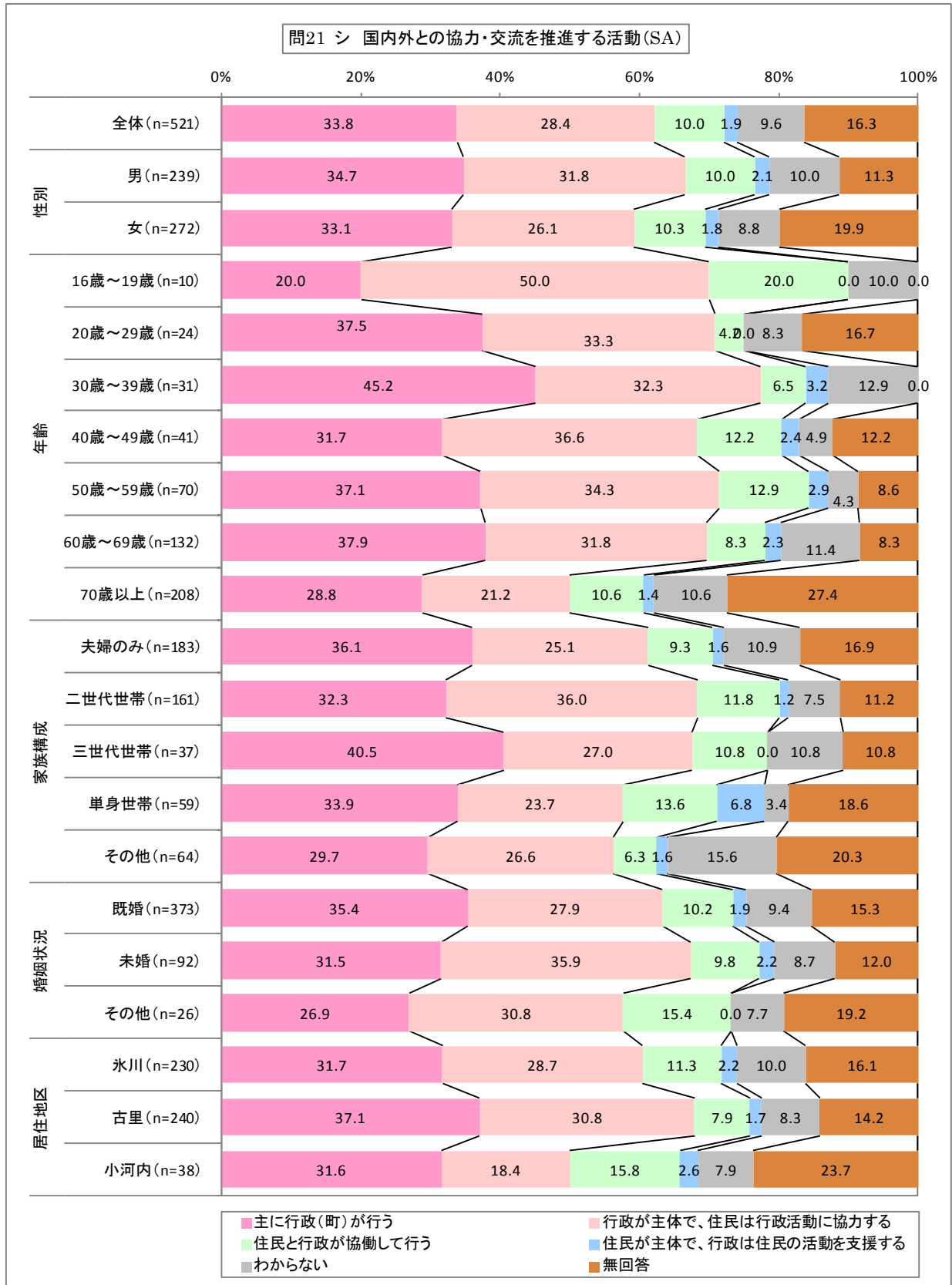


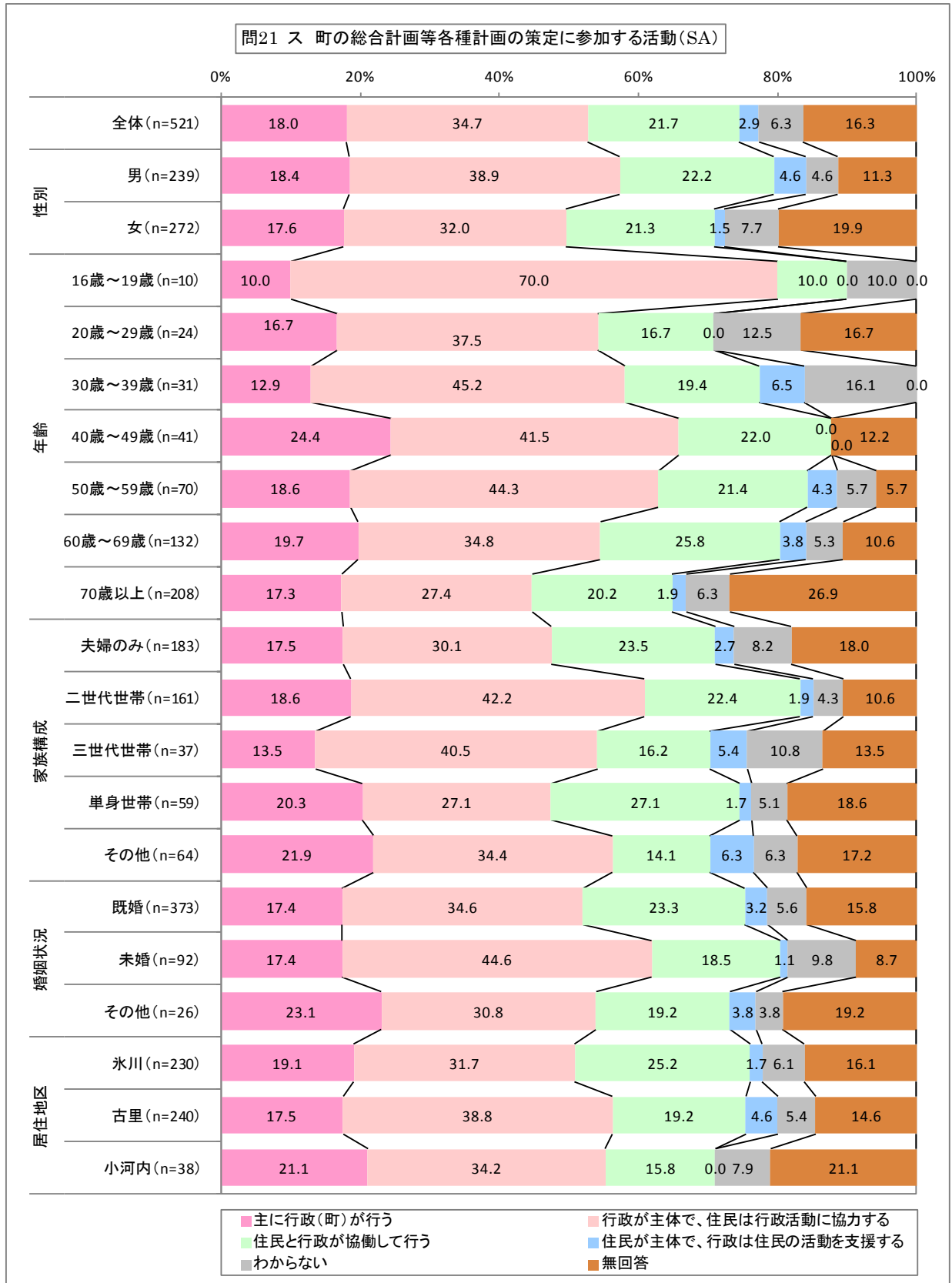


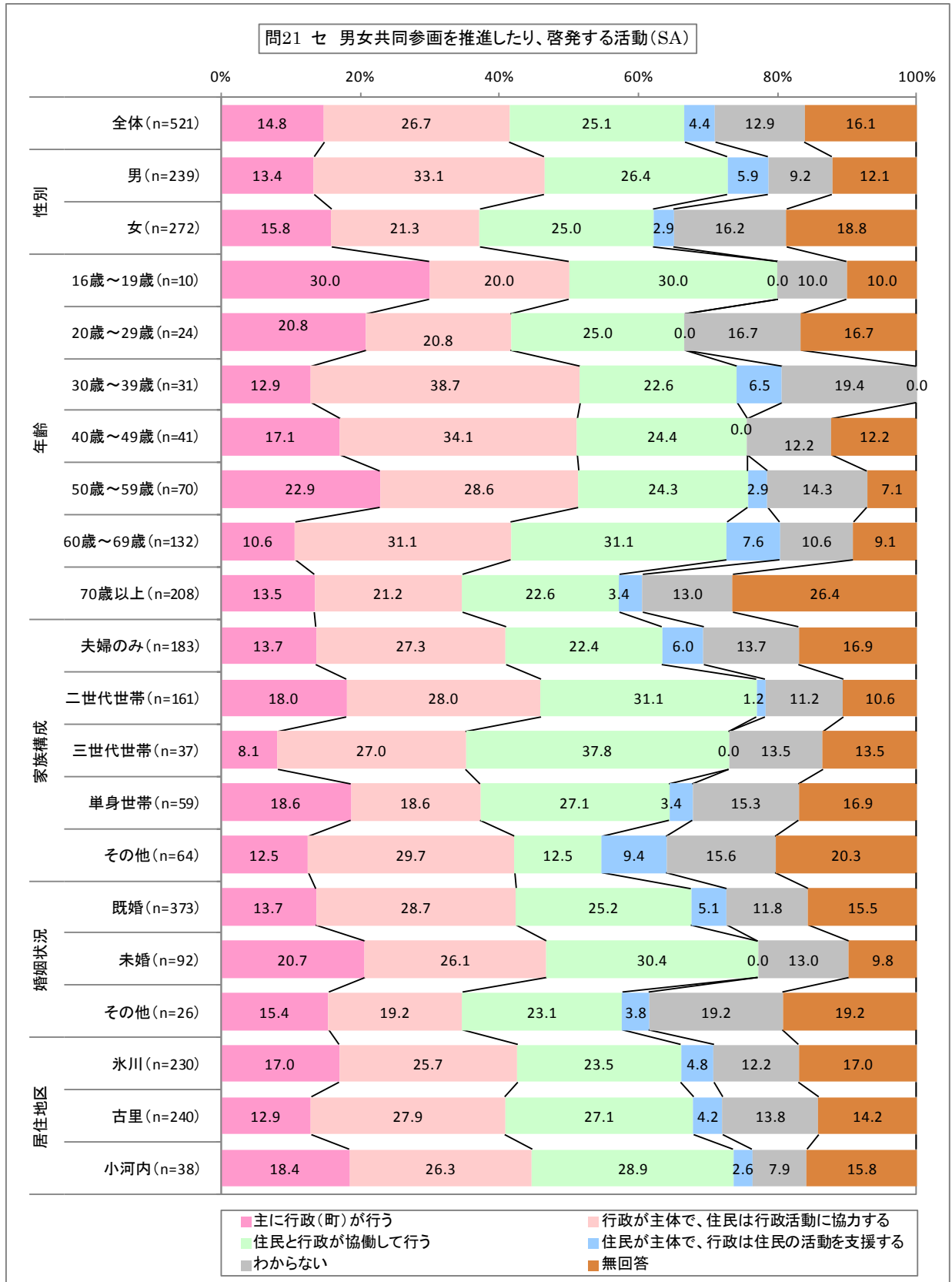






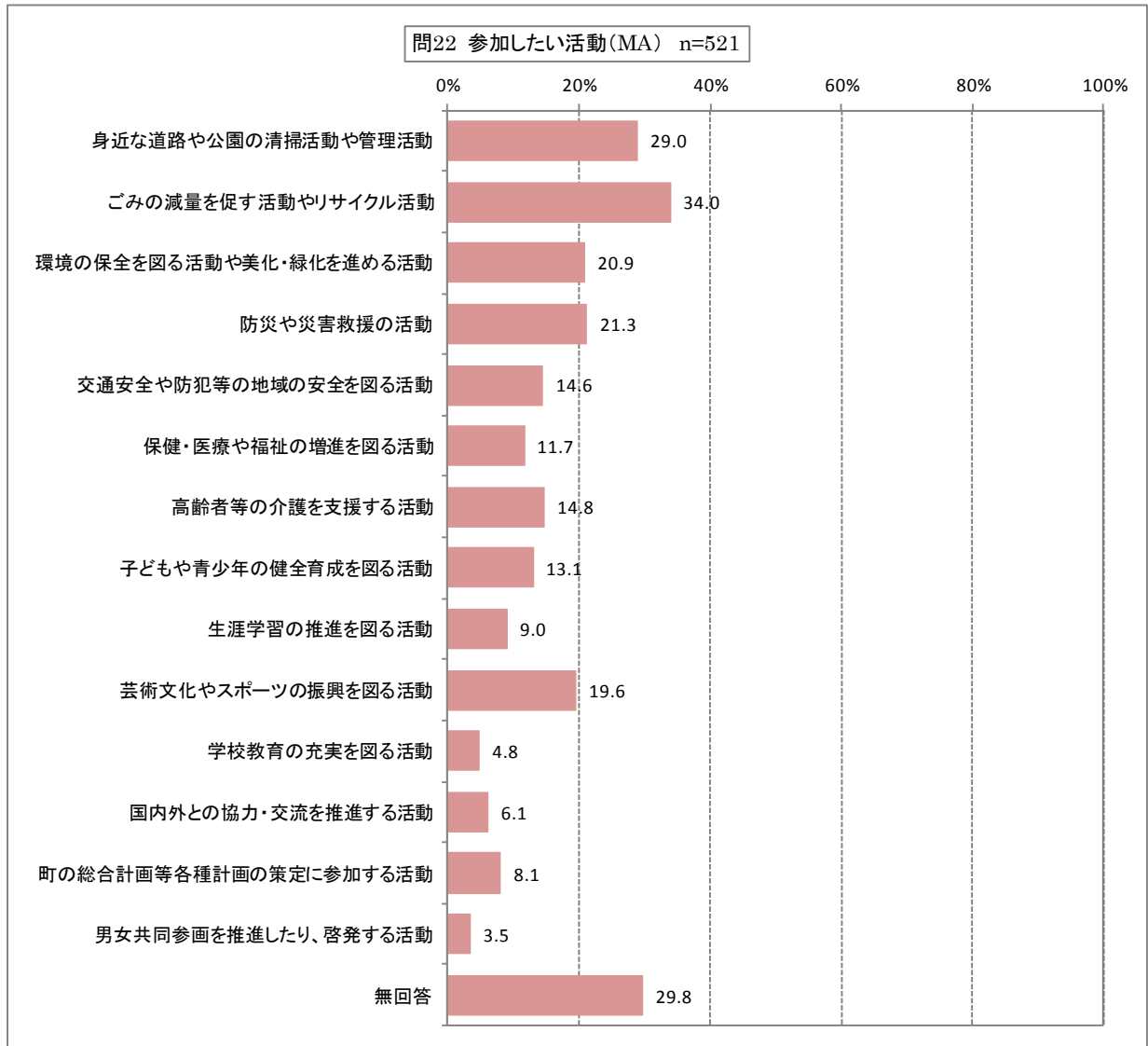






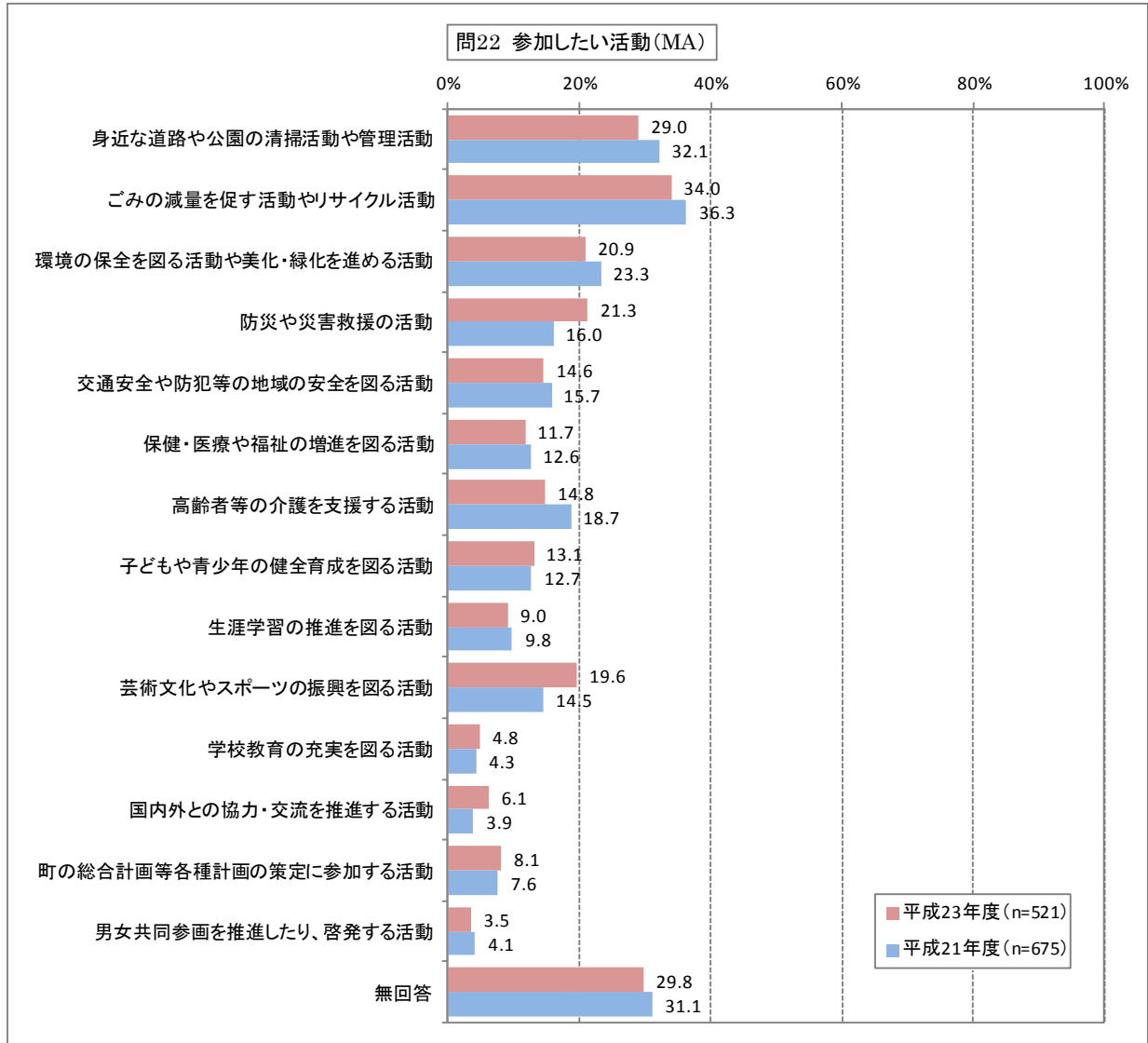
問 22 参加したい活動

前問（問 21）の活動のうち、積極的に参加したい活動については、「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」が最も高く 34.0%となっており、次いで「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」が 29.0%、「防災や災害救援の活動」が 21.3%、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」が 20.9%、「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」が 19.6%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」、「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」及び「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」は多少減少し、「防災や災害救援の活動」及び「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」は増加する結果となっており、回答者の意識の変化が認められます。



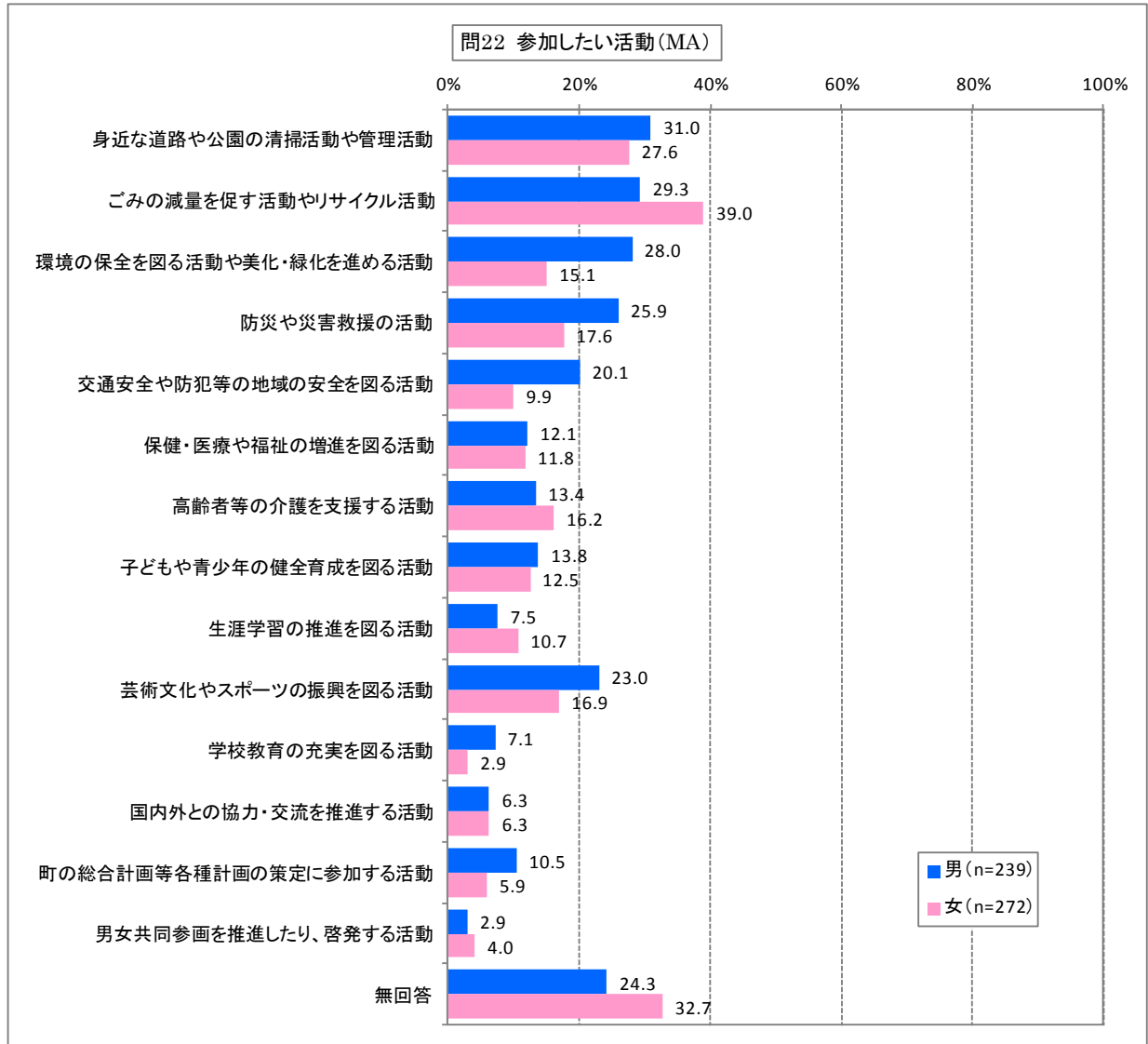


〔属性別結果：性別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を性別で見ると、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」では、「女性」よりも「男性」の回答割合が多少高い結果となっています。

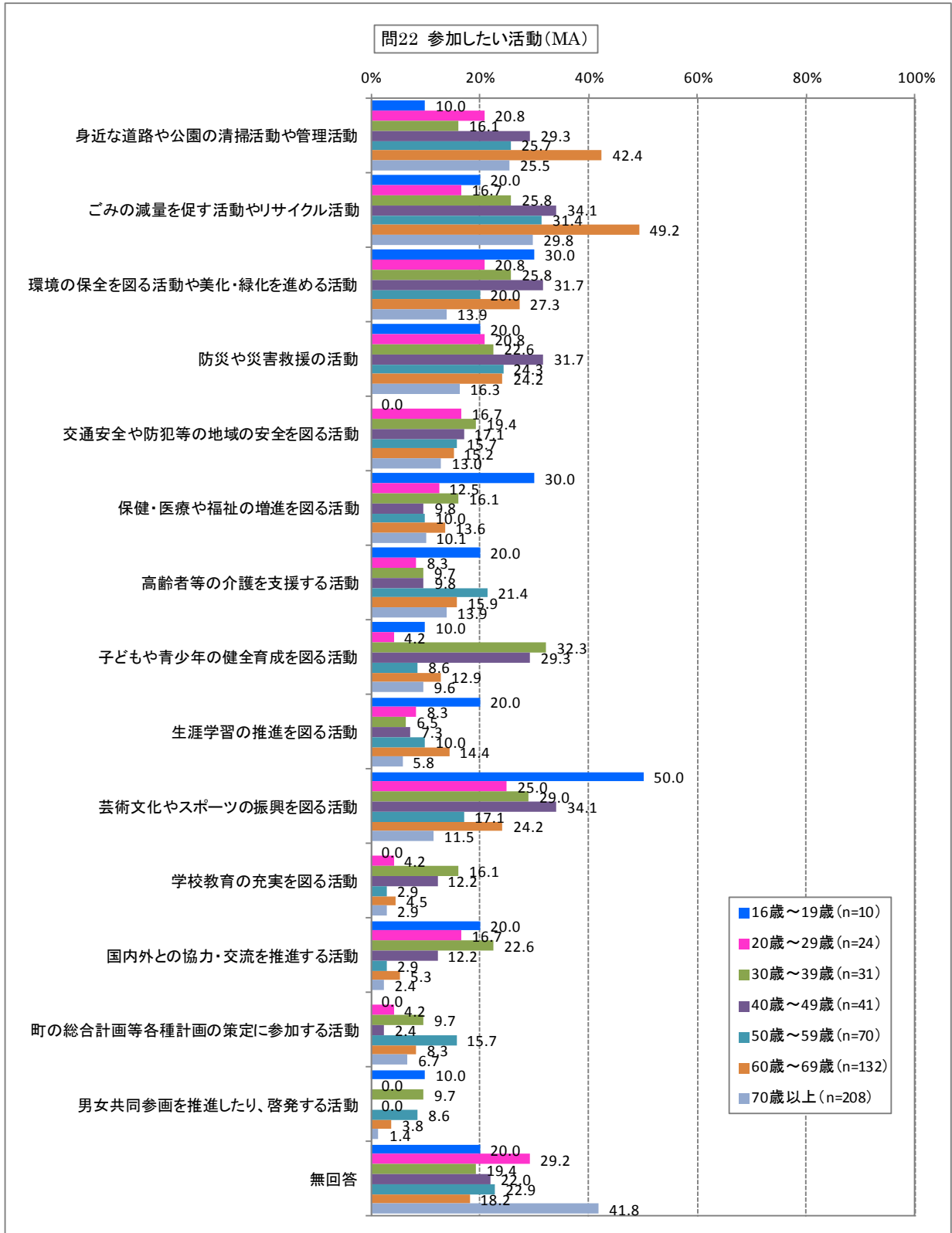
なお、回答者の意識の変化が認められた「防災や災害救援の活動」は、「女性」よりも「男性」の回答割合が多少高い結果となっています。



〔属性別結果：年齢別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を年齢別でみると、「60歳～69歳」の回答割合が最も高くなっています。

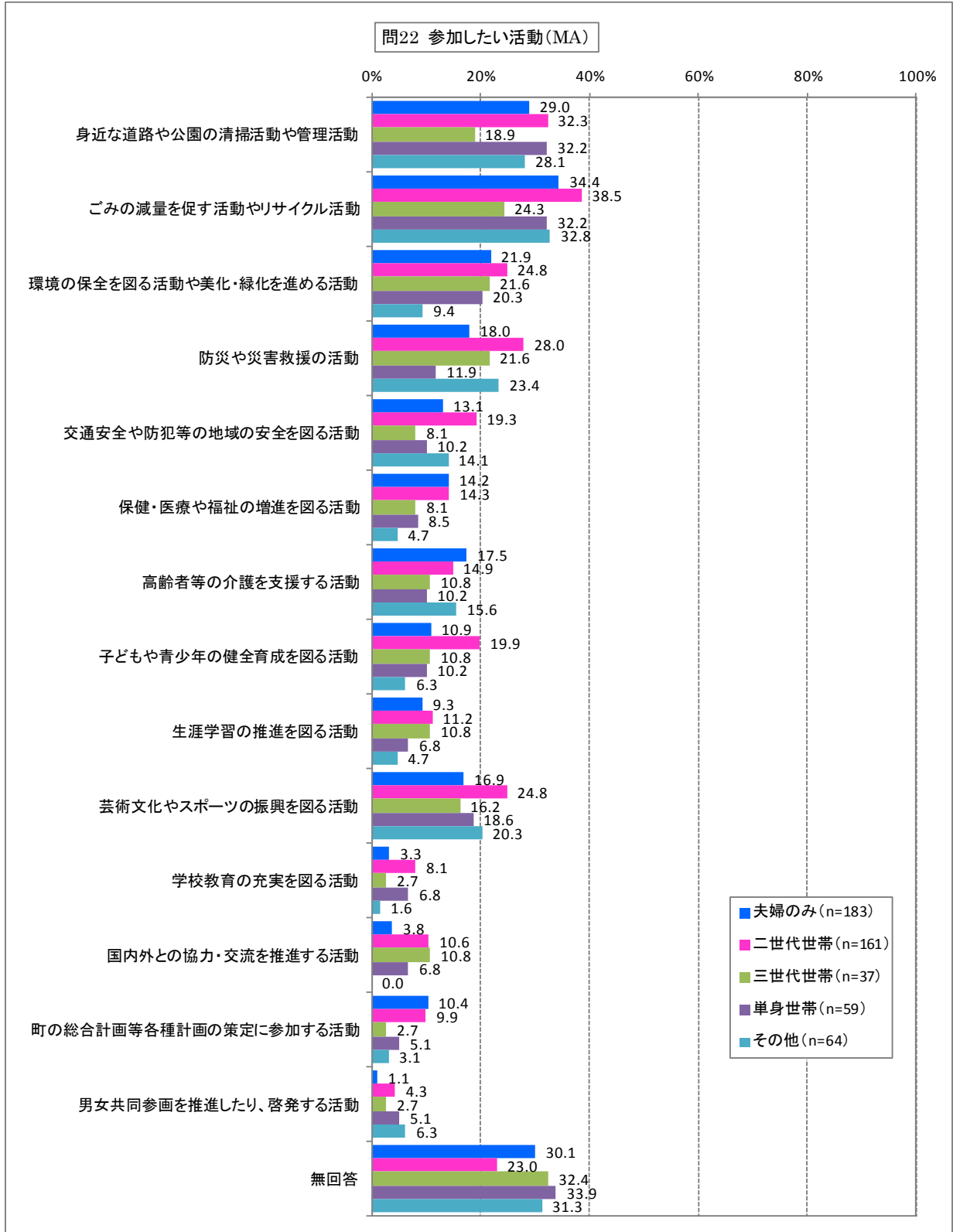
また、次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」でも、「60歳～69歳」の回答割合が最も高くなっており、回答者の意識の変化が認められた「防災や災害救援の活動」では、「40歳～49歳」の回答割合が高い結果となっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を家族構成別でみると、「二世世代世帯」が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」となっています。

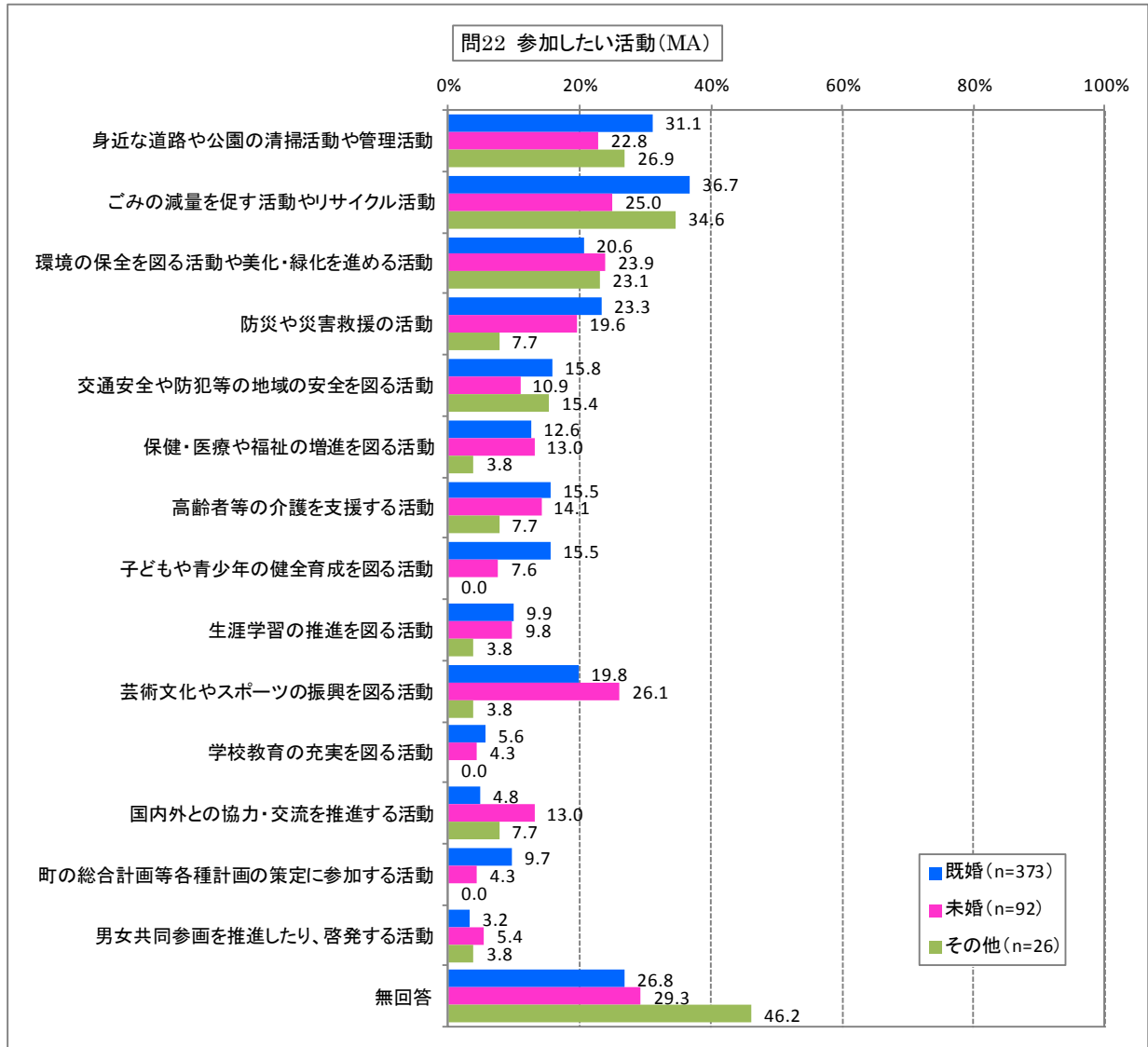
また、回答者の意識の変化が認められた「防災や災害救援の活動」でも、「二世世代世帯」が最も高い結果となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を婚姻状況別で見ると、「既婚」の回答割合が高く、次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」でも、「既婚」の回答割合が高くなっています。

また、回答者の意識の変化が認められた「防災や災害救援の活動」でも、「既婚」の回答割合が高くなっています。

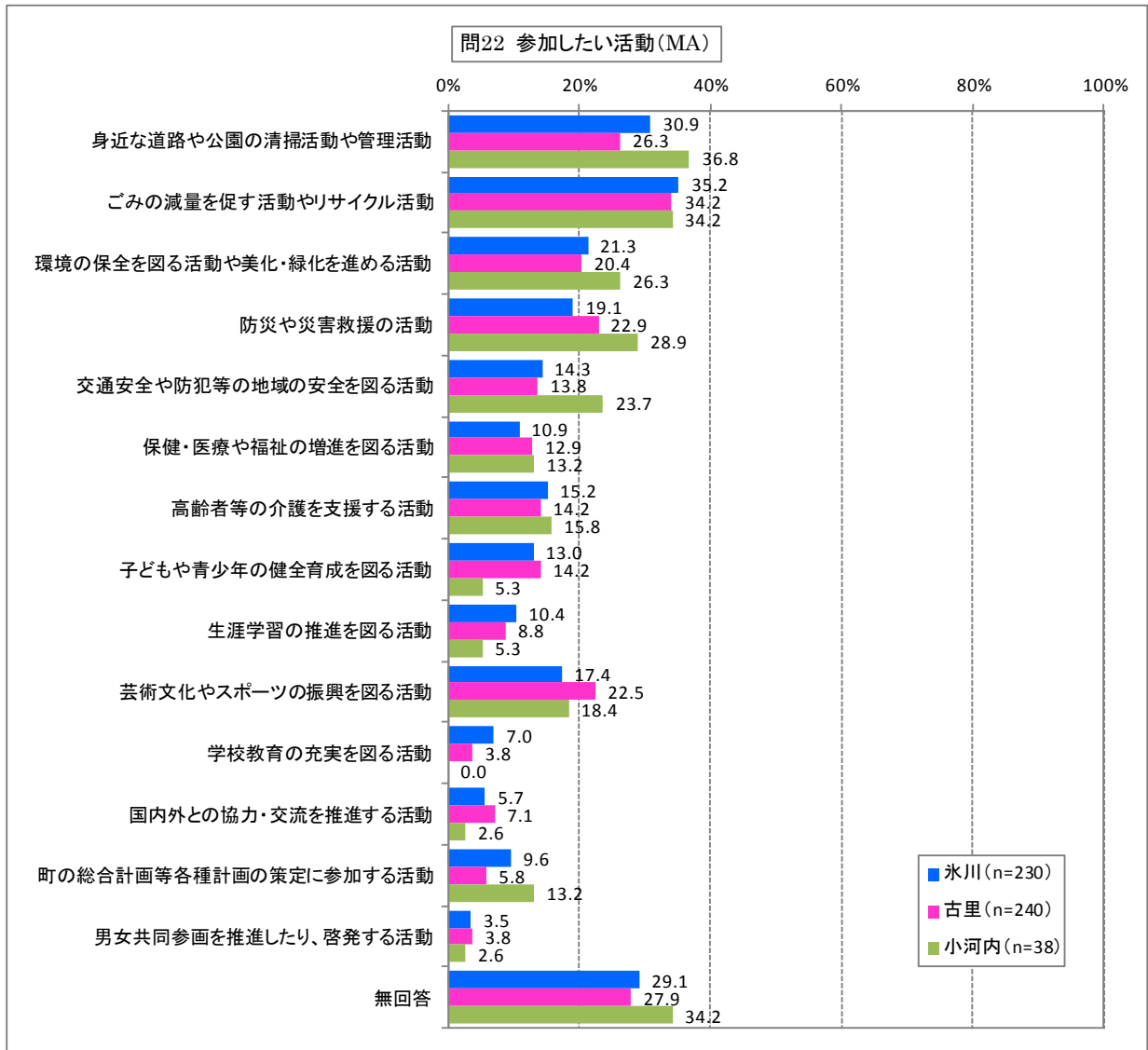


〔属性別結果：居住地区別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を居住地区別で見ると、3地区ともにほぼ同じ回答割合となっています。

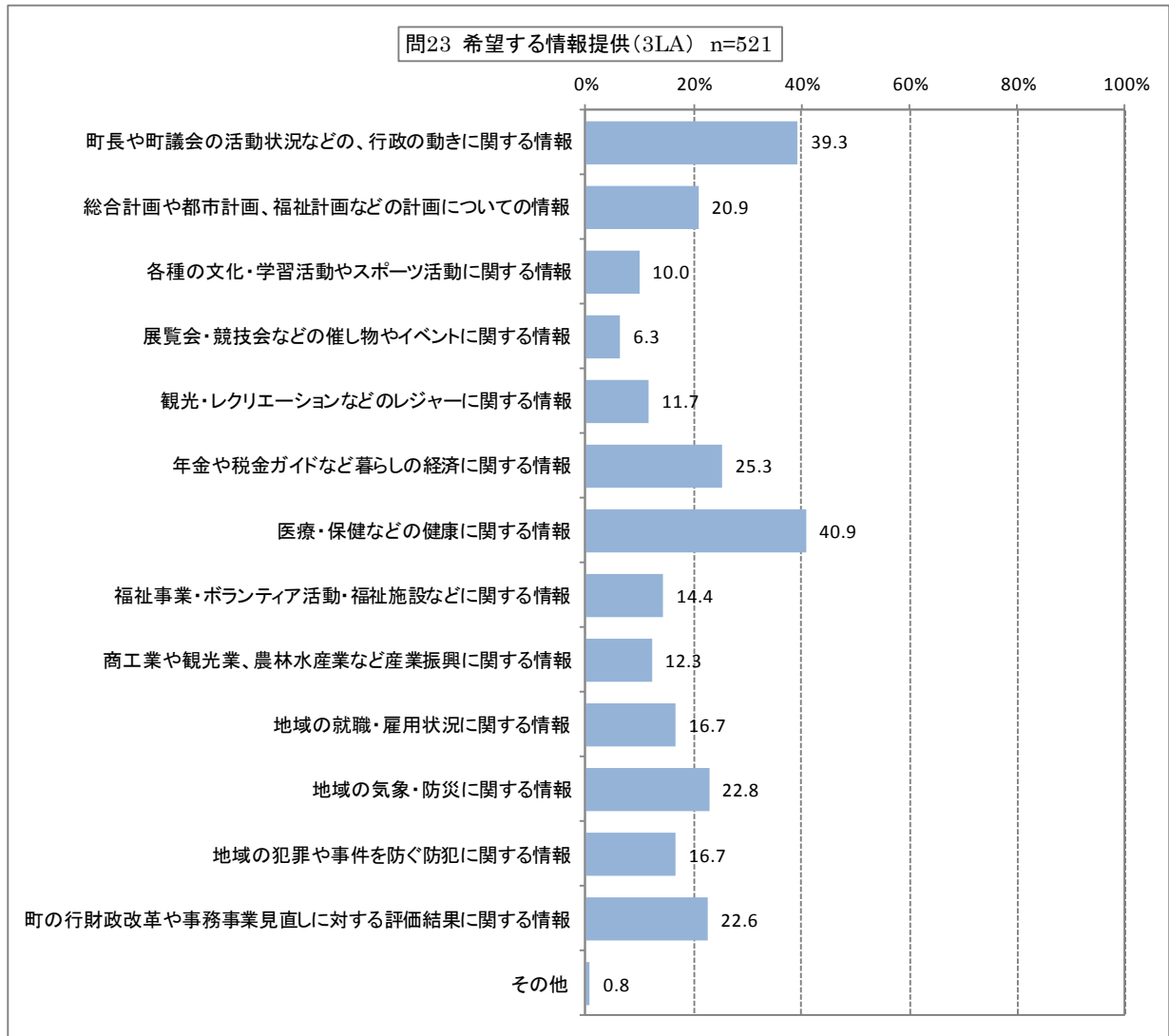
次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」では、「氷川」地区や「古里」地区に比べ「小河内」地区の回答割合が高くなっています。

また、回答者の意識の変化が認められた「防災や災害救援の活動」でも、「小河内」地区の回答割合が高くなっています。



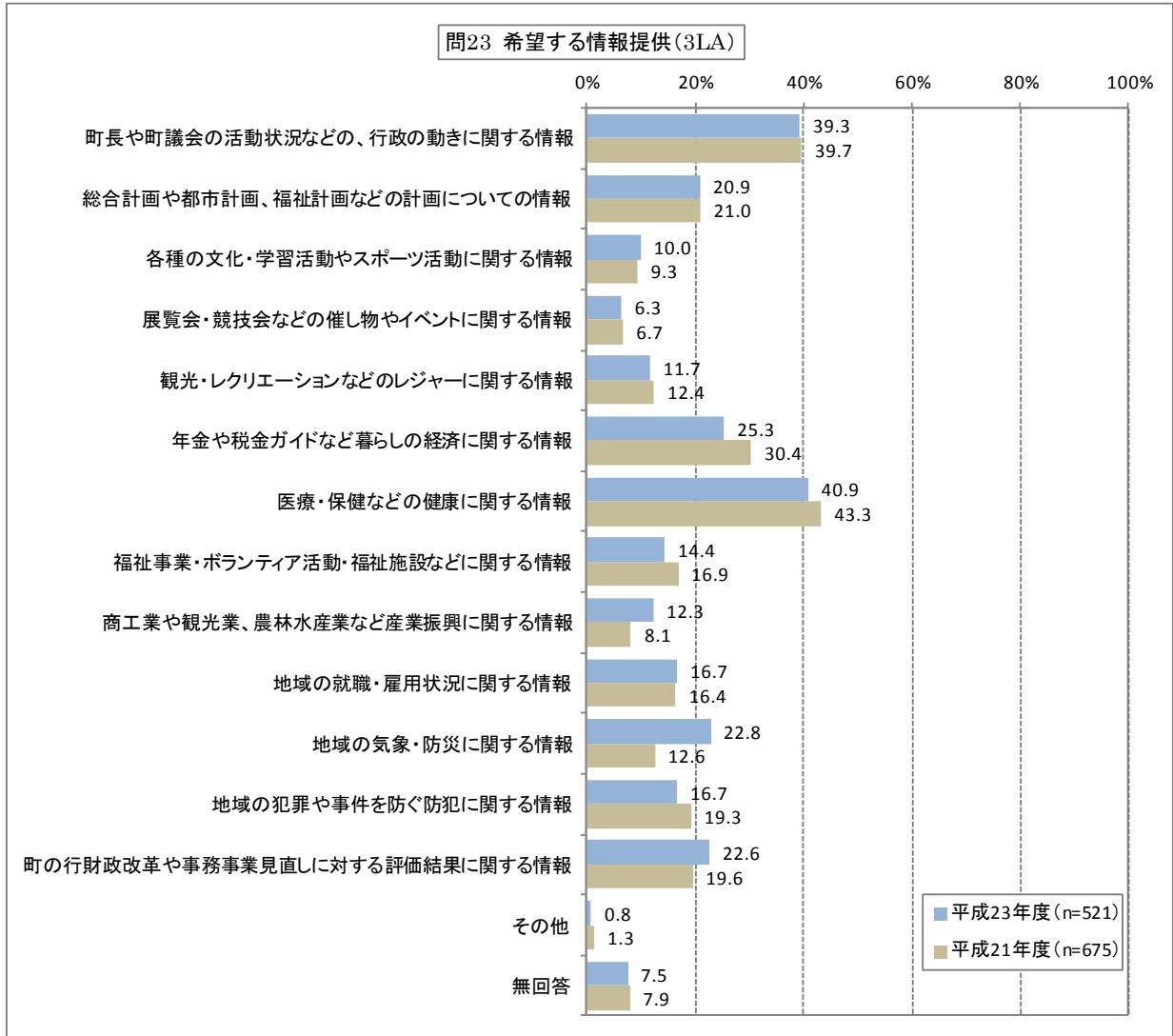
問 23 希望する情報提供

奥多摩町からの情報提供として希望するものとしては、「医療・保健などの健康に関する情報」が最も高く 40.9%となっており、次いで「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」が 39.3%、「年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報」が 25.3%、「地域の気象・防災に関する情報」が 22.8%、「町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報」が 22.6%、「総合計画や都市計画、福祉計画などの計画についての情報」が 20.9%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

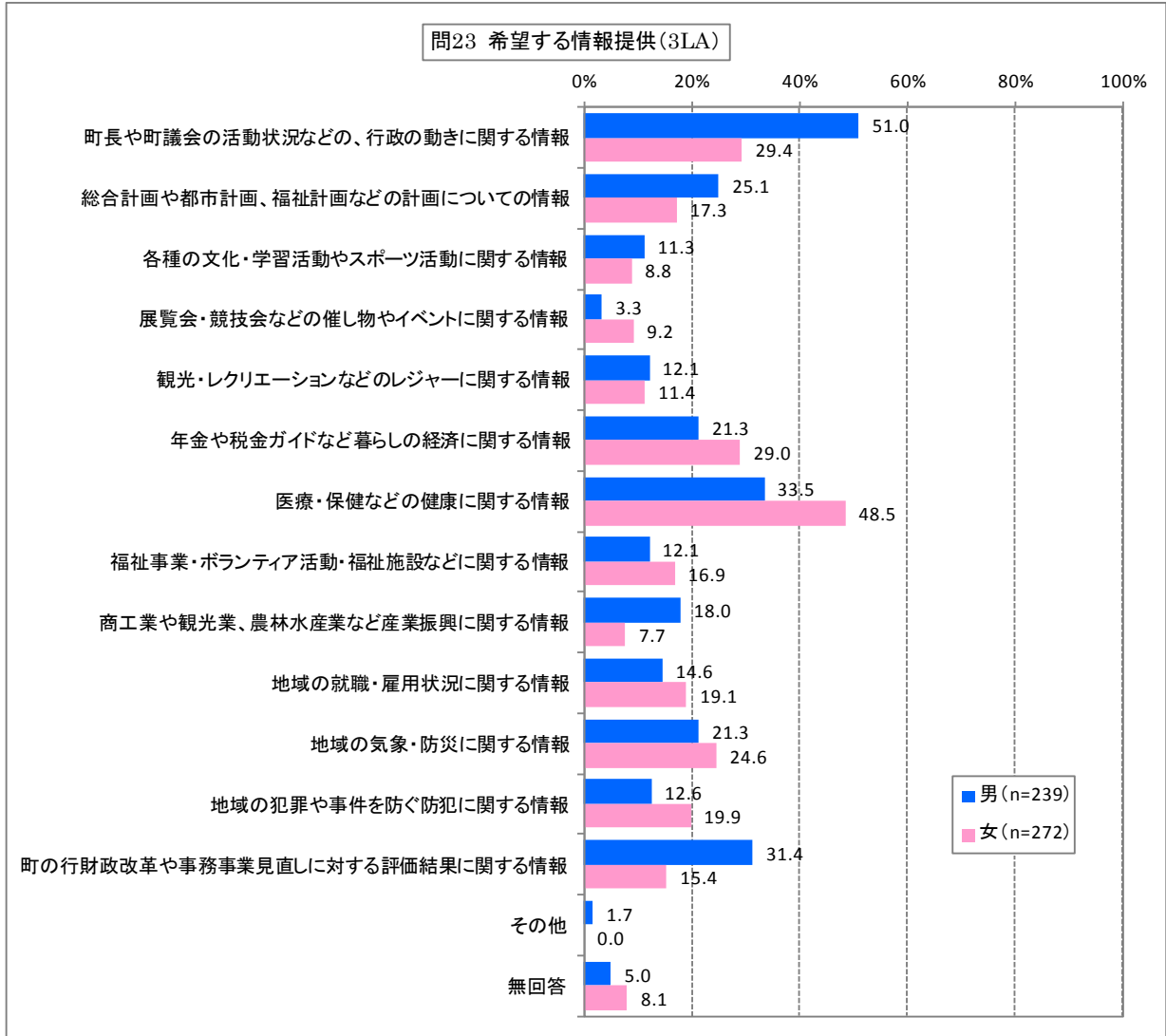
今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「医療・保健などの健康に関する情報」、「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」、「年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報」、「地域の気象・防災に関する情報」、「町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報」及び「総合計画や都市計画、福祉計画などの計画についての情報」は、その順位に大きな変動はなく、ほぼ同じ回答割合となっています。



〔属性別結果：性別〕

奥多摩町からの情報提供として希望するものとして、全体の回答割合が最も高い「医療・保健などの健康に関する情報」を性別で見ると、「男性」よりも「女性」の回答割合が非常に高くなっています。

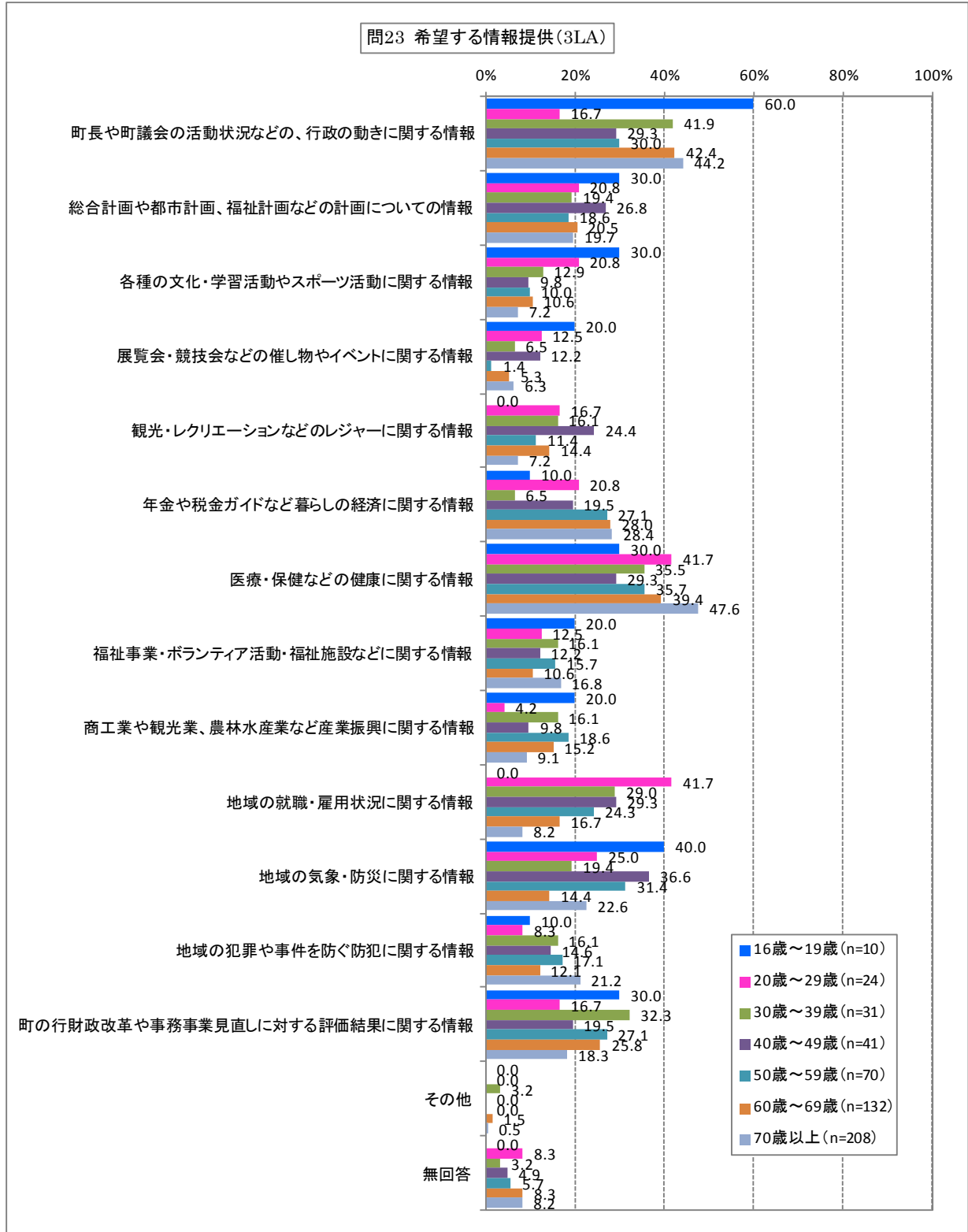
また、次いで全体の回答割合が高い「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」では、「女性」よりも「男性」の回答割合が非常に高くなっています。





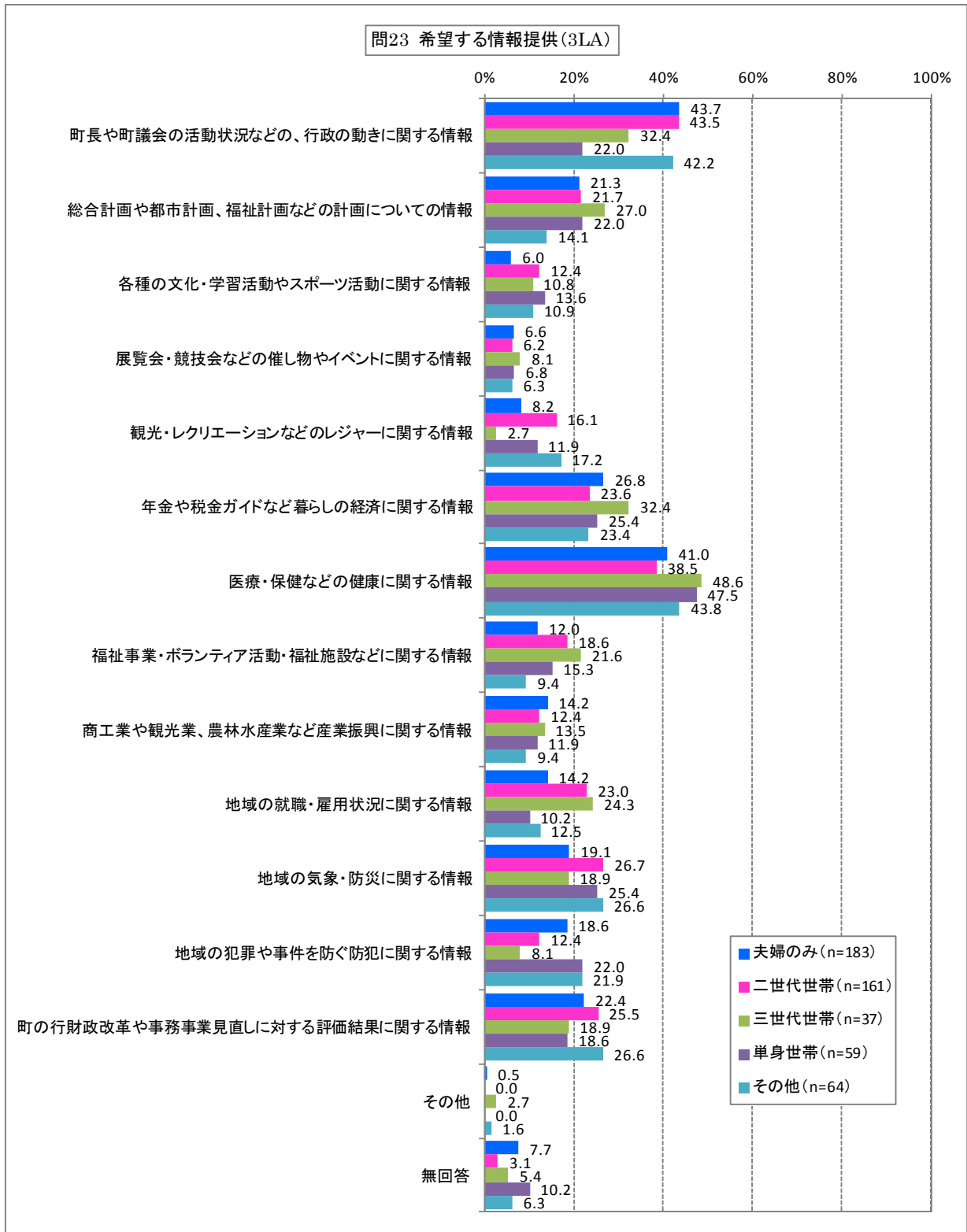
〔属性別結果：年齢別〕

奥多摩町からの情報提供として希望するものとして、全体の回答割合が最も高い「医療・保健などの健康に関する情報」を年齢別で見ると、「40歳～49歳」の回答割合が最も低く、その年齢層よりも低くなるにつれ回答割合が高くなっていくとともに、その年齢層よりも高くなるにつれ回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

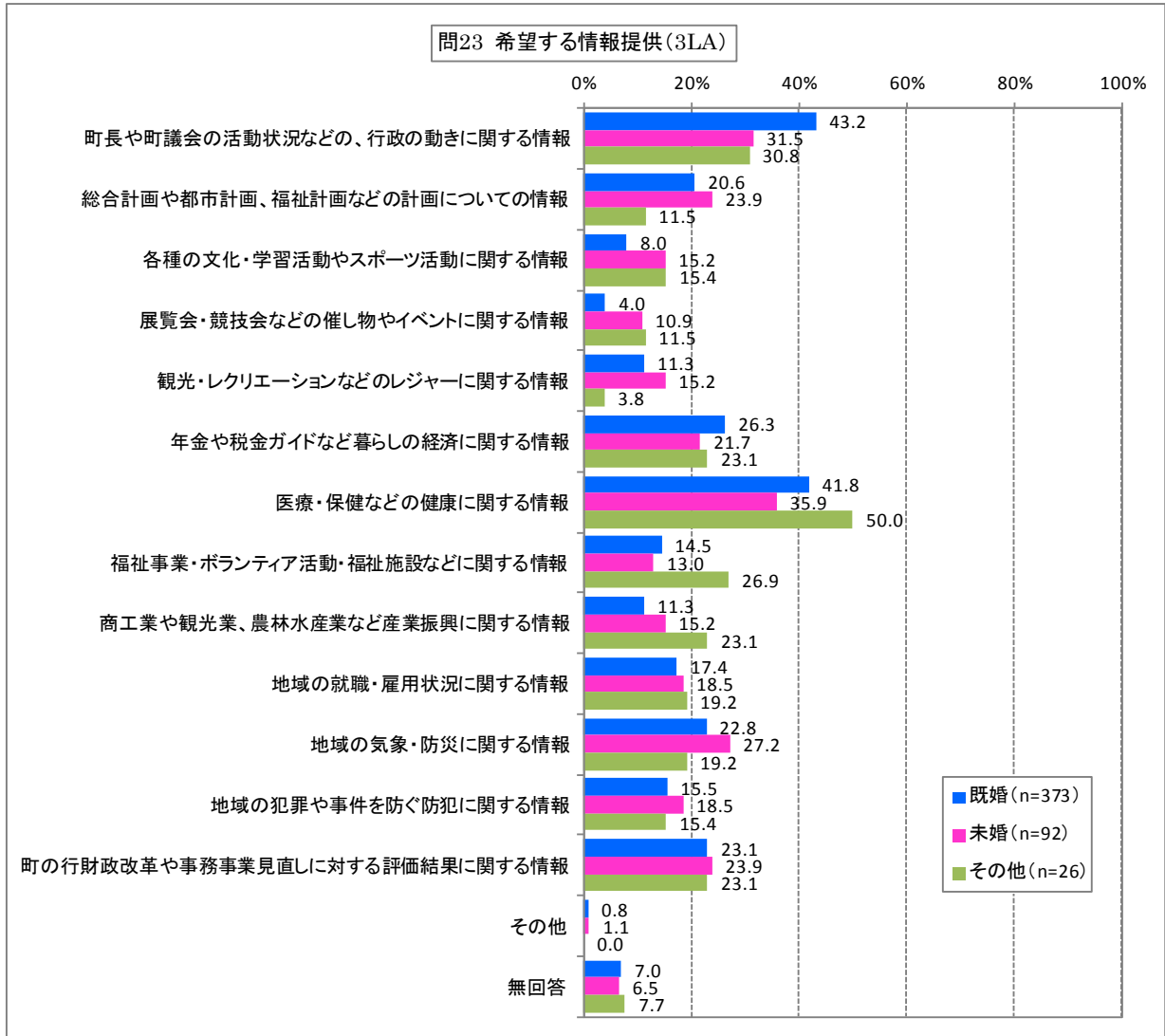
奥多摩町からの情報提供として希望するものとして、全体の回答割合が最も高い「医療・保健などの健康に関する情報」を家族構成別でみると、「二世帯世帯」では低く、「三世帯世帯」、「単身世帯」及び「その他世帯」で高い回答割合となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

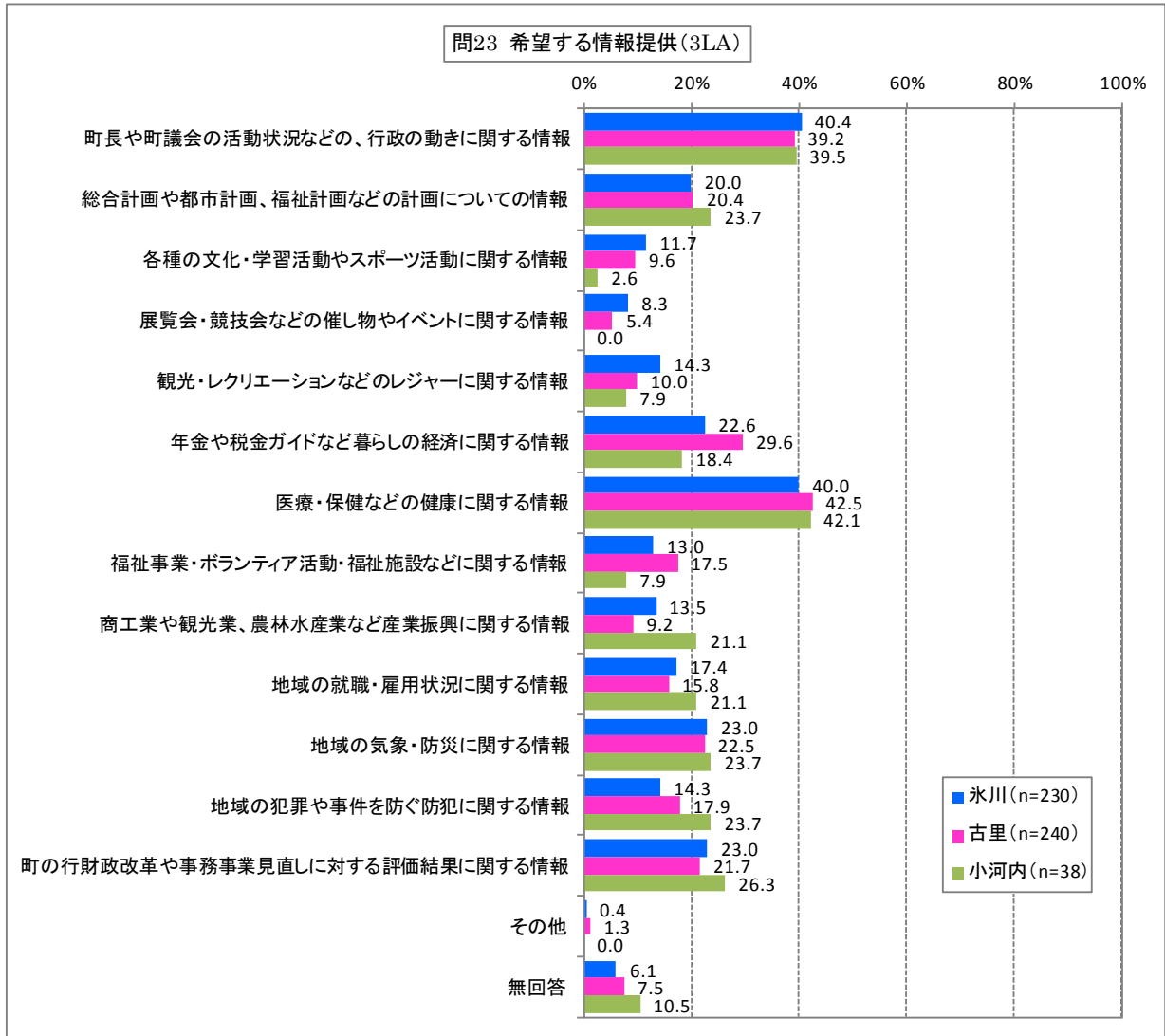
奥多摩町からの情報提供として希望するものとして、全体の回答割合が最も高い「医療・保健などの健康に関する情報」を婚姻状況別でみると、「未婚」よりも「既婚」の回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」でも、「未婚」よりも「既婚」の回答割合が高くなっています。



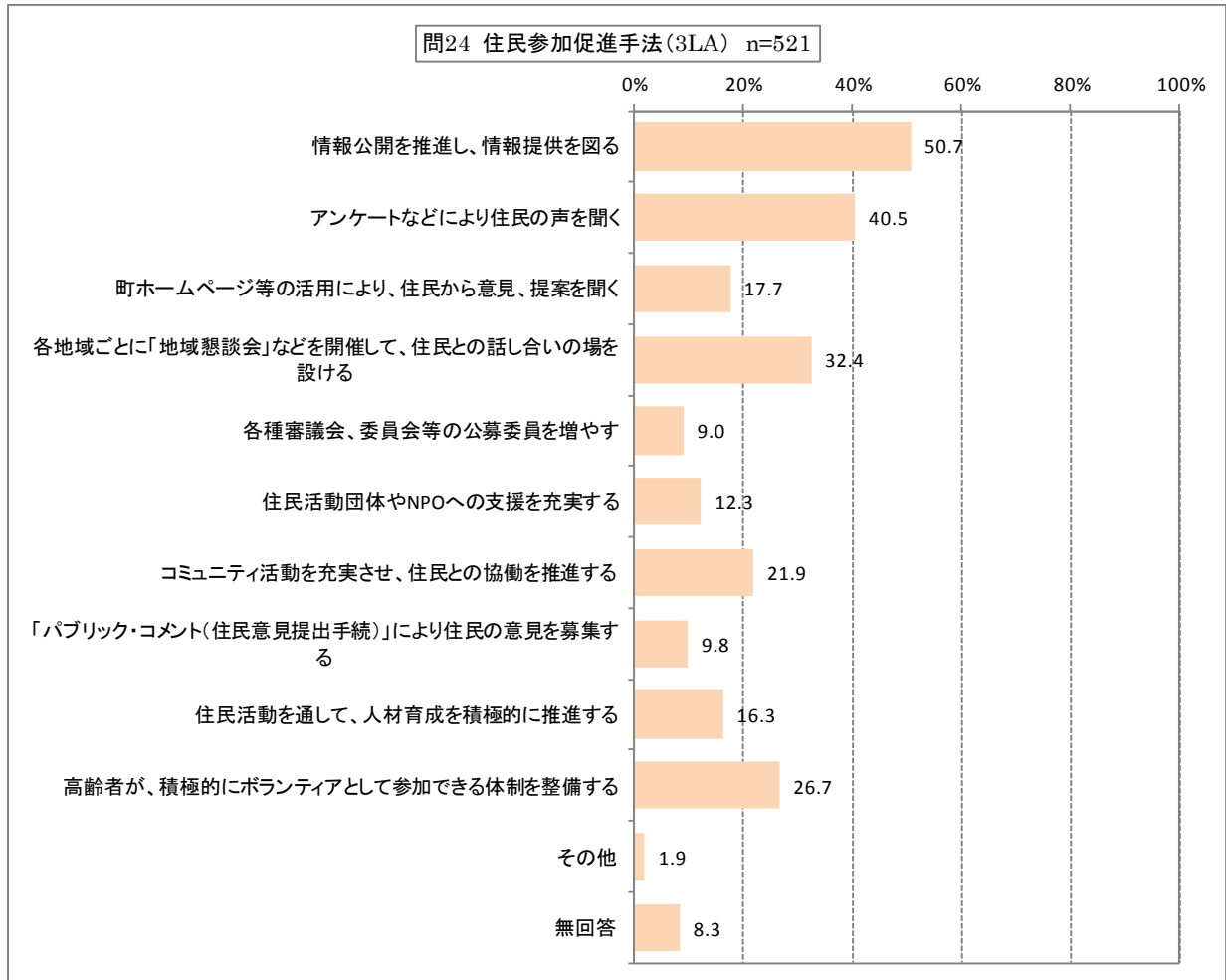
〔属性別結果：居住地区別〕

奥多摩町からの情報提供として希望するものとして、回答割合が高い「医療・保健などの健康に関する情報」及び「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」を居住地区別で見ると、各居住地区の回答割合はほぼ同じ結果となっています。



問 24 住民参加促進手法

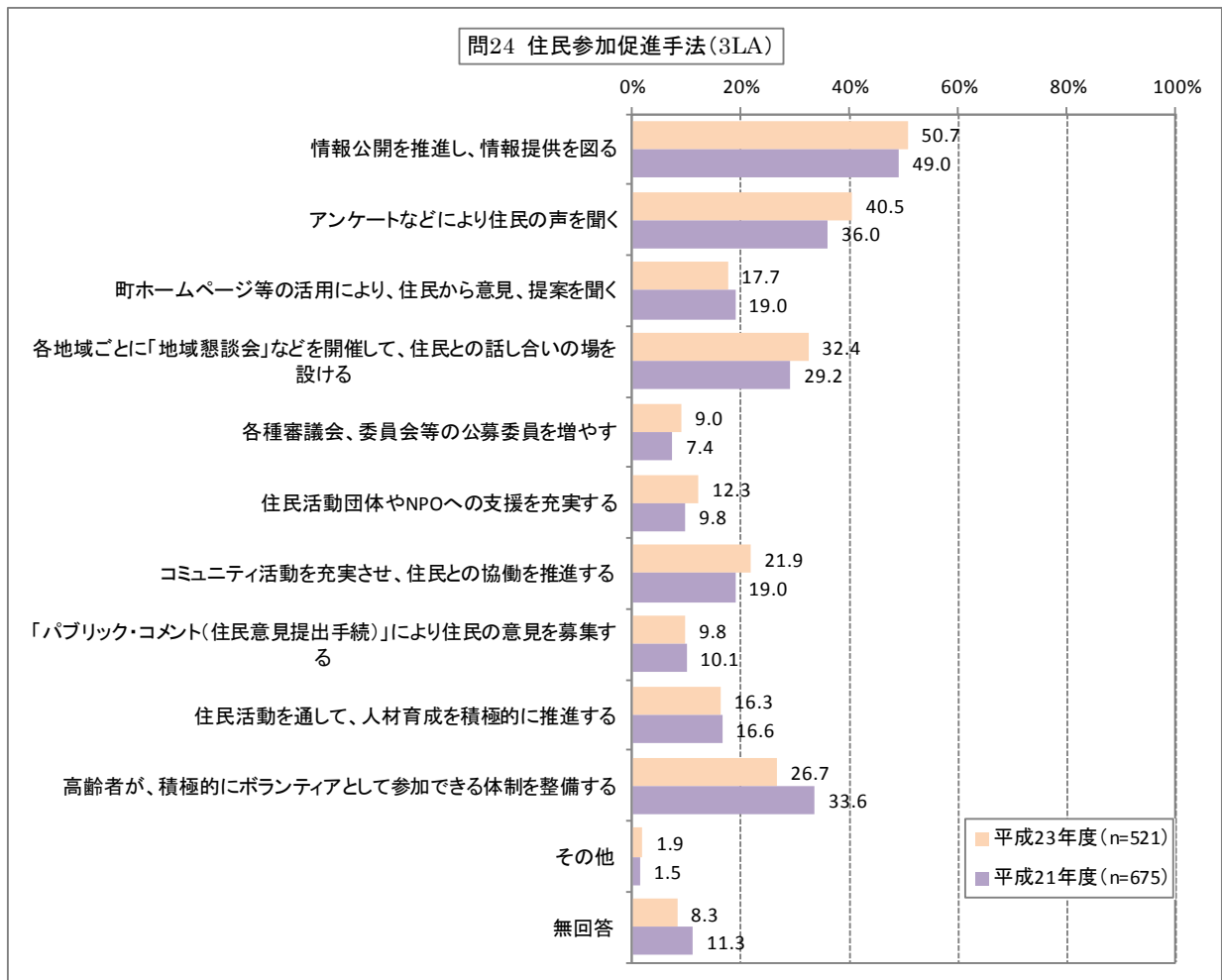
行政への住民参加をより一層進める手法については、「情報公開を推進し、情報提供を図る」が最も高く 49.0%となっており、次いで「アンケートなどにより住民の声を聞く」が 40.5%、「各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける」が 32.4%、「高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する」が 26.7%、「コミュニティ活動を充実させ、住民との協働を推進する」が 21.9%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」、「アンケートなどにより住民の声を聞く」、「各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける」、「高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する」、「コミュニティ活動を充実させ、住民との協働を推進する」は、その順位に大きな変動はありませんが、「情報公開を推進し、情報提供を図る」、「アンケートなどにより住民の声を聞く」、「各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける」及び「コミュニティ活動を充実させ、住民との協働を推進する」への回答割合は増加しています。

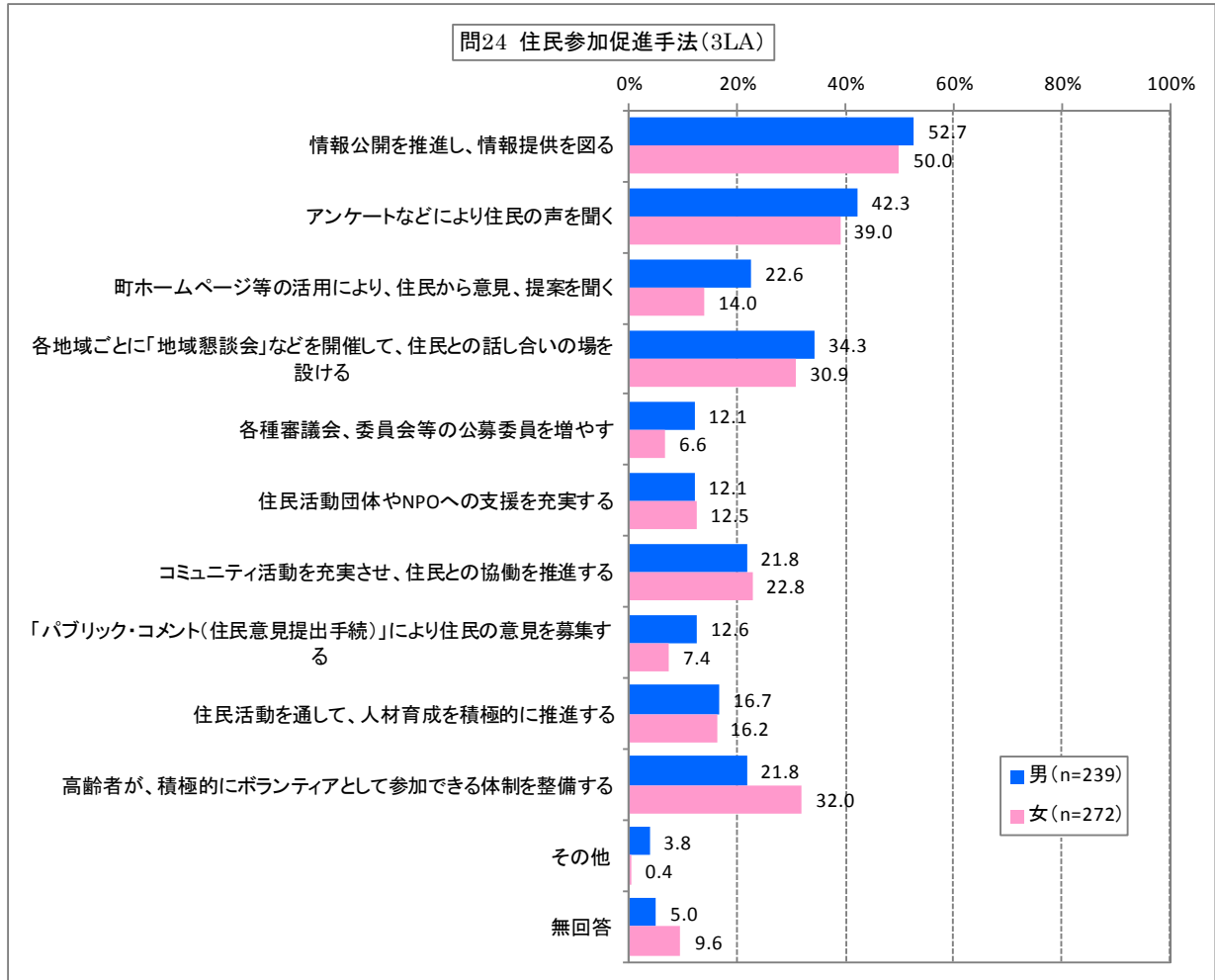
一方、「高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する」は減少しています。



〔属性別結果：性別〕

行政への住民参加をより一層進める手法について、全体の回答割合が最も高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」を性別で見ると、「女性」よりも「男性」の回答割合が多少高くなっています。

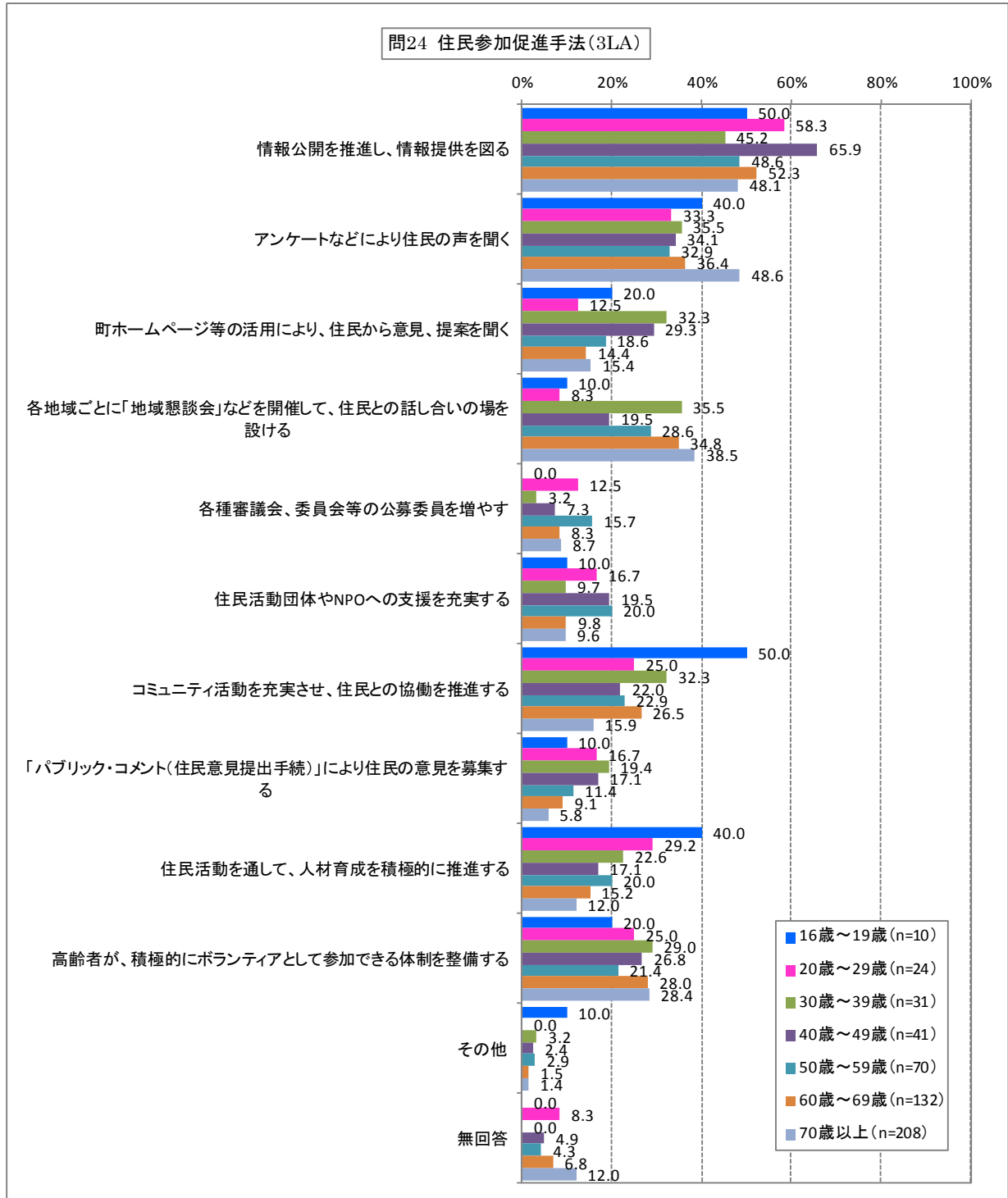
また、次いで全体の回答割合が高い「アンケートなどにより住民の声を聞く」でも、「女性」よりも「男性」の回答割合が多少高くなっています。



〔属性別結果：年齢別〕

行政への住民参加をより一層進める手法について、全体の回答割合が最も高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」を年齢別で見ると、「20歳～29歳」及び「40歳～49歳」の回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「アンケートなどにより住民の声を聞く」では、「70歳以上」の回答割合が、他の年代に比べ高くなっています。

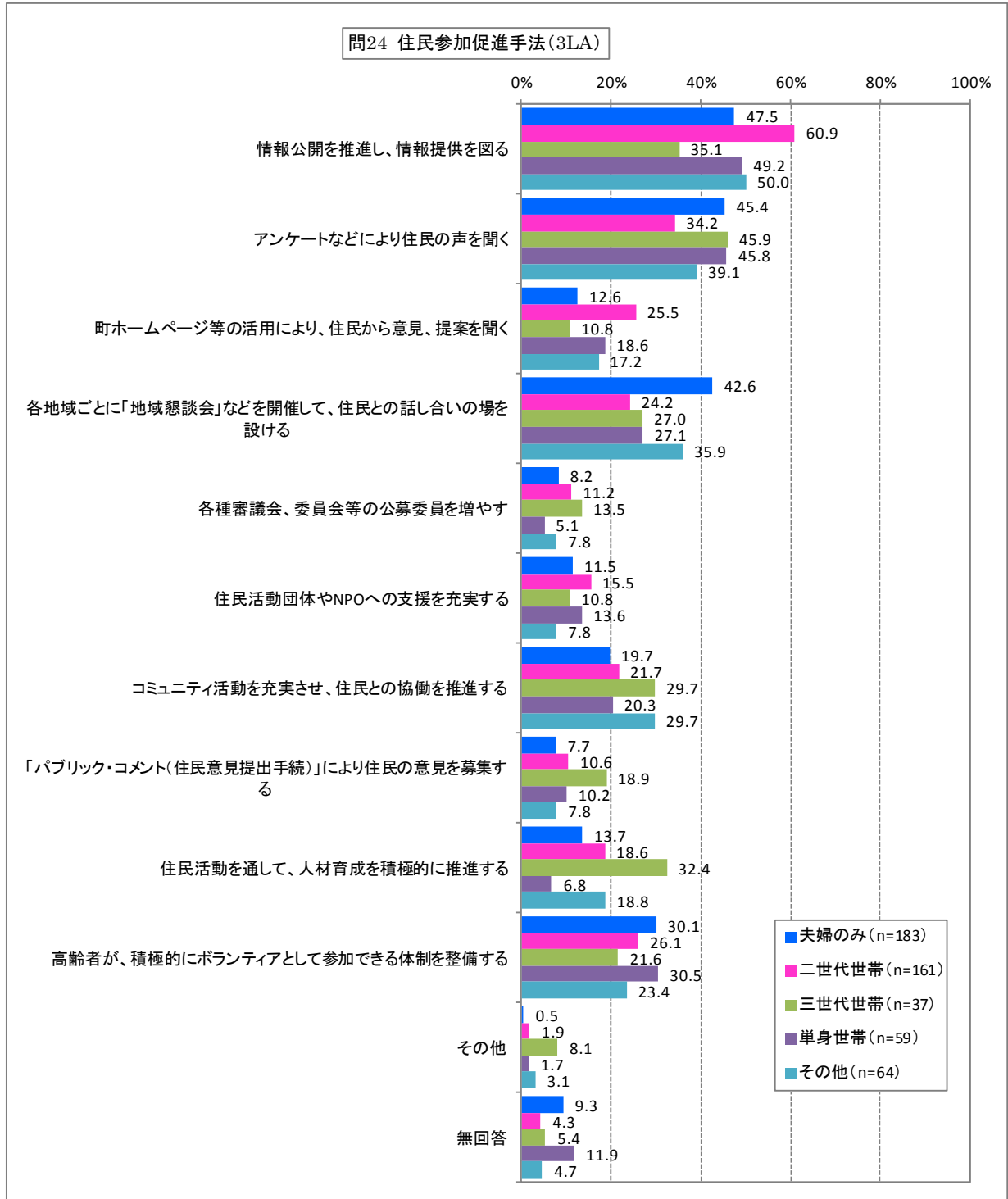




〔属性別結果：家族構成別〕

行政への住民参加をより一層進める手法について、全体の回答割合が最も高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」を家族構成別でみると、「二世世代世帯」の回答割合が高くなっています。

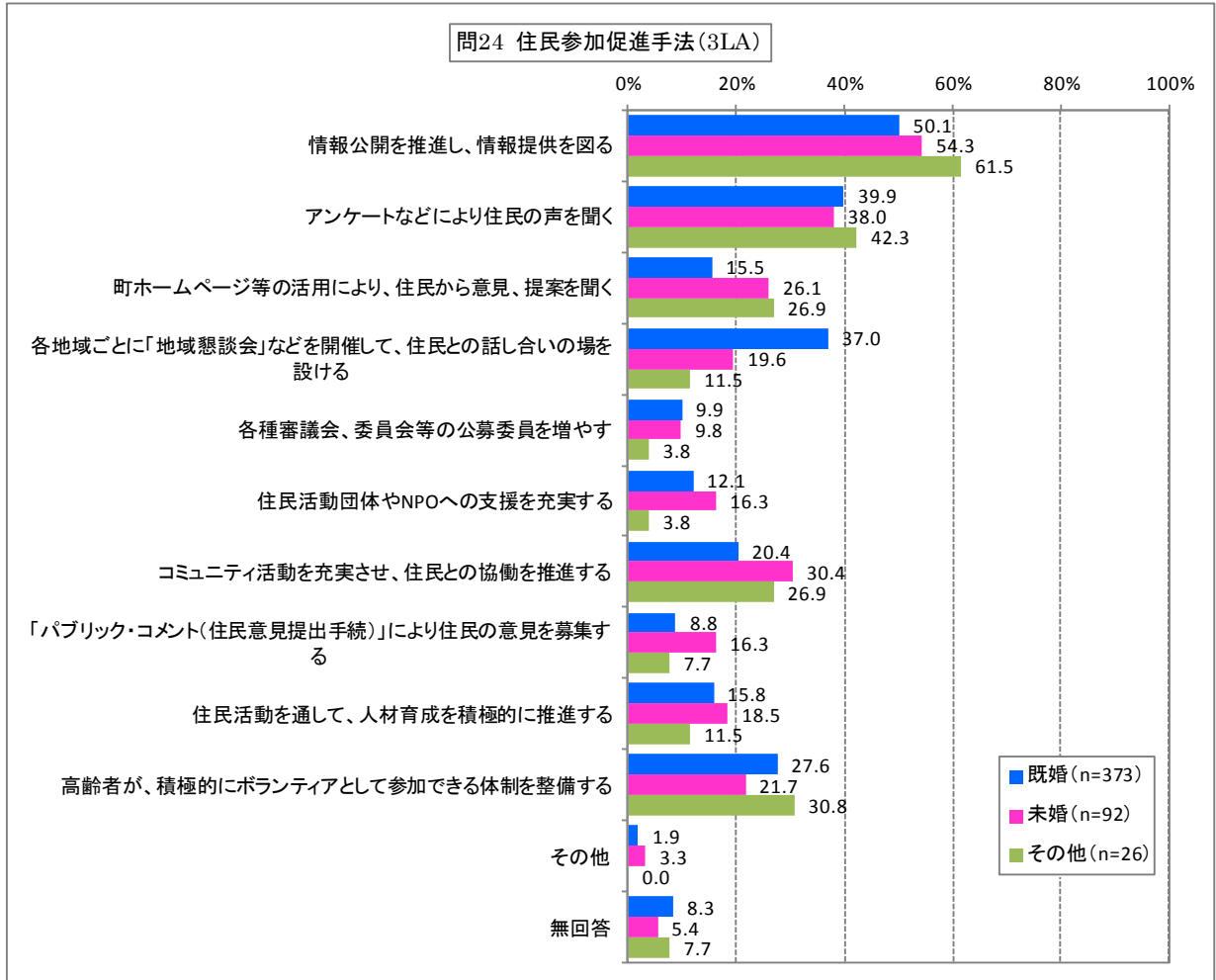
また、次いで全体の回答割合が高い「アンケートなどにより住民の声を聞く」では、「二世世代世帯」の回答割合が他の出宅に比べ低い結果となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

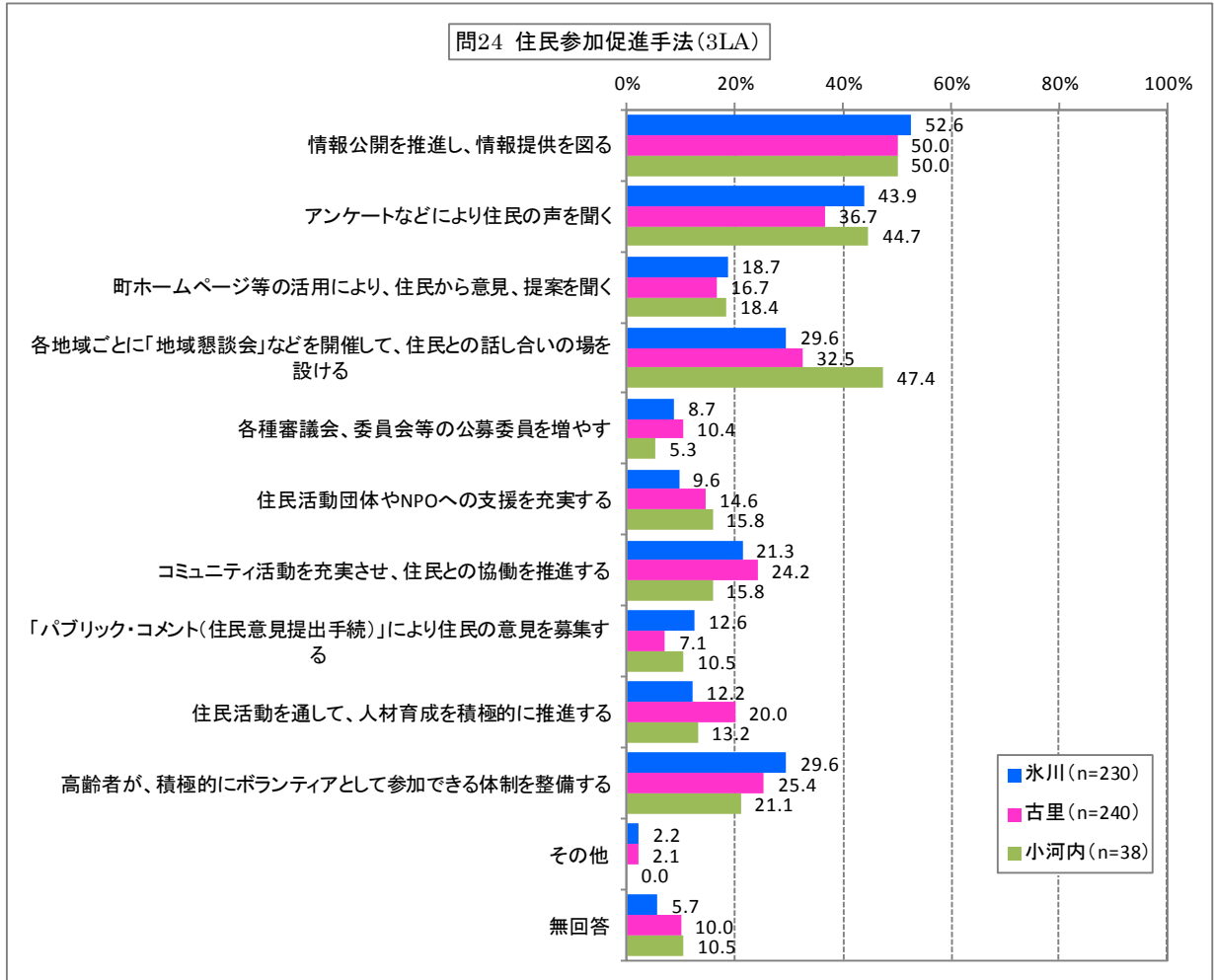
行政への住民参加をより一層進める手法について、全体の回答割合が最も高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」を婚姻状況別で見ると、「その他」の回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「アンケートなどにより住民の声を聞く」でも、「その他」の回答割合が多少高くなっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

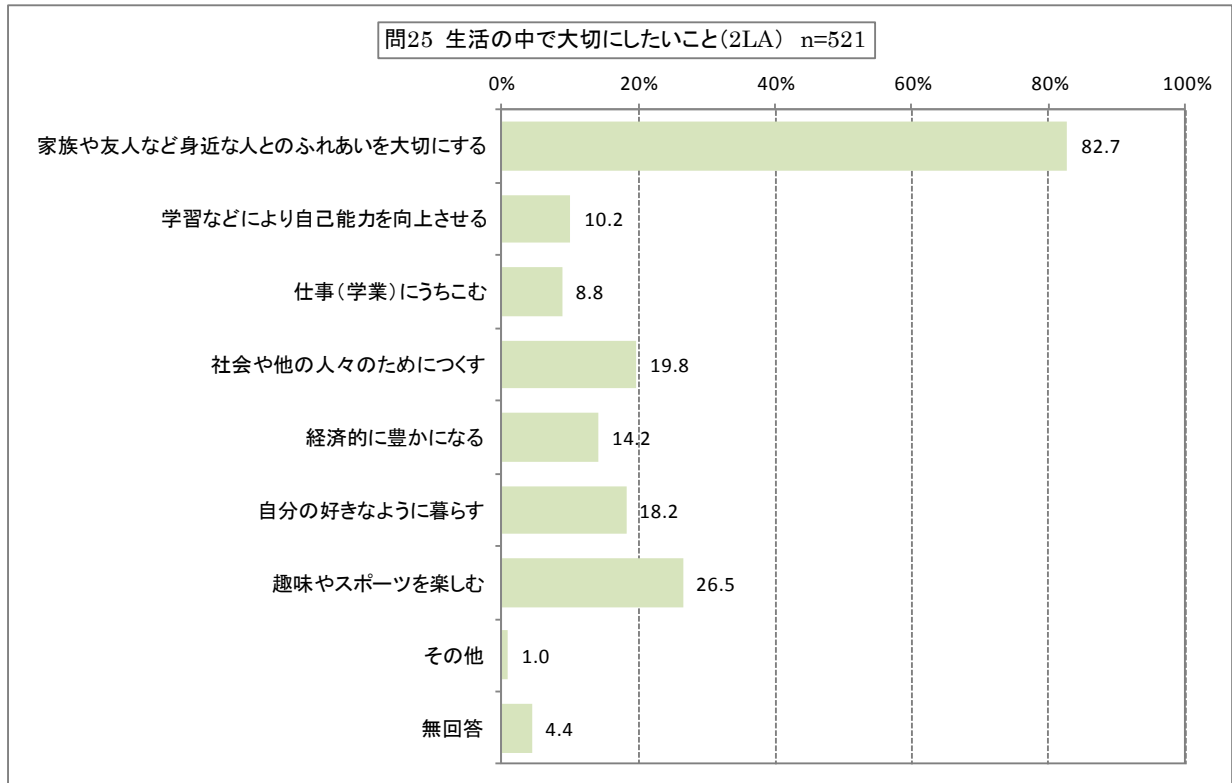
行政への住民参加をより一層進める手法について、全体の回答割合が最も高い「情報公開を推進し、情報提供を図る」を居住地区別で見ると、回答割合に大きな差は出ていない結果となっていますが、次いで全体の回答割合が高い「アンケートなどにより住民の声を聞く」では、「古里」地区の回答割合が低く、「氷川」地区及び「小河内」地区の回答割合が高くなっています。



## 【奥多摩町での生活について】

## 問 25 生活の中で大切にしたいこと

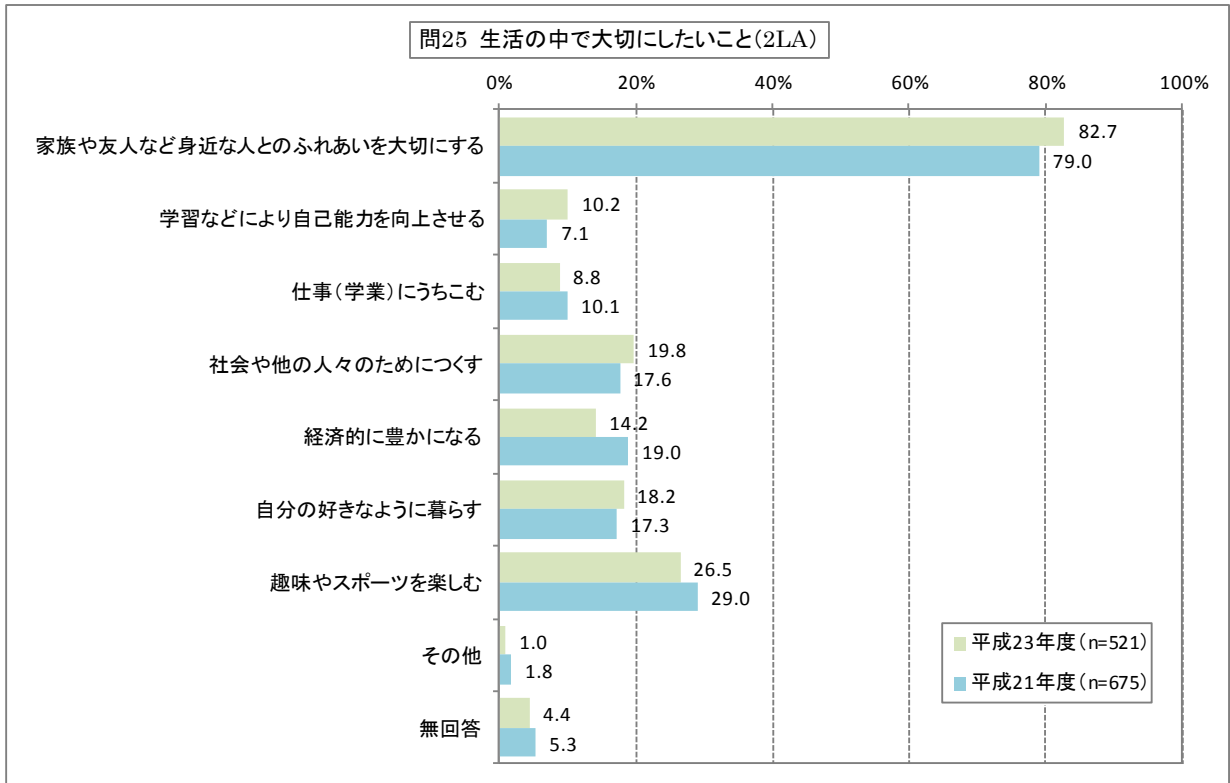
日々の生活の中で大切にしたいことについては、「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」が 82.7%と最も高く、次いで「趣味やスポーツを楽しむ」が 26.5%、「社会や他の人々のためにつくす」が 19.8%と続いています。



## 〔過去調査結果との比較〕

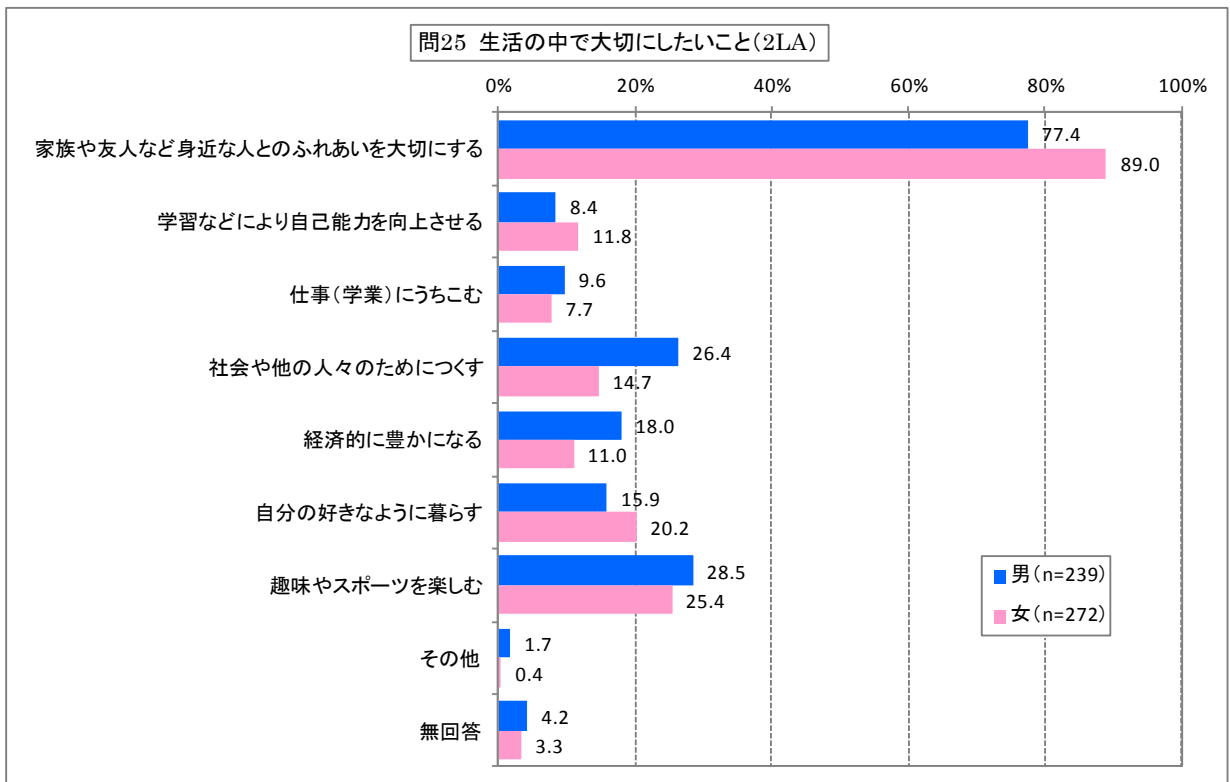
今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度調査において回答割合の高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」、「趣味やスポーツを楽しむ」及び「社会や他の人々のためにつくす」は、その順位に大きな変動はありませんが、「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」及び「社会や他の人々のためにつくす」への回答割合は増加しています。

一方、「趣味やスポーツを楽しむ」が減少しているほか、「経済的に豊かになる」も減少しています。



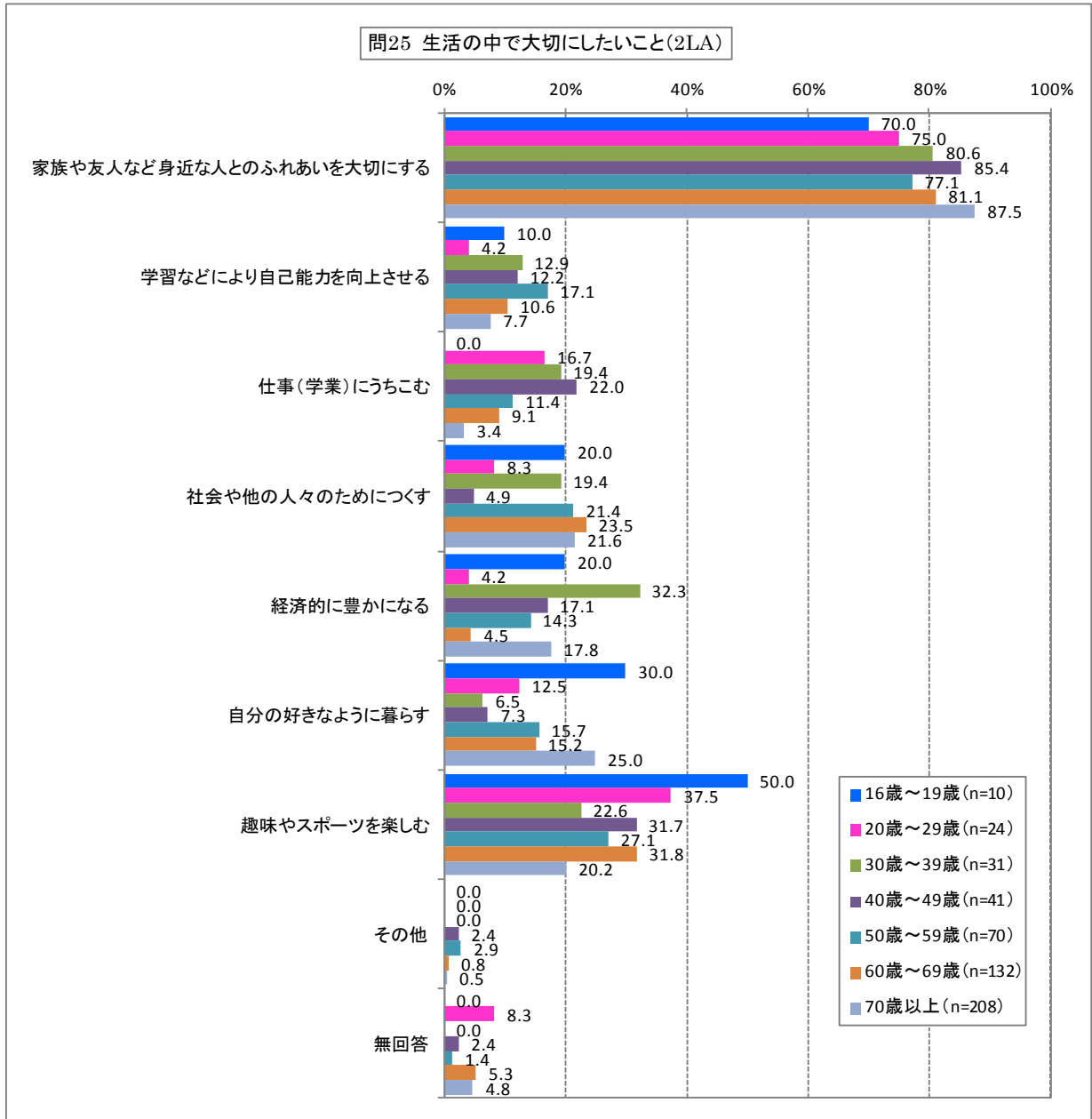
〔属性別結果：性別〕

日々の生活の中で大切にしたいことについて、全体の回答割合が最も高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」を性別別でみると、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。



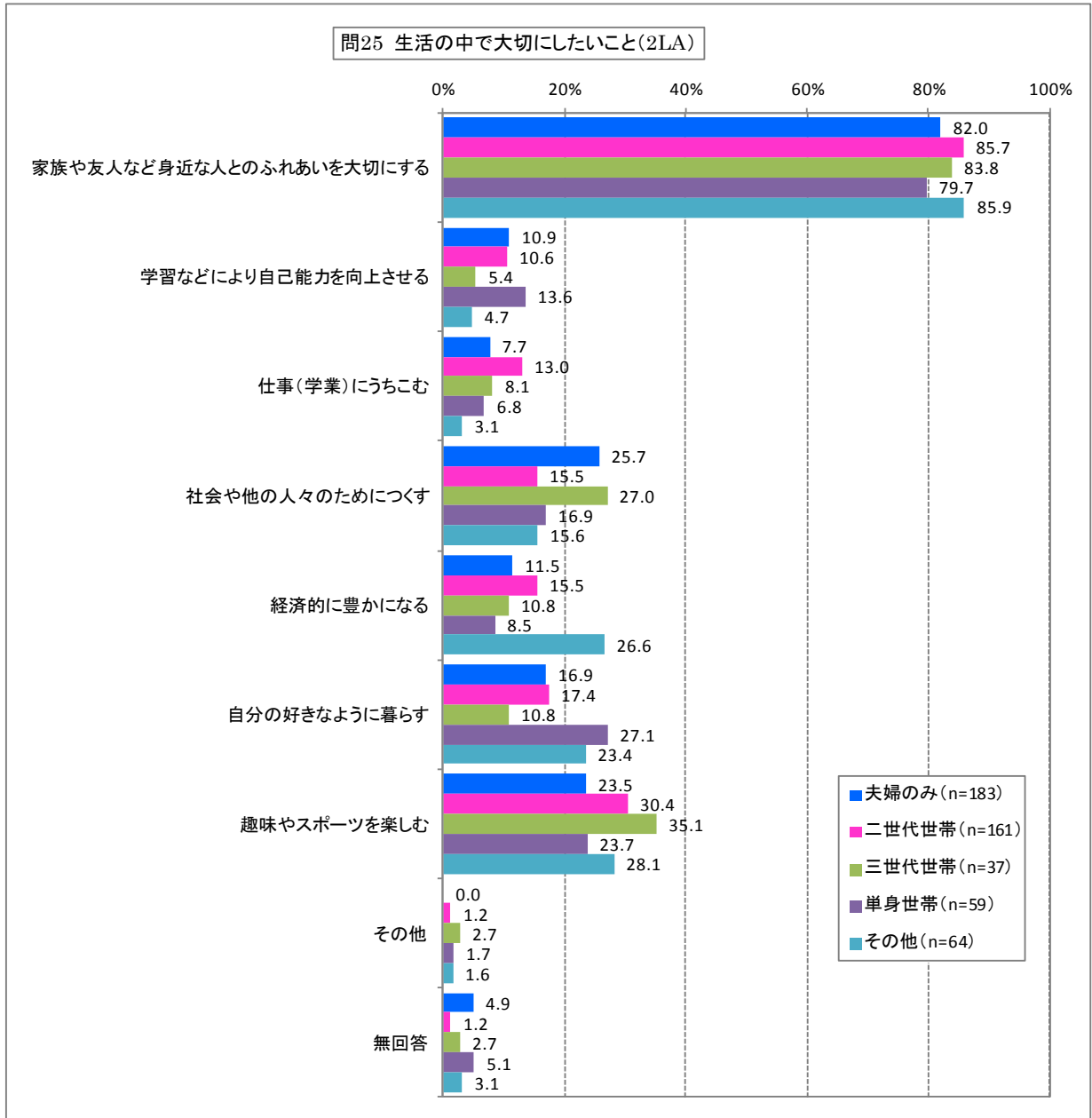
〔属性別結果：年齢別〕

日々の生活の中で大切にしたいことについて、全体の回答割合が最も高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」を年齢別でみると、「40歳～49歳」及び「70歳以上」の回答割合が高いほか、「30歳～39歳」及び「60歳～69歳」の回答割合も多少高くなっています。



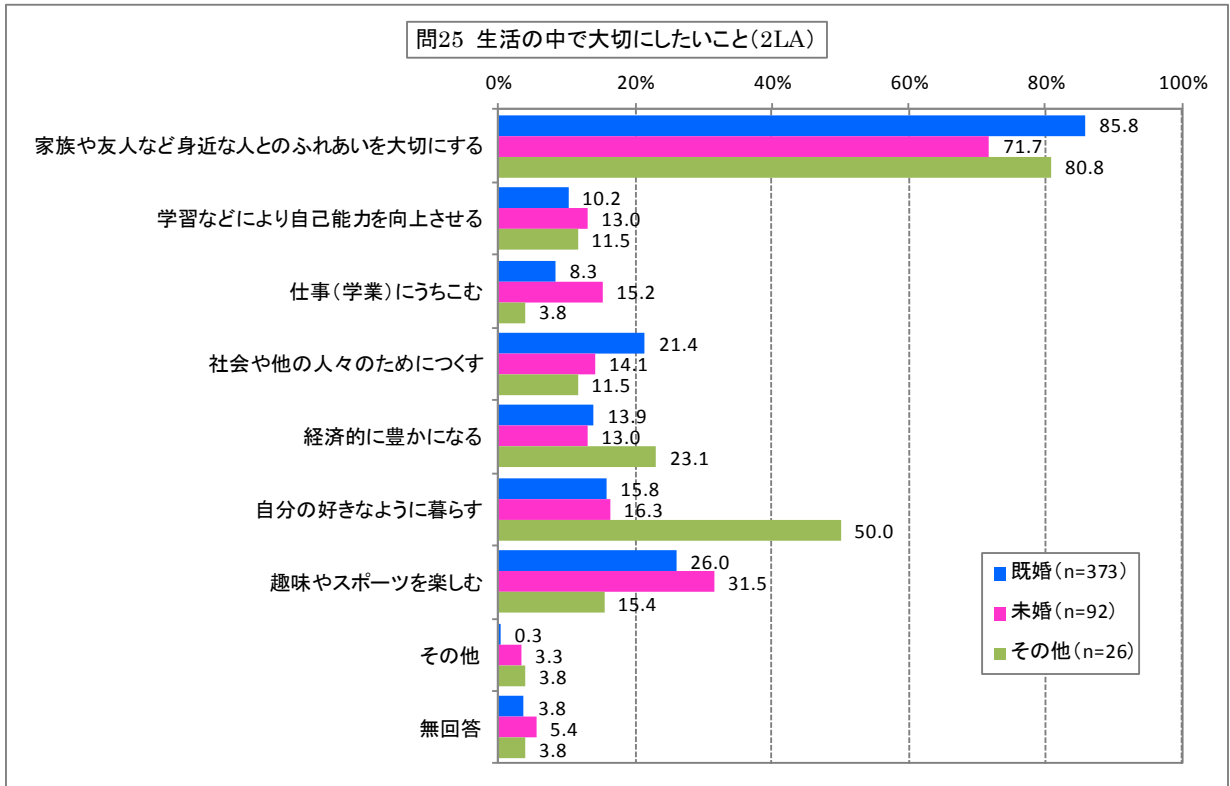
〔属性別結果：家族構成別〕

日々の生活の中で大切にしたいことについて、全体の回答割合が最も高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」を家族構成別でみると、「単身世帯」の回答割合が多少低くなっているほかは、8割を超える回答結果となっています。



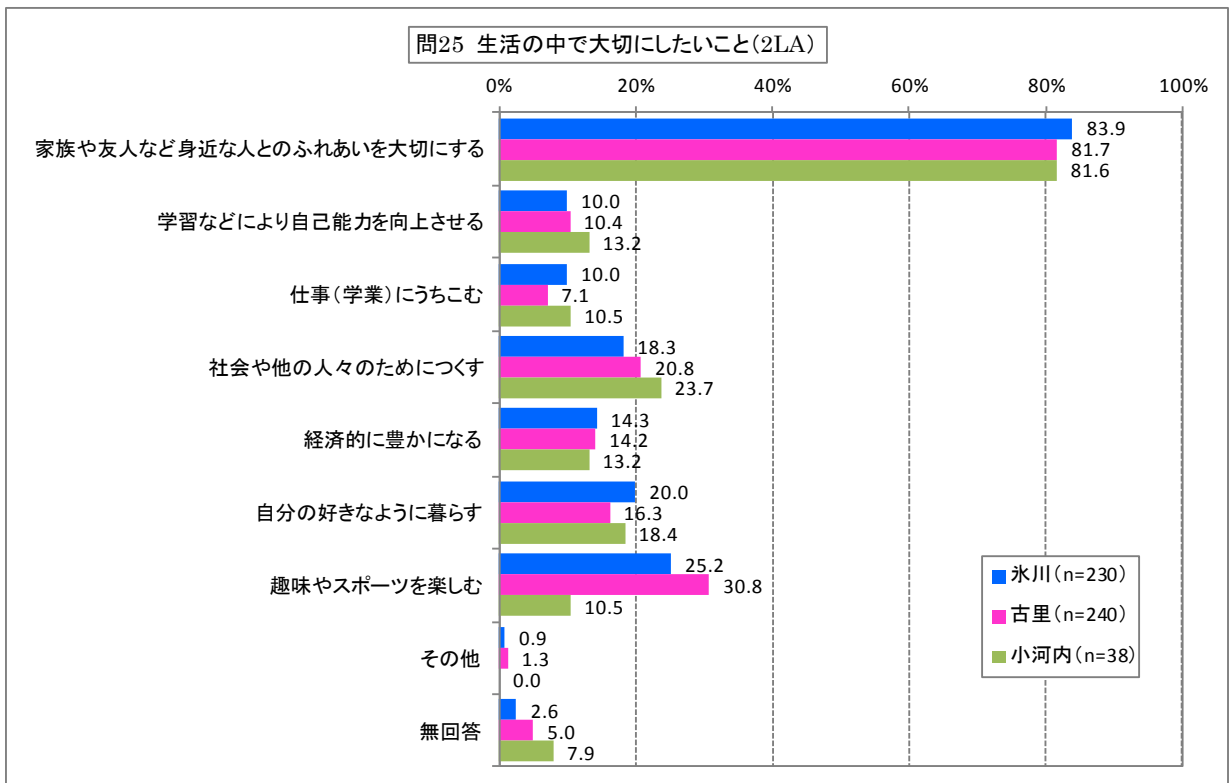
〔属性別結果：婚姻状況別〕

日々の生活の中で大切にしたいことについて、全体の回答割合が最も高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」を婚姻状況別でみると、「既婚」及び「その他」の回答割合が高く、「未婚」の回答割合が多少低い回答結果となっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

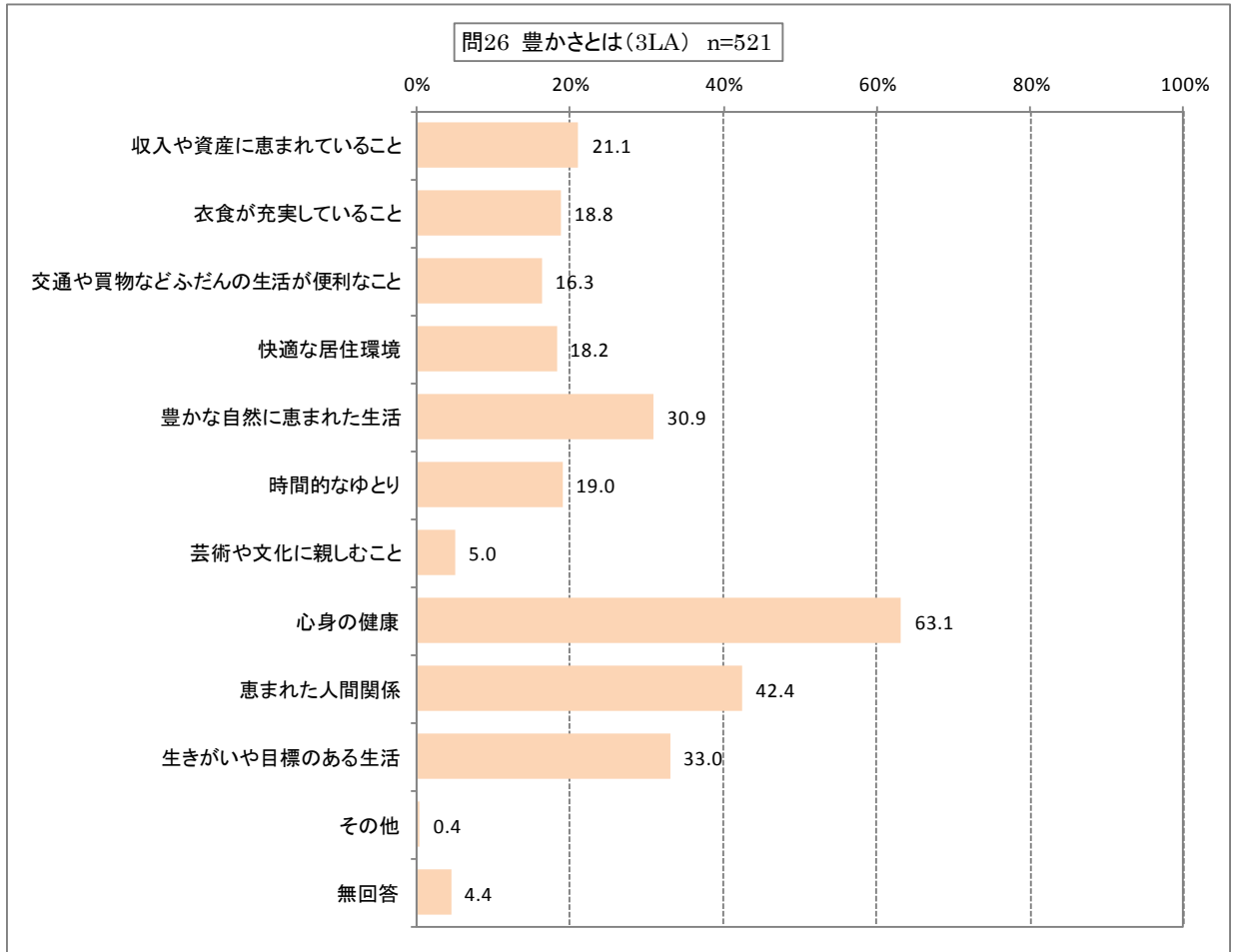
日々の生活の中で大切にしたいことについて、全体の回答割合が最も高い「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」を居住地区別でみると、ほぼ同じ回答割合となっています。





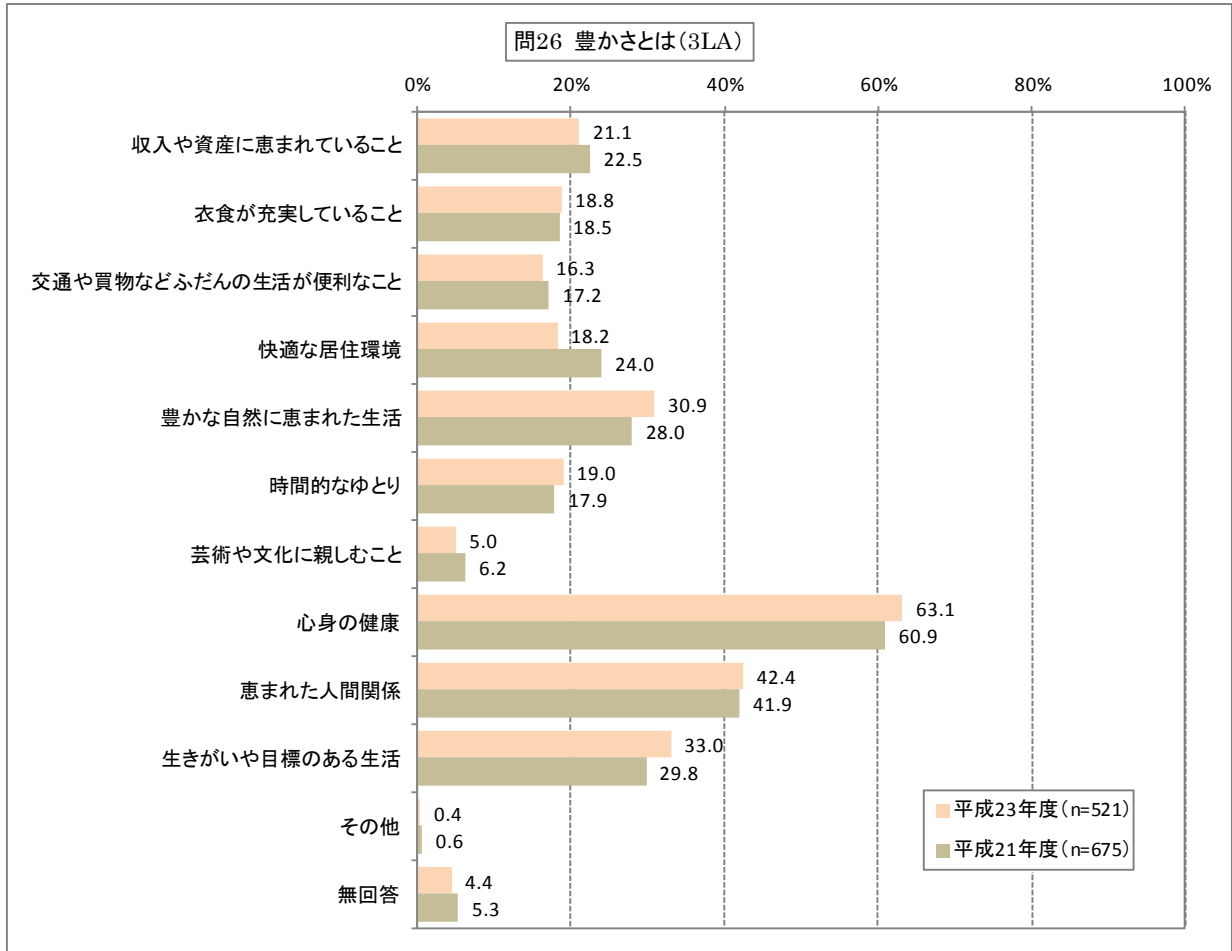
問 26 豊かさとは

豊かさについては、「心身の健康」が 63.1%と最も高く、次いで「恵まれた人間関係」が 42.4%、「生きがいや目標のある生活」が 33.0%、「豊かな自然に恵まれた生活」が 30.9%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「心身の健康」、「恵まれた人間関係」、「生きがいや目標のある生活」及び「豊かな自然に恵まれた生活」は、その順位に大きな変動はありませんが、それぞれへの回答割合は多少増加しています。

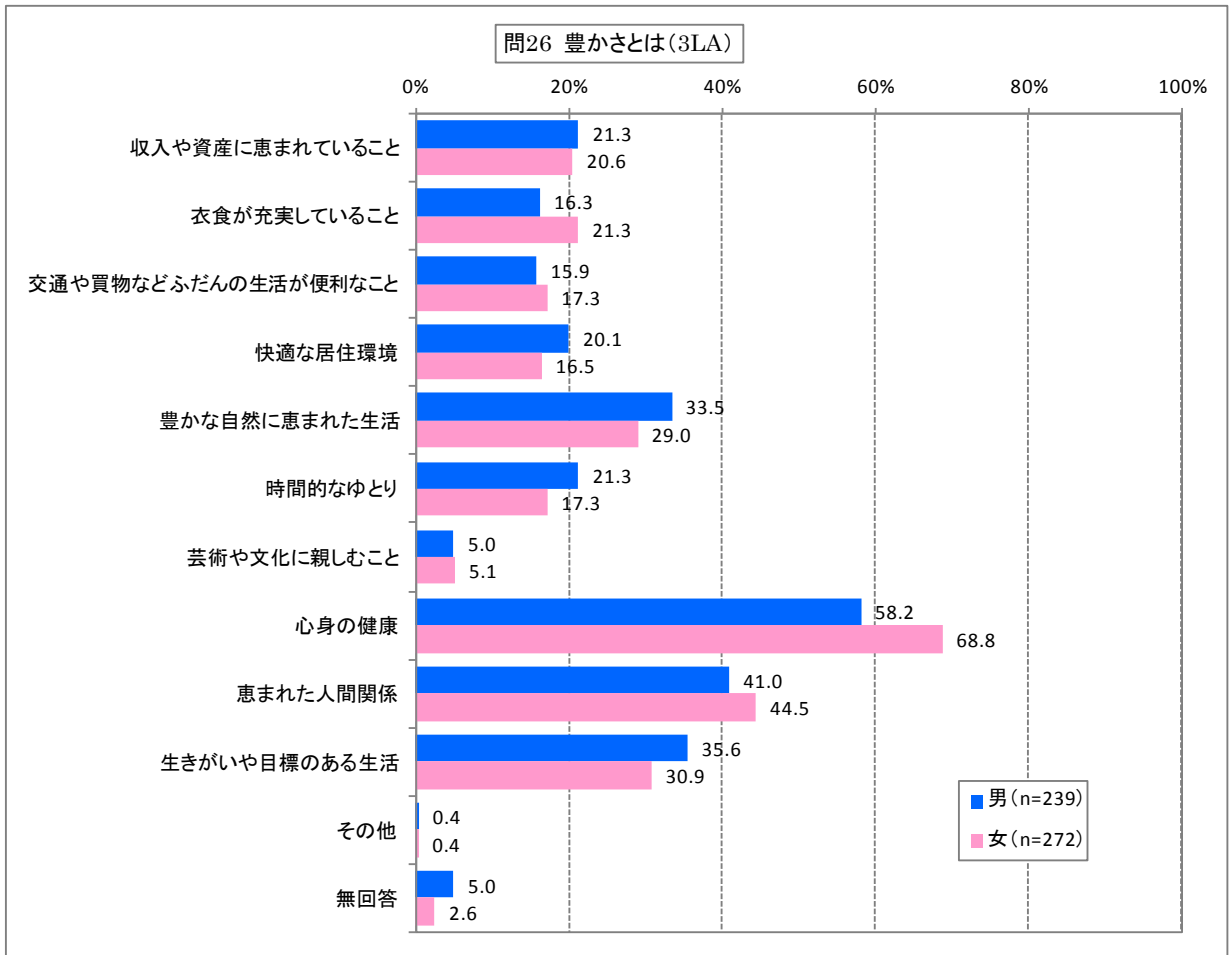


〔属性別結果：性別〕

豊かさについて、全体の回答割合が最も高い「心身の健康」を性別で見ると、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「恵まれた人間関係」でも、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。

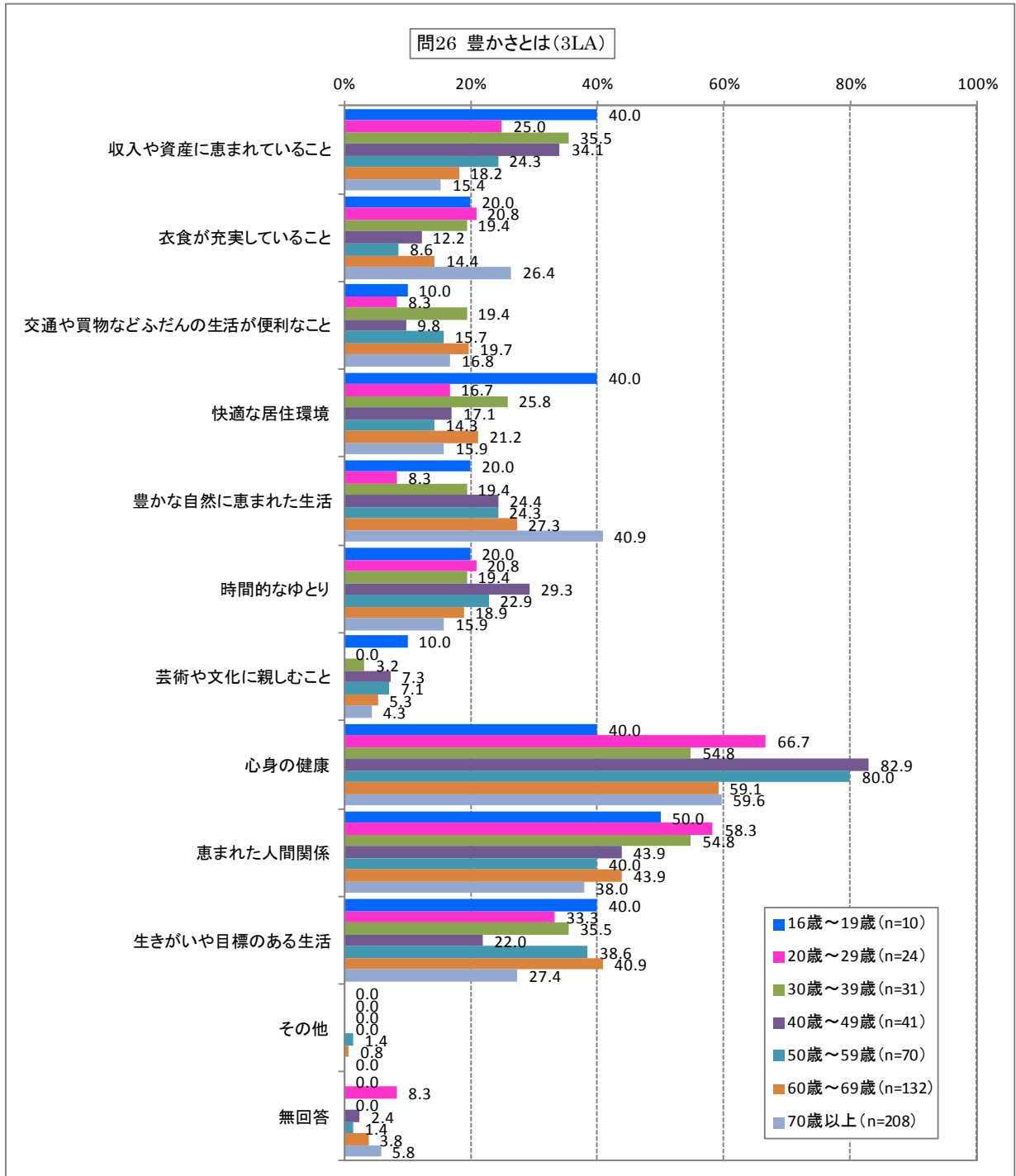
一方、「生きがいや目標のある生活」や「豊かな自然に恵まれた生活」では、「女性」よりも「男性」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：年齢別〕

豊かさについて、全体の回答割合が最も高い「心身の健康」を年齢別で見ると、「40歳～49歳」及び「50歳～59歳」の回答割合が高くなっています。

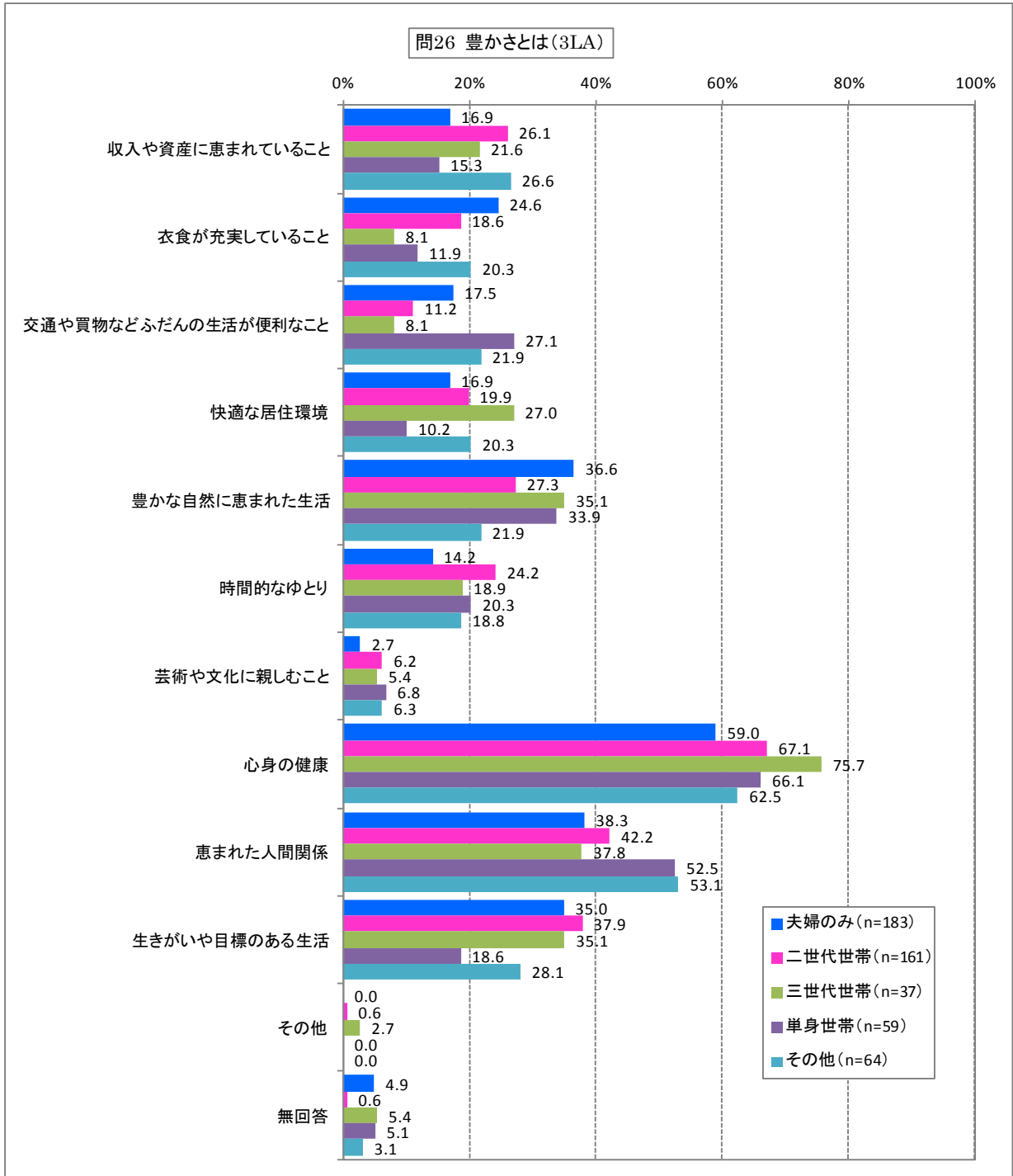
また、次いで全体の回答割合が高い「恵まれた人間関係」では、「20歳～29歳」及び「30歳～39歳」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

豊かさについて、全体の回答割合が最も高い「心身の健康」を家族構成別で見ると、「三世帯世帯」の回答割合が最も高く、「二世帯世帯」及び「単身世帯」の回答割合が多少高くなっています。

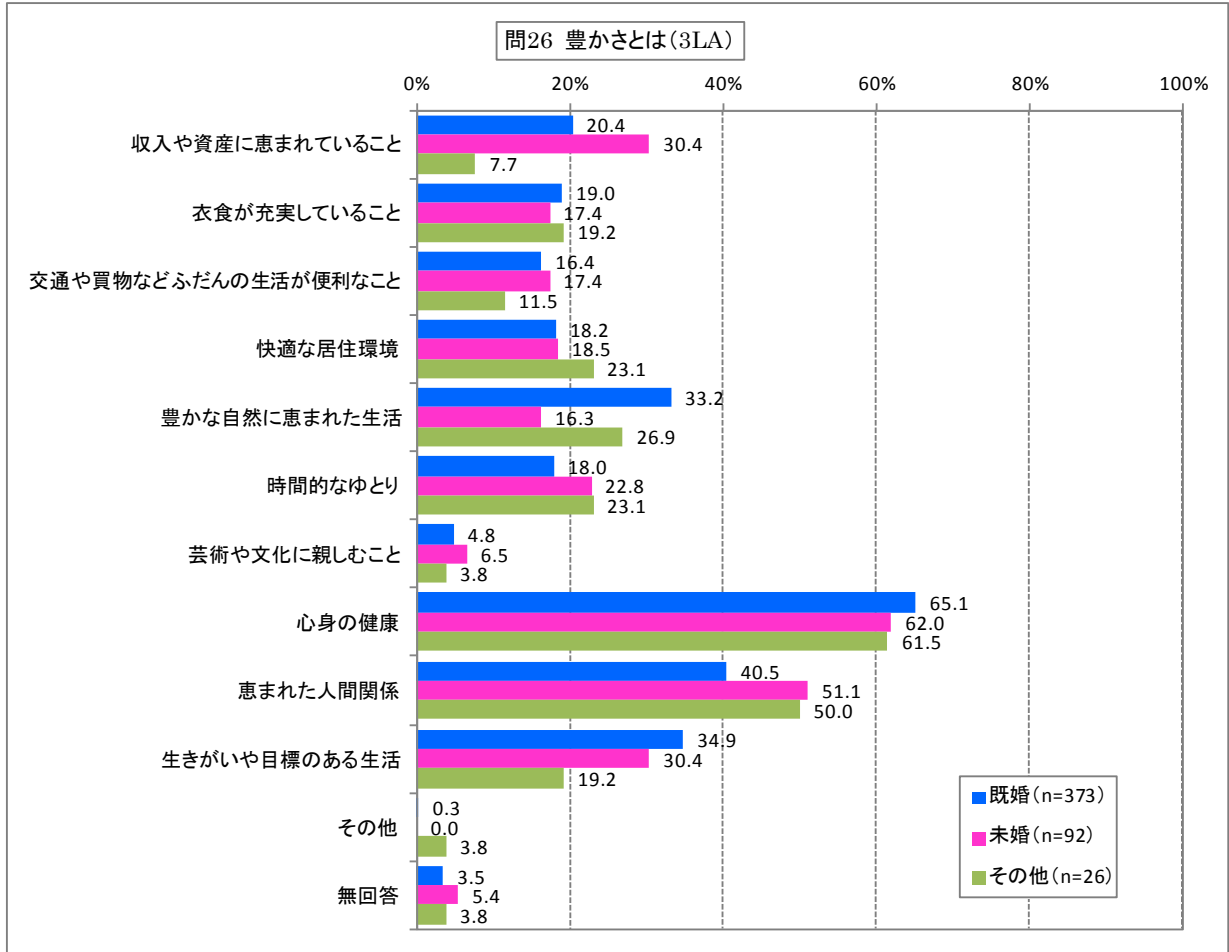
また、次いで全体の回答割合が高い「恵まれた人間関係」では、「単身世帯」及び「その他世帯」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

豊かさについて、全体の回答割合が最も高い「心身の健康」を婚姻状況別で見ると、「既婚」の回答割合が「未婚」及び「その他」よりも多少高くなっています。

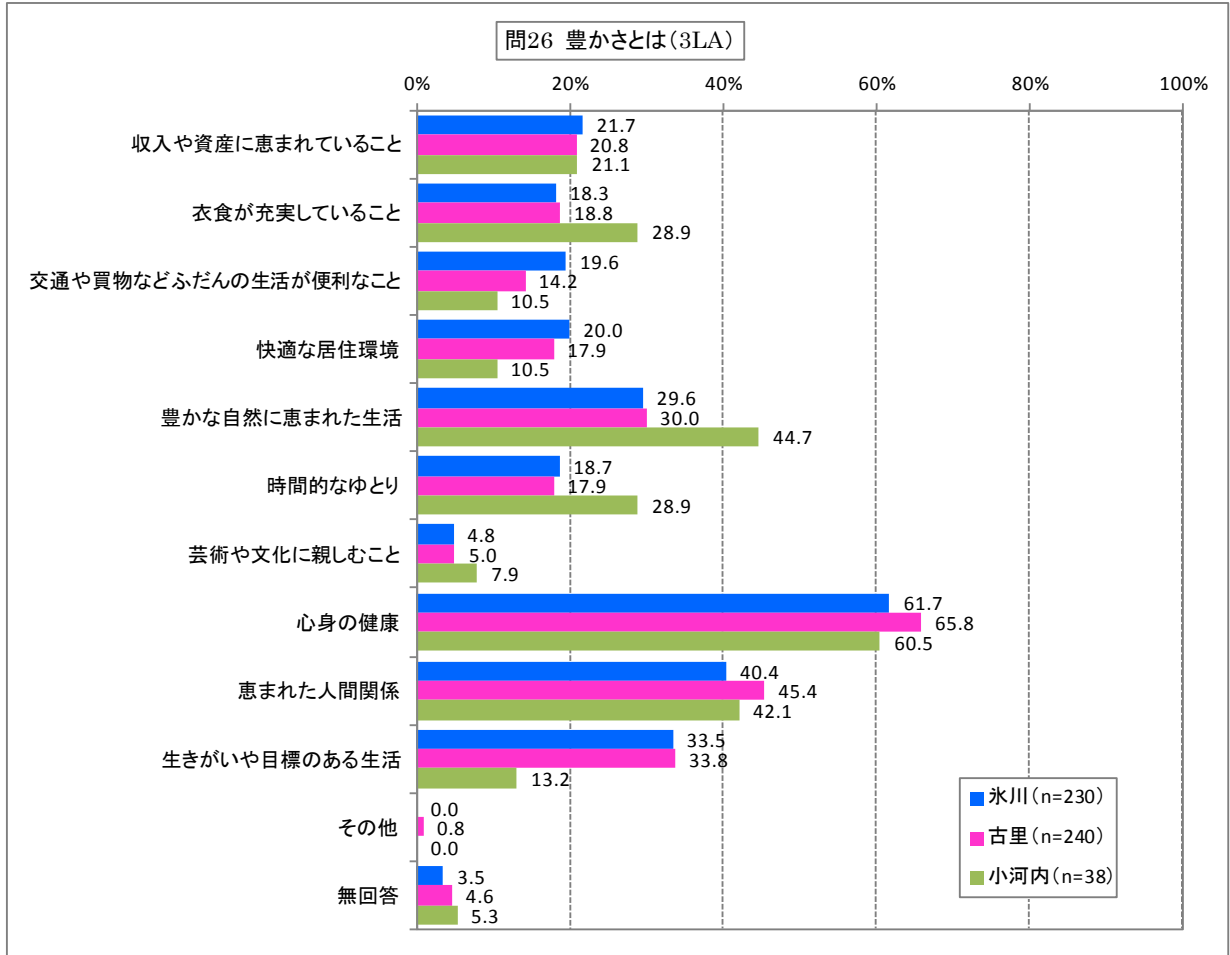
また、次いで全体の回答割合が高い「恵まれた人間関係」では、「既婚」よりも「未婚」及び「その他」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

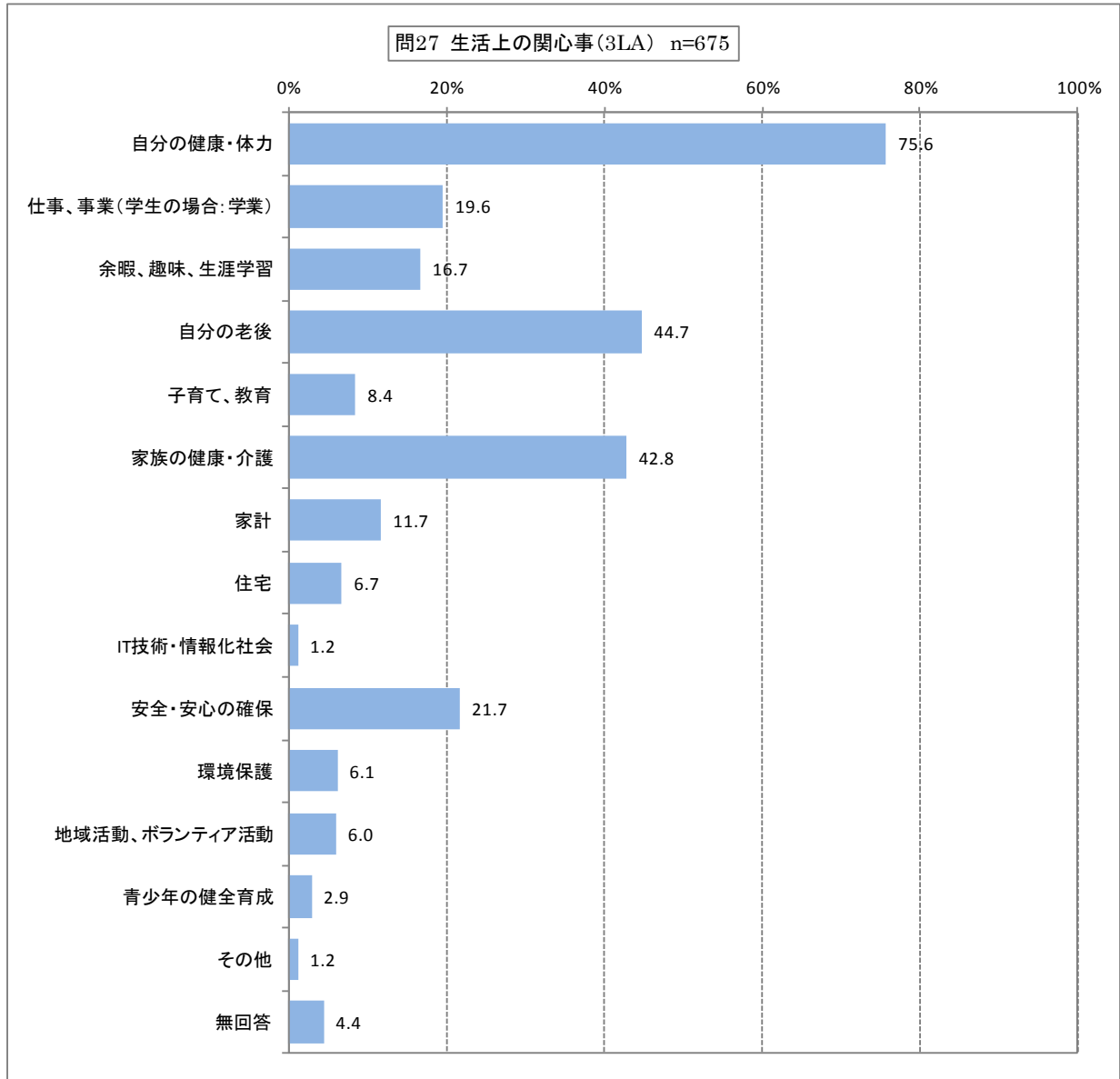
豊かさについて、全体の回答割合が最も高い「心身の健康」を居住地区別で見ると、「古里」地区の回答割合が「氷川」地区及び「小河内」地区よりも多少高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「恵まれた人間関係」でも、同様の結果となっています。



## 問27 生活上の関心事

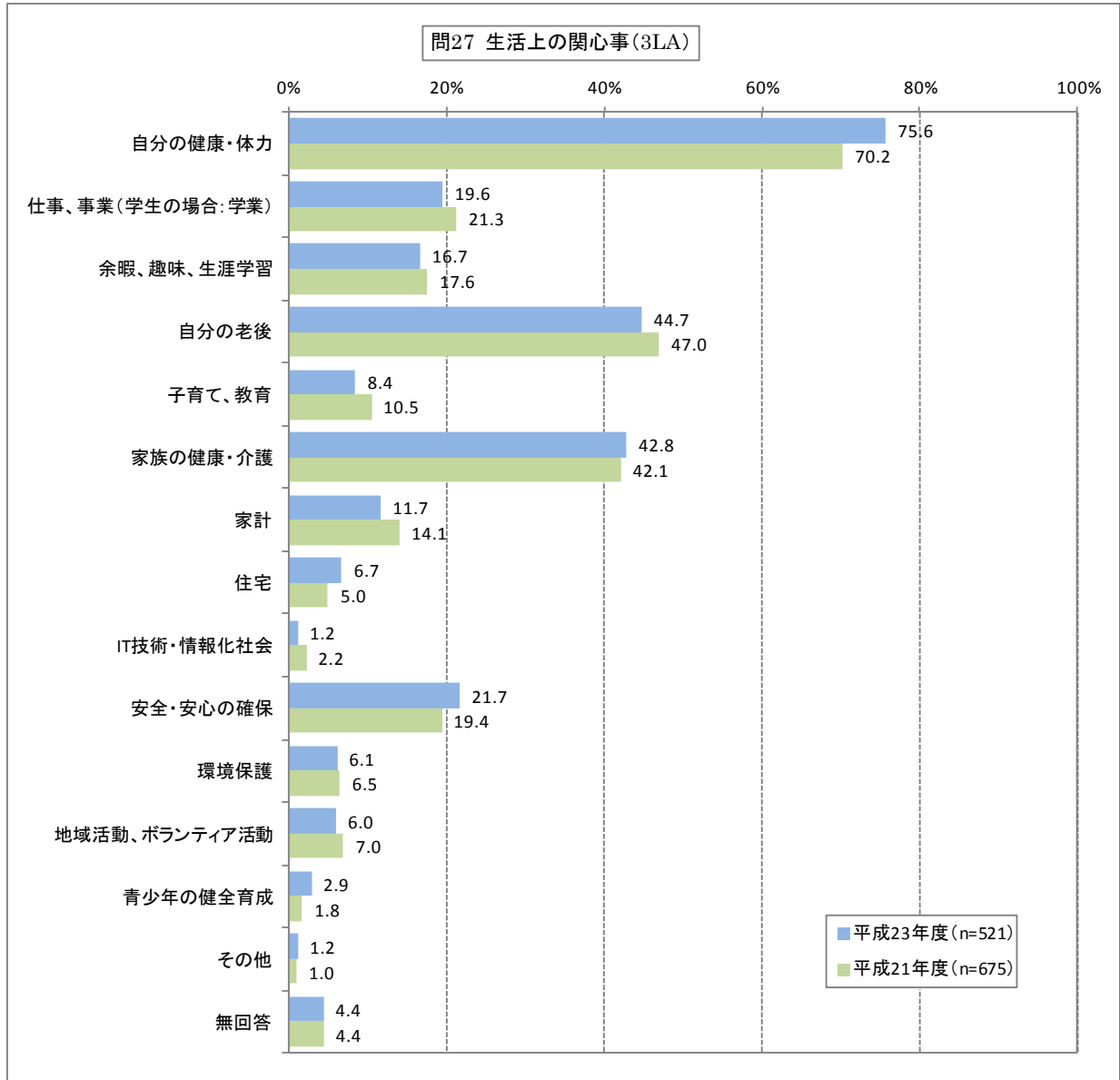
最近の生活上の関心事については、「自分の健康・体力」が75.6%と最も高く、次いで「自分の老後」が44.7%、「家族の健康・介護」が42.8%、「安心・安全の確保」が21.7%と続いています。





〔過去調査結果との比較〕

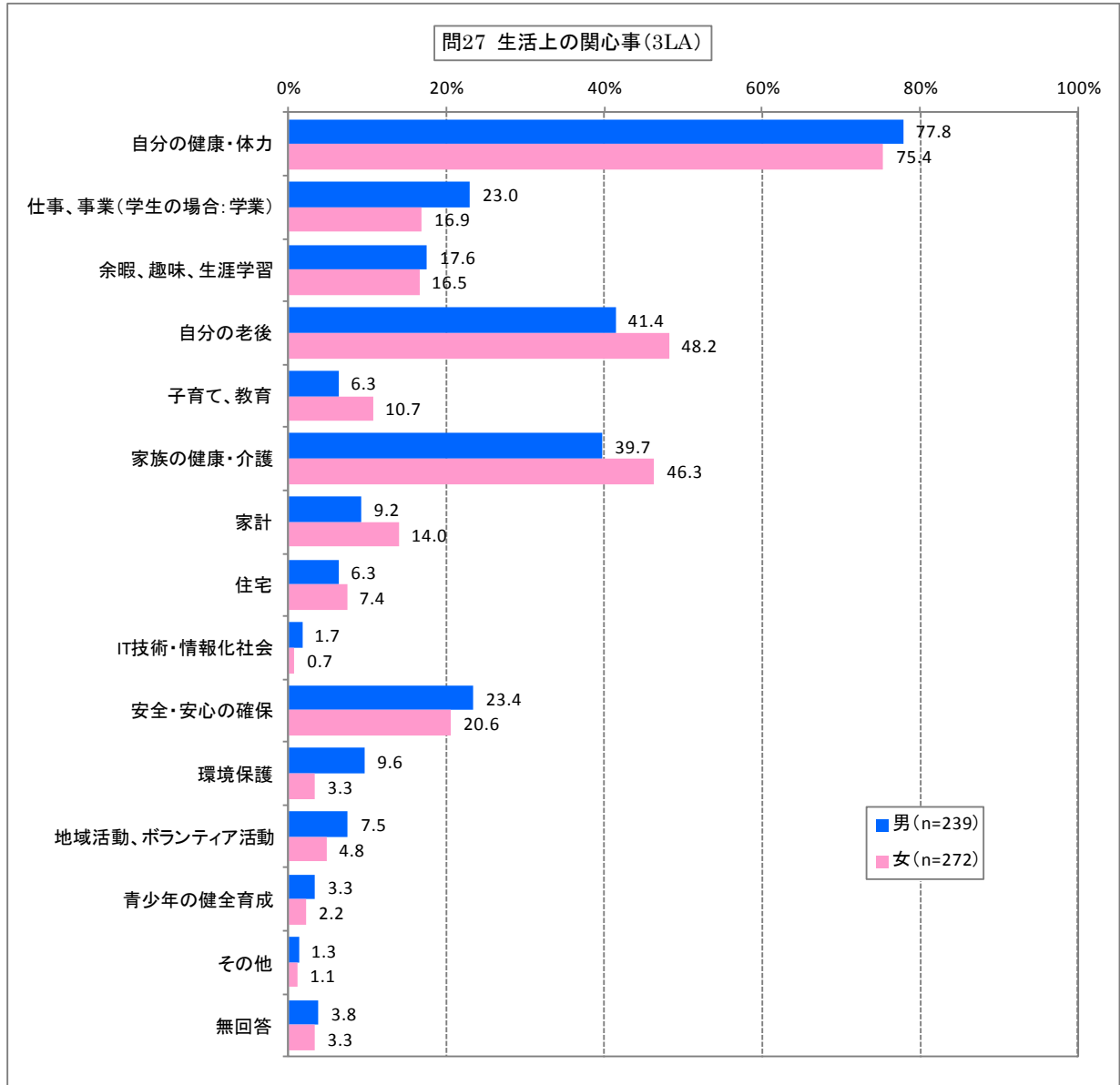
今回の調査を含め、過去2回実施した調査結果を比較すると、平成23年度調査において回答割合の高い「自分の健康・体力」、「自分の老後」、「家族の健康・介護」及び「安心・安全の確保」は、その順位に大きな変動はありませんが、「自分の健康・体力」への回答割合が増加し、「自分の老後」が多少減少しています。



〔属性別結果：性別〕

最近の生活上の関心事について、全体の回答割合が最も高い「自分の健康・体力」を性別で見ると、「女性」よりも「男性」の回答割合が多少高くなっています。

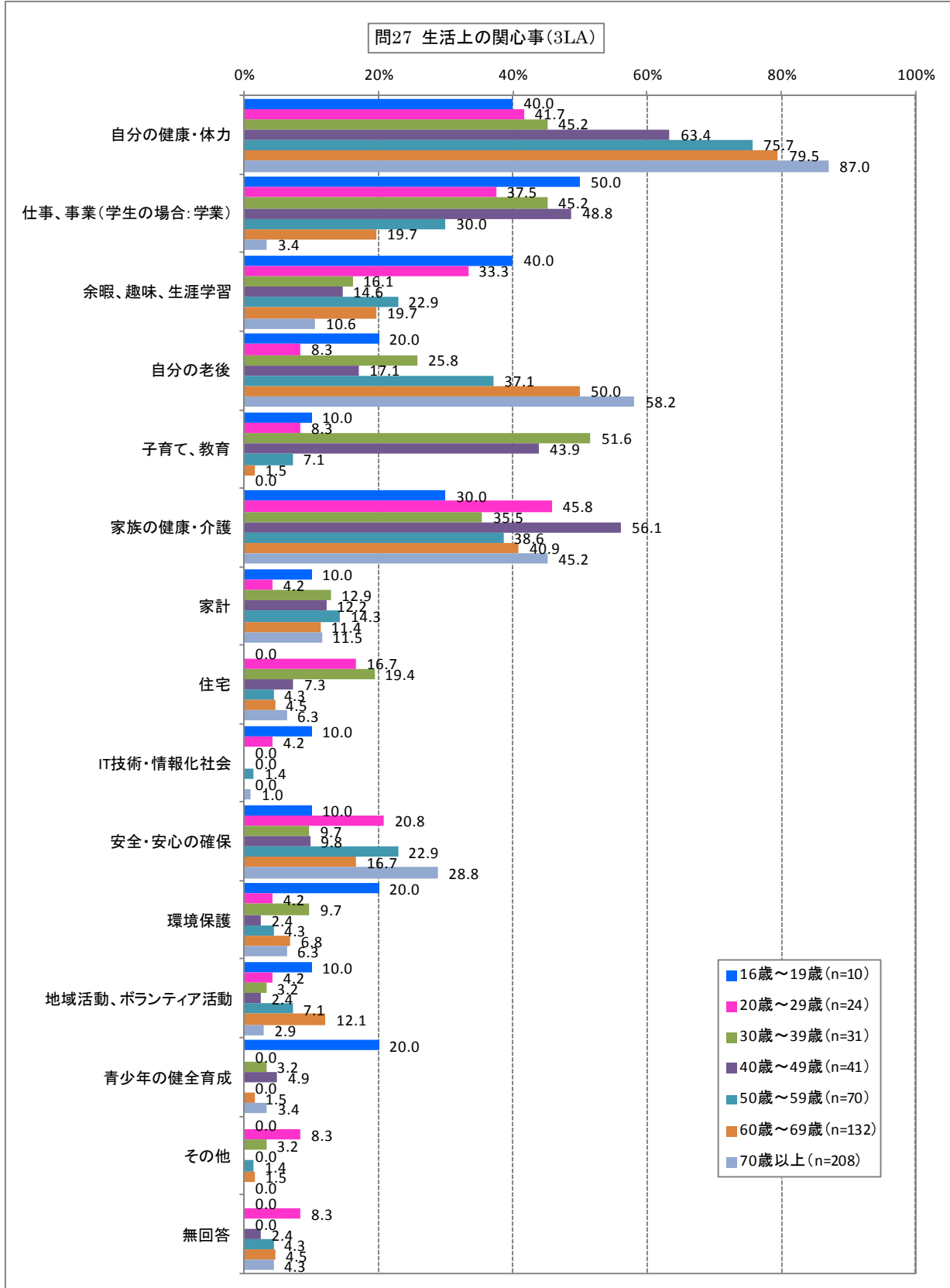
また、「自分の老後」及び「家族の健康・介護」では、「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：年齢別〕

最近の生活上の関心事について、全体の回答割合が最も高い「自分の健康・体力」を年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ回答割合が高くなる結果となっています。

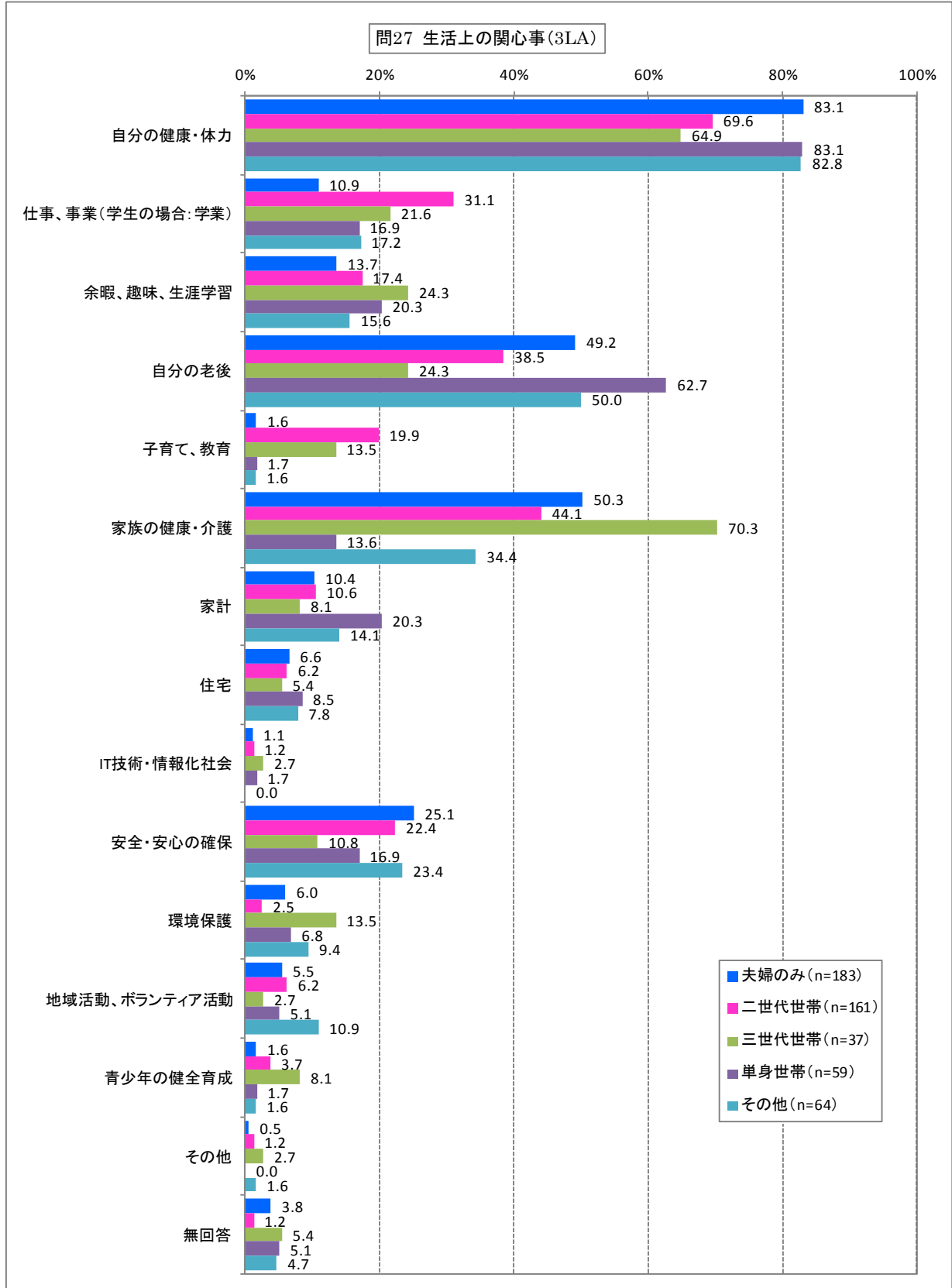
また、「自分の老後」でも同じ傾向となっていますが、「家族の健康・介護」では、「40歳～49歳」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

最近の生活上の関心事について、全体の回答割合が最も高い「自分の健康・体力」を家族構成別でみると、「夫婦のみ」、「単身世帯」及び「その他世帯」の回答割合が高くなっています。

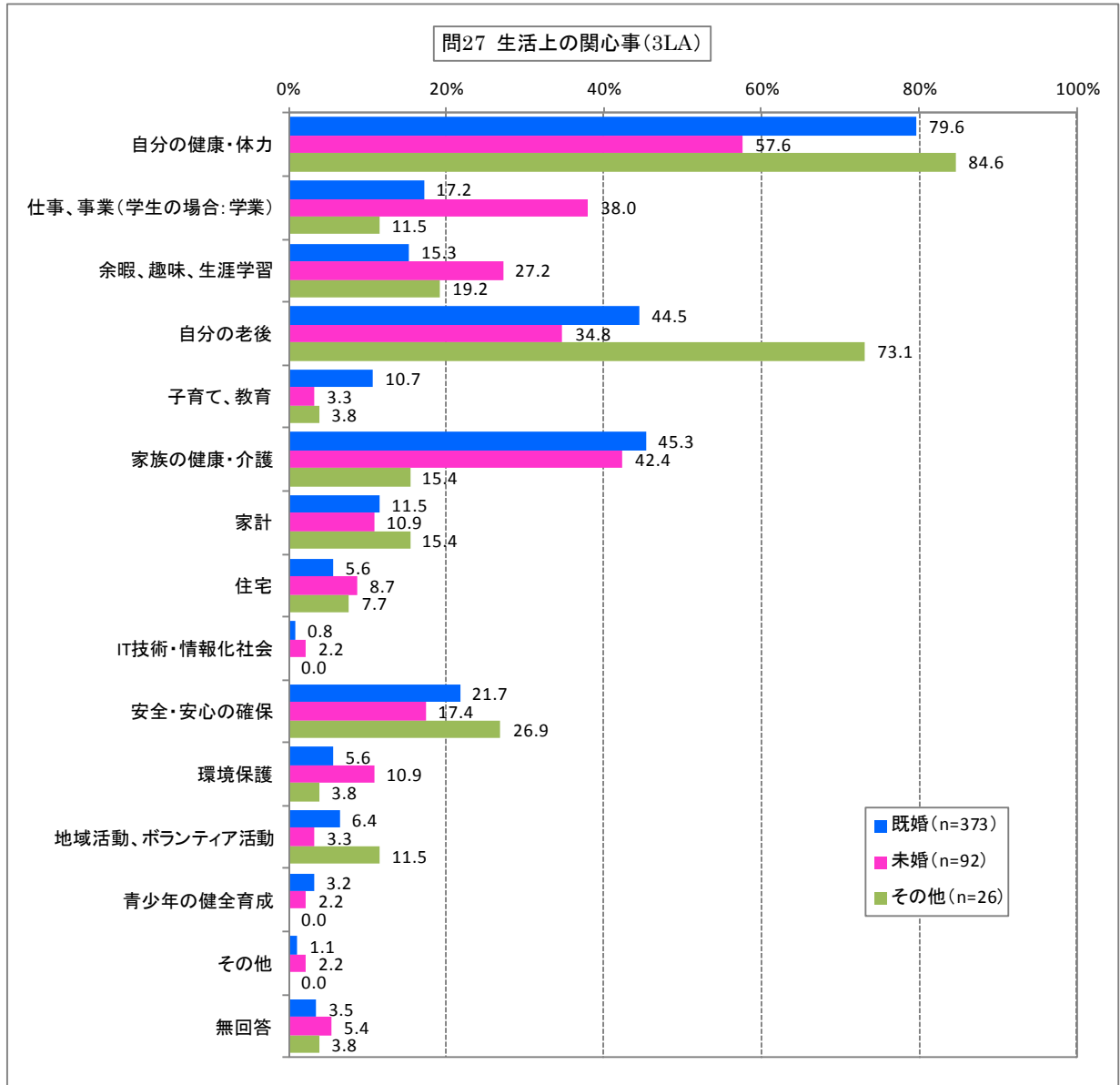
また、「自分の老後」では「単身世帯」が、「家族の健康・介護」では、「三世帯世帯」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

最近の生活上の関心事について、全体の回答割合が最も高い「自分の健康・体力」を婚姻状況別で見ると、「既婚」及び「その他」の回答割合が高くなっています。

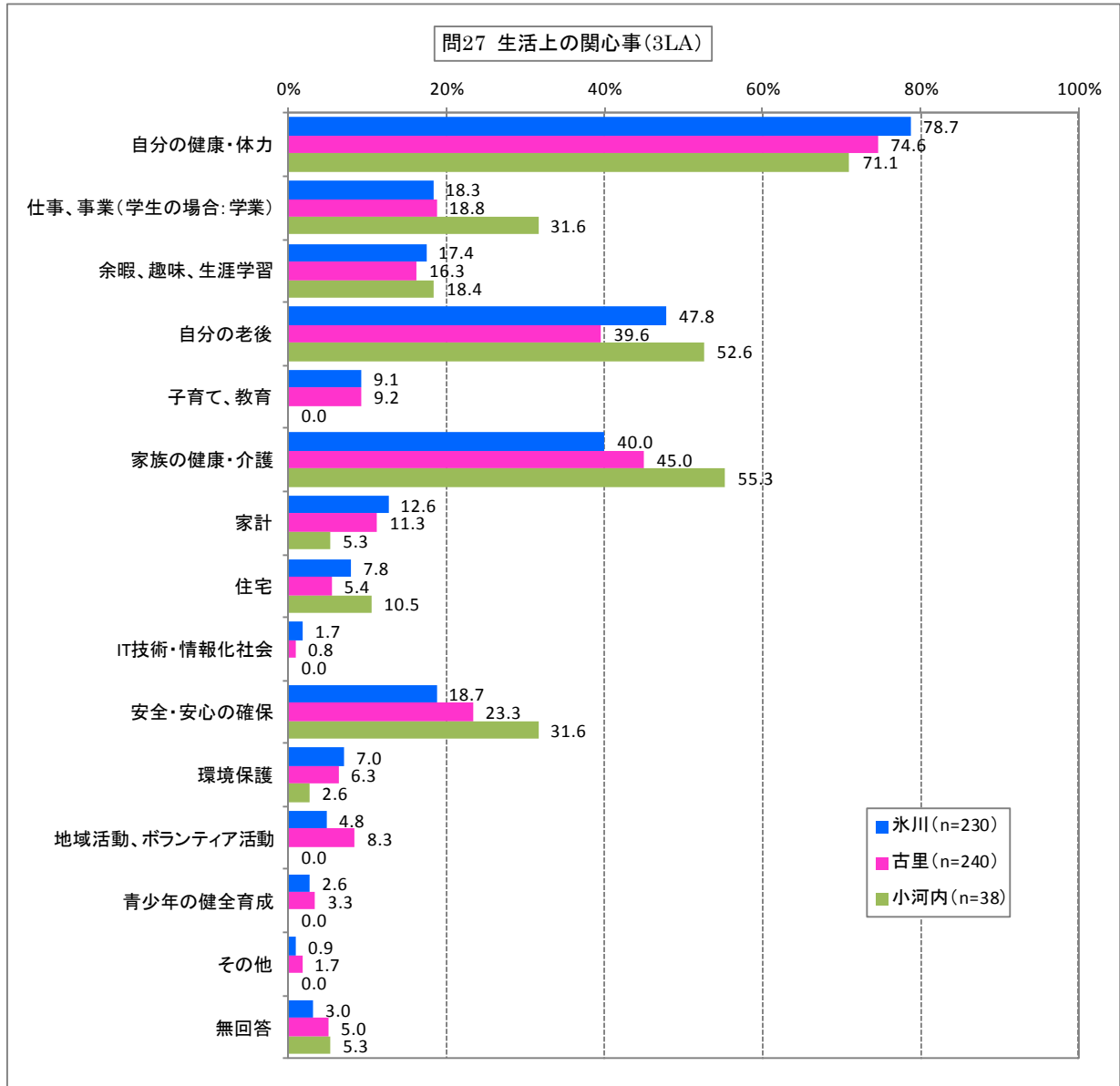
また、「自分の老後」では「その他」が、「家族の健康・介護」では「既婚」及び「未婚」の回答割合が高くなっています。



〔属性別結果：居住地区別〕

最近の生活上の関心事について、全体の回答割合が最も高い「自分の健康・体力」を居住地区別で見ると、「氷川」地区の回答割合が多少高くなっています。

また、「自分の老後」及び「家族の健康・介護」では「小河内」地区の回答割合が高くなっています。



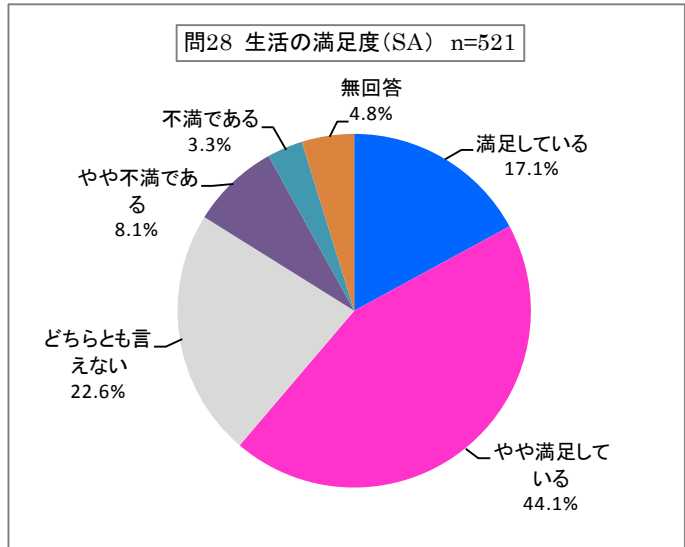
問 28 生活の満足度

現在の生活の満足度については、「満足している」が 17.1%、「やや満足している」が 44.1%であり、「満足している」と感じている割合は 61.2%となっています。

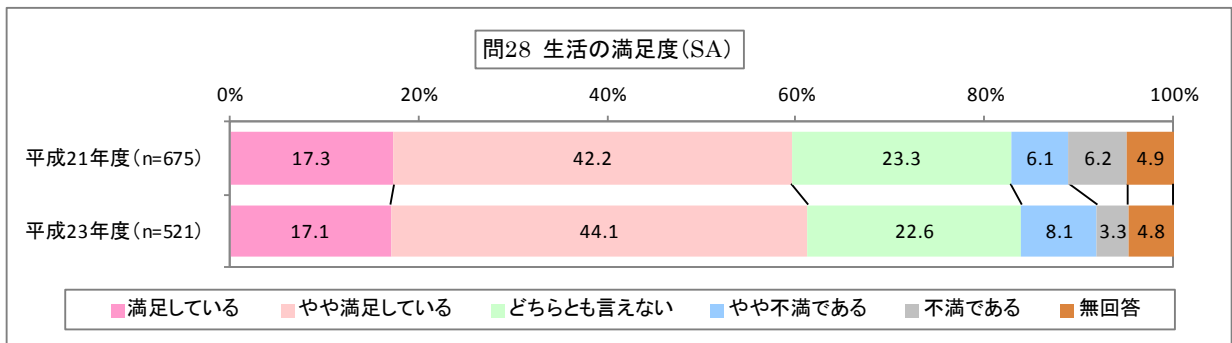
一方、「やや不満である」が 8.1%、「不満である」が 3.3%であり、「不満である」と感じている割合は 11.4%となっており、「満足している」が大きく上回っています。

性別では、「男性」よりも「女性」の「満足している」（「満足している」及び「やや満足している」を合わせた回答）の回答割合が高く、年齢別では「16 歳～19 歳」の回答割合が低い結果となっています。

地区別では、「氷川」地区の「満足している」の回答割合が最も高く、「小河内」地区の回答割合が低くなっています。



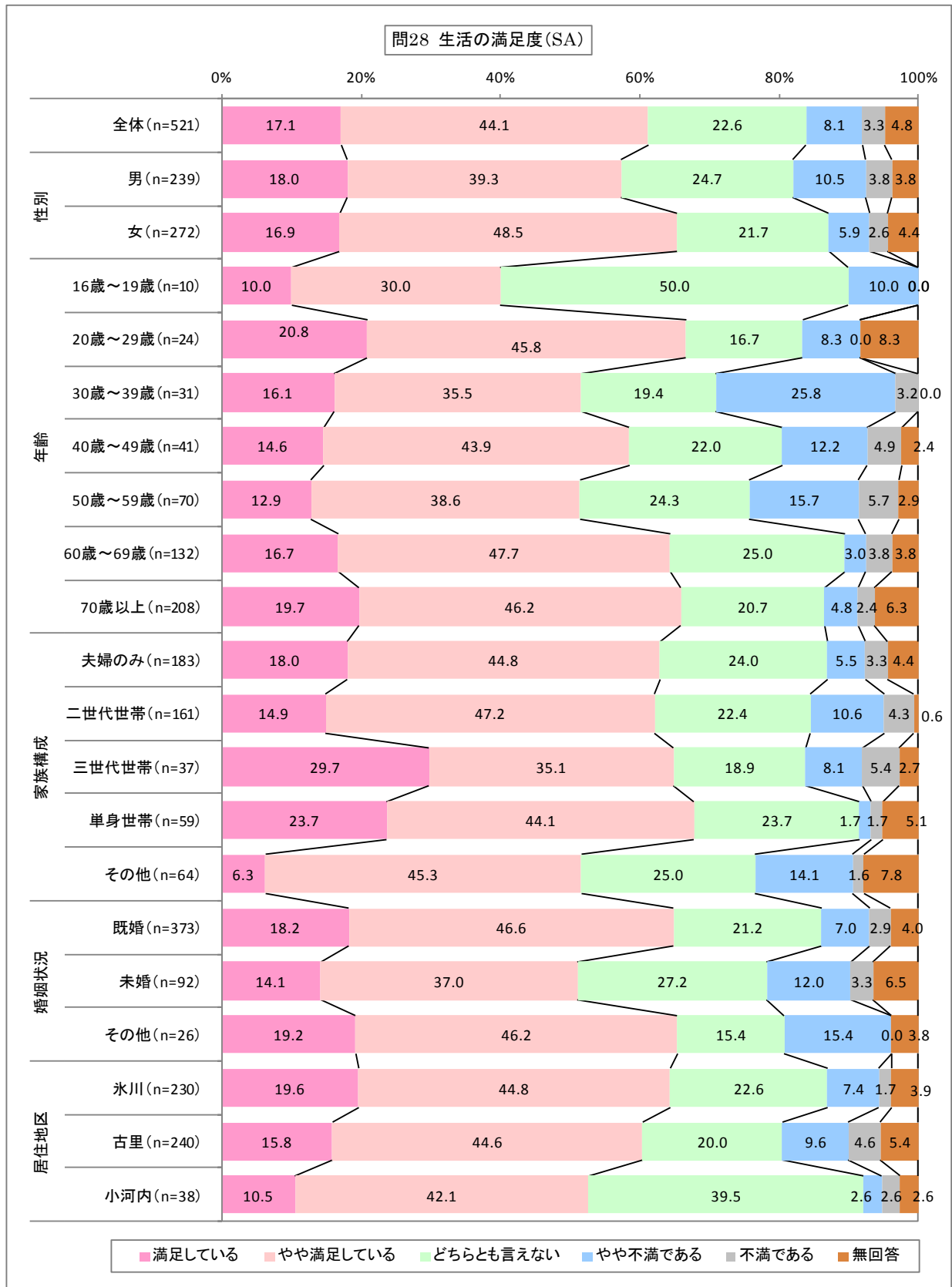
〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 2 回実施した調査結果を比較すると、「満足している」、「やや満足している」及び「どちらとも言えない」の回答割合に大きな変化は見られません。

また、「やや不満である」の回答割合が多少増加し、「不満である」の回答割合が減少する結果となっていますが、「やや不満である」と「不満である」を合わせた「不満である」の回答割合は、平成 21 年度が 12.3%、平成 23 年度が 11.4%と多少減少しています。

〔属性別 結果一覧〕





## 【奥多摩町への意見・要望について】

## 問 29 町に対する意見・要望

町に対する自由意見を求めたところ、165 人の回答者からご意見やご要望が出されました。以下には、分野別の主な回答を挙げています。（※なお、回答全文は資料編に掲載しています。）

## 1 教育・文化・スポーツ 関係

- スポーツ、趣味活動、健康に関する情報の発信。
- DVD や CD 図書 の 充 実 等、 図 書 館 の 充 実。
- 子供達がやりたいスポーツを一生懸命できる環境づくり。

教育・文化・スポーツに関連する意見や要望は相対的に少ないものの、学ぶことやスポーツをする上での環境の充実を求める意見が出されています。

## 2 保健・医療・福祉 関係

- 医療機関の充実。
- 介護認定や在宅の方が利用しやすい環づくり。
- 奥多摩病院投薬改善の改革。
- もえぎの湯への高齢者利用の利便化。
- 保健師や民生委員の連携による 1 人住まいの方等への「声かけ」運動。

奥多摩病院の改善に関する意見の他、高齢者が公共施設を使いやすい環境づくりや、高齢者への「声かけ」など、高齢化に対応する活動の充実を求める意見が出されています。

## 3 観光・産業振興 関係

- 獣害対策の推進（野菜を作ってもさるがくる）。
- 高齢者が活動出来る「働く環境」の提供。
- トイレの設置や公共施設を増やす等のアピールによる観光客の誘致。
- 公衆トイレの寒さ対策。
- 奥多摩駅トイレの整備。
- 若者の雇用の場の確保。
- 国道の川側の伐採促進による観光整備。

獣害対策を求める意見の他、景観の整備（国道沿いの樹木の間伐等）や観光客を受け入れるためのトイレの改善に関する意見が比較的多く出されています。

また、雇用の場の確保や若者の雇用改善を求める意見も出されています。

#### 4 生活環境・都市基盤整備 関係

- タクシーの代替機能の確保。
- 公共の交通手段の充実
- 若者の定住し易い町づくり。
- 生活道路の除雪や歩道の設置。
- 駅前の活性化。
- 奥多摩駅反対側に改札口を作り、利便性を考えてほしい
- 地域の古いしきたりや慣習の改善
- 空屋対策（防災）。
- 白丸ダム遊歩道の開通。
- ゴミの有料化。
- 若者住宅の他の地域への建設。

町内でのタクシーの確保やその代替機能の充実等、公共交通に対する意見や要望が多く出されています。

また、生活道路の整備や国道沿いの歩道の整備、空屋対策や若者が住む環境の整備を求める意見も出されています。

#### 5 行政運営 関係

- 税金の無駄遣いの廃止。
- 情報公開の積極的な推進による開かれた町政運営。
- 町職員の資質の向上。
- 議員や町職員の削減。
- ホームページ上での、住民意見とそれに対する回答の掲載（自由に意見を書き込めるページを）。
- 町にお金がおちる計画の立案。
- 町と町民と協力体制の強化。
- 町の人口減少対策。

町の人口が減少することに不安を感じている意見が多く、そのための対策（人口減少対策）を求める意見が多く出されています。

また、税収の確保や無駄遣いを抑制することへの意見、住民と行政の協働の促進に関する意見等も出されています。



奥多摩町まちづくり住民アンケート調査  
報告書  
(平成 23 年度)

---

発 行 平成 24 年 3 月

発 行 者 奥多摩町  
〒199-0212  
東京都西多摩郡奥多摩町氷川 215 番地 6

編 集 奥多摩町企画財政課  
電話 0428-83-2111 (代表)  
<http://www.town.okutama.tokyo.jp/>